群馬40年の足跡

創立40周年記念

日本ボーイスカウト群馬県連盟

40年の足跡

連盟創立40周年記念

ボーイスカウト群馬県連盟

日本ボーイスカウト
群馬連盟

ち　か　い

私は、名誉にかけて、次の３条の実行をちかいます
１．神(仏)と国とに誠を尽くしおきてを守ります
１．いつも、他の人々をたすけます
１．からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います

お　き　て

１．スカウトは誠実である　　２．スカウトは友情にあつい
３．スカウトは礼儀正しい　　４．スカウトは親切である
５．スカウトは快活である　　６．スカウトは質素である
７．スカウトは勇敢である　　８．スカウトは感謝の心をもつ

カブスカウト　やくそく

ぼくはまじめにしっかりやります
カブ隊のさだめを守ります

さ　だ　め

１．カブスカウトはすなおであります
２．カブスカウトは自分のことは自分でします
３．カブスカウトはたがいに助けあいます
４．カブスカウトはおさないものをいたわります
５．カブスカウトはすすんでよいことをします

ビーバースカウト　やくそく

ぼくはみんなとなかよくします
ビーバー隊のきまりをまもります

き　ま　り

１．ビーバースカウトはげんきにあそびます
２．ビーバースカウトはものをたいせつにします
３．ビーバースカウトはよいことをします

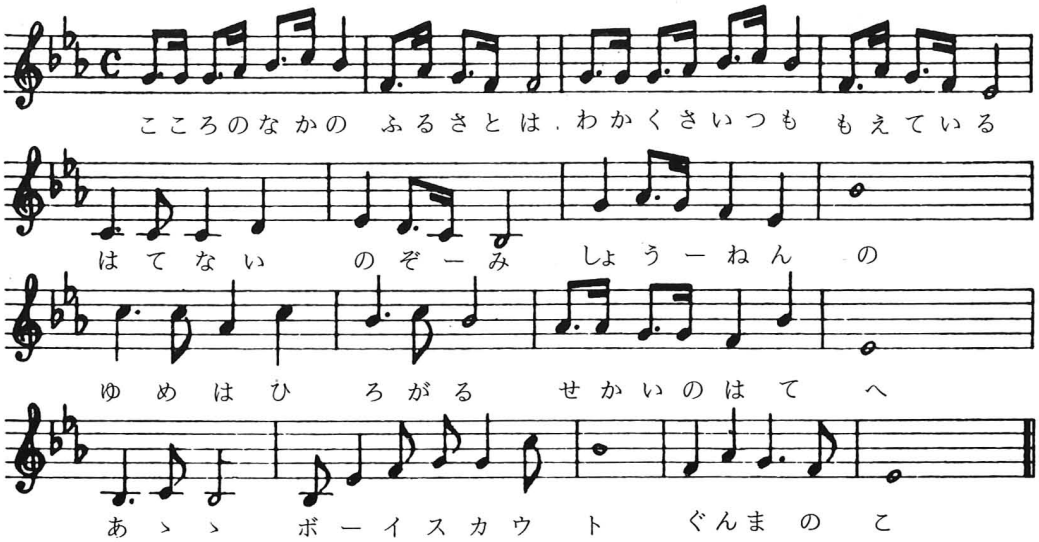
モ　ッ　ト　ー

スカウト　そなえよつねに　　**カブスカウト**　いつも元気
ビーバースカウト　なかよし

スローガン：日々の善行

群馬県連盟歌

作詩 鈴木比呂志
作曲 植村　亨



1．こゝろの中のふるさとは　若草いつももえている
はてないのぞみ少年の　夢はひろがる世界のはてへ
あゝボーイスカウト　ぐんまのこ

2．こゝろの中の星空は　銀河が白く光ってる
友愛の花さくところ　奉仕の汗も楽しくかおる
あゝボーイスカウト　ぐんまのこ

3．こゝろの中の湖は　きよらなひとみ映してる
胸にのばらと太陽を　いつもかざろう若者われら
あゝボーイスカウト　ぐんまのこ

ボーイスカウトの目的と基本理念

ボーイスカウト運動のねらい

小学生から、大学卒業の年代にわたる青少年男子を対象にした一連の青少年教育活動で、イギリスのベーデン.パウエル卿の考えたものである。それは、人間形成の方式として、独特の理念と方法で形成されている。

その目的は、現在および将来にかけて信頼に値いする“男らしい男” をつくることをねらっている。いいかえれば、家庭においても、学校においても、職域においても社会においても、立派な国民として、同時に国際人として、世界に通用するよき社会人を育成することである。

その対象が少年・青年であるだけに、ボーイスカウト運動は、次代をになう人間教育である。そして、両親は勿論のこと、広く一般社会の協力を得ることによって達成できる大きな教育運動である。

ボーイスカウト教育のねらいは、次の４つにしぼられ、学年や年令に応じて、それぞれの活動が展開される。

◎ 四 本 の 柱

(1) 人格をたかめる

すべてのスカウト（リーダーも含めて）は、正式に仲間入りするときは、一定の儀式を行って“ちかい”をする。これは、 その後も一生を通じて、自らを律するものとなる。

“ちかい”

私は、名誉にかけて、次の３条の実行をちかいます。

1. 神（仏）と国とに誠を尽くし おきてを守ります。
2. いつも、他の人々をたすけます。
3. からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います。

“おきて”

1，スカウトは誠実である
スカウトは、信頼される人になります。
真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。

2，スカウトは友情にあつい
スカウトは、兄弟として仲よく助け合います。
すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。

3，スカウトは礼儀正しい
スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。
言葉づかいや服装に気をつけ、行いを正しくします。

4，スカウトは親切である
スカウトは、すべての人の力になります。
幼いものや、年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします。

5，スカウトは快活である
スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。
不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。

6，スカウトは質素である
スカウトは、物や時間を大切にします。
むだをはぶき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します。

7，スカウトは勇敢である
スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。
どんな困難なことがあってもくじけずに新しい道をきり開きます。

8，スカウトは感謝の心をもつ
スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵に感謝します。
お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します。

(2) 健康づくり

この年令層は、身体の発育が盛んな時期であり、大人の健康づくりへの土台ができる時代である「ちかい」の第3に、「からだを強くし……」とある。

健康についての教育は、家庭や学校でもされるが、スカウト教育はそれを更に自覚的に補強する。例えば、五感の訓練において、感覚器官を鋭敏にさせるというようなことは、他にあまりその例を見ないであろう。

野営活動は、総合的な体育であり、新鮮な空気、気温の変化、天候のかかわり方などによって自然現象への適応力を養う。これは、校庭や競技場を「場」とする学校の体育と比べると自然であり、広大である。

(3) 知識・技能づくり

人間の生活に不可欠な知識と能力の中に、少年時代にこそ伸ばせるもの、あるいはその下地を作れると思うものが多くある。
「ちかい」の第2に「いつも他の人々を助けます」という自己宣言があるが、これは知識技能が身についていなければできないことである。

もうひとつ、これは可能性の発見に役立ち、「ぼくにもできる」ということは、青少年に自信をつけさせ「これまでできないと思っていた、こんなこともできるんだ」という発見、これは潜在していた自分の力の発見に外ならない。

スカウト運動の創始者ベーデン.パウエル卿は Learning by Doing「行うことによって学ぶ」といった。これは人格は働きをとおして作られる、ということばに似ている。

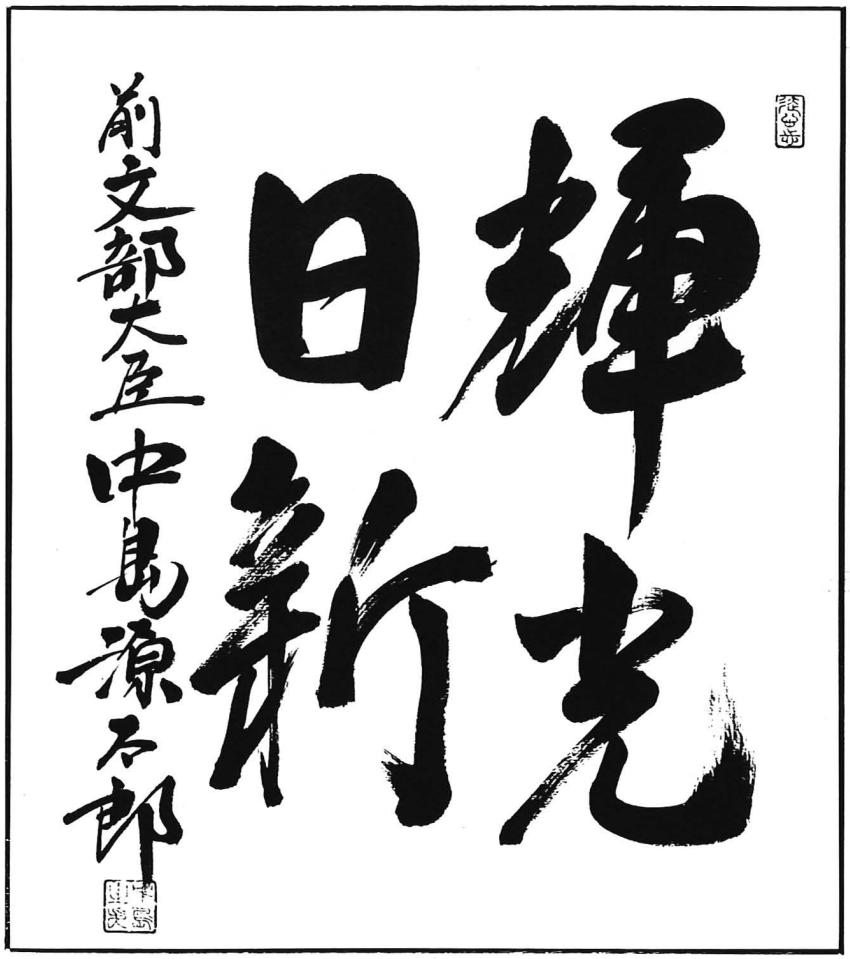
(4) 奉仕を通じての実践

「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするように、そして、むくいを求めぬよう」

これはボーイスカウト日本連盟（当時は少年団）初代総長、後藤新平氏の申された言葉であるが、奉仕ということがよく表されている。

ボーイスカウトは、「日々の善行」というスローガンをかかげており、このことは我々が世の中から受けている、いろいろの恩恵に対して、自分たちのできる善行でお返ししよう、ということであって、年長のスカウトであれば信仰心と自己の試練との両面からの発動としてすすめられる。すなわち、スカウト教育における善行は信仰の糸口を見出させることを期待しており、積極的にそれを推進している。

夢
ボーイスカウト
群馬県連盟
中曽根康弘


輝光日新
前文部大臣 中島源太郎

群馬県連盟創立40周年記念誌

目　　次

40年の足跡（群馬の指導者たち）

群馬県連盟旗

ちかい・おきて・やくそく・さだめ・モットー・スローガン

群馬県連盟歌

ボーイスカウトの目的と理念

40周年を記念してお祝いの色紙　元内閣総理大臣　中曽根康弘先生　元文部大臣　中島源太郎先生

発刊によせて

「40周年の足跡」の発刊を祝して …… 連盟長 群馬県知事　清水一郎　1

記念誌発刊を祝して …… 教育長　千吉良覚　2

創立40周年に寄せて …… 日本連盟総長　渡辺昭　3

節目の40周年を迎えて …… 副連盟長　渋木羨夫　4

再び「初心忘れ得ず」 …… 理事長　根岸努　5

感謝の内に …… 先達　星野宏　6

創立40周年を祝す …… 振興財団理事長　福田實　7

40年のあしあと …… 8

30周年以降10年の歩み …… 9

創立から10年　胎動の10年 …… 13

10年から20年　想い出の指導者養成訓練十話 …… 16

20年から30年　躍進期10年の回顧 …… 19

ジャンボリー …… 21

ベンチャー・シニアースカウト大会 …… 25

県野営大会・関東ジャンボリー …… 27

県シニアースカウト大会 …… 30

カブラリー …… 32

第23回野営大会記念式典における40年の回想 …… 36

アニバーサリー40　カブ・ビーバーラリー …… 37

アニバーサリー40　県野営大会 …… 39

県連盟40周年記念協賛キャンペーン（上毛新聞掲載） …… 46

委員会活動 …… 47

組織拡張委員会 …… 48

指導者養成委員会 …… 49

野営行事委員会 …… 50

進歩委員会 …… 51

健康安全委員会 …… 53

財政委員会 …… 54

広報委員会 …… 55

需品委員会 …… 56

コミッショナー活動 …… 57

トレーニングチーム …… 60

地区のあゆみ

各団プロフィール …… 65
太田地区のあゆみ …… 66
太田1・2・3・4・5・6・7・8・館林1・2・3
大泉3・4・5・尾島1・邑楽町1・明和1
桐生地区のあゆみ …… 84
桐生1・2・3・4・5・6・8・9・10・11・12・13
14・15・16・17・18・19・20・21・
大間々1・新里1・藪塚1・伊勢崎12
前橋地区のあゆみ …… 109
前橋1・3・5・7・11・12・13・水上1・渋川2
高崎地区のあゆみ …… 119
高崎6・7・8・9・10・12・15・18・19・20・21・22
箕郷1・群馬町1・吉井1・玉村1・富岡1
年　表 …… 138
日本ボーイスカウト群馬県連盟規約 …… 145
財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団寄附行為 …… 153
群馬県ボーイスカウト振興財団設立のあゆみ …… 160
資料編 …… 161
日本連盟表彰 …… 162
群馬県連盟表彰 …… 163
歴代県連盟役員名簿 …… 167
ボーイスカウト加盟登録状況グラフ …… 177
平成元年度重点目標 …… 180
指導者養成（この10年）…… 181
1989年度加盟団連絡先・団委員長 …… 182
編集後記 …… 184

群馬県連盟40周年記念誌
「40年の足跡」の発刊を祝して

ボーイスカウト群馬県連盟 連盟長
群馬県知事　清　水　一　郎

このたび、日本ボーイスカウト群馬県連盟が結成40周年を迎えられ、その歩みを記した記念誌「40年の足跡」が発刊されますことは誠に意義あることであります。

ひとくちに、40年といってもその間さまざまなご苦労があったことでしょう。

ボーイスカウトも、いよいよ壮年期に入り益々充実、発展の期にさしかかりつつあるものと確信するものであり、心からお祝い申しあげます。

顧みますと、群馬県連盟が昭和24年11月の結成以来、県連盟も40年を経過して今日、72団 183隊 ４７１３名を数える少年団体として成長しておりますことに対し、関係各位のご協力に深く敬意を表します。

さて、私は知事就任以来、連盟長に推挙をいただき、身に余る光栄と深く感謝しております。

日頃、スカウトの皆さんが誇りをもってユニホームを着用し、元気いっぱい活動されているようすを見まして、「備えよ常に」をモットーとして「ちかい」と「おきて」が立派に日常生活に生かされ、実践されておりますことは、誠にたのもしい限りです。

申すまでもなく、今日の青少年をとりまく環境は、誠にきびしいものがあり日本の将来を考えるとき、その健全育成はますます重要になっております。

特に、国際化社会へ急速に進展しつつある今日の社会情勢にあって、人道主義と国際的視野に立ったボーイスカウトの活動は、青少年健全育成の一環として益々重要なものであると信じております。

おわりに、40周年を機に新たな出発点として、前進を続けられることを祈念するとともに、関係者みなさまのご活躍をご期待申し上げお祝いのことばといたします。

群馬県連盟創立40周年

記念誌発刊を祝して

群馬県教育委員会

教育長　千吉良　覚

このたび、日本ボーイスカウト群馬県連盟が創立40周年を迎えられ記念誌が発刊されますことは、誠に意義あることであり関係者のみなさまに対し、心からお祝いを申しあげます。

昭和24年11月結成以来、大きな社会情勢の変化にもかかわらず、年毎にその組織を拡充されて、今日を迎えられましたことは、ひとえに本運動に優れた指導力を発揮され、たゆまぬ実践活動を続けてこられた指導者のご努力に負うところ多大であったものと敬意を表する次第であります。

ご承知のように、近年青少年の問題行動が大きな社会問題となっております。その背景としては、地域社会における仲間集団の崩壊や青少年の生活基盤の変容による自然的・社会的体験の不足が指摘されております。

申すまでもなく、21世紀の群馬を担う青少年に対する県民の願いは極めて大きなものがあります。

青少年が社会のよき担い手として成長するためには、青少年自身が家庭、学校、地域社会等の生活の場において、何らかの責任ある仕事や活動をすることによって、自己の存在感を高めるようにすることが肝要であります。

ボーイスカウトで実施している野外活動、奉仕活動、学習活動、国際交流活動等は誠にすぐれた教育活動であり、青少年の社会参加活動の促進が健全育成の重要課題である今日、高く評価されることであります。

今回、この活動の足跡が編纂されることは過去の偉大な業績を知るとともに将来への発展の礎ともなります。

なお、これからのボーイスカウト運動の指針として、あるいは関係者の貴重な資料として欠かすことのできない記録となると思います。

おわりに、ボーイスカウト関係者のみなさまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げお祝いといたします。

群馬県連盟創立四十周年に寄せて

財団法人　ボーイスカウト日本連盟
総　長　渡　邊　　昭

ボーイスカウト群馬県連盟が創立四十周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

四十年前、十一ケ隊、隊員二八六名をもって群馬県連盟を創立されて以来、幾多の試練を乗り越え、ひたすらベーデン・パウエル卿の示された道を歩まれ多くの立派な社会人を育てられて、今日の揺るぎない確固たる運動を築き上げられました。今日までの県連盟の皆様のご努力に、心から敬意を表する次第でございます。

年間八百万人もの人が海外に出かけるようになるなど、私たちは、今日、かつて経験したことのない豊かな生活を楽しみ、大きな経済力を持つようになりました。それに従い、南北問題や地球の環境問題などへの日本の積極的な貢献を期待する声が強まっております。

しかし、それに応えるための私たちの心の準備は、果たして充分できていると申せるでしょうか。世界的な広い視野に立って、世界の問題を自分の問題として考えうるまでに成長していると胸を張っていえるでしょうか。多くの疑問が残っているといわなければなりません。

「実るほど　頭を垂るる　稲穂かな」といいます。私たちも誠実に謙虚さを失わず、そして明るく、世界の千六百万のスカウトたちとともに、全ての人を友として、幸せな未来をめざし、スカウト活動によって、健やかな心と体を育てましょう。そして、自信と誇りをもって、スカウトの輪を大きなものとするよう努めましょう。

群馬県連盟の今後一層のご発展をお祈りして私の祝辞といたします。

節目の40周年を迎えて

ボーイスカウト群馬県連盟
副連盟長　渋　木　羨　夫

群馬県連盟は不惑の年を迎えました。人生にあっては、迷うことなく安定した将来が期待できる年になったわけですが、最近のスカウト人口から見る限り残念ながら減少に歯止をかける方法を研究しなければならないという厄介な年に突入してまいりました。

いま日本の社会は、生涯学習社会へ移行しつつあります。この社会は家庭、学校、地域が何等かの形で参加し、それぞれの責任を果すことによって成立つものですが、その一環であるスカウト運動は何故停滞したのでしょうか。いろいろ指摘されています。

結論はスカウト運動の社会的環境が変化し、過去のパラダイムの前提が変ったことを認識せず、変化に対する適応力がなくなった、ということではないでしょうか。

唯、私達ばかりでなく世界中の仲間はみんな、スカウティングの不滅を信じています。活性化は可能です。私はB―Pの心を汲みとって、古い伝統を捨て形を変え、世界の流れを考察し、社会に認知される方法を見出したとき、新しい時代に相応しいスカウティングが再生すると考えています。

私達は青少年にとって楽しい素晴らしいスカウティングを次の世代へ引継ぐ義務を負っています。40周年はその節目の年です。今日まで育てて下さった先輩各位には尽きぬ感謝を捧げると共に、現在の指導者各位には、21世紀に向けた新たな発展の道を辿って下さいますよう、ご期待申しあげます。

再び「初心忘れ得ず」

ボーイスカウト群馬県連盟
理事長　根　岸　　努

昭和62年の暮れのこと、始めてのことですが、家族の誕生シールを貼るためボーイスカウト日本連盟の新年度カレンダーをめくり、11月の欄まできて一大発見をしました。

美しい紅葉に縁どられた「道心門」の写真の下、11月６日（勿論この日は大安）のところになんと、群馬連盟創立（昭和24）と印刷されているではありませんか。この日が私の誕生シールを貼る日であると承知しながら長年県連盟の誕生日をなおざりにしてきた自分を深く恥じました。

そして、昭和56年、県連盟30周年記念の「30年の足跡」刊行のおりに「初心忘れ得ず」と寄稿した頃に思いを馳せ、再び「初心忘れ得ず」の覚悟を新たにしたのであります。

当時私は、県コミッショナーとして、或いは他の立場においても、権限の委譲を重点目標として常に心がけておりました。幸いにして、この９年間は熱心な指導者の不断の努力と、各種委員会の活性化のお陰で組織率はわずかながら成長を記録してまいりました。

しかし、全国的にはここ数年間低迷状況を続けており、原因究明の努力と改善施策の実施も速効的効果を挙げるに至っていないのが実情であります。県連盟も昭和63年度は、この傾向に逆らえず下降に転じました。

ボーイスカウト日本連盟は、去る５月20日～21日大阪で開催された平成元年度年次全国会議で次の重点施策を定め、組織を挙げて運動の充実に努める決議を致しました。

1. 指導者の資質の向上　　2. 広報活動の充実・活性化
3. 機構改革及び規定の改正　　4. 魅力的プログラムの提供

ボーイスカウト群馬県連盟は、創立40周年記念を契機に、先輩諸賢のご理解と関係官庁のご指導を得て、昨年５月にはカブラリーを開催し、７月には、20年来の懸案でありました財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団設立の悲願を達成、本年８月県野営大会を開催してまいりました。

このうえは、日本連盟の方針に則り、組織を挙げて、管理運営の改善と指導能力の向上をはかり、組織活性化の努力を致す所存であります。

なにとぞ、関係各位のより一層のご指導を賜わりたく衷心よりお願い申し上げます。

感謝の内に

ボーイスカウト群馬県連盟
先　達　星　野　　宏

三指　群馬県連盟創立40周年、おめでとうございます。顧みて、感謝の内におります。

1948年、一宮での指導者講習会を皮切りに結成準備を進め、翌年、三沢・小井戸・北條・栗原・村沢の諸先生の手になる前橋公園での結成式、11隊286名が三島日連理事長をお迎えしてのスタートでした。今でもはっきりと目に浮かびます。

そして、皇居前広場での第1回全国大会も忘れられません。初めて会った米国の隊員の一人ピーターが、私を「ヒロー、ヒロー」と呼びながら、背の高い紳士を、父親だ、と紹介してくれたのです。挨拶しながら右手を出すと、スカウトの証しである左手を差し延べながら名のったのは、時の人、マッカーサー元帥でした。その命でか、都内行進では100旗程の 団旗の下、3500名からの団員の先頭に立たされたのです。誇りとする思い出です。

1953年、新鹿沢での全群馬野営大会では、三笠宮殿下の臨席、北野県知事の出席を得たこと、軽井沢での第1回日本ジャンボリーに皇太子殿下の御来臨を得た事務局長の後藤先生の活躍ぶりは、私の心からは消えません。

忘れられぬ方は大勢ですが、利根地方事務所長の鈴木先生は、利根沼田に17隊も生む熱心な方で、水上の須藤先生も地元の隊の育成に力を掛けてくれました。高橋・桜井・野口先生は、地元ばかりか県連にも大切な方でした。鳥屋先生はスカウト一家でした。坂本先生の励ましが嬉しかったし、戸所先生の財団への力添え、後藤先生の援助も感謝です。事務局と需品部もされた吉川先生、玉寿先生のよき相談相手の江原先生、団を守ってくれた古川・森田先生、強い味方でした。

そして、私の嬉しいのは、財団の認可です。福田先生とＯＢスカウターの骨折り、25年間経理を預かってくれた小野里先生に感謝を寄せながら県連の弥栄を心から祈り上げます。

ボーイスカウト群馬県連盟
創立四十周年を祝す

財団法人　群馬県ボーイスカウト振興財団
理事長　福　田　　實

創立四十周年、誠にお芽出度うございます。心からお祝い申し上げます。

隊長・団委員・団委員長・県連理事・理事長と経験させてもらえたのもボーイスカウトと云う組織があったればこそと、又この運動に入れてもらえたからこそと、更めて此の四十年を振り返り、感謝の気持で一杯である。

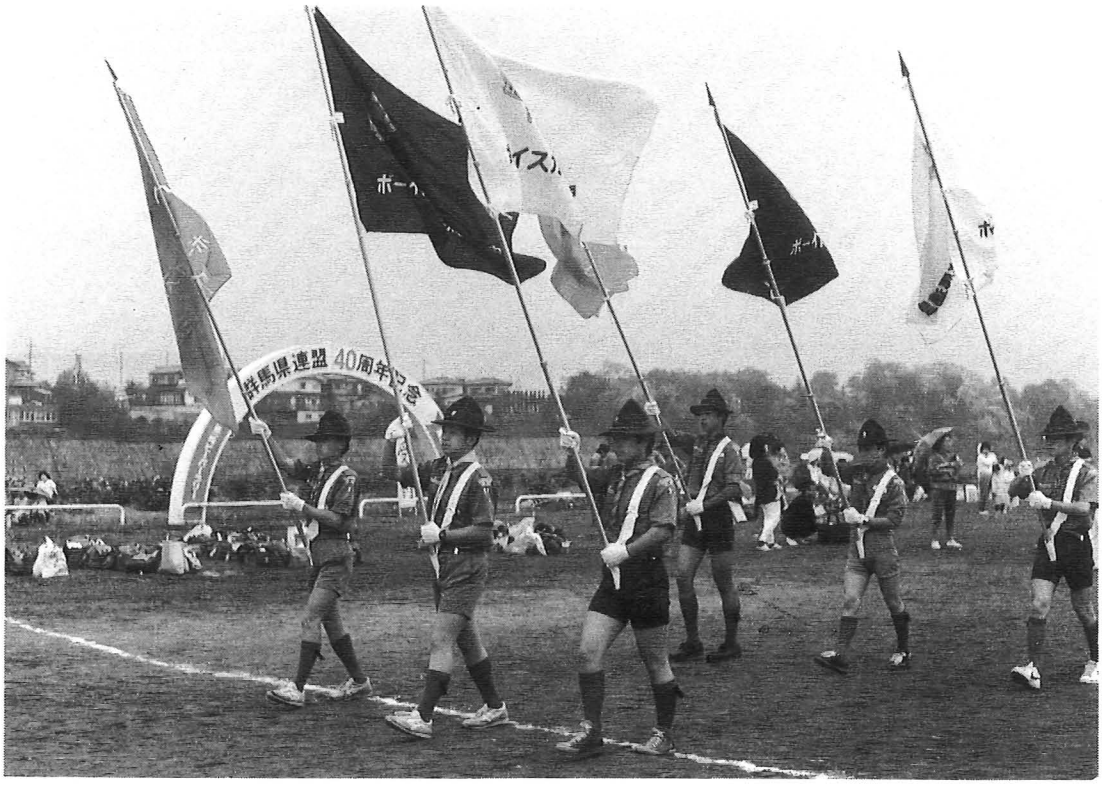
私達の時代は財政的に不如意で、理事達が会費壱万円を出して、県連運営の一助にしていた実情から、県連を財政的に側面から応援しなければと云うＯＢ達の財団設立の発議が十数年前になされ、此の度、根岸理事長の時代になってやっと県連理事会の御理解と応援を得てここに誕生することが出来、これ又、感謝の気持と嬉しさで一杯である。

平成の続く限り、否群馬のボーイスカウトが続く限り、この財団も財源集めに努力し、ボーイスカウト群馬県連盟の生々発展と足並を共に致し度いと念ずるものである。

スカウト、スカウターの一層の御理解御支援とを願うと共に、永遠の県連であり、財団であることを祈念し、御挨拶と致します。

ボーイスカウト群馬県連盟

40年のあしあと



10年のあゆみ

（30周年記念誌以降）

スカウト数が飛躍的に増加した時であり、加えて指導者の充実、各種委員会が機能的に活躍したのもこの時期であります。

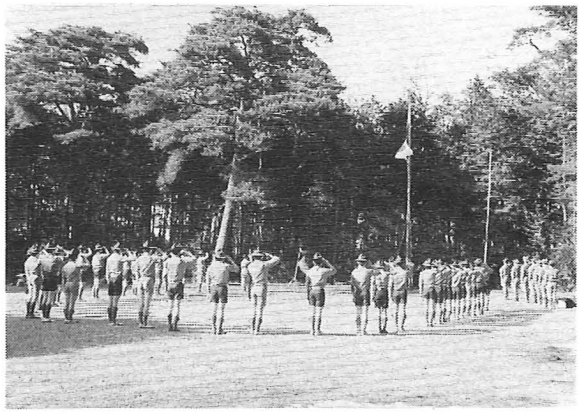
県連事務局も、各地を転々とした間借り生活から、財団法人群馬県青少年会館の一室に専用の事務所を与えられ、選任の事務局長と職員が置けるようになったのも画期的であり悲願の群馬県ボーイスカウト振興財団が誕生した。

群馬県連盟事務局がある青少年会館

昭和56年度

規約検討委員会が、地区組織の活性化を図るため、5ケ団，8ケ隊を地区組織の基準と定め、4地区に統合し地区協議会の機能の充実を高めた。

第3回シニアースカウト大会を佐渡ケ島で開催し、テーマは「THE EXCITING SADO」スカウトが45名参加し、ボーイスカウト隊の影に隠れていたシニアー隊も次第に登録数が増加し、シニアーリングが定着していった。



シニアースカウト トレーニング　那須野営場

この大会を契機にシニアースカウトへのいざないとして、後年那須野営場を使用して、新高校生を4月に集め2泊3日のシニアースカウト・トレーニングを実施し受験を控えて休隊同様のスカウトに、シニアーリングをトレーニングした。

この年が、群馬県連盟創立30周年にあたり記念キャンプとして第21回野営大会を相馬ケ原で開催した。

第21回県野営大会 正面ゲイト

テーマ「いどめ原野に若さと友情」スカウト1,150名 が参加して盛大に開催されたこの時の資料が後年開催された関東ジャンボリーに役立った。

又、財団法人群馬県青少年会館が、完成間近かとなり、以前から積立ててきた資金から

700万円を寄付して同会館の運営費の一部に寄与した。

昭和57年度

財団法人群馬県青少年会館が、6月5日オープン、同年6月28日に引っ越し、ここにボーイスカウトの事務局が正式に開設された。

同年、シニアースカウト・トレーニングを最初に那須野営場で開設した。

組織も、新団3ケ団　9ケ隊が発足し4,553名となる。

日本連盟創立60周年にあたり、全国キャラバン隊が、桐生→前橋(県庁)→館林→羽生まで、自転車隊がパレードした。

第4回カブラリーを館林市茂林寺を中心に2,293名が参加した。

第8回日本ジャンボリーが、南蔵王で開催され360名が参加した。

パトロールリーダー.トレーニングを東毛少年自然の家で開催し、96名参加。

ガールスカウトと、シニアースカウトが初めて合同でクリスマス会を開催し、以降数年交流が続けられた。

11月1日青少年会館敷地内に、80万円で県連倉庫2棟を新設し、野営用具の管理が容易になった。

昭和58年度

5ケ団、3ケ隊発足し、4,742名となる。

アニバーサリー75記念群馬スカウトラリーが「いどめスカウト技能へ」をテーマに、桐生市陸上競技場で開催、846名参加。

関東ブロック会議で、ブロック独自に野営大会を実施する方向で、関東ジャンボリーの呼称で物議をかもしたが、相馬ケ原開催がきまる。

昭和59年度

3ケ団、8ケ隊発足し、4,939名と過去最高の登録数に達した。

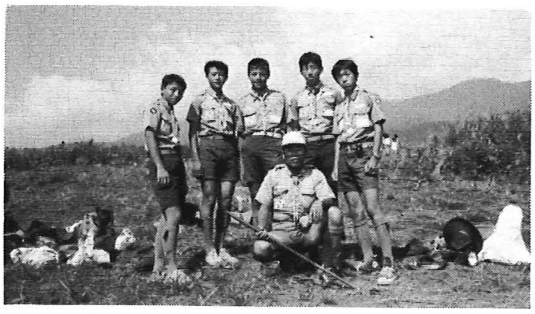
第1回シニアースカウト大会が、南蔵王で開催され、44名が参加した。

県連規約集を改定し、発刊した。

第4回カブラリー　たぬき仮装コンテスト

8ＮＪ　群馬派遣隊指導者スタッフ

群馬スカウトラリー開会式（桐生）



第1回シニアースカウト大会派遣隊

昭和60年度

スカウト展を開催した年で、以後各地で継続的に開催された。

第５回カブラリーを高崎市観音山一帯で開催し、2,039名が参加。両毛線に、ブルートレイン「西遊記号」を運転した。

第１回関東ジャンボリーを開催、相馬ケ原で関東一円から8,500名 が参加した。

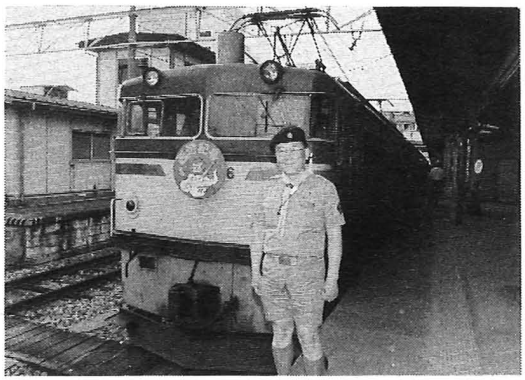
国際青年年で、ガールスカウトと赤城青年の家で合同キャンプを開催した。

昭和61年度

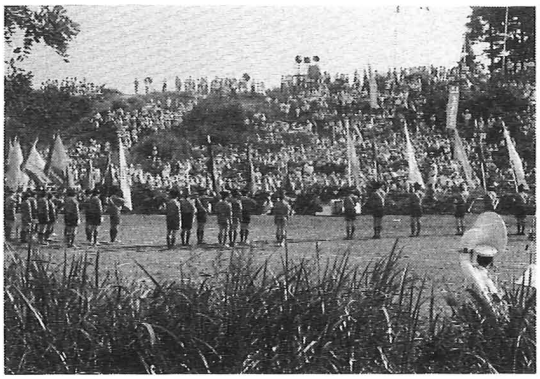
ビーバー隊発足、16ケ隊 239名の登録があった。

第９回日本ジャンボリー開催、450名参加。

指導者の資質の向上を図るため、第１回リーダーフォーラムを開催。35名が参加した。以後毎年継続している。



ブルートレイン「カブ山西遊記号」



第１回関東ジャンボリー

第22回県野営大会 野営区正門

９ＮＪ第３野営区スタッフ

昭和62年度

日本連盟補助金で、スカウト展が盛大に開催され、この年にカラーフラッグを作成した。

第４回シニアースカウト大会を石川県能登島で開催し、112名が参加した。

昭和63年度

群馬県連盟創立40周年記念行事委員会を組織した。

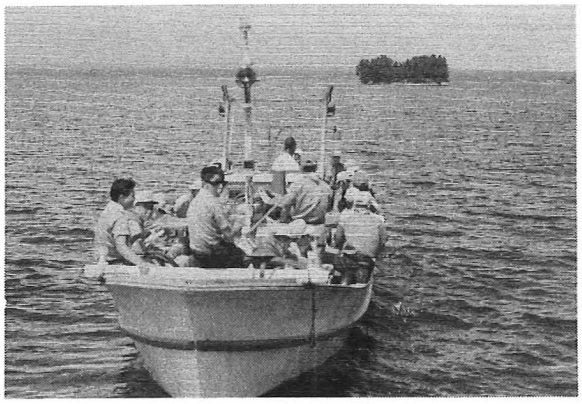
日本連盟全国会議で、組織拡大増加目標達成優良県連盟の表彰を受賞。

第１回ビーバーラリー・第６回カブラリーを前橋市で開催。

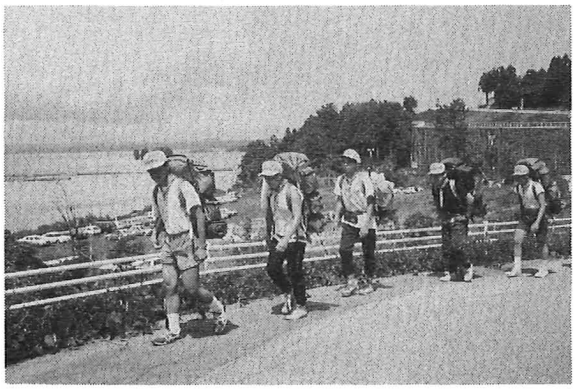
財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団が７月14日付で認可される。

第２回シニアースカウト大会開催、朝霧高原、97名参加。

ボーイスカウト展（桐生会場）



能登島より無人島へ船出



第４回県シニアー大会移動キャンプ

振興財団設立準備会

第２回シニアースカウト大会正門

結成より10年のあゆみ

胎動より10年の回顧

戦雲ようやく晴れ、焦土と化した日本は、再建の槌音高く響きわたる昭和23年７月13日より16日までの４日間、一の宮公民館において第１回指導者講習会が開催されました。

これを機にリーダークラブが結成された。このメンバーに星野先達をはじめ、三沢祐長、須藤範二、北條富司、桜井 正、工藤友吉、栗原 博、小井戸哲夫、村沢信夫の諸先生方がおられ、これらの諸先輩が中心となって群馬県連盟結成のため胎動がはじまりました。

その後、利根・沼田・伊勢崎・前橋・太田佐波・高崎・勢多と隊が結成されました。

その頃はまだ物資乏しく、テントや炊飯具など揃えるのに大変苦労をした。米軍の放出や手づくりで何とか形を整えた。雨が降れば防水が効かず、テントの中は川になり、当時はビニールなどなくて、新聞紙をベタベタと張って、何とか凌いだ。食糧などは、ほとんど麥や芋が多かった。これこそ、スカウティングそのもので、創意工夫、僅かな食糧を分ちあう真の仲間づくりが、苦難に敢然と立ち向い、耐え抜いたよろこびが、またそのかがやく瞳、表情が今も脳裏に浮ぶ。

これらの少年達が全県下より、前橋公園に集まる。

昭和24年11月６日、日本連盟総長、三島通庸先生のご臨席をいただき、群馬県連盟結成式が挙行されました。11ケ隊、隊員286名でした。

服装もまちまちで、白い登山帽、白シャツ白のストッキング、あるいはフィールドキャップに、長ズボンを切りとって半ズボン、団杖をかまえて、今のようなスマートさはなかった。

その後、毎年11月はじめに結成記念大会を各地区輪番に行うことになり、翌年一周年を高崎公園で挙行し、太田・伊勢崎・桐生・前橋と回を重ねて、隊数も増えて市中行進を行いＰＲにつとめました。

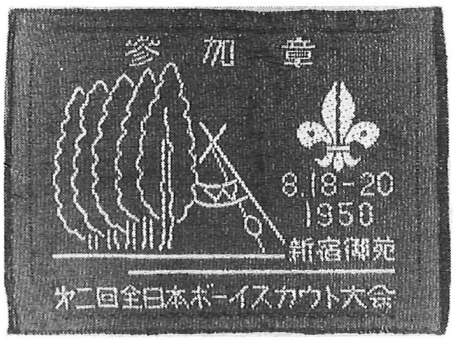
伊勢崎・桐生のバンドが活躍したのも想い出となっております。

ボーイスカウト群馬県連盟結成式

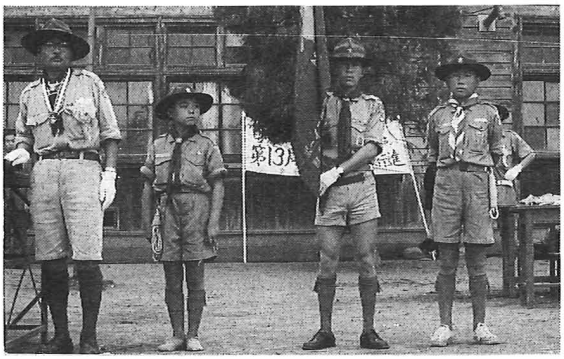
野営大会については、昭和24年に岩鼻火薬所跡にて、戦後はじめての合同野営が行われこれが第１回となり、以後年を追って次のように各地で開催された。

第２回全群馬野営大会　沼田公園　25年
第３回全群馬野営大会　伊勢崎華蔵寺公園　26年
第４回全群馬野営大会　榛名湖畔　27年
高崎こども博協賛野営大会　高崎片岡小校庭　27年
第５回全群馬野営大会（関東地区招待）　吾妻.嬬恋村新鹿沢　28年
第６回全群馬野営大会　赤城山大沼湖畔 29年
第７回全群馬野営大会　桐生市相生神平 30年
第８回全群馬野営大会　軽井沢　31年
　第１回日本ジャンボリー参加
第９回全群馬野営大会　銚子君ケ浜海岸 32年
　関東キャンポリー参加
第10回全群馬野営大会　前橋市敷島公園 33年
　年長隊富士野営 山中野営場　９名参加
第11回全群馬野営大会　太田市熊野　34年
　第２回日本ジャンボリー参加
　滋賀県あいば野　34年
　第10回世界ジャンボリーへ
　フイリッピン　12名参加

以上、野営大会を列記しましたが、野営場には、使用に際しては比較的自由に使用できたが、近年いろいろと規制され、条件が難かしくなってきた。当時は、まず穴三つを合言葉に排水・便所・炊事にとよく穴を掘った。



県連結成記念大会バッチのいろいろ



第13回県連結成記念大会（安中）

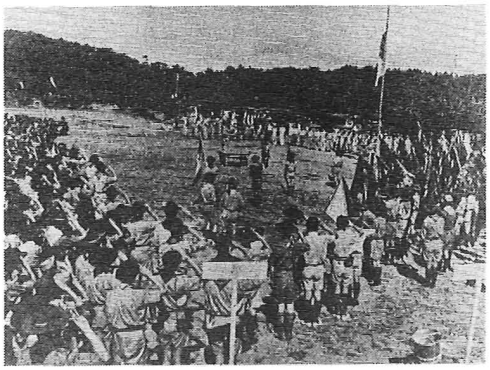
第１回日本ジャンボリー（軽井沢）

しかし、スカウトは後を自然に戻す“立つ鳥は後をにごさず”これを実行することによりいずこのキャンプ場も歓迎してくれました。

この頃の日本ジャンボリーには、スカウト全員が参加できて、楽しかった。第10回世界ジャンボリーに派遣された、ヒゲの後藤竜堂先生他12名が帰途日本ジャンボリーに合流しどしゃ降りの豪雨の中、皇太子殿下をお迎えしての大行進も今は遠い想い出となりました。

帰りは台風のため、列車はストップ、沿道の住民の方々の炊き出しおにぎりのおいしかったこと、あの時の感激は、生涯の想い出となったろう。この経験を生かして、当時のスカウトは、きっとそれぞれの職場で、また社会で、地域のために活躍されておることでしょう。

この頃より、全国的にカブ活動がはじまり本県でもカブ指導者講習会が開催されて、可愛いスカウトが次々と誕生した。その反面、時代の流れか、リーダーのあとがつづかず、



32.8.2～5　関東キャンポリー（銚子）

いくつかの隊が消えていった。残されたスカウトはそこにいる。一部大人の無責任が問われた、折しもカブスカウト活動が活発になるにつれ、一時の減少もようやく復活の兆しが見られるようになってきました。

県連結成以来、この10年間、県連スタッフの方々のご苦労は大変なものであったろうと思われます。赤いトルコ帽、チョボひげの星野宏先生は、私財を投じて、東奔西走、まさに県連生みの親として元気に活躍なされた姿は、当時のスカウト達に強烈な印象を残している。また甘楽の奥から原付自転車で、颯爽と県内を駆けめぐった、独特な悠長ぶりで、みなに親しまれた今は亡き、三沢祐長先生が目に浮びます。ひげと長靴の後藤童堂先生、畠の中のお地蔵さんに驚かされた須藤範二先生、若いハンサムな歌の上手な桜井玉寿先生伊香保福一旅館で、湯につかりながらのソング講習会、初代事務局長で家の一部を開放して、妹さんもよくお手伝いされました、静かな小井戸哲夫先生、その他沢山の諸先輩の方々のご努力が積み重ねられて、40年の歴史と伝統がこゝに実を結んだものと思います。

最初の10年間、胎動の10年間をかいつまんで記しました。

名誉会議員
　　金井佐伝

10周年から20周年のあゆみ

想い出の指導者養成訓練十話

≪一　話≫

私が指導者の養成に係わりを持ったのは、36回ボーイスカウト指導者養成講習会であった。昭和39年10月15日から18日までの３泊４日の講習である。高崎ダルマで有名な少林山が会場となった。慣れない「結索法」の指導のために事前に結び方の練習をしたが、いざ本番になると結び目が解けなくなったり、受講生の方が上手であったり、冷汗ものであった。

この講習のある一日「ハイキング」の実習を企画した。午前中に追跡サインを付けてコースを設定約５㎞くらいの道程をつくりあげた。ある班が暗くなっても帰着しない事態が起り待てども待てども姿がみえないということで困惑した。調べてみると、午後からコースの途中が、一部道路工事が始まってしまい受講生がたどっているサインがなくなっていたのである。

≪二　話≫

40年７月に38回講習会が新前橋の前橋５団訓練場を借用して行われた。この時は「手旗」を担当したことを覚えている。受講生の一人に木村さんという方が居て私が打ったゆっくり信号に対し、猛スピードで打ち返して来た。これにはビックリ仰天、本人は元海軍で手旗信号教官であったので「もっと練習して来なさい」とハッパをかけられた想い出がある。この時に第１回隊長研修会が同時に行われた。武井，渡辺，角田，中島など豪傑がいてツイストパンをつくるのに汗くさいハットから流れ落ちる雨のしづくで練りあげて焼いたようだ。「隊長試食して下さい」と一番先に食べた味は忘れられない。この仲間の結束は武井氏を中心に「ホッチキス会」と称して時々集まり昔話をする。修了証を自分達で考案し、県連有功章より立派な金色修了証を作製した徳田も想い出である。

≪三　話≫

昭和43年８月20日から25日まで、第11回旧制の地方実修所が開設された。この時、北毛青年の家キャンプ場新設を兼ねた訓練コースである。私は上級班長として参加、特に想い出に残るのは「一級旅行」の事前準備、コースの設定に全力を注いだのである。当時の想定書をあげてみよう。

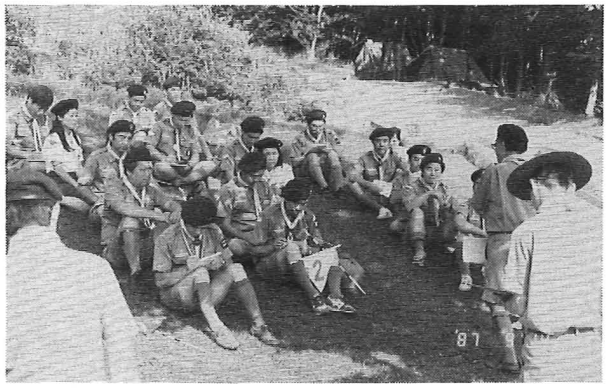
いつの日か、スカウティングの風にさそわれて、漂白の想いやまず、日々精励に努めて世の開拓者たらんと欲す。わが思いようやく叶いて健児の門を入り友とつどいぬ。楽しからずや。いまここに一級旅行の遍歴を試みんとして立ちぬ。かねてより持物ととのえつつも、そぞろ神のものつきて吾が心乱れ、取るもの手につかず今になりて漸くリックの中揃いぬ。スカウティングの風雪は厳しく不安の想いやまず、行き先案じて吾が友とここに集う。高山の郷は往時より孤狼，蛇，アブ，ハチの多い所ゆえ身体の保全に努めよや。野は広大、路は従横に走りて旅人の足をまどわす。班の仲間と語らいて８月の高山の自然を探訪せんとす。故人の曰く「樹下石上に臥すとも、暖めたる筵と思うべし」また重ねて曰く「衣類，器財相応にすべし、過ぎたるもよからず、足らざるもしからず、程あるべし」

楽しかりし、耐えぬさて往く遍歴は、問う人のなき道を求めて。読人不知

こうして作業課題１信，２信をすべて消化しなければならない。どの班も満足に野帳を記録できなかった。５泊６日にわたるメインイベントがこの一級旅行だったのである。

≪四　話≫

昭和45年７月18日、19日と伊勢崎の華蔵寺という寺で講習会があった。この時は主任講師を勤めた。それまでは「指導者養成講習」であったが、この時から「養成」の文字がなくなってしまった。期間も１泊２日と短かくなり、講習内容もそれに合わせた型でマニュアルが作成された。この頃から講習会の目的が、スカウト運動の知識を広める方向に行ったのである。３泊，２泊，１泊と講習日程が変遷する中で、どうしても「指導者養成」の在り方を考えさせられることが多かった。



≪五　話≫

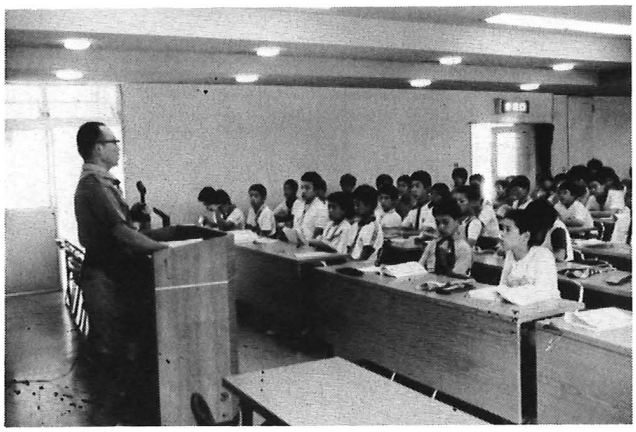
新しい型の指導者トレーニングが始められて、最初に奉仕したのがＷＢ研修所神奈川３期であった。山梨県の道志村は想い出の地である。谷川の水は豊富で大きな樹木こそないが、自然の満ちあふれた緑のキャンプ地であった。山下所長の下で副長を勤めた。一番の想い出は指導者が研修生に与える姿を整えることの大切さを学んだ。いわゆるスマートネスである。山下所長の凛々しい姿は今でも忘れられない。言葉で教えることより行動で示すこと。隊長の与えるスカウトへの影響を思い知らされたのである。

≪六　話≫

昭和47年４月ＷＢ研修所関東６期が那須野営場で開設された。那須野営場の班キャンプ場には運の良い班と悪い班が生れるのに気がついた。その後何回も那須に行ったがいつもそう思っていた。研修生には教えられなかったが、おそらく他のスタッフも解かっていたのではないだろうか。スカウト広場から奥にフカキヤマと４班が住み込むのである。この時の研修所では「事前点検」の大切さを学んだ。ある朝礼で当番班長、次長が国旗の掲揚に臨んだのである。この時にまさかと思うことが起きてしまった。掲揚法は充分に慣れていたと思っていたが大失敗があった。それは旗手があまりにも緊張してしまって、所長の「上げ！」の号令で思いきり強くロープを引いたので国旗がやぶれ、伴綱が切れ落ちてしまったのである。掲揚ポールを倒して直すのに半日がかりであった。

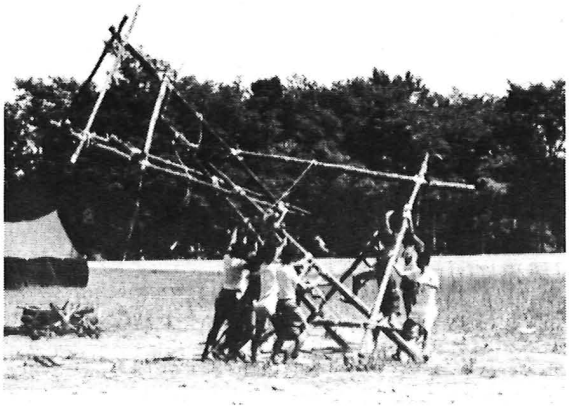
≪七　話≫

研修所、実修所だけで12回も奉仕してみたが、受講生にはおよそ解らないスタッフの苦労がある。明日のセッションの打合せには11時12時まで、更に１時や２時までも講義案をまとめるのは毎日である。実習所ともなれば尚更のこと。綿密な指導案を作りあげなくてはならない。「もしも明日、雨だったらプログラムをどう変えるか」与えられた期間で、しかも限られた学習時間の中で目標達成をしなければならない。スタッフは本当に厳しいものである。真剣勝負で運営に当るもので、今想うと懐かしい想い出である。



≪八　話≫

自分が指導者としての訓練を受けたのは旧制地方実修所であった。北信越第５期少年部金沢道場という厳めしい所である。39年７月26日から31日まで５泊６日のトレーニングで、最初から終りまで開拓、開拓で過したような気がする。この時の所長は秋月鏡観先生でユーモアにあふれた忘れ得ぬ所長である。この頃は自分の目の高さよりやや高い杖を持って訓練した。金沢市のはるか郊外の山中でアブやら雀蜂のやたらと多い所であった。この時の訓練「鍛えてやる」式のトレーニングで山中を開拓しなければ今夜寝る場所も保障されていないのである。池田上班のモールス信号には本当にまいった。解読できないと露営地に着けないのである。夜８時に夕食にとりかかった。スカウト教育とはこういうものかと思い知らされた。我が班ではモールスの得意な人が１人いたのである。渡河作業を終えても尚モールス解読ができないと目的地に到達できないのである。精神力のトレーニングでもあった。他の班は９時過ぎに夕食をした班もある。



≪九　話≫

次に訓練を受けたのは、日本ギルウエル16期である、43年５月であった。このコースでの想い出は、スタッフの一員で来た吉川哲雄先生のＢ－Ｐ伝は実に素晴しい講義であった。

秋月先生とはこのコースでも一緒になった。そして、想い出の「16期の歌」が期間中に生れたのである。吉川哲雄作詞、秋月鏡観作曲で、自分たちがスカウティングの道を力強く歩むようにと願いを込めて作られたように思う。数多く開かれる実修所の中でも、自分たちだけの歌が出来たのはこのコースくらいだろう。この期の修了生は後に全国的に活躍している。

昭和47年11月23日から26日まで山中野営場で日本ＴＣが開設された。これはトレーナーの養成コースである。運よくここに入所が許され、広い視野でスカウティングを考える機会が持てた。この頃はスカウト運動も世界的に近代化し、新しい技法を採り入れたトレーニングであった。ロールプレイやケーススタディといった教育技法も数多くなされた。

11月の寒さの中でも半ソデ、半ズボンのスタイルは、本当に一般の人には考えられないようなことばかりであった。

≪十　話≫

３年後の11月21日から同じ場所で28回国際ＴＴＣが開かれ、これにも参加することができた。このトレーニングはアジア、太平洋地域の指導者を集めたもので４泊５日であった。

寒い山中湖畔にフィリピン、マレーシア、台湾等の国々の指導者が集い、各国情の異なる中で、同じ目標を持った仲間が討議する素晴しさが実感できた。

指導者トレーニングの中で、一番難かしいのが「信仰」指導である。スカウティングの原点でもある信仰を持たせる教育、その方法論についてはどの訓練コースでも明確ではなかったようだ。あくまで個人の問題である。という言葉で回避してしまっていた。

これからの指導者たちは常に、信仰指導の問題を意識しながらトレーニングに励んで欲しい。そうでなければスカウト運動の特徴は見出されなくなるだろう。指導者は常に目的意識を失わず研修すべきであろう。最後に残念であったことは20才台の若者が進んで指導者として入るような魅力ある運動にならなかったことである。　元県連盟参与　井出存祐

20周年から30周年のあゆみ
躍進期10年の回顧

1. はじめに

わが国が世界有数の経済大国として世界中から認められるようになった戦後の30年間は、県連盟でも大きな足跡を残した期間でもあった。

すなわち、誕生から成長、そして成人し（20周年）、さらにその後の充実した活動（躍進）の期間であった。

私はこの20周年から30周年の期間を次のような視点からふりかえってみた。

1）組織の拡大

2）諸規程の整備

3）諸行事から

2. 組織の拡大

昭和24年県連盟結成年の登録数は、20ケ隊567名であり、20年後の昭和43年度では1774名となり、30年後の53年度末では63ケ団124ケ隊3554名の登録を数えた。実に10年間で1780名の増加であり、正に倍増となった。

この増加の原動力は、カブスカウト隊の充実によるものである。日本連盟のカブ特別委員会では、わが国の年少スカウト訓育の拡大、強化をはかる方策について調査研究を続けてきた結果、昭和44年から新カブブックによる全面実施にとなり、進歩制度や隊の運営、プログラムの立案などが大きく変わり、両親家庭との関係が強くうち出された。そして、同時に実施されたウッドバッジ訓練方式による指導者養成制度との相乗効果となって現れ、本連盟にも及んだ。

新制度実施後20年を経過した今日、カブスカウトを中心にした登録者の減少が論議されている。時代の変化を感じるものである。

3. 諸規程の整備

1）地区組織に関する規則

県連盟は、創立時から6地区に編成され運営されてきた。そして地区の規模は県連理事会により審議決定され、いくたの変遷はあったが7地区の数は変らなかった。

その後、団制度の導入や、組織の拡大が行なわれ、地区組織の重要性が再認識されるようになり、検討が重ねられ、地区組織に関する規定が昭和48年7月21日に制定された。

しかしその後の登録数において、地区ごとにアンバランスが目立ってきた上に県連盟の運営上各種委員会の活動を推進する必要性がとりあげられ、各地区より委員の選出を求めることになった。しかし、地区によってはその対応ができないところがあったため、昭和54年6月1日改正が行なわれ、現行規則の大綱が施行された。

2）トレーニングチームに関する規定

スカウティングにおける指導者の訓練は、その創立時より最重要施策の一つとしてとりあげられ実施してきた。そしてその任務はコミッショナーに託されていた。

世界連盟の指導者訓練方針が確立されたのにともない、日本連盟でもそれを採用されると共に、トレーナーによる訓練が行なわれることになった。当県連盟でもそれにならうことになり、昭和48年6月9日制定された。

3）表彰に関する規則

青少年健全育成のための教育法であるボーイスカウト運動は、もともと地域社会のおとなが明日によせる期待をこめての活動である。

少年が、指導者が、篤志家がした行為に対し、地域社会の要求をみたすものとして、支持、評価された行為に対し、賞讃し、「どうぞこの後もお続けください」というのがボーイスカウトの表彰である。

県連盟では、表彰の可否について公平妥当を期するため、基準を定め審議決定するため昭和48年6月9日制定した。

4）名誉役員に関する規則

多年県連盟の役員又はその他の役職等において、県内のボーイスカウト運動の普及拡大と、その純正な発展に寄与され功労のあった方々を名誉役員として推戴するため、昭和49年6月2日制定した。

5）慶弔に関する規則

加盟員等の慶事、傷病見舞、弔慰に対すると共に、発団、発隊等のお祝に関し昭和51年11月1日制定した。

4. 諸行事から

1）第13回世界ジャンボリー

昭和46年8月2日から10日まで富士山麓朝霧高原において開催され、本連盟からスカウトおよび指導者128名が3ケ隊に編成され、又サブキャンプおよびジャンボリー本部運営要員として28名の指導者が参加した。

世界ジャンボリーがアジアで行われるのはフィリピンで行われた昭和34年の第10回大会についで二度目である。

8月2日午後5時、夕もやのたちこめる緑の高原で9日間の幕をあけた。

初日、2日目と続いた好天も、3日目の夕刻から強雨となり、テントの浸水、倒壊等の被害続出、あちこちで風雨との"奮戦"が展開された。

4日目の午後には、近くの学校、お寺などへ緊急避難をした。避難先では、各国スカウトとの友情交換の花が咲き、「相互理解」のテーマにふさわしい風景があり、明るいムードがいっぱいであった。

6日目の朝、さんざんな目をあわせた局地的な暴風雨もおさまり、太陽が顔を出した。避難していたスカウト達は続々とサイトにもどり、会場は活気をとりもどした。

わが県連から派遣された人たちも、天候の影響により、予期しない事態に直面したが、全員終始乱れぬ行動をとり、それぞれ貴重な体験をした忘れえぬジャンボリーであった。

2）群馬カブラリーの再開

昭和37年高崎市で開催されて以降とだえていた群馬カブラリーが、昭和50年5月、前橋市の敷島公園で第2回目が開催され、54年には桐生で開催した。

前述のように、組織の拡大に大きく寄与したカブスカウトの増加にともない、3年に1度の割合で開催し、県内のカブスカウトが一堂に会し、ゲームに挑戦し、そして他地区のスカウトたちと友だちになる機会として企画された。

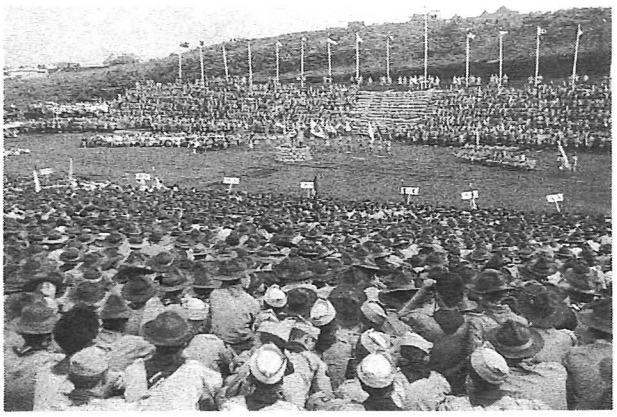
計画、運営は各地区に委嘱され、桐生の後は太田、高崎の順で行われ、現在2順目に入っている。

各会場とも、アイデアあふれるプログラムにより、終日明るく、楽しそうなスカウトたちの声が満ちていた。

5. おわりに

この運動が成立する第1条件は、スカウティングに魅力を感じる少年がいることである。そしてこれらの少年の世話をする成人指導者がいること、それに両親が自分の息子の参加を承認することである。

時代の変化、ニーズの多様化が言われている今日、ＢＳのある先輩は言う「原理原則をしっかりつかんでいれば、そこから方法はわいてくる」と　スカウティングの目標へ向ってしっかりと歩いて行くことこそ今後とも必要と思う。　　県連盟理事　高橋　和男



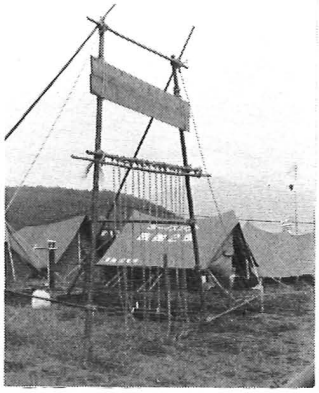
世界ジャンボリー開会式（朝霧高原）

第8回日本ジャンボリー・第9回日本ジャンボリー
台風に悩まされた8NJ・9NJ

第８回日本ジャンボリーは昭和57年８月２日～７日まで又、第９回日本ジャンボリーは昭和61年８月２日より７日まで、共に宮城県蔵王南麓の高原で開催され、群馬県からは８ＮＪに360名、9.ＮＪに450名の代表スカウト、指導者が参加、ＧＨＱ・ＳＨＱにも多くの指導者が奉仕参加をした。8.ＮＪ、９ＮＪ共　私は派遣指導者として参加したが忘れられないのはこの二つのジャンボリーが共々、台風に悩やまされたことである。８ＮＪでは、開会式前日の８月１日に台風10号があばれ、先着していた参加隊は、テントを守るのに精一杯だった由、又、スタッフ、特に野営管理部の御苦労は、なみの御苦労ではなかったと聞いている。群馬県派遣隊は、開会式を夕方に控えた８月２日に会場入りをしたので台風とは直接にはおめにかからなかったが出発日の早朝は、未だ風雨強く果して出発できるかどうか危ぶまれたが、高崎地区の派遣隊が地元の出水による道路不通のため、少々出発が遅れたのみで、台風一過となった。風は強かったが青空の下、佐野ＳＡに集結、出発できた。しかし会場へ入ると台風の爪跡があちこちに見受けられ、泥濘の通路を約１㎞位装備を運び、スカウトたちは一致協力して設営を完了しての開会式は、台風の片鱗すらみえず月が輝いていた。

それからの６日間、スカウトたちはパイオニア章に挑み、合い間を縫ってのサイトの整備を行い日頃技能訓練の成果をみせていた。又、周囲のサイトのスカウトと交流をし、大きな友情を育ぐくんだ。

８ＮＪでの想い出はいろいろあるがその一つに、群馬県派遣隊の大部分が３ＳＣの最も奥に位置し、主要道路まで約１㎞強あったので、８ＮＪ終了日に各隊装備を積み出すために谷川にスカウトの手で架橋して最短距離で


８ＮＪ高崎隊サイト

８ＮＪ太田隊サイト

８ＮＪ桐生隊サイト

８ＮＪ前橋隊サイト

装備を搬出したこと、又、アリーナへ正規の道路でゆくと2㎞以上あるので、ある派遣隊が裏側の雑木林に細い道を開拓し、アリーナまで数百㍍まで縮めたことなどがある。又、取材のために飛来したヘリコプターが高度を低くとりすぎ、その下のサイトのかなりの数のテントを空へ巻き上げてしまい、台風が去って少しはほっとしていた野営管理部を又々忙しくしてしまった。

会期中、2～3回、雨にやられたが最終日装備を指定位置に搬出し、迎えのバスを待つ間（約4時間待った）雨が降ってきて、雨をさえぎるもの一つとてない原野なので少々弱ったのも想い出の一つである。

私は軽井沢で開かれた1ＮＪ（昭和31年8月）にローバースカウトとして参加して以来のジャンボリー参加だったので、いろいろと指導者としてその指導力、企画力、実行力等について勉強、体験ができえた有意義なジャンボリーであった。参加のスカウトが病気、負傷もなく元気で帰りえたことに安堵したものである。とにかく日程の前半は台風の置き土産の泥濘のため、道路はドロドロで、スカウト、指導者共々長靴をはなせない有様を、ある指導者が「これでは、ジャンボリーでなく、タンボリーだ」と言っていたのは言いえて妙であった。

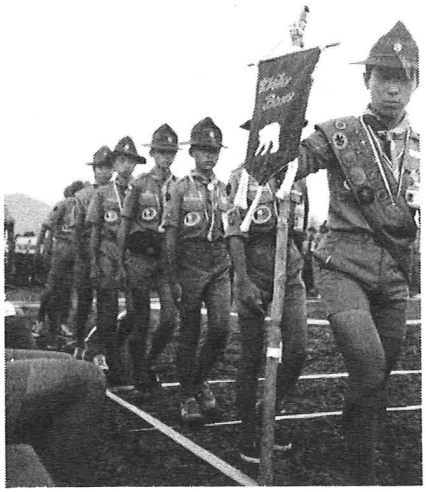
それから4年後の昭和61年8月2日より9ＮＪが同じ会場で開催され、私は3ＳＣ、52隊の指導者として参加した。今回のサイトはアリーナをはさんで8ＮＪとは反対方向（距離にして約2㎞離れている）に設定されていたが、ＳＣ広場、装備の積み出し場所にも近く地理的には8ＮＪよりは恵まれていたがその地形がまさかあだになるとは予想だにしなかった。この9ＮＪはＧＨＱには県連から根岸理事長他数名の方々、ＳＨＱには新藤副理事長以下多くの方々が奉仕され、私たちの野営区長には田部井県副コミがおり、私も指導者として2回目のジャンボリー参加なのでどこかゆとりめいたものがあり、これは楽しいジャンボリーになるなと引率したスカウトの資質、技能訓練度からみても思っていたが、8ＮＪに続いて台風が飛来し、会期の¼が風雨にさらされるという楽しい想い出をつくってくれるとは思ってもみなかった。

私は昭和24年、ちかいをたててから個人キャンプからジャンボリーまでを含ると150～200泊位の野営体験があるが30時間以上も降りこめられ、強風に悩やまされたのはこの9ＮＪを除いては、他に経験のないことであった。その状況は当時の日記をひもといてみると

第9回日本ジャンボリー
アリーナで開会式
（宮城蔵王）

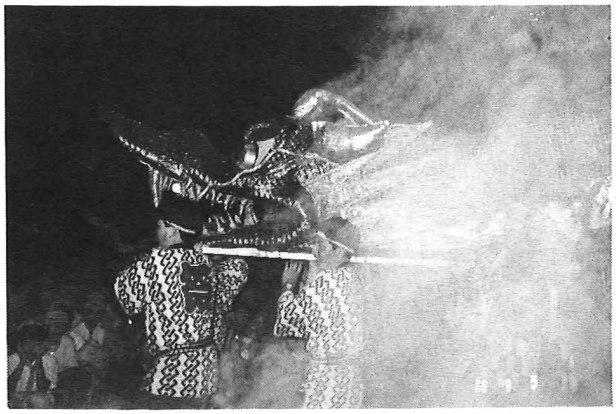
８月３日（日）　晴
宗教儀礼の後、スカウトは、パイオニア章取得のため、各プログラムに終日、挑戦し、大部分のプログラムを修得す。余暇にサイトの環境整備を指導者共々行う。夜空にまたたく星のきれいさにしばしを忘れる夜だった。
８月４日（月）　風雨強し
キャンプサイトが傾斜地の最低部にあり、出水時の心配があったが、朝の国旗掲揚時より降り始めた雨が台風と共に烈しくやってきた。宮城県地方の週間天気図を入手していたので今日は少々天候がくずれるとは予想していたが、まさか台風による豪雨と強風がくるとは、思ってもいなかったがおい出になったのではやもうえない、早速、豪雨中でスカウト、指導者一丸となって溝の堀り増し、食堂、炊事場ワライ、A型テント、マーキーテントの張り綱、ペグの補強等の荒天準備を十二分に行う。最も心配していたスカウトのテントは傾斜地にも関らず、上部よりの出水がなくほっとする。しかし、指導者のマーキーは上部よりの出水をまともにうけたが深堀りの溝のため、マーキー及びサイトは冠水を免れたが深堀りの溝に烈しい水流と共にやってくる土砂の埋没を防ぐため、土砂の堀り上げに指導者は徹夜さわぎだった。マーキーテントのすき間からの雨漏りに指導者は少々悩やまされたが、スカウト共々、意気盛ん、かつ志気を旺盛であった。そんな中でジャンボリー大集会は開かれ、スカウトは３ＳＣ代表としてびしょ濡れのハッピをまとい、八木節を音　高らかに豪雨のジャンボリー大集会に鳴り響びかせた。その豪雨の中、太田２、３、５団の見学隊来場。こんな中に来て頂いて嬉しい気持と申し訳けない気持がした。

スカウトは豪雨、ものともせず、パイオニア章必修の「交歓行事」を８ＮＪ以来、おなじみの三重県南勢７団と行い、この交歓行事を最後にパイオニア章、全９課目の全てを終了し、終了証明のスタンプがベタベタ押して


班旗コンテスト（９ＮＪ）

ある全スカウトの参加手帖を田部井野営区長に手渡した。雨はますます烈しくラジオは台風の接近を報じていたが、スカウト達はよく眠っていた。しかし、指導者は、あたりまえのことだが、時々、まどろむ位で殆んど一瞳もせず、土砂の堀り上げや各所の警戒にあたっていた。時には強風がきてマーキがもっていかれる感もあったが、雨中の補強が十分にその力を発揮してくれていた。
豪雨はドバッ、ドバッという音と共に一晩中休みなくマーキーをたたいていた。
８月５日（火）午前中は豪雨、午後より晴。豪雨の中で夜が明けた。ラジオは、ますます雨は強まると報じている。少々、くさる。
午前９時頃、いろいろな情報よりこの雨は早くても夕方までは降り続くと判断し、それに伴う諸準備を整える。食糧配給の停止による今後の食事対策、今後、２日以上、この豪雨が続き、配給が停止した状態が続いても持ち堪えられる非常食の買増し、雨具、スカウトの替え下着類（数名のスカウトの雨具が破損使用不能となっていた）の購入のため、指導者を山麓の蔵王町へ豪雨の中を派遣す。参加指導者の一人が会社勤務の都合で５日朝、サイトに到着したが、その車を非常物品購入の際使用できたのは、大いに助かった。しかし

指導者が諸物品、食糧を購入し　帰りついた



キャンプファイアーに起竜登場

頃、30時間も降りつづいた　さしもの豪雨も上り、配給も再開され始めた。豪雨の30時間の間、食堂フライの下で火は絶えず燃え続けその火は薪の乾操、スカウトの防寒のためと共に暖い食事を供してくれていた。午後には青空がのぞき始め、スカウトは雨で荒れたサイト、個人装備の整備、整理に余念がなかった。午後6時、３ＳＣ広場で行われたパイオニア章授与式に参加したスカウトに大きな大きな出来事が待っていた。52隊の全スカウトのパイオニア章取得は９ＮＪ参加３万人の最初の隊であったと３ＳＣ野営長より３ＳＣ全スカウトの前で深く讃えられ、音楽隊の奏でる「勇者は帰りぬ」と共に　野営長自ら、スカウト一人、一人に親しくそのパイオニア章を首にかけて頂いた。

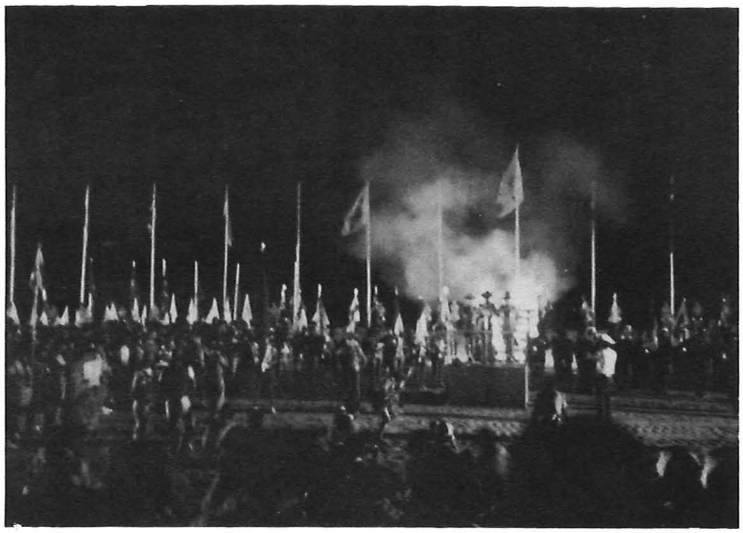
私は後列でその様子をみていたが、豪雨に打ちかち、そして参加３万人の中でパイオニア章取得No.１になったスカウトが頼もしく、かつ嬉しく、あふれる涙を止めることができえなかった。この２日間に渡る豪雨の中の体験は９ＮＪのいろいろな思い出と共に、スカウトは永遠に忘れえぬ、生きた教訓になってくれたと思う。今でもその時のスカウト達がNo.１のパイオニア章を首にかけた昭和61年８月６日撮影の彼等の写真が、私の部屋の壁に掛けてある。私はこの写真を見る度に、いろいろなことが思い出され、教えられ、導びかれている。もしかしたら、私のスカウターとしての原点を９ＮＪのスカウト諸君に教えられたのかもしれない。よりよき社会人になって下さい、全てのスカウト諸君よ！

県連理事　稲垣　　稔

感激！パイオニア章一番のり

第３サブキャンプ全体集会

日本ベンチャー'84
第1回シニアースカウト大会



今から思い出すこと5年前。宮城県南蔵王山麓で展開された第1回日本ベンチャーに、群馬県派遣団の第1隊々長として参加しました。

幸い大会の期間中は日本ジャンボリー恒例の台風の襲撃を受けることなく、全日程が好天に恵まれました。

南山麓の大草原に外国スカウト（女性も含む）とキャンピングし、シニアー諸君と十分交流が図れ満足して帰って来た記憶が残っています。

県連盟発行の“あすなろ”№11をみますと第2隊々長の彦部氏と高崎18団のスカウト、天田君のそのときの感想文が掲載されておりますが、改めて拝読しますとその情景がビデオ画面のごとく、鮮やかに映し出されてまいりました。

わが第1隊のキャンプサイトは北海道エリアに属し、隣の住人は福島や東京、秋田県連盟のスカウト達でありました。割合に本部のサイトに近く、そのため、本部の動きが手に取るように分かりました。夕方から夜にかけて隊長会議や外国指導者の晩餐会等で食した果物や北海道から直接空輸されたトウモロコシ、ジュース、ウインナー・ソウセージ等のお残りも、絶えず観察できました。「おーい君たち、御馳走にありついて来い。これは、隊長命令である。マナーを大切にな」。
北海道野営区長は知人の荻原氏ですので、前以てお願いしておきました。帰って来た隊員の声を聞きますと、「キャンプ場であんなうめえケーキが食べられるなんて、運が良かった。それに北海道のトウモロコシもすごかった。」と隊員からの報告を受けた次第です。味をしめたわが隊員たちはその後も、度々、その恩恵に浴しました。

スカウティングを通して一番のメリットは大勢の人に知り会えることだと思います。人と人との交わり、これが最高ですね。挨拶は簡単。三指の敬礼が真を尽くします。

次に、オーストラリアのスカウトとの交流について、お話いたしましょう。隊員たちに彼らと交流希望があるのか伺ったところ「してみたい。」とのニーズが強かったので、高崎18団の面々の天田や福田、柴田君などに「それでは交渉してこい。」と指示しました。
相談の結果、柴田君が最初の任に当ったらしい。「隊長、彼ら遊びに来るようです。」とい

大会場御視察の礼宮殿下

う。「良く話が通じたねえ」と聞いたところ彼はいわく「隊長、彼ら日本語で通じました。真剣に話せば通じるもんですね」という。「そうか、日本語で通じたか。ゼスチャーの方が効果があったんだろう」というと「その通り、手足を十分に活用しないとね。僕はシニアースカウトです」と彼は胸を張った。

それぞれ自己紹介が済んだ後、コカコーラで乾杯し、ブロークン・イングリッシュ で楽しいひとときを満喫しました。スカウティングは生きもの。そのパワーは人の和。

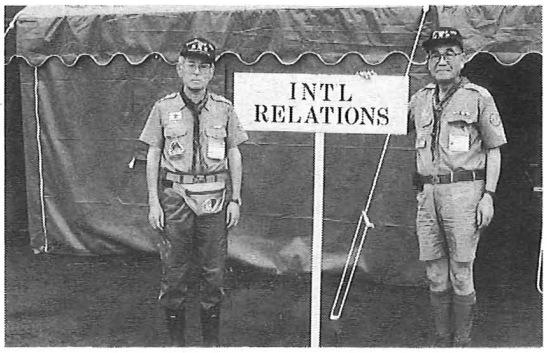
県副コミッショナー 重原 進

日本ベンチャー"88

第2回シニアースカウト大会

"未知への挑戦"をテーマに、昭和63年7月29日から8月6日まで、静岡県富士宮市の朝霧高原を主会場として、一都三県に13の活動基地を設け第2回シニアースカウト大会が開催された。参加したスカウト及び指導者は5,860名であった。7月31日から8月2日まで浩宮殿下が主会場と富士山基地の活動をご視察になられた。スカウトは、A班B班に分かれ、前半A班、後半B班が希望する活動基地で未知の世界へ挑戦し、それなりの成果を挙げて帰り、8月5日の閉会式には英国から特別参加のコンサートバンドが特設舞台で演奏し、興に乗ったスカウトが飛入するなど、若者の熱気溢れる式であった。需品部売場は例によって人の山、人気の記念品は2日で売切。A班のスカウト達は欲しい物も買えず、後日自宅へ送って貰う程の盛況であった。

私は1N.V.では総務の接待係であったが、今回は国際班に入れて貰い、根岸理事長を班



国際班で活躍された当県連役員

長に6人のスタッフで、13ケ国、177名の外国隊に奉仕することになった。今回の総務部員も大半が顔見知りの人達で旧交を温められたが、特に所属班長が根岸理事長であったことは始めての国際班員である私にはとても心強かった。全てが新しい奉仕経験であったがその二三を述べてみたい。

まず相手の外国語に大変な苦労をした。とりわけ訛りの強い東南アジアの参加者特にフィリピン隊には閉口した。例えばオーソライズがアウトライスの発音である。初日は受入れの為、深夜12時過ぎまで連絡を待ち、名簿を机に開いたまま電話を待つ有様で、到着後は参加者確認等廻りのテントは消灯就寝中なのに、国際班だけ赤々と電灯を点し、声高の外国人が騒いでいる様だった。仮設電話も不足で野営区との連絡も思うにまかせず、長靴のまま野営区へ徒歩連絡をした時は、山野を駆け巡ると云う言葉を実感し良い想い出になった。野営区毎に国別、参加基地別の人員を担当者に渡しておいたが、特にA班は開会式の翌朝活動基地へ出発と云うことで、身廻り品をテントに入れたまま、ロックして出発した者、発車時刻に遅れた者等、現実には誰が何処へ行ったか判らずに、2人の外国人指導者が、不明スカウトの基地到着を確認してから深夜車で活動基地へ送った事もあった。

日本人の様に几帳面な性格の国民では考えられぬ事が連日あった。

A班を送り出してから一安心も束の間、B班のスカウトや指導者が連日活動基地の変更

や遺失物の届出、ホームステイの申込があり更には行事に参加せず毎日遊びに来るスカウト、サイクリングが気に入り、連日参加するスカウト等、自己主張の強い外国人シニアーであるが故とも考えられるが、スカウト教育面の差を垣間見た様な気がした。

宗教上の理由で同じ隊員でも牛豚肉の駄目な者、牛肉だけが駄目な者、ベジタリアンとして野菜以外は全く駄目な者等、食事前の連絡、食事中の要望等細心の注意を払って多少なりとも要望に応える事ができた事も喜びであった。外国のスカウトがベンチャー88に参加し、日本の景色、生活、友情に接し良い想い出を残してホームステイに散って行く時、感謝に満ちた笑顔で手を振り乍ら去って行った姿は、国際班で奉仕できた喜びで苦労も疲労も一度に消えてしまった。

この奉仕の経験は、忘れる事のできないスカウト運動の想い出の一頁である

県連盟理事　郡司　博

第21回県野営大会
第1回関東ジャンボリー
(第22回県野営大会)

第21回県野営大会は、県連盟結成30周年記念のソウマキャンポリーとして、昭和56年8月13日より8月16日まで、又、第22回県野営大会は、埼玉、栃木、茨城、山梨県連盟の参加をえて、関東ジャンボリーとして、昭和60年8月2日から6日まで、共に陸上自衛隊第12師団相馬ケ原演習場にて開催された。

相馬ケ原演習場は榛名山東麓に広がる広大な原野でスカウトの野外生活、訓練に適したキャンプ地である。又、地理的にも群馬県の中央に位置していることも好条件の一つといえる。第20回の県野営大会もここ、相馬ケ原で開催されたが、第21回野営大会はその時の会場より参加スカウトの増加により、その上部の広大なエリアに位置していた。

開会式、大営火はキャンポリーにはつきものの大行事だが、このキャンポリーでは、トーテムポールのコンテストが行われた。事前に各隊で準備した色とりどりのトーテムポールが搬入されアリーナの周囲に飾られたが、それは壮観であった。

アリーナは自衛隊の御協力で天然の地形に手を加え、スリバチ状の形状だったので見学

第21回県野営大会トーテムポールコンテスト

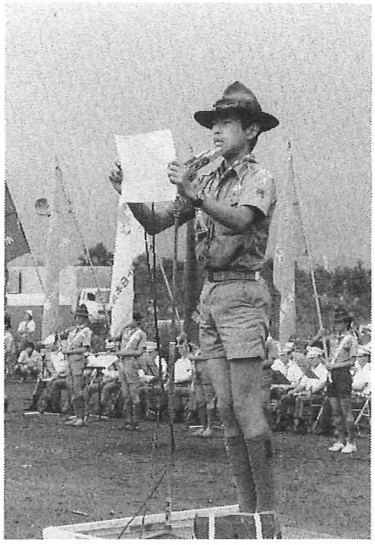
するのに好適なアリーナであった。この前年東京都連盟が都連キャンポリーをこの相馬ケ原で開催した折、自衛隊の戦車を見学したり乗ったとかある新聞で書きたてたことがあったと聞いているが、当県連のキャンポリーではあくまで平和の使徒としてのスカウトの集いなので、そのような問題は何一つとして事後も起らなかったことは、群馬県連盟が物事に対して筋道をたて、正しい方向を歩ゆんでいるという証明の一つと云える。そして8月15日はウエルカム・ゲストデーとして「ホリデイ・イン・ソウマ」のネーミングで多くの見学者を迎えた。

かなりの傾斜のある坂道を次々に登って、会場入りした多くのカブスカウト、指導者、家族などの見学者の皆さんは、道路際に配置された自衛隊の給水車を珍しそうに眺めたり喉を潤す光景も見受けられた。需品部テントは、参加スカウトや見学者で大賑わい。アリーナではお兄さんスカウトの作ったトーチムポールをさすったり、叩いたり、記念撮影のバックにしたりしていた光景は今でも眼に新しい。アリーナの舞台では自衛隊の音楽隊が「宇宙戦艦ヤマト」を始め、おなじみの曲を次々と演奏してくれていた。その折、指導者の一人がとびこみで指揮棒をふって音楽隊の指揮したのも懐しい思い出の一つである。

その夜は、お盆のこととて、眼下に広がる前橋市街の利根川沿いから多くの花火が打ち上げられ、スカウトたちの眼を楽しませてくれた。普通、花火を見るのは夜空を見上げて観賞するものだがこの夜の花火は顔を下に向けてあたかも花が相いついで咲くようにみえたことは珍しい花火見物であった。

スカウトは技能訓練の仕上げともいえるアタック章に14、15日に挑戦し、大きな成果を揚げていた。最終日の野営区対抗ゲームでは大騎馬戦がアリーナ全体に繰り広げられ、勢い余った野営区長が騎馬から振り落される光景などがあり、４日間にわたって育くんだ深い友情の絆をスカウトはあちこちで更に強めていた。スカウトは多くの想い出と大きな体験を心に刻み、57年（翌年）に開催される、

キャンプファイアーに国定忠治登場！



スカウト宣言

８ＮＪの代表スカウトになるのだという強い意欲を深め、８ＮＪの会場に諸条件がよく似ているというここ相馬ケ原を後にした。

それから４年後の昭和60年８月２日より６日まで、第22回県野営大会が関東ジャンボリーとして同じ相馬ケ原だが第21回キャンポリー会場より東南に位置する広大な原野で開催された。県キャンポリーだと多くて1500人位の参加数だが、他県も含めた参加スカウトは8500人にもおよんだので、広大な会場が必要であった。諸準備に開催地県連として大変なことも多かったが、他県連盟との連係、交流など得ることの多かった第22回県野営大会であり、関東ジャンボリーであった。各県連が参加して行った野営大会は、例が少く、本県では、昭和28年に新鹿沢で開催した第５回県野営大会を招待野営大会として、三笠宮の御来臨を頂き、東京、埼玉、茨城、山梨の各県連が参加した大会（参加者数、群馬８００名、他県４００名であった）と昭和39年、榛名湖畔で開催された関東合同野営大会（合計1000名参加）の二回のみである。そして三回目としてこの関東ジャンボリー（兼第22回県野営大会）を開催県としてその主務を背負った根底にはまず各県連のスカウト、指導者のより以

大会場第１ゲイト

上の交流は勿論だが、更には大規模な野営大会だと会場の関係等から全てのスカウトが参加できず、選抜方式によって参加するので、ＢＳ活動の原点の一つたる班制度の運用が日頃の訓育とは異って　できえないことがあるので、関東ジャンボリー　は参加を希望する全てのスカウトを受け入れ、班制度の実地運用ができうるようにしようということがあった。勿論、自衛隊の御厚意と御協力によって相馬ケ原という広大なキャンプ適地が会場として設定できた事によってだが。そして班制度の実地運用を掲げ、テーマも「班旗とともに、ＨＯＷＤＹ　ＦＲＩＥＮＤＳ！」とネーミングされた。

８月４日の日曜にはスカウトフエステバルとして多くのＣＳの見学隊、家族を迎え、ＧＨＱ前の大通りは砂ぼこりが舞い立ち、一日中失せることがない大にぎわいであった。参加スカウトは県野営大会で設定するのは珍しい会場外への公開プログラムに嬉々して参加し同行した他県連のスカウトとすぐに打ちとけ案内をしたり、自慢話をし合ったり、友情を深めていた。スカウトフエステバルのビッグイベントとして、アリーナでは自衛隊12師団音楽隊、埼玉県連スカウト音楽隊によるおなじみの曲やマーチが演奏され、それに合せての高崎市の佐藤学園生徒のチヤーガールの華麗なアクションに参加スカウト、見学隊のＣＳ隊は眼をみはり、口をあんぐりさせていた光景を今でも思い出す。そして８月７日の閉会式、スカウト達がお互い、かぶっていた各県連毎の作業帽をあちこちで交換し合い、固い握手を交し、またの再会を期し合っているシーンが見うけられ、この関東ジャンボリーのスタッフの一人として１年２ケ月にわたる諸打合せ、諸準備をしてきた労苦が閉会式でのスカウト達の交歓風景をまのあたりにして、報われる思いであった。関東ジャンボリーを開催してよかったと嬉々として、４泊５日の会期を楽しく過してくれたスカウトの一人、一人をみつめつつ心に深く感じた。

ＢＳ活動の主役は何時でも、何処でもスカウト！このことを再び心に深く刻んで又、ＢＳ活動に打ちこんでゆこうとこの関東ジャンボリーに参加したスカウト達をみて一人、静かに心に誓かった。

県連盟副理事長　新藤　信夫

8500人の弥栄

Senior.Campree.Sado

第3回群馬県連盟シニアースカウト大会

期 日　昭和56年8月5日～9日

場 所　佐渡ケ島　樹崎キャンプ場

「THE EXCITING SADO」をテーマにした第3回県シニアースカウト大会は、56年8月佐渡ケ島両津市の樹崎キャンプ場で開催された。

この大会の第1回準備会が昭和55年11月に前橋市諏訪会館で行われ、日程、会場、参加人数、組織、スケジュール等がコミッショナーを中心に各地区より選出されたシニアー隊リーダーにより討議された。

3回の事前研修でシニアースカウト達は委員会活動を通して、自分達で作り上げた数々の企画を、荒海に浮かぶ佐渡ケ島で展開することになった。

8月5日、新潟港に班毎に集結した47名のシニアースカウトは、フェリーにて佐渡ケ島に渡りキャンプイン。島巡りのアドベンチャーキャンプはAコース・ゴールドトラベル（金山探訪）Bコース・未知への挑戦（佐渡の大自然探訪）と分かれて1泊の移動キャンプに出発。リンツー(露営)を体験した。

7日から8日にかけては、彼等のニーズを結集したイベントにチャレンジした。

・Cコース――寸法師のたらい舟
　たらいの舟に挑戦し一寸法師の気分になる。

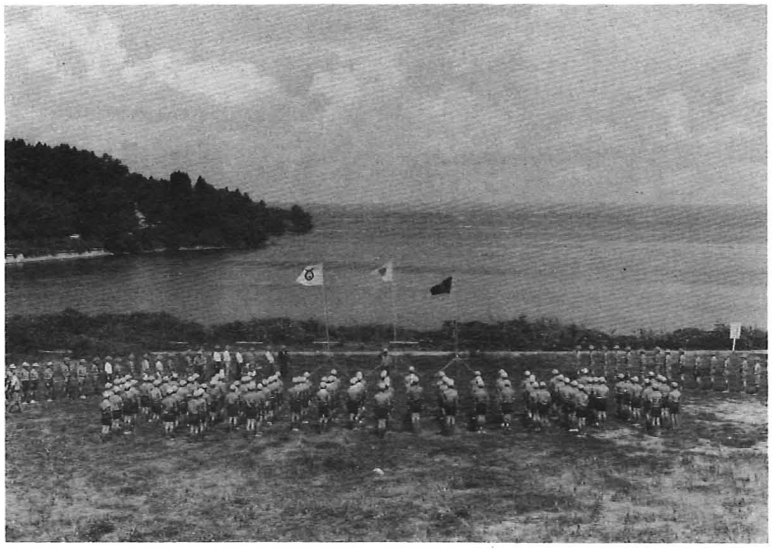
・Dコース―ビバ.フィッシング（魚釣）
　釣の成果は今一つだったが、水泳を楽しんだ。

・Eコース―タイムマシン（佐渡の歴史探訪）
　佐渡の名所をバス観光。

8日夜、なごりの営火で彼等は幻想的な佐渡の夜空を仰ぎながら、この大会の数回にわたった事前訓練と委員会、班活動の1コマ1コマを思い出し、シニアリングの素晴しさと佐渡での貴重な体験をじっくりと噛みしめるのであった。

9日、エキサイティングさど、シニアーキャンポリーは終った。両津港発のフェリーに乗船。小さくなって行く佐渡ケ島を眺めながら色々お世話頂いた親切な島民の方々、特に佐渡第1団、計良団委員長と団員の皆さんに感謝の弥栄を送った。

太田地区コミッショナー　小沼国幹



第4回
シニアースカウト大会
能登島での開会式

第4回群馬県連盟シニアースカウト大会

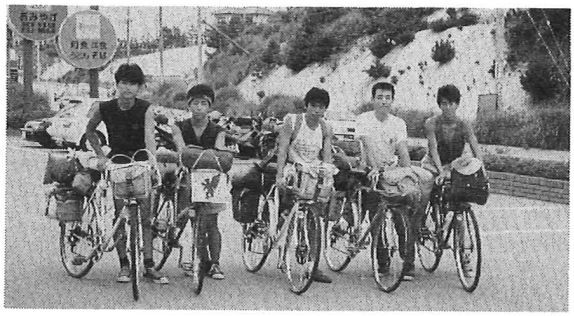
期 日　昭和62年8月14日～17日
場 所　石川県能登島町

この大会は、三つの目標で行われた。

その1、「委員会活動」　各班は、班長・セレモニー委員・ベースキャンプ委員・移動キャンプ委員・メニュー委員・サバイバル委員の6人を標準班として、各隊ごとに委員会を行ない委員長が大会の委員会に集まり、プログラムを作成した。

その2、「個人プロジェクト」　当県では富士・隼スカウトが少なく進級に対する関心が薄いので、能登島への往復を利用して富士・隼への挑戦キャンプを計画させた。

その3、「豊かな経験」　二ケ所のキャンプ場に分かれて地元の人々や家族旅行の人々との触れ合いの移動キャンプと、無人島での24時間サバイバルである。



「開会式」　8月14日午前9時、真夏の太陽が照り付ける能登島に、挑戦キャンプを終え、真つ黒に日焼けしたシニアースカウトが元気に集まって来た、第4回群馬県シニアースカウト大会の開幕である。箱庭のような海が目の前に見える芝生広場で、能登島町の町長さんや、奉仕をして戴く地元の人達にも出席して戴いて行われた。

「無人島」　開会式後、Aグループが無人島へ、Bグループが移動キャンプ場へとそれぞれ10個班づつに分かれた。出発前の点検で荷物が制限されたスカウトが、Weランドの前に浮かぶ3つの島に4・3・3個班に分かれ地元奉仕者の舟で渡った。

文化生活をしている彼らにとっては、電気もテレビも無い無人島で、昼は魚を釣ったり海や草花の観察をして、夜は星空を眺めて過ごしたことは、これからは、めったに経験できないであろう。

「移動キャンプ」　装備を背負い、それぞれのキャンプ場まで10㎞以上の道のりを史跡等を調査しながら歩いた。中には親切な町民のトラックに乗せてもらう班があり、町民との出会いは人生と同じ、様々である。キャンプ場では一般の人達と一緒にテントを張り、海水浴をして楽しんだ。

8月15日　A・Bグループが入れ替わった。

8月16日　スカウトはWeランドの岬園地に集結、町長さんの好意により、芝生が一面に敷きつめられたレクリェーション広場をキャンプ場として提供された。久しぶりにジュータンの上に寝たような気分で皆満足した。

田尻・勝尾崎のキャンプ場も同様であったが、このWeランドも家族連れが殆どで雰囲気の良いキャンプ場であった。

「特別プログラム」　午後水族館に入りイルカショウや、マリンガールの水中餌付け等を見学しながらクーラーのきいた館内で、スカウト達は三日間の疲れを癒していた。

「キャンプファイヤー」　能登島での最後の晩、ハッスルし過ぎて大分盛りあがり指導者をハラハラさせた。地元青年有志の豊年太鼓が海にこだまして印象深かった。

「閉会式」　8月17日大会の最後を締くくる閉会式は、17日中に群馬へ帰着できるように朝7時30分より、24時間過した無人島が目の前に見えるレクリェーション広場で行われた。

大会を振り返ってみると、挑戦キャンプ・無人島・移動キャンプの企画、実施に反省すべき点はあるが、幸い天候にも恵まれ全日程を消化し事故もなく無事終了出来た事は、大変良かったと思います。

県連盟理事　中嶋正義

「世界スカウトの年」「日本連盟創立60周年」

第4回ぐんまカブラリー

ちびっ子忍者・茂林寺へ大集合！

本大会は、「日本連盟創立60周年」「世界スカウトの年」という意義深い年を迎え、群馬県内のカブスカウトが一同に集い、会場の諸施設に挑戦、ともに助け合いながら利用体験し、相互理解と友情の輪を大きく広げることをねらいとして開催。

開会式 スカウト歓迎の挨拶

テーマは「ちびっ子忍者、茂林寺へ大集合」……分福茶釜の茂林寺は、葉がくれの里、忍者の里。黄金の茶釜、不思議な茶釜が誰かにねらわれている。……との設定のもとに伊賀流・甲賀流・根来流のちびっ子忍者が揃って腕くらべ、化けくらべ。

日時：昭和57年6月6日(日) 午前9時30分～午後2時30分

会場：青竜寺茂林寺及び野鳥の森（館林市堀工町）

県内各地よりボーイスカウトＣＳ隊62ケ隊ガールスカウト9ケ団総数2293名が参加、盛大かつ活況のうちに開催された。

参加者には、木製の通行手形（参加章）が渡され、以下次の日程により実施された。

9時30分より開会セレモニーが始まり、渋木大会長あいさつ、地元館林市の山本市長の歓迎あいさつがなされ、つづいてたぬきの仮装パレード及びコンテストが行われた。

10時よりは各忍者広場に会場を移し、午後2時30分まで昼食（約30分）を除き約4時間にわたり各難関に挑んだ。

各広場は、

1.忍法おとぎの広場

“忍者やしきを見学し、茶釜流忍者に変身して下さい。”

・忍者のかくれ家　・ころころたぬき
・茶釜流忍法“変身の術”

2.たぬき城侵入の広場

“たぬき城には色々なしかけがあって、無事に侵入することがむずかしい。君は見事に潜入できるだろうか”

・しのびの術　・城へきのぼり
・毒ぐもくぐり　・城沼わたり等々

3.忍者道場

“茶釜流忍法には、色々な術がある。君はいくつ修得できるだろうか”

・忍法石垣づみ　・忍法八そう飛び
・忍法人丸太　・忍法霧がくれ
・八方手裏剣等々……

4.忍者の森

“君は忍者の森へまよいこんでしまった鳥の声や、自然の音をききわけ、無事脱出してくれ”

となっており各会場めぐりは、参加者全体を4グループに（赤・白・黄・緑のリボンにより区分）分け指定された順序にしたがって行動。各広場を通過し、挑戦カードのスタンプがいっぱいになると茶釜流免許状が伝授された。

本大会は、太田地区協議会が一丸となって計画、実施にあたってきた。

56年10月25日　第1回準備会

太田地区各団より2名委員を選出、総務部・行事部を設ける。以降6回の準備会により、各広場担当を決定。4つの広場とする。

57年1月24日　県内各団へＰＲ版配布。

3月14日　カブラリー申込書発送

（リーダー用実施要項作成配布）

4月18日　カブラリー参加申込書締切

5月1日　カブラリー実施要項配布

6月6日　ぐんまカブラリー開催　まで多くの準備等を行なってまいりました。特に各小地区においては、広場施設の製作などに連日ように委員をはじめ多くの指導者が奉仕されました。

大会当日の様子につきましては、皆様の追憶におまかせ致し、いまはシニアースカウトとなって活躍されているであろう当時のカブスカウト諸君に楽しい思い出の1ページを提供された、委員はじめ関係各位にあらためて感謝の意をささげます。

県連盟理事　宮田政信

カブ山西遊記（さいゆうき）

第5回群馬カブラリー

昭和60年5月11日～12日
高崎市観音山・片岡小学校

第5回県カブラリーは、1985年5月11日～12日にかけて、深緑の晴天の中、高崎観音山一帯を会場にして盛大に開催されました。

三年に一度、県内のカブスカウトが、一同に会して開催されるこの行事も、5回と回を重ねてまいりましたが、今回は高崎地区の担当という事で、前年より実行委員会を毎月1回開き、準備を進めてまいりました。実行委員長に地区協議会長、金井佐伝氏を中心として私も行事部副部長として微力ながら奉仕させて頂きました。

開催の前年7月18日に1回目の準備委員会が開かれたが、この時に基本的な構想が打ち出された。開催日、場所などがおおまかに決められ、プログラムの目標要件なども、隊集会で出来ぬもの、友情の交歓を考える、地域性をとり入れる、カブブックをとり入れる、仲間意識の助長を考える。楽しく夢のあるもの、そして安全第一に、などが上げられた。

私達行事部は、観音山一帯で行なうと決定されると共に、準備を開始。まず観音山一帯を歩きに歩き、時には道なき山中を歩きコー

スを定め、そして各方面への御協力をお願いし、だいたいの構想が、定まって行った。それと共に各部門でも開催に向けて準備が着々と進んで行ったのである。テーマを『カブ山西遊記』とし、天竺までの道程において、いろいろな冒険をするという形をとった。また開会の前日には、三地区のスカウトを、高崎地区の各家庭に分宿体験をさせ、友情の交歓を組み込んだ。この様にして高崎地区の実行委員の各部門が一丸となって準備を進めることにより、その当日を迎えたのである。

主会場の片岡小学校

5月11日17時20分より高崎競馬駐車場において分宿者の受付が開始された。分宿者受け入れの各家庭も出迎えに集まった。今回は、竹田事務局長の御苦労により、桐生から高崎までのスカウト輸送をＪＲにお願いして、「カブ山西遊記号」のヘッドマークをつけた列車が、約1000人のスカウトを乗せ両毛線を走った。その他のスカウトは各団でそれぞれの輸送により集合場所へ集結である。各家庭には２～３名を分宿させ、メニューも定め、一晩を友情交歓の場とした。分宿先では、夢いっぱいの思い出を作る一泊であった様である。

翌日は晴天にめぐまれ、集合場所である、片岡小学校グランドに2039名のスカウト、リーダーなどが集まり盛大に開会式がおこなわ

ブルートレーンで高崎駅に到着

れた。開会式終了後、スカウトたちは、天竺へ向けて出発である。カシミールコース(赤)、アルチンコース(青)、タリムコース(黄)、カラコルムコース(白)、タクラマカンコース(緑)の五コースに分かれて各組は天竺（カッパピア）を目指したのである。各コースには、水簾洞（洞窟観音）、菩提祖師の寝ぐら（白衣観音）、苦難の四大州（清水公園一帯）、天竺（カッパピア）、があり三蔵法師一行は、各ポイントで、天竺パスポートに天竺道中確認を６ケ所おこない記入し、また６枚の通行証を手に入れて天竺に到達するという設定である。とくに苦難の四大州では、七つの冒険探険をもうけたが、金丹砂をこえる（ロープでターザン）、銀安殿への道（キムス）、妖怪聖嬰大王の森（暗夜行路）などなどがあり観音山の山腹の清水公園一帯で高崎市が一望できる場所でもあったのでスカウト達は楽し

く冒険をおこなっていた。各ポイントで天竺パスポートに書き込みがすむと、最終ポイント、天竺に到着である。ここではお釈迦様より経文（参加記念品）が手渡されて、三蔵法師一行の冒険は終了である。そしてスカウト達は、各隊ごとに車で、電車で一泊二日の思い出を胸に帰路に着いたのである。

今回のカブラリーに参加した地区別人数は桐生地区706名、高崎地区595名、太田地区478名、前橋地区260名で合計2039名であった。その他、高崎地区で奉仕スカウト約200名が参加した。

今大会を振り返って見た時、県内のすべてのスカウトが、高崎観音山一帯に集い、楽しい一日を過ごす事が出来ただろうか、家庭をはなれて高崎地区のスカウト宅に分宿し、新しい体験をとおして、楽しい友情の輪を大きく拡げる事は出来たのだろうか……。私は今回、行事部の一員として奉仕させていただき苦しみを、反省を、感謝を、そして喜びを、学ぶことが出来た。

開催日に到るまでの準備の苦労、スムーズに行なわれなかったプログラム、大会に協力いただいた皆様方、スカウト達の楽しく過している姿、そして笑顔を。私達リーダーは、いつもスカウトの楽しい姿、楽しい笑顔のあるプログラムを考えて行きたいものである。

高崎地区コミッショナー　吉井　良弘

第23回群馬県連盟野営大会
記念式典における40年の回想

ボーイスカウト群馬県連盟が結成されて40周年を迎えることができました。

昭和23年、ボーイスカウト隊結成のために指導者講習会を一の宮公民館において開催し48名が参加しました。

そして翌年24年には、群馬県連盟結成準備委員会を開催し、同年11月6日に日本ボーイスカウト群馬県連盟が結成され、日本連盟から三島理事長御臨席のもと、11個隊286名が参加し、いよいよ群馬県連盟が産声を上げたのです。

そして、第一回県合同野営大会が岩鼻において開催され、145名が参加しました。これが、群馬県連盟野営大会のはじまりです。

今回第23回野営大会が開催され、2377名が参加したことを思うと、本当に今昔を感じさせられます。

さて、群馬県連盟が結成された昭和24年度は、20個隊567名で出発しましたが、昭和26年には50個隊1436名に急増し、27年には58個隊1608名、28年には59個隊1804名と、順調に増加の道をたどってきました。

しかし、29年から徐々に減少をしはじめ、32年には30個隊821名と、28年に比較して何と半数に減少してしまいました。

このように、30年代は各地ともスカウト数の減少傾向にありました。

しかし、30年末期からボーイスカウト運動が社会的教育に優れた効果のあることが一般の人たちに認識されはじめ、40年代には2000名の大台を越す増加を見るに至りました。

その頃の群馬県連盟は、太田、桐生、伊勢崎、前橋、高崎、碓氷かぶら、北毛の7地区で組織されていましたが、昭和53年度には、各地区の所属団教にかなりの増減が見られるようになり、それにともない各地区の格差は著しく、その機能を充分に果たせなくなり、この是正について地区組織の見直しと再編成が求められ、昭和54年度県連盟年次総会において現在の4地区制に組織替えすることになりました。

その後、55年には65個団となり、目標の4000名の大台を突破したのです。

そして、57年には日本連盟創立60周年、世界75周年スカウトの年にあたり、全国キャラバンが行なわれました。群馬県連盟においても自転車による全国縦断キャラバンに奉仕したのはつい先頃のことのように記憶に残っています。

さて、昭和58年には、75個団4947名とあと一歩で5000名というところまで発展し、その年には、皆さんの御協力により群馬県青少年会館が落成し、県連盟事務局が会館内に移転をし、敷地内には資材倉庫を新設することができた記念すべき年でもありました。

そして、昭和60年度に入り、初めてボーイスカウト展が開催されることになり、太田、桐生、前橋、高崎の4地区で盛大に開催され現在も引き続き行なわれています。

61年度には、かねてから懸案とされていたビーバー部門が新設され、群馬県連盟においても16個隊が発隊し、ボーイスカウト運動もいよいよ新しい時代を迎えることになりました。

そして、62年には登録数が全国的に減っていく中で、前年度より85名の増加をみ、4988

名となり日本連盟から表彰を受けました。

翌、63年度には75個団185個隊30班、加盟登録数4736名と、全国47都道府県中17位を保っています。

その間、ボーイスカウトの祭典として日本中のスカウトが一堂に会する日本ジャンボリーが第1回より第9回まで開催されました。外国の招待スカウトを含め、真の内外の交流を図る絶好の機会でもあります。群馬県連盟も毎回多数のスカウト及び指導者が参加をし、その成果は今日の礎となっています。

このほか、毎年世界各国で開かれる、ジャンボリーに日本代表の一員として、数多くのスカウトが参加をし、群馬県連盟もいよいよ国際的なスカウトの仲間入りができました。これからも日本国内はもちろん、世界各国との友情の輪を広げるために、私たちは心をみがき、技能の修練に心掛けていきたいと思います。

今ここに、群馬県連盟創立40周年の記念すべき大会を迎えることができますのも、創立以来数え切れない程多くの諸先輩方の御努力と御精進は勿論、スカウトとして入隊し活動を続け、現在立派な社会人となって県連盟を支えてくださっている方々、また、その御両親そして地域社会の力強い御支援の賜物と心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

40周年という一つの節目を迎え、先人の築かれた御功績をしっかりと心の中に刻み、新しい気持ちで次の50周年にむけて飛躍する群馬県連盟を、我々の力で迎えられるよう努力を続けねばならないと思います。

群馬県連盟創立40周年記念行事

昭和62年12月17日、群馬県連盟は創立40周年記念行事特別委員会を組織し、昭和63年度と平成元年度の2ケ年にわたり、記念行事を展開することとした。

1. 第1回ビーバーラリー
   第6回カブラリーの開催
2. 第23回県野営大会の開催
3. 40周年記念式典、祝賀会の開催
4. 記念誌「40年の足跡」の発刊

アニバーサリー40
第6回カブラリー・第1回ビーバーラリー

昭和63年5月22日
前橋市利根川敷島河川緑地

「きみもセイント！」をテーマに、ビーバーカブラリーが5月22日、前橋市敷島の森で華々しく開催された。

ビーバースカウトのモットー「なかよし」と、カブスカウトのモットー「いつも元気」を合言葉に「正義と冒険の国」に集い、行くての難関を「友情の力」と「元気な笑顔」で突破し、きみもセイントになろうと、県内のビーバースカウトと、カブスカウトそして指導者が、59ケ隊、2150名が参加。

3年毎に開かれるこの大会、今回は前橋地区協議会主管のもとに開催され、創立40周年を迎える群馬県連盟記念行事のスタートとなった。

前橋地区協議会では、前年9月より毎月定例会議を持ち、小野里実行委員長を中心に前橋地区のリーダーたちが一丸となって、企画運営を協議。ストーリーを人気テレビアニメ「聖闘士星矢」とし、仮装パレード、テーマソングのディスコダンス、会場エリアもキグナス・ドラゴン・ペガサス・アンドロメダと4エリアに分かれ中味の濃いスケールの大きな大会となった。

特に、群馬県警察本部、消防署、東京電力日本電信電話株式会社、前橋電報電話局等の協賛で、各種イベントが盛大に開催された。

当日は華竜太鼓の雄壮なリズムによって幕が切って落された。ハッピを纏った粋な若衆の軽やかなばち裁きに、スカウト達は真剣な眼差しで聴き入っている。

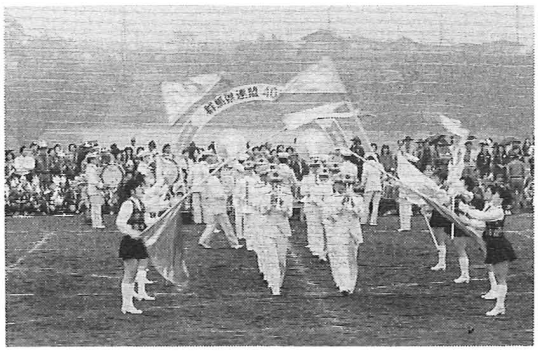
県警音楽隊の演奏が始まり、県連旗・カラーフラッグに先導された聖闘士星矢に仮装したカブ・ビーバースカウト集団のパレード。自分達で作りあげた扮装にすっかり満足している様子は見ていて微笑ましい。

音楽隊ドリルマーチの華麗な演技・君もセイントのディスコダンス等々……華やかなオープニングセレモニーにスカウト達の歓声が敷島公園の森にこだました。

各広場めぐりは4つのコースに分かれて、18の難関にチャレンジ。モンキーブリッジや巨大迷路も出現し、白バイや消防署の梯子車にも人気が集中し、チビッ子スカウトは目を輝かせエリアめぐりに夢中の1日だった。

前橋 華竜太鼓の雄姿

セイントセイヤー大行進


県警音楽隊ドリルマーチ

開会式代表スカウトの歓迎あいさつ

アニバーサリー40

第23回群馬県連盟野営大会

平成元年８月12日～15日
利根郡片品村尾瀬戸倉スキー場

群馬県を代表する尾瀬山麓の尾瀬戸倉スキー場で「いどめ尾瀬、年輪40ぐんまの子」をテーマとして、８月12日より15日まで開催。

この野営大会は、スカウトの祭典とし、ビーバースカウトやカブスカウトは近くのホテルに分宿して参加、シニアースカウト、ローバースカウトは本大会を支援し、本部スタッフと併せて2,600名が参加した。

本大会のイベントとして、熱気球、ミニＳＬ、パラグライダー、尾瀬ハイキング、群馬警察本部音楽隊、華竜太鼓等、折からの好天にも恵まれ盛大に開催することができ、大過なく終了することができた。

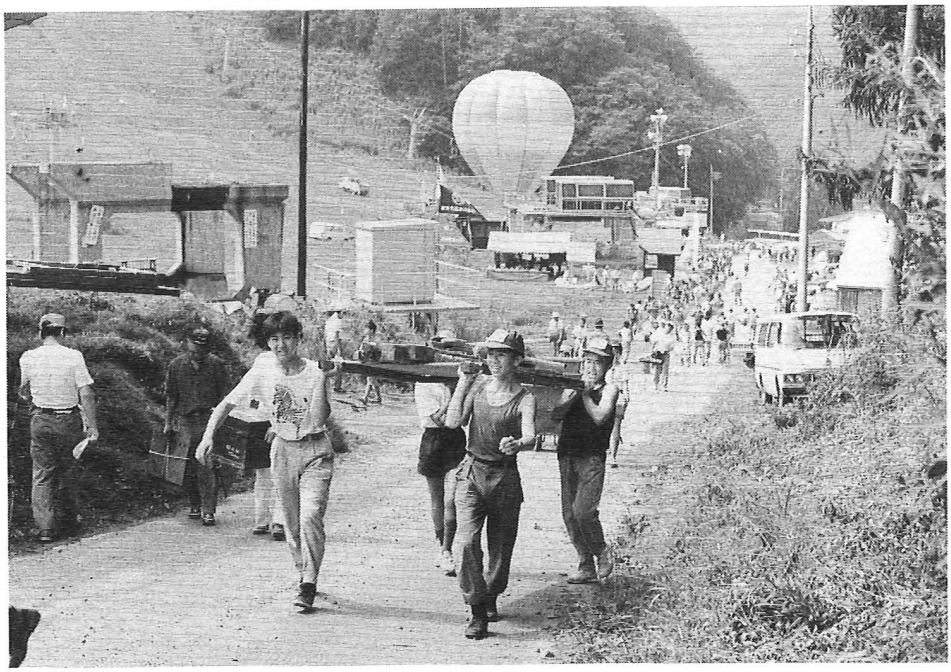
特に、スキー場の便宜供与や、支援してくれたパラグライダーのインストラクター、又プロパンガスの供給、尾瀬までの関越交通の協力等あって大会が成功裡に終始できた。

参加された来賓各位から称賛の賛辞がよせられ、スカウトにとっても想い出深い記念大会であった。大きな荷物を背負い坂道を登って行く新米隊員、慣れない手付きで炊事やキャンプクラフトに取組む姿に弥栄を送りたい。

３泊４日のキャンプを体験しての教訓と充実感は各スカウトが身体で感じとったと思うが、彼等がこの大会を本当にエンジョイし、スカウト活動のつぎのステップになるかは各隊のとりくむ姿勢と、リーダーの資質と熱意指導力に起因するところが大である。

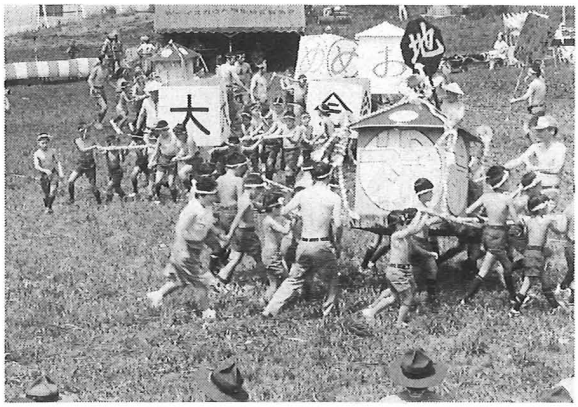
キャンプを終了し、撤営の点検を完了した隊が、サイトに感謝の黙禱を捧げ弥栄をおくって、友隊、友人と再会を期して家路についていった隊を幾つも見かけた。

隊のチームワークと伝統を、彼等の隊は継承して行くことであろう。



設営準備に汗して、登り坂もなんのその

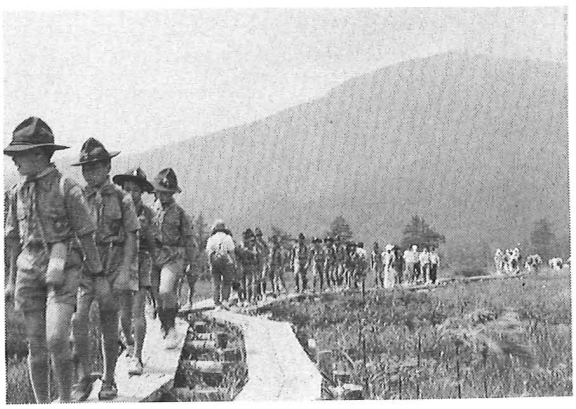
雄壮な華竜太鼓のバチさばき



カブスカウトのミコシ軍団

さわやかな朝のキャンプ場

野営大会メインゲート



至仏岳を背にして尾瀬ハイク

平成元年8月12日（土曜日）　尾瀬戸倉タイムズ　第1号　日刊

尾瀬戸倉タイムス

発行
ボーイスカウト
群馬県連盟
広報部

いどめ尾瀬
年輪40
ぐんまの子

群馬県連盟40周年記念
尾瀬戸倉キャンポリー
炎天下に気合の設営

尾瀬戸倉タイムスの創刊号で挨拶する機会を頂きました。二千五百名に及ぶスカウトとスカウターが県連創立四十周年記念大会に参加しますが、こんな立派なキャンポリーの新聞を読めるのは、皆さんが全国で初めてと思います。

編集担当者の努力と最新の機器を無償貸与頂きました大気堂さんと東京三洋株式会社さんに感謝申し上げます。また、予備申込の時点で予定の三分の一にも達しなかった参加者数を現在の数にまで盛り上げたのは実行委員各位の努力の成果です。皆さんとともに感謝致したいと思います。

我々はスカウト運動の輝かしい未来を信ずるものですが、残念なことに昨年から県連のスカウト人口は減少に転じました。世界スカウト機構の前事務総長ラズロナジ博士の「二億五千万人のスカウト」という本の一節に次のように書かれています。「ボーイスカウト訓育を受けた者は、慎重に見積って、一九〇七年以来およそ二億五千万人にのぼる。スカウトの学校を巣立った人々に、"高級職"が驚くほどの割合を占めるという事実も、スカウト教育に何かがあるということを示しているだろう。その中には、国家元首、総理大臣、大臣と国会議員、ノーベル賞受賞者、アカデミー会員や芸術家、宇宙飛行士、宗教界の指導者らが含まれるが、、、彼等の大多数は半ズボンをはいて過ごした年月を、肯定的かつ感謝を込めたまなざしで振り返っている。」と。

昔は、スカウトに加入するのは比較的恵まれた家庭の子供たちだと誤解されておりましたがかなり以前から組織的な募集が行われているし、かといって、成功者が減少する訳でもないのですから、そこには何か役立つものがあるのです。

この度のキャンプには国設スキー場をお借りした関係で斜面等もありなにかと生活には不便もあろうかと思いますが、存分に自然を満喫し尾瀬ハイクなど存分に楽しみましょう。

大会長　根岸　努

ボーイスカウト諸の皆さんへ
会場の芝生の保全についてのお願い

会場の芝生は、冬季、雪を良い状態にしておくために必要かつ重要なものです。

そのためにスキー場では年間を通じて芝生の保全に注意をしています。

そのため、この大会で絶対に芝生をいためないように確約を求められ県連盟は芝生を絶対にいためないという確約書を提出致しました。

ボーイスカウトの名誉にかけて、どんなことがあっても、どんなことが起きても絶対に芝生をいためずに現状の芝生を保全して下さい

芝生の保全

参加スカウトにくれぐれも徹底してご指導願います。

野営本部長
運営本部長

立派に出来たぞ
正面ゲート！！

祝電

ボーイスカウト群馬県連盟結成四十周年記念尾瀬戸倉キャンポリのご盛会おめでとうございます。五千人の隊員登録にまで躍進された関係皆様のご労苦に対し深く敬意を表しますと共に，豊かな人間づくりを目標とするボーイスカウト活動のご隆盛と貴連盟のご発展を心から祈念申し上げます。

参議院議員
中曽根弘文

設営に汗だくの
支援シニアースカウト達

『需品売店のお知らせ』

需品売店では、記念品や野営用品を数多く用意してありますのでぜひ御来店下さい。営業時間は、次の通りです。

八月十二日は、十二時より十七時。

十三日、十四日は、九時より十九時まで。

十五日は、八時より十時までです。

ほしいものが、いっぱいあるよ！

日本連盟需品部

平成元年8月13日（日曜日）　尾瀬戸倉タイムズ　第2号　日刊

尾瀬戸倉タイムス

発行
ボーイスカウト
群馬県連盟
広報部

いどめ尾瀬
年輪40
ぐんまの子

アニバーサリー40
群馬県連盟40周年記念
尾瀬戸倉キャンポリー
華やかに開幕!!

ようこそ!

ぐんまの健児!

八月十二日、若若しい設営があちこちで始まった。各地から期待に胸を膨らませてやってきたスカウト達は直ちに設営開始。額の汗も一陣の涼風に拭われ快適な尾瀬戸倉!

スキーゲレンデのキャンプは自然保護を第一に環境に応じたスカウトキャンプの展開を期待したい。

今日のために何ケ月も前から運営各部の支援が行われ万全の態勢を整えてスカウト諸君を待っていた。

パトロールは班長を中心に活動し日頃の成果の発表を大いにやって頂きたい。生活の基盤を整えつつ楽しいプログラムに挑戦だ。

大自然のなか印象的な開会式も盛大に行われ今日は二日目、四十周年式典や魅力のイベントも盛沢山だ。思いっきりアタックしてほしい。

平成元年の夏は二度とこない。友情を深めあい自由と自律を心に大会を通じて一回り成長することを私も大自然も大いに期待している。

野営本部長　周東　正治

盛大に開会式を挙行

県連盟創立四十周年記念及び第廿三回県野営大会が尾瀬戸倉キャンプ場において開催され、その開会式が厳粛かつ盛大に挙行され、待ちに待った四十周年記念キャンポリーがいよいよスタートしたのだ。

会場に参列したスカウト達、隊指導者、野営区スタッフ、本部スタッフ等々の顔は緊張の中にも喜びの笑みを浮かべ、四日間のプログラムがこれから如何に展開されるかを思い、胸を踊らせている。行事部員の日頃のスカウトスキルの腕を誇示する時がきた。

根岸大会長は開会式で、『スカウトの信条は"誓いとおきて"であり、この大自然の中で、おもいっきり挑戦して下さい。そして、スカウト仲間の友情の絆を深め、スカウティングの未来を信じ、大いに仲間の輪をひろげましょう。今回は県連盟創立四十周年を記念して、第廿三回県連盟野営大会を四日間にわたって"いどめ尾瀬、年輪四十、ぐんまの子"をテーマにこの地で開催します。尾瀬探勝ハイキングに全員参加し素晴らしい自然を満喫して下さい。』と挨拶された。

群馬県教育委員会青少年課長高井先生は開会式の席上で、『大自然のなか、廿一世紀を担う青少年達が一堂に会し、日頃の訓練成果を競い、発揮することはたいそう意義深いことと思います。先輩スカウトの教えや、後輩への指導、自己の統治、等々に深く思いを致し、人格形成を図る場として尾瀬戸倉は最適な自然環境と言えましょう。』と私達スカウトに暖かい励ましの言葉を頂いた。

また私達の先輩星野先達は、『スカウトは元気良くあらゆるプログラムに挑戦し、日頃の成果を発揮してください。お爺ちゃんのぶんまで頑張って下さい。』との願望を参加スカウトに託しました。いつも若々しいお爺ちゃんの挨拶であった。

この大自然の中、スカウト諸君!

大いに燃えようではないか。燃やし尽くそう!

明日を夢見て!

行事部長　重原　進

スカウト宣言

私は名誉にかけて「いどめ尾瀬、年輪四十群馬の子」のスローガンにのっとり雨にも負けず、風にも負けず、楽しいキャンプに力いっぱい挑戦することを誓います。頑張ろう!

平成元年八月十二日

ボーイスカウト
群馬県連盟
高崎第六団
オオカミ班班長
落合　進介

救護衛生部便り

いよいよ、野営大会が始まりました。スカウトの諸君もこの記念大会のために準備をしてきたことでしょう。この期間個々の身体が常に健康であることがキャンプの成功の第一条件であります。日常鍛えた体や技術を十分に発揮してもらいながら、特に、健康管理に注意してください。

このキャンプで起きやすいと思われる病状と注意。

日射病＝必ず帽子をかぶる

食中毒＝生もの、生水

虫さされ＝あぶ、ぶよ

救護衛生部長　山川　巌

初めて乗った熱気球、あまりの大きさにカブビックリ、宇宙まで行けるかな?
感想・・・おっかねーけどカッコイイ!

熱気球、大空へ!

大会運営本部前広場に十二日午前十時、巨大な熱気球「サーモ・バルーン」が登場。

夏の大空に舞う雄姿はスカウト達に大人気。

一回百円の乗船券を購入し大空の散歩と洒落てみてはいかが。

平成元年8月14日（月曜日）　尾瀬戸倉タイムズ　特集号　日刊

尾瀬戸倉タイムズ

発行
ボーイスカウト
群馬県連盟
広報部

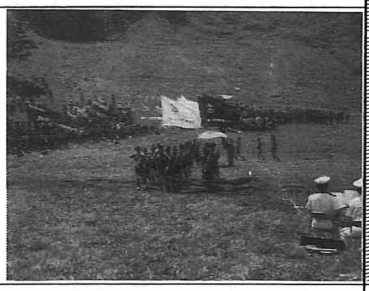
いどめ尾瀬
年輪 40
ぐんまの子

群馬県連盟40周年記念

全ぐんま スカウトの祭典

尾瀬戸倉キャンポリー

記念式典で早くも最高潮！



県警音楽隊のファンファーレを合図にカラーフラッグに先導された国旗　県連旗が二五〇〇名のスカウトスカウターが見守るアリーナに入場。四〇周年記念式典の幕が切って落とされた千個の風船が大空高く舞いナレーション、県連四〇年の足跡では星野先達を始め諸先輩のご苦労に一同思いを新たにし、スカウト運動の発展を誓いあった。

パラグライダーのデモンストレーションに始まったアトラクションでは華龍太鼓の勇壮な響きに魅了され桐生、太田、前橋、高崎地区BV、CSスカウトの催物ではミコシ軍団も登場。

県警音楽隊によるドリル演奏と名物八木節踊りに大きな拍手が沸き上った。

『記念式典によせて』

今年の十一月六日ボーイスカウト群馬県連盟は満四十歳の誕生日を迎えます。たまたま私は一九二〇年のこの日生まれなので、満六十九歳を迎えます。昨年のこの日九十名はどのスカウターの集いが高崎であり、記念事業についても当然話し合われました。

その一は、昨年五月実施された前橋でのカブラリーであり、その二は、同七月に認可された財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団の設立でありました。

プロジェクトその三は、約二千五百名の参加者を数え、今日二日目を迎えた第廿三回野営大会（尾瀬戸倉キャンポリー）です。

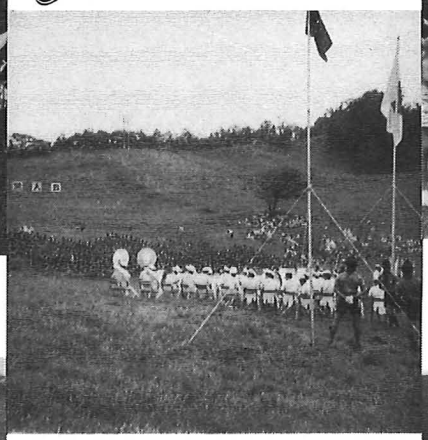
その四は、記念誌出版事業でありますが、この十月廿二日開催予定の事業その五、四十周年記念スカウターの集い当日迄に、配布を予定しています。

記念誌には団紹介記事が掲載される予定になっています。原稿未提出の団は地区事務長と連絡の上至急提出をお願いします。

参加スカウト全員がふるって尾瀬探勝ハイクに参加しましょう！

大会長　根岸　努

SCOUT SNAPS



お知らせ

救護衛生部より

強力な日光の下，食物が腐りやすくなります。

支給された食物は良く熱し，早く食べ，残り物はきちんと処理し，良く手を洗いましょう。

医師，岩田

平成元年8月14日（月曜日）　尾瀬戸倉タイムズ　第3号　日刊

尾瀬戸倉タイムス

発行
ボーイスカウト
群馬県連盟
広報部

いどめ尾瀬
年輪40
ぐんまの子

真っ赤に燃える営火

夜のとばりがアリーナに集うスカウト達を包み、大会イベント大営火の序曲夜の歌のハミングが会場に流れる。

突然近くの山の頂きより雷鳴にも似た轟音が響きわたった。UFOの飛来！UFOより発射されたレーザー光線は見事ファイヤーストームに命中、点火。

尾瀬の名曲、夏の想い出の合唱に炎は大きく勢いよく燃えあがった。

おぜ野営区の催物、リレーソングを皮切りに、珍芸や迷演技に拍手、爆笑の渦エールマスターのリードに場内全員の心が一つに解け合い、「のってるかい」の掛け声に即、反応。チェッコレのダンスでは奉仕ローバーの大きなお尻に負けじと、デンマザーが飛び入りで小さなお尻をプリンプリン。

地元桐生の八木節や、阿波踊りは南国の軽やかなリズムに誘われてアリーナに大きな踊りの輪がけきた。

炎が次第に小さくなり、静寂が戻ってきた頃，静かに周東野営本部長の夜話。

宇宙の神秘、人間の神秘について語られ、「人の為になる事が、自分を生かす道」と結ばれ、心に残る記念の大営火が終了した。

総務部長だより

創立四十周年を祝うスカウト待望の野営大会が、尾瀬戸倉スキー場で開催され、八月十日午前九時の受付を待ち切れず、八時半頃にはバスとトラックを連ねて、集合。天もこの大会を祝うかのように真夏の晴天。アリーナに立てた看板も緑の草に映え、絶好の大会日和となった。目を輝かせ、重たそうに荷を背負ったスカウト達が、隊長に続き整然と入場、期待に満ちた顔々は受付していても楽しかった。太田地区二三三名、桐生地区三〇九名、前橋地区一〇九名、高崎地区二五四名、計八九三名がキャンプインし、本部スタッフ支援を合わせて二千五百人を越す大会となろう。

午後二時、群馬県教育委員会高井青少年課長一行が両日にわたって会場内を見学され、スカウト達を激励して頂くことになり、参加者一同感激に堪えないところである。前日より準備を整え各部の協力によって選択プログラムのミニSL、熱気球も好評を博し、長い行列ができるありさまであった。緑の草に点々と散るスカウトの喜びがひしひしと感じられる。明日の記念式典、十四日の尾瀬ハイク等希望は益々大きくふくらむ。「最終日まで、事故なく全員無事に心に残る想出を」と願っている。

総務部長　郡司博

青春の炎

我等、しぶつ野営区一同は県内各地から集結した素晴らしい健児の集まりで、「ひと夏の思い手づくり」、「ひと夏の経験づくり」これを目標としています。日々の訓育の成果の発揮それも大切ですが、記念大会というイベントを大いに楽しみましょう。

そして、閉会式までには地割ロープをはずし全員で真の仲間・真の友情をと思っています。それができてこそ、俺たちは友達なんだ・俺たちは仲間なんだ

しぶつ野営区の仲間たちよ燃え尽きよう！

しぶつ野営区　小沼国幹

裏方日誌

昨年八月より準備委員会を組織して十一回の会議を開催し、予備調査では三二〇〇名の申込を受けて準備に入った。

ところが仮申し込みを取ったところ、半数くらいの参加で予算の見直しを迫られ本大会が開催できるのか危ぶまれた。

けんめいの努力で漸く二四〇〇余名の確定申し込みとなり、どうにか各部の予算要求を満たすことができた。

業者選定と現地打合せ、この頃尾瀬戸倉の山は山菜の盛りで余禄にも預かったが国営地を借用してのスキー場で、施設建設に制約があったりリフト工事が入って会場の規制が出た。

会期前には参加者の変動や、宿舎割り当ての追加など多忙を極め、その間業者の現場立ち会いに戸倉通いが続いた。

八月十一日、スタッフのキャンプインした日、今までの努力がむくわれホットした次第である。

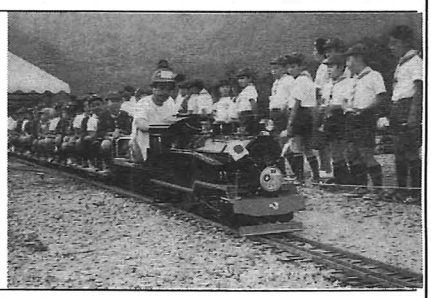
事務局長　竹田賢一

発車オーライ！ SL尾瀬の旅

夏の風がさわやかに吹きぬける尾瀬戸倉にミニSLが登場！群馬県連盟の四十周年を記念した特別列車は十二、十三両日ともに大変好評で、その勇ましく、美しい汽笛を合図に延べ千二百名にもおよぶスカウトとリーダを乗せて発車しました。ビーバースカウトやカブスカウトのみんなも大変喜んでくれて、汽車に乗って写真を撮ったりして、元気に楽しんでくれていました。

私達、尾瀬SL鉄道も荻原機関士をはじめに、スカウトみんなのその好奇心に満ちた輝く瞳を見ることができて、大変うれしく思います。

そして、みんなに、尾瀬の風と美しい自然と楽しい思い出をプレゼントできたことを喜んでいます。みんな安全運行に協力してくれてありがとう。ボーイスカウトの線路はどこまでも続いています。



尾瀬の歴史

日本の山岳界で最初の頃有名な登山家の一人、木暮理太郎氏（太田市強戸）が初めて探索したのが明治二十二年、今からちょうど百年前にあたる。

尾瀬見物がぼつぼつ増えてきたのは、昭和二十年から三十年にかけ、まわりの道路が県道になって整備されてからです。

観光客はおよそ四十六万人、尾瀬をとりまく道路網が広がり伸びていくと共に尾瀬の自然破壊が止まることを知らずに進んでいく。

湿原の回復に二十年「破壊したものをなおすより破壊しないほうがよい」。尾瀬の自然破壊のひとつに踏み荒らしがある。登山道をはずれて歩き、植物を踏みつけて傷めつけると、表土が露出しやがては周りの植物を巻き込んで流出し裸地化していく。その代表例が鳩待峠から富士見峠に向かう途中のアヤメ平。

昭和三十年代は、木道も整備されておらず、湿原への出入は自由。当然、裸地が問題になり、県は四十一年から回復を始めた。植物復元のために裸地に種をまき、表土の流れるのを防ぐために、むしろを敷いたり材木をならべるなど苦心をし湿原が八十%に成長するまで二十年を要した。人が集まれば，水が汚れ、尾瀬の植物に異変が現れている。異常に大きいミズバショウ等・・・スカウト諸君，尾瀬を大切に！

平成元年8月15日（火曜日）　尾瀬戸倉タイムズ　第4号　日刊

尾瀬戸倉タイムズ

発行
ボーイスカウト
群馬県連盟
広報部
いどめ尾瀬
年輪40
ぐんまの子

自然の素晴らしさを…
尾瀬ハイキング

朝霧をついてスカウトが本部テント前に集結している。午前六時、安全を期して救護班・誘導係の先発隊が、続いて七時より約一二00名が専用バスで、尾瀬ヶ原に出発。鳩待峠でバスを降りた一行は足取りも軽く、一路尾瀬ヶ原を目指した。至仏を背に木道を出会うハイカーに「今日は」と挨拶を交わしながら管理保護センターを経て、途中冷たい沢の水で渇いた喉を潤して、隊ごとに計画した行程を完歩した。午後四時三0分、全員下山、ハイキング完歩章を贈られた。

本部員の皆さん
ご苦労様
運営本部長
中嶋正義

八月十二日の開会式で始まった、第23回野営大会も最終日となり、閉会式を残すだけとなりました。

昨年5月に会場決定以来、毎月各部長・副部長さん達と話し合ってきましたが、その通りうまく実施出来ましたでしょうか？。一年間本当に有難うございました。又、各部の部員の皆さん本当にご苦労様でした、皆さんのお陰で本大会も最終日になりました、最後まで頑張って下さい。

スカウトの諸君、昨日は「いどめ尾瀬、年輪40ぐんまの子」のテーマの通り、早朝より尾瀬ケ原にいどみ、苦しいハイキングであったでしょうが、一生の思い出となる事でしょう。来年の日本ジャンボリーで合いましょう。

第２３回 野営大会 参加人員

地区	BV	CS	BS	SS	計
太田	50	288	229	19	586
桐生	57	366	328	29	780
前橋	33	92	112	14	251
高崎	84	319	248	19	670
計	224	1065	917	81	2287

上記以外の本部要員　114名
来賓　14名

奉仕は感謝の心をもって

素晴らしい晴天の下、ここ尾瀬戸倉スキー場に、県下のスカウトの仲間達が集い、群馬県連盟四十周年記念、第二十三回野営大会が開催されました。

シニアースカウトは、支援部員と共に前日の十一日に入場し、支援部員五名にローバースカウト七名、シニアースカウト六十七名が運営各部の設営から支援活動が始まりました。シニアースカウトは当初八十一名が参加する予定で、事前に配分を計画していたものの不参加者が多く、急遽配分を変更するため、十一日夜には、深夜まで会議を開き各部の要請にこたえるためシニアースカウトの奉仕は、奉仕の合間をみて炊事をし食事をとる、という忙しい活動にもかかわらず良くその所掌業務を遂行してくれました。それに加えて今井副部長をはじめ良き部員に恵まれ、また、ローバースカウトの諸君はシニアースカウトの指揮をとり、キビキビとした行動をとってくれたからこそ支援活動がスムースに行われたことと思っております。

しかしながら、総数不足のため、人員的に充分なご支援が出来ない部門もありましたが各派遣先の皆様方のご理解がいただけ支援活動を、不充分ながら消化できておりますことを感謝いたします。

支援部長
島田保彦

尾瀬野営区PR

尾瀬野営区は二十隊、リーダ四三名、すかうと三百九名、それほど坂もなくちょっとふとめの野営区である。

設営は青空の下、重い荷物をフウフウしながら登って来た。野営区長の前に到着報告するリーダとスカウト、野営区長には見向きもしないで登っていくスカウト、色々でありおもしろく思う。

この緑だけの大地に赤や青、色とりどりのテントがふえて来た。にぎやかな声時々大きな声がまじっている。やっと動きだした四十

撤営の鉄則

楽しい想い出を造ってくれた大会とも今日でお別れです。楽しい想い出をより楽しくするために、撤営について次のことをシッカリ行なって家路について下さい

①撤営したら、まず，芝生が設営前と同じ状態にあるよう保全してください。

②立ちかまどの土、ブロックの割れたものは持ち帰って下さい。埋めること、撤くことは許されません。

③周囲の区割りした木杭ロープは持ち帰って下さい

④芝生が深いのでペグを抜き忘れ、放置すると分からなくなります。一本残らず集めて下さい。

⑤テントや装備品を梱包したら、道路に置いたり、周囲のサイトに置かないようにして下さい。

⑥ ①～⑤がすんだら、サイトを点検してみましょう。意外な落とし物がみつかったりするでしょうが、目的は小さなゴミまで拾うことです。

隣接サイトの境や道路のゴミも念入りに。

さあ、きれいになりましたか。できれば、もう一度全員で点検したら、なお確実です。

◎搬出のとき、サイトや道路で荷物を絶対に引きずらない。転がさないように芝生をいためる大きな原因になります。必ず持ち上げて荷物を運んで下さい。「何物をも残さず、ただ、感謝のみを大地に残して帰ること」この四日間、私達を育んでくれた尾瀬戸倉の大自然をきれいにしてお返ししましょう。

資材部奮戦記

そなえよ。つねに。

このように大きな大会になると，この言葉はぴったりだ。

綿密に計画をねり，必要資材の要求が出してあったのではないかと思うが，その場になると，けっこうたりない物が出て来た。

マーキーは各地区より運び込んだため確認が難しく不足の部が出来てしまった

需品部では大会当日になっても2棟の内1棟が中々建てられなかった。

需品販売担当の皆さん暑く狭い所での販売活動申し訳ありませんでした。

各部が設営し終わると施設資材はノンビリムードで誠に快適であります。

大会終了時に又，撤収頑張ります。

施設資材部
神山　勝

尾瀬野営区は青空と緑だけの大地

尾瀬野営区は、青空と緑だけの大地に、赤や青、色とりどりのテントがふえて来た。にぎやかな声時々大きな声がまじっている。やっと動きだした四百九名、それほど坂もなくちょっとふとめの野営区である。

設営は青空の下、重い荷物をフウフウしながら登って来た。野営区長の前に到着報告するリーダとスカウト、野営区長には見向きもしないで登っていくスカウト、色々でありおもしろく思う。

この緑だけの大地に赤や青、色とりどりのテントがふえて来た。にぎやかな声時々大きな声がまじっている。やっと動きだした四十

周年記念野営大会。

スカウト一人一人がすばらしい思い出と多くの友情に囲まれることが尾瀬野営区の指導者の指導者の願いであり、少しでもその助けができることをしたいと思っています。

尾瀬区長
青山幸弘

祝 40周年

財団法人 群馬県ボーイスカウト振興財団発足

全国ボーイスカウト写真コンテスト・成人の部最優秀賞　太田第5団 対比地 英雄氏 提供

私たちはボーイスカウトを応援します。

守り伝えし湯のこころ
伊香保温泉 福一　北群馬郡伊香保町甲8　TEL0279-72-3113㈹

株式会社 三ツ葉電機製作所
桐生市広沢町1-2681　☎0277(52)0111

お手頃予算で　一流の味を　仕出し　料理　各種パーティー
給食弁当のパイオニア 桐生給食センター
桐生市広沢町4-1970☎(0277)54-1614㈹

夕食材料を献立表とセットでお台所まで
株式会社 ヨシケイ両毛
●本社0277(52)3781㈹●太田営業所0276(46)3461㈹●足利営業所0284(41)1611㈹

柳田計理事務所
前橋市千代田町二丁目2番5号☎(0272)31-2146㈹

三菱鉛筆協力会
三栄会代表　斉藤長太郎
高岡市立石　☎0274(42)7187

広岡物産㈱
高崎市問屋町西2-4-17☎0273(63)2551FAX(63)2550

城田建築設計事務所
一級建築士事務所(登)第441号　所長　一級建築士 城田富志夫
高崎市八千代町三丁目8番15号☎0273(25)6085

プラスチック精密金型設計製作
株式会社 山川製作所
高崎　☎0273(46)3618

YASUKI
安紀株式会社
本社工場/〒370-11 佐波郡玉村町福島164番地☎0270(65)2352㈹

株式会社 富田文具
高崎市新町79番地☎0273(23)5454㈹

群馬大同青果市場
代表取締役社長　今井　正司
前橋市下新田411☎0272(52)3111(代表)

春竜上人 豊川稲荷　本光寺　伊勢崎市
☎25－2219

ツボノ印刷株式会社
〒376 桐生市錦町2丁目10-29☎0277(44)3050

交通安全施設工事・路面カット工事・フェンス・道路区画図
株式会社 路面
新田郡笠懸村鹿4462-2　☎0277(76)5332

オロナミンC　ファイブミニ　大塚製薬株式会社
ポカリスエット　シャワティ　代理店
カロリーメイト　シンビーノ　㈱茶畑屋商店
☎(47)3380

きつね 松坂家　毎月10日・20日・30日
謝恩デー 牛丼300円
前橋市銀座通り ☎0272(33)1670

徽章・メダル・ネームプレート・看板の御用命は
㈱関東徽章製作所　0277-54-1111㈹　FAX 52-3105

カードッグたかはし
代表　高橋　英雄
〒376桐生市広沢町1-2899-5☎0277(54)1691

みんなの漢方
50号 重原薬局 前橋市天川大島町
☎0272(24)0327

ふるさと前橋の酒
関東の華
聖酒造株式会社

オフィス・オートメーション・システム
豊栄会社 浩和事務機
渋川市阿久津50-1 ☎0279-23-5319
ファクシミリ専用 ☎0279-25-0588
てくのらいふ・浩和 渋川市石原201-10 ☎0279-25-0759

医療法人 川島医院
医師　川島　尚
渋川市長塚町1772

有限会社 渋川印刷所
渋川市上の町2201 ☎0279(22)0113

SNACK ミタカ
前橋市天川大島町二丁目19-22☎0272(24)0988

大泉ボーイスカウト
いずみ会
賛助会員一同
連絡先(中央公民館内)☎62-2330

かない印刷
代表　金井　英文
太田市本町15-11☎0276(22)6311

総合広告・インテリア
モダンアート
●本社・第1工場：群馬郡群馬町足門830-3☎0237-3-1411

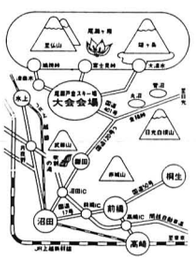
尾瀬 '89 GUNMA 40 ANNIVERSARY

ボーイスカウト群馬県連盟40周年記念

尾瀬戸倉キャンポリー

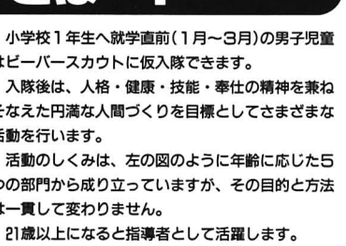
8/12(土) ⟹ 8/15(火)

ボーイスカウト群馬県連盟が、戦後の荒廃した世相の中で昭和24年11月6日、前橋公園にて11ヶ隊300名の指導者とスカウト達で結成式が行われてより40年を経過し、今や約5,000名の登録数に躍進致しました。
この記念すべき年に、スカウトの祭典として、ビーバースカウト、カブスカウトも参加し、シニアースカウト及びローバースカウトの支援を得て、ボーイスカウトの野営大会を開催し、野外生活を通じて、強健な身体をきずき、日頃の訓練の成果を発揮し、併せて40周年を祝うと共に参加者相互の友情を深め、21世紀に向けて新たな第一歩をふみだすことを目的といたします。



ボーイスカウトとは…？

ビーバースカウト	小学校1年生 就学直前（1～3月以後）	自己訓練
カブスカウト	小学校2年生（2学期修了後）	自己訓練
ボーイスカウト	小学校5年生（9月以後）	自己訓練
シニアースカウト	中学校3年生（6月以後）もしくは15歳以上	奉仕
ローバースカウト	18歳以上	奉仕
指導者	21歳以上	奉仕



小学校1年生へ就学直前（1月～3月）の男子児童はビーバースカウトに仮入隊できます。
入隊後は、人格・健康・技能・奉仕の精神を兼ねそなえた円満な人間づくりを目標としてさまざまな活動を行います。
活動のしくみは、左の図のように年齢に応じた5つの部門から成り立っていますが、その目的と方法は一貫して変わりません。
21歳以上になると指導者として活躍します。

事務局：前橋市荒牧町2-12　群馬県青少年会館内　☎0272(32)7620

私たちはボーイスカウトを応援します。

ボーイスカウト振興財団賛助会員募集
●通常会員　年額　3,000円以上
●特別会員　年額　10,000円以上
●法人会員　年額　10,000円以上
財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団

財団に加入してボーイスカウトを支援下さい。
理事長　福田　実
副理事長　小野里和四郎
〃　根岸　勇
常務理事　竹田賢一
事務所/前橋市荒牧町2-12群馬県青少年会館内

旅のことなら 群馬県知事登録第52号
上電観光バス(観光バス無料等の手配)
案内所☎(0272)31-6611　上毛電気鉄道株式会社

㈱レンタルのニッケン
群馬営業所　本部　伊勢崎(営)
伊勢崎市日之出町571　フリーダイヤル0120-20-4141

渋木経営情報 株式会社
☎渋木コンピュータサービス
〒376 桐生市仲町2丁目5番6号

サンバード 長崎屋 桐生店 ☎0277 47-3810

東毛ジャカード刺繍協同組合
桐生市新宿3丁目7-34☎0277(43)1166㈹

㈲ゴシマ製作所
藪塚本町藪塚2367-5 ☎0277(78)6811

ペリカン便
岡毛通運㈱桐生自動車事業所
電話0277-44-3191㈹

有限会社 松枝電機
〒376 桐生市広沢町関の島296-10☎0277(53)8882(代)

婦礼衣装製造卸 株式会社 優峰
代表取締役　栗原　優介
桐生市仲町1丁目1番10号☎0277(45)2941

クレーン・リース　一般修理
有限会社 荻原モータース
桐生市新宿2丁目9-28☎0277(44)5240㈹ FAX0277(44)5336

SONY CREATIVE PRODUCTS　信頼と実績　ソニーCPサロン
美顔・光脱毛　完全予約制　本広町3-6　☎0277(46)2138

(協)高崎ガス供給センター
高崎市上豊岡町558番地4号☎0273(23)6006

武内葬儀社
高崎市本町3-89 ☎0273(23)3663

高崎ハム
高崎市末広町124 ☎0273(61)8601㈹

前橋スズランスポーツ館BF・7F・8F
スズラン食堂スタジオ
フィットネスクラブ
会・員・募・集・中
0120-371926
受付時間/午前10時～午後9時　定休日/日曜・祝日

株式会社 西岡設計
代表取締役　西岡　衞
太田市大字藤阿久763番地1☎0276(31)2771～2773

あなたと共にプロの写真
㈲松本写真館
太田市東本町 ☎0276(22)2831

ステンレス加工・販売
株式会社 宝泉製作所
☎0276-31-2700

株式会社 東毛たかべん
太田市西新町16-17 ☎0276(31)5021㈹

大泉工業株式会社
代表取締役　橋本　力
邑楽郡大泉町吉田1221

横山電気株式会社
代表取締役　横山　仁一
太田市東本町27-8 ☎0276(45)4241-3

―安全と信頼の―
㈱矢島タクシー

㈱テクノアイリス
太田市飯塚町1933 ☎0276(45)3941㈹

茂林寺　住職　古川正山
館林市大字堀工町1570☎0276(72)1514

天笠工業株式会社
本社/館林市富士見町8番25号☎0276(72)4731㈹

ボーイスカウト富岡第1団

広告美術の
カマダエ芸
高崎市萩原町1128番地 ☎0273(52)8452

委員会活動

組織拡張委員会

群馬県連盟は７地区で組織されていたが、所属団数に可成りの増減をみ、格差の是正と地区組織の再編成が求められるに至った。

この再編成問題に関して、３地区制と４地区制の２案が出され、各団にアンケート方式により意見を求めた結果、59個団中回答数43通で過半数の回答があり、⑴現行のままでよい９通、⑵変更した方がよい33通で、変更の方向で進むことになった。以後、理事会及び規約委員会、組織拡張委員会において討議研究を重ね、昭和54年度県連盟年次総会において、理事長並びに規約委員長より説明報告され、「ボーイスカウト群馬県連盟地区組織に関する規則」が議決された。（規約、地区組織に関する規則（組織の基準）第２条参照）

（委員会活動）

昭和54年度　委員長　武井宏修

⑴組織抵張３ケ年計画に基づく第１年度計画の実施　⑵各地区最低１個団を作る。⑶カブ隊の充実

昭和55年度　委員長　武井宏修

⑴末開発地区１市６町開発推進、⑵標準隊作りに努力する　⑶地区別現況の把握

昭和56年度　委員長　武井宏修

⑴ＰＲ資料の作成。⑵満隊計画の推進。⑶末組織地域への拡大運動状況について、⑷57年度計画案の作成。

昭和57年度　委員長　島田保彦

組織拡大主事と連繋をとり、組織拡張運動を展開する。

⑴一人一名募集とＰＲ活動の推進　⑵満隊計画と上進への啓蒙　⑶組織拡大功労顕彰制度の検討

昭和58年度　委員長　島田保彦

口コミ募集による一人一名募集、満隊計画の推進　上進への啓蒙、の３点を重点目標として取組んだ結果、103名の増加をみ加盟登録数4947名と、初期目標5000名にあと一歩一歩とせまった。

昭和59年度　委員長　島田保彦

県連盟組織拡大５ケ年計画を策定し、１個団最低４名増の募集目標を設定した。

昭和60年度　委員長　島田保彦

年度増加率５％を努力目標に設定し、本年度より広報活動としてボーイスカウト展を各地区で開催することとなった。

昭和61年度　委員長　島田保彦

本年度は従来行われている活動の他に、ビーバー隊発隊の促進を重点目標とした。

その結果、16個隊の発隊をみた。広報活動としては、第２回スカウト展を開催した。

昭和62年度　委員長　島田保彦

新たに県連盟重点目標を策定し、「ビーバー隊を全団に作ろう」と設定、14個隊の発隊をみた。理在全国的に減少傾向にある中で、本連盟は85名増を達成し、全国会議で日本連盟から表彰された。本年度のスカウト展は、日本連盟組職拡大補助金70万円の交付を受け、各地区とも盛大に開催した。

昭和63年度　委員長　島田保彦

本年度に入り急激な減少傾向をみ、259名減となり、憂慮すべき問題として、この原因究明と組織の充実という大きな課題と取り組まねばならなくなった。

一方日本連盟においては、全国的減少にともない、加盟員の減少に歯止めをかけ、５年後には倍増を目指す、という目標をたてた。本県連盟においても、少なくとも前年度登録数にもどすことを目標とした

組織拡張委員長　島田保彦

指導者養成委員会

指導者養成委員会の業務は、県連の「各種運営委員会の業務分掌に関する規則」に明記してありますが、一言でいいますと、計画的な指導者の養成、資質の向上を図ることにあります。「計画的な…」は年間を通して、指導者講習会、各研修所、特修所、研修コース等々の開設の日程を決定することから始まります。その決定は県連トレーニングチームのリーダと協議をして行いますが、当委員会他の委員会と異る点は、常にトレーニングチームと連帯して業務を行って行くことであります。

トレーニングチームに関する規則に詳細は記述してありますが、要はリーダーの「教師」の集合体であります。そして専任のメンバーは１人としておりません。隊指導者と同じように自分の職業をもち、スカウト活動の奉仕の一端としてトレーニングチームに携わってゆくため、年間の指導者養成計画の日程づくりには、仕事との兼合いを十分に考えなければならないので、その調整には苦労します。１日で終る指導者講習会ならまだしも３～４泊を要する研修所開設となると、いろいろと大変なわけです。しかも、その開設期間中の３～４泊だけでなく、その前にそれのための打合せ会議を持つことが前提となりますので、これ又日程の調整が大変であります。

このような調整を経て各講習会、研修会、研修所、特修所、研修コース等の年間計画がつくられてゆきます。

非定型の研修では、１昨年から開設しています。「リーダーフォーラム」ビーバー特修所も、指導者養成委員会の所管でございます。そしていざ各講習会、研修会等々を開設して多くのリーダーが参加していただけば事がすむかと云うと、決してそうではございません。各定型、非定型訓練に入所されたリーダーの皆さんに、そこで行うセッションの内容を理解して頂き、かつ、それぞれの隊に持ち帰り実践して頂いて「よりよき社会人となりうる子供たち」を、スカウト活動を通してスカウトと共に成し遂げて頂かなければ、本当の意味での指導者養成委員会の業務が終ったとはいえません。そして当委員会で指導者養成機関に、指導者として初級的色彩をもつ「指導者講習会」。隊指導者としてある程度経験を積んだ指導者を対象とする各コースの「研修所」「各種講習会」「研修コース」があります。他に「団委員長特修所」各種特修所があり、その参加者に応じた講師をトレーニングチームより派遣してもらうことも業務の１つといえます。そして、それぞれの講習会・研修所・特修所等に多くの指導者が気軽に入所、参加出来るよう会場の設定も業務の１つといえます。

このようにして多くの指導者に、当委員会が所管する各指導者養成機関に参加して頂いて、スカウト活動についての詳細や、その運営方法など学び、体得し、そしてそれを子供たちのために活用してもらうために、当委員会が存在するわけです。

それと共に、スカウティングのみに限らず指導者として、かつ社会人としての資質の向上にもいろいろな養成機関を通じて、十分な配慮をし、実行してゆかなければならないと思っています。

スカウト活動の主役はスカウト（子供たち）でありますが、そのスカウトを指導してゆく指導者がスカウト活動の意義、ねらい、運営、

各種技能に欠けているとすれば、主役たるスカウトはついてはきてくれないのではないでしょうか?!勿論指導者としてより以前の１個の人間としてのあり方、魅力も指導者に必要なことでありますが、それらが相い交りあって子供たちを引っ張ってゆくのだと思います。その指導の基盤づくりの一端を、当委員会は今日も明日も、そして明後日も担ってゆくわけです。

指導者養成委員長　森田恒夫

野営行事委員会

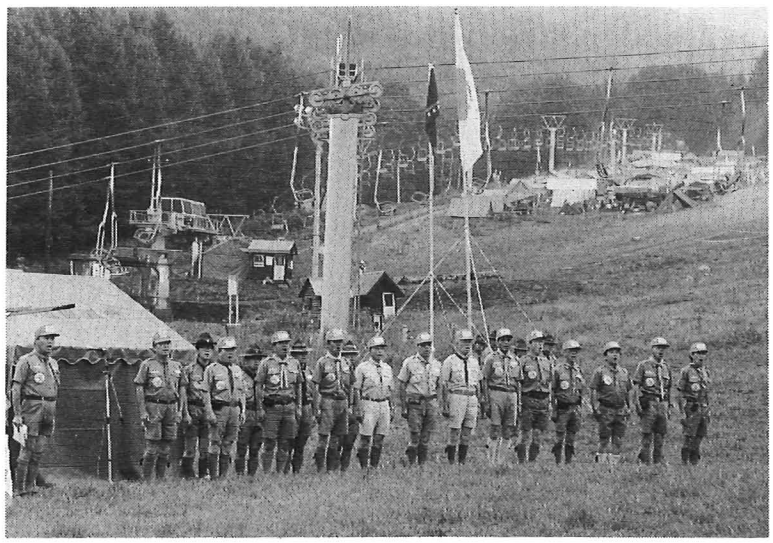
10年を振り返って

群馬県連盟創立40周年記念誌「40年の足跡」発刊にあたり、野営行事委員会のこの10年を振り返ってみました。

野営行事委員会は県連が主催する、スカウトが参加する野営・行事を担当しています。委員会の会議そのものは年２回程ですが、その他行事の運営委員会としての会議が殆どでした。

昭和50年以前は、野営・行事は定期的に行われていませんでしたが、50年代になってからは、カブラリーは３年に一度、野営大会は４年に一度、シニアー大会は３年に一度それぞれの部門ごとにスカウトが一回　参加出来るように10年計画を立てています。中にはシニアースカウト　ガールスカウトのレンジャーとの楽しい交歓会は、毎年行ってまいりました。又、スカウトの研修の為に、ボーイ隊の班長になるスカウトを対象にしたパトロールリーダートレーニングを東毛少年自然の家及び金山青年の家で開催。シニアースカウトに上進した新高校１年生を対象に那須野営場をお借りしてシニアースカウトトレーニングを開催しています。この二つの研修とも、毎年トレーニングチームの方々に講師になって載いております。

「ちびっ子忍者、茂林寺へ大集合」の忍者はっとりくんと、「カブ山西遊記」の孫悟空そして第１回ビーバーラリーを兼ねた「きみもセイント」の聖闘士星矢のテーマで行われたカブラリーは、参加したカブスカウト・ビーバースカウト達にとって楽しい思い出になるでしょう。カブラリーは、地区ごとに交代で「ちびっ子忍者」では太田地区に、「西遊記」は高崎地区、「セイント」は前橋地区で担当して戴き、大勢の指導者にお手伝いして戴いて開催致しました。



第23回県野営大会運営本部スタッフ

県野営大会は、第21回大会（ソウマ・キャンポリー）が、30周年行事として相馬ケ原で「いどめ原野に若さと友情」をテーマに1500名のスカウト・指導者が参加して開催されました。そしてウエルカム・ゲストデーには、県内のカブスカウト・指導者・父兄約3000名の参加があり、楽しいスカウトフェステバルと大営火が行われました。第22回大会は、関東ブロック野営大会として、相馬ケ原で開催されました。今年の大会（第23回）は40周年記念大会として、尾瀬戸倉スキー場で、ビーバーは一日参加、カブは一泊参加、ボーイ・シニアーは三泊四日で、盛大に行われました。

進歩委員会

進歩委員会は、ボーイスカウトの基本である２大制度、班制度と進歩制度の一方にかかわる重要な委員会であります。私としてはこの機会に、それぞれの年代のスカウト達をどの様な目安で進級させたら良いか記して、今後の隊活動の一助にでもなれれば幸と思っております。それぞれの年代には、皆ちがった特性があり、その特性をうまく利用してプログラムを組み、スカウトの自発活動を刺激して、一人でも多くの菊スカウト、富士スカウトが誕生することを願っています。

ビーバースカウト

ビーバーは、まだ始まったばかりの新しい活動です。そのねらいは、その成長やこの年代に応じた社会性を高めるためです。それは次の３つです。

①みんなとともになかよく遊ぶ

②自然に親しむ

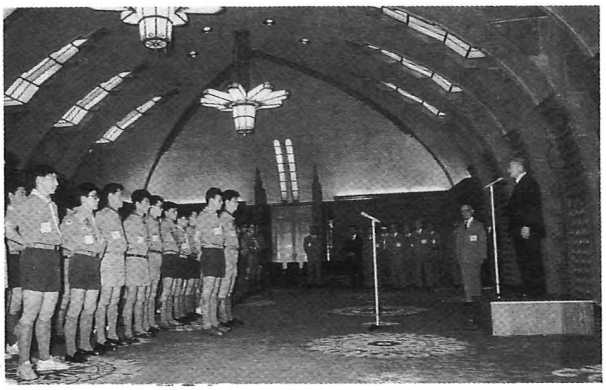
③楽しみや喜びをわかちあう。

そのためには、戸外でからだを動かし、活発に活動することが身体の成長をたすけ、児童の情緒を安定させることにつながります。ものを大切にすることを理解させ、よい行いをする習慣をつけ、みんなの前でほめることにより具体的に理解させることができます。そこから感謝の気持、思いやりの心が養われるのだと思います。

県シニアースカウト大会は、新潟県佐渡ケ島樹崎キャンプ場をベースキャンプとして、エキサイテングなプログラムが行われました。又、石川県能登島のＷｅランドを中心に行われた第４回では無人島でのサバイバルキャンプと往復の挑戦キャンプに挑戦しました。

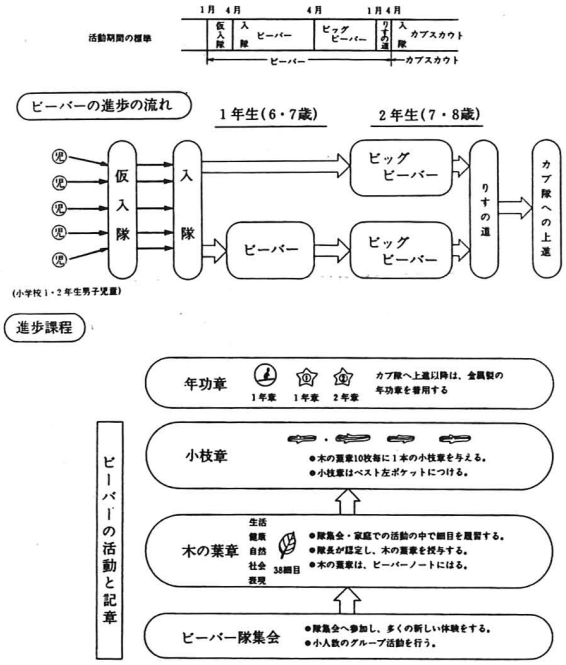
今こうして10年を振り返ってみますと野営行事委員会が担当したのは、まだまだ沢山ありますが、その都度大勢の行員・指導者のご奉仕が有ったからやって来られたのだと思います。

野営行事委員長　中嶋正義



富士スカウト顕彰（首相官邸）

ビーバーの進歩



カブスカウト

この時期は、肉体的にも、精神的にも、正しい指導がやり易い時期です。この時期に基礎をしっかり築いておきたいものです。

ボーイスカウト

この時期は、スカウトが児童から青年へと発達過程の時ですので、基本についてしっかりと身につけさせることが必要です。自発活動を奨励し集団における自分の役割を教えることが大切です。

シニアースカウト

若い人たちが責任あふれる国民として社会の一員となり建設的な立場につくように、身体的、知的、精神的、社会的に、また宗教的情操にもはぐくまれて成長してほしい。そのためには、

①自己啓発と高度な自律の育成

②協調性とリーダーシップの育成

③社会生沿を営む能力の育成

④ちかい、おきての実践である。そしてそそしてそれは、グループワークと、個人プロヂェクトがその方法である

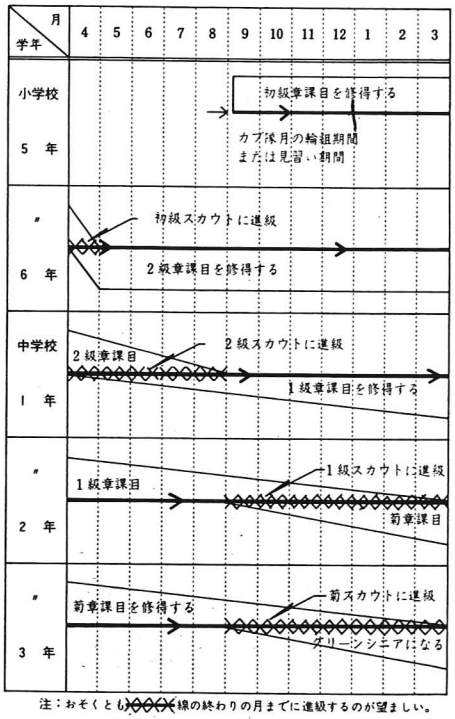
進級の目安

ガブスカウトの進歩制度一覧表

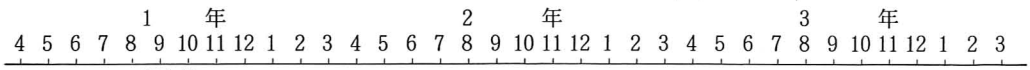
——仮入隊からボーイスカウト隊へ上進するまで——

学年	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
期間	2学期終了してから	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月・2学期終了後	4月以降
課程	仮入隊	うさぎカブスカウト	しかカブスカウト	くまカブスカウト・月の輪カブスカウト	ボーイスカウト
カブブックなど	りすの道	うさぎ	しか	くま　月の輪スカウトハンドブック	
修得課目	りすの道を履修する	うさぎのカブブックの修得課目を履修	しかのカブブックの修得課目を履修	くまのカブブックの修得課目を履修 月の輪スカウトハンドブックの課目を履修	
選択課目		選択課目を履修	選択課目を履修	選択課目を履修	
スカウトの名称	リス	うさぎ	しか	くま　月の輪	
入隊進級上進	仮入隊	矢賞授与式 進級式（修得課目を完修してうさぎの進歩記章をつける） 入隊式（やくそくをしてバッジをつける） 正式に入隊	矢賞授与式 進級式（修得課目を完修してしかの進歩記章をつける）	矢賞授与式 進級式（修得課目を完修してくまの進歩記章をつける） 月の輪組結成式 月の輪組終了式	上進式
隊の仕事	●りすのバッジとりすの道授与 ●申込受付 ●面接実施（本人の意思確認） ●説明会実施（母両親） ●新規入隊希望者募集	●選択課目の履修により矢賞授与 ●完修により進歩記章授与 ●カブバッジを授与 ●入隊式を行なう ※登録を行なう	●選択課目の履修により矢賞授与 ●完修により進歩記章授与	●選択課目の履修により矢賞授与 ●完修により進歩記章授与 月の輪マーク授与	

※　登録は，新規の登録（入隊した時），進級登録（各課程で修得課目を完修した時），継続登録（毎年度ごとに）などがある。



注：おそくとも線の終わりの月までに進級するのが望ましい。



シニアー章取得

○シニアー章各項目に挑戦
○シニアー章挑戦キャンプ2泊3日
（計画・実施・報告）
○隊長・考査・認証

○団　面　接

隼章取得

○隼章各課目に挑戦
○隼章挑戦(固定)キャンプ2泊3日
（計画・実施・報告）
○移動キャンプ2泊3日
（(計画・実施・報告）
○技能章・野営・炊事・救急
その他3以上計5以上
○隊長・考査・認証
○団　面　接
○地区　〃
○県　〃

富士章取得

○富士章各課目に挑戦
○富士挑戦キャンプ2泊3日(単独キャンプ)
（計画・実施・報告）
○個人プロジェクト（1ケ月以上にわたり）
（企画・実施・報告）
○技能章、隼章で取得したもの以外に
野営管理・環境衛生・その他3以上
計5以上
○宗教章を取得するか、援与基準を満たすべく取り組中であるが、一部の項目が未終了であるもの
○隊長・考査・認証
○団面接○地区面接○県面接○日連審査

以上各部門の進歩についてのべて来たが、紙面の都合もあり大変大ざっぱになってしまい参考にならないのではと心配です。

最後に県連40周年を共に祝いさらに発展しますように祈念し、各隊が進歩制度をうまく活用すると共に隊面接、団面接も共に活用してスカウト達の自発心を刺げきして、良い結果を出して下さることを祈ります。

進歩委員長　松崎榮一

健康安全委員会

これからの健康安全について

—健やかなスカウト育成の為に—

“健康”は私達にとって一番大切な事である。スカウト活動にお於て常に心する点である。「元気に遊ぶ」「いつも元気」「快活である」「からだを強く心をすこやかに……」とあり、B・Pは最後のメッセージに、「幸福になる第一歩は、君たちのからだを少年である間に、健康で強くすることにはじまります」と書き遺した。このようにスカウト運動の目的と基本理念の中で、身体と心を強調しているが、私達も、日頃活動の中で一層の効果を期待し、プログラムを作成し実行している。そして無事故を願い、慎重に指導をしているのだが、万が一、事故を考える時、救急体制や保障問題等で不安になり、スカウトの行動を束縛しがちになる。安全先行は、スカウティングの厳しさや困難、その中から生れる喜びの経験をもうばってしまう。

今までも安全対策をいろいろ施してきた。救急法の講習会や保険への加入によって、万一の場合に備えてきたが、安全対策にはより一層力を入れていかねばならない。救急法の講習はもとより、事故を未然に防ぐ安全管理体制の充実を計るべきである。

健康安全手帖

救急法講習会実技

ボランティア活動中に起きた事故は、『健康安全手帳』を参考にして、指導者の処遇について法律上円満に解決出来るような対策を講じて置くことが今後の課題であろう。

こうした体制のもとに、指導者が安心して活動を行い、プログラムの実施に全力を注ぎ、スカウトは身体を鍛え、技術を身につけ、心やさしく精神力ある人間、社会の為に役立つ人間に育成することが、我々の大きな喜びである。青少年を取りまく環境は、決して良いとは言えないが、その中にあって、身体と心の健康面も重視しつゝ、安全管理体制の充実の為に力を合わせていきたい。

—健康安全スローガン—

○団の健康安全管理体制の充実を計ろう。
○一人でも多くの人が、救急法の講習を受けよう。
○長期キャンプ等の時には、救急法取得者又は、医療関係者に同行をお願いしよう。
○救急箱は定期的に整理点検を行なおう。

—事故を防ぐための安全管理—

1. 安全管理は事故を防ぐ上で最も重要な事項である。安全管理とは潜在的な危険を予知し、顕在的な危険を察知して、それらを取り除くことである、特に次の各項に留意されたい。

(1) スカウト個人の心身や行動の管理
スカウト個人の精神的状況と非常に関係が深い。

例えば、いちかばちかの行動、指導者の指示を無視する行為、自分の体力・能力を越えた自信過剰な行為、恐怖や興奮など不安状態での行為によって起こる事故を防止するためこの管理措置が必要である。

⑵　スカウトが使する用具や物の管理

スカウトが野営等で使用する刃物、バーナー等の工具器具、ゲーム用具等を点検し、その欠陥、整備不良を修正すること。灯油やガソリン等の危険動の管理を厳正にすることが大切である。

⑶　スカウトが行動を展開する環境(場所)の管理

日常活動に使われる集合場所やその周辺海、山、川などの状況、野営地、ハイキングコースの環境、気象条件などの確認を怠らないよう管理することである。

2. 指導者、スカウト共に厳に「慣れ」を戒めること。過去の無事故には、幸にことなきを得たという場合も多い筈であり、明日の無事故に対する絶対的な保証にはならない。
3. 指導者には決断を下す責任がある。状況に応じてプログラムの変更はもとより予定された活動を中止する勇気を持たねばならない。

健康安全委員長　山川　厳

野営大会の救護所

財政委員会

財政委員長の想い

昭和58年、財政の超ベテラン荒木財政委員長から、突然委員長を引継ぎ、緊張と不安の中で、竹田事務局長の絶大な応援を得ながら、役目をさぼった事もあったが、今日まで大過なく来られた事と、県連40周年と云う記念すべき時に、この大役に在ることは、廻り合せとは云え、望外の喜びである。何をするにも考えている以上に金のかゝる時代で、財政担当としては、健全財政維持を錦の御旗、伝家の宝刀として、毎年あの科目、この科目と予算を削ることに終始して予算作成に当り、財政委員長はケチだと名を売った事と思っている。幸にも、こゝ数年スカウトの登録人口の変動は非較的少なく、財政破碇の大事には到らずに経過したが、ジリ貧の傾向は否めず、昭和63年度では、財政調整金の繰入も予算計上出来ない有様であった。昭和63年には待望久しかった、“群馬県ボーイスカウト振興財団”が認可設立され、その初年度から基金運用の果実をスカウト運動充実の一助として拠出して頂き、組織拡張、指導者養成、海外派遣等に使用できる様になった事は、群馬県連財政の基礎が徐々に固まりつゝあると云うことで、誠にご同慶にたえません。しかし乍ら、スカウト活動の基本財政は、煎じつめればスカウト達の登録料に依るもので、この観点からも、組織拡張が重要な問題となって来ます。現在の義務教育を受けている生徒達は、時代の変化もあって、部活に目を向けスカウト活動に興味を持つ者が少なくなった。スカウトは上流家庭の子息が入るもので、金がかゝると云う偏見は無くなったが、青少年にとって、食わず嫌もあろうが、今一つ魅力に欠ける点もあるのではないだろうか？。ともあれ、スカウト数の増加は、財政面にとっても安定の第一義的なものであることに変りはないと考えている。また折角発足した財団であるから、その基金を増加する努力は、組織拡張と併せ

て強力に進めるべきであり、基金増加に加え賛助会員の加入増が県連の財政面を潤し、スカウト運動の発展に資することは明白であり、基金、賛助会員の増強運動をべきであろう。平成元年からは、その内容の可否は別として消費税が全てにかゝり、スカウト用の需品を始め、生活物資、公共料金までが値上りすることは明らかであり、登録人口の減少傾向もあって、財政面にはかなり強烈な打撃を被るものと考えられる。スカウト運動は、将来この日本を背負い、国際感覚を身につけた有為な人物となるよう導くことであり、この活動に必要な資金は、常に質素の原点に立って処理すべき、必要最少限度が確保できないところが、財政委員長の泣き所であり、年度途中で予算補正を余儀なくされる辛さである。財政は豊であるに越したことはないが、物の豊富な日本に育ち、贅沢と安易に流れ易い現在の若者に対して、昼夜を分たず、その成長を願って努力を重ねているリーダーと、それに応えるスカウトのためにも、より効果的な資金使途を願い、財政面に何の不安もなく、加盟員全員がこの運動に喜んで参加できる様、財政を確立して、群馬県連を一層発展させたいと願っている。

財政委員長　郡司　博

広報委員会

スカウト・指導者一人一人が広報委員！

広報委員会の活動はスカウトの訓育、各種行事等に関与しないので、比較的目立たない地味な委員会だが、その活動の如何によっては、スカウト活動の伸長なり低下なりに結びつくものだと常々委員一同自戒し、積極的に活動にあたっている。この数年、スカウト人口の減少が目立ってきたが、その原因としてはいろいろなことが上げられるが、その一つにスカウト活動の適格な広報がなしえなかった、とも云えるかもしれない。逆に言えば、スカウトが減ってきたからそれ広報、やれＰＲ、ほら何をといっても遅きに失した感がある。

本来の広報は、地道に追い風が吹いている暖い時期にこそ、次にくるであろう北風吹きすさぶ季節に備えての、開拓の一分野を受けもつことにあるのかと思う。しかし、日本連盟を始め県連盟でも、その努力を十分に行ってきてのスカウト数の減少だから、やむを得ないとは思うが、このような時期にこそ広報委員会は、他の委員会と連係を密接に保ちながら、その活動を充実させ、スカウト活動の普及、啓蒙に全力を傾むけねばと思う。そのためには先づ、内部広報のより充実があると思う。

県連盟の機関紙として「あすなろ」を年３～４回、発行しているが、その対象は指導者なので、指導者諸兄がこれはと思うような参考資料、記事を掲載し、指導者のお役に立つことである。その為にも広報委員会は単なる新聞屋でなく、スカウティングの基本、その応用、団経営の基本、進級基準の維持、指導者の社会人としての諸々の資質等に至るまで、熟知、練達している指導者でなくては、多くの指導者に有益な参考になる記事は載せえないと思う。

「あすなろ」を通して指導者諸兄に、今以

上に魅力のあるスカウトがなついてくれる指導者になって頂くことが、スカウト活動伸展の大きな力の一つといえる。

このように内部広報は主として「あすなろ」を通して、指導者養成、組織拡張、進歩の各委員会と密接な連係を図りながら行い、指導者諸兄の指針となりうる「あすなろ」にしてゆきたいと、常々念じている。

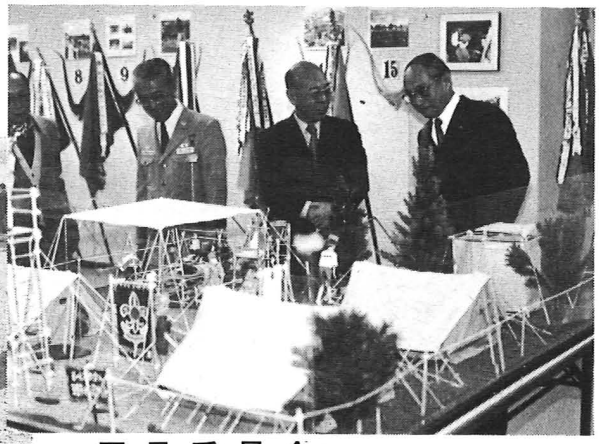
次に外部広報の充実が上げられる。まだボーイスカウト活動に対して、知識の少ない人達も多いので、いろいろな機会をとらえ、外部広報を充実してゆきたいと思っている。

方法としてはマスコミに働きかけて各種行事、集会等を取材して頂き、それを新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどで紹介してもらい、ボーイスカウト活動を多くの方々に知ってもらう。又、関係行政機関の御協力、御協賛をえて、広くボーイスカウト活動を理解して頂くなどの啓蒙、啓発に努めることなどである。外部広報面においては、野営行事、組織拡張健康安全委員会と密接な関連を保って、活動することが肝要であると思う。

このように青少年運動の老舗たるボーイスカウト活動を、さらに多くの人々に理解して頂き、そして実践に入って頂くことがこれからはより必要であり、重要である。しかし、ボーイスカウト活動を今以上に普及、理解させるのには、単にマスコミ、行政機関等に頼るのみでは決して出来えないと思う。スカウト一人一人が、指導者一人一人が日頃の活動を通して、社会の多くの方々に理解して頂くのが早道であり、本筋だと思う。

広報は決して広報委員会のみで行うのでなく、スカウト、指導者一人一人が広報委員の積りで、日々の活動を積み重ねてゆくことがこれからのボーイスカウト活動の伸長には不可欠であると思う。

広報委員長　稲垣　稔



需品委員会

需品委員会が県連に発足して2年目になります。ボランティアの指導者によって組織された青少年育成団体ではありますが、その組織運営・強化の為にはどうしてもお金は必要であります。御存知の様にボーイスカウト日本連盟においてボーイスカウト活動の資金源として3本の柱があります。登録費、寄付、需品販売から得る収益金であります。現在スカウト人口が年々減少傾向にあり、スカウト活動の見直し改善も次第に進んでまいりましたが、現実問題として登録費の減少があります。登録費を上げずに運営資金を確保する為には需品販売の果す役割が年々増えてきたということであります。しかしながら需品に対する様々な問題が起っていることも事実であります。需品カタログに掲載された商品に会員のニーズが反映されていない。カタログを見たこともない人がいる。販売店にいついってもものがない。店員に聞いても商品知識がない。

（特修章といわれてもカタログを見ないとどだかわからない）販売側からはスカウト用品一式くれと言ってくるお客が多く何を出してよいか困ってしまう。利益率が極端に低くなかばボランティアでやっているのに１つ１つ包装しろという。地区の情報が入らないので何を在庫してよいかわからない。等々。
あげれば数えきれない程の不満・問題が山積している状態であります。そんな中で各県レベルでの需品委員会の発足の必要性がでてきたわけであります。これらの諸問題を１つ１つ解決していくことが需品委員会の役割ということになります。

群馬県連として具体的には

(1) 県の需品に対する意見をまとめ日本連盟へ提言し、反映させる事。

(2) 「スカウト」「スカウティング」両誌の誌上ショッピィングの斡旋。

(3) 県内の販志店での苦情処や地区の情報提供。

(4) 県大会・地区大会での需品の販売であります。現在これらの事を進めていく上でのシステム作りを検討しております。

そこでこの誌面をお借りして皆様にお願い致したいと存じます。まず需品に関する情報はどのような内容でもかまいませんから、あれば各団の需品委員にお話しになられ、県連委員会に反映させて欲しいということです。
また、制服など入隊シーズンの必需品は、出来るだけ納期に余裕をもって団等で一括して注文して欲しいという事です。出来る事なら進歩記章その他は地区単位でストックし、必要に応じて団に配布する様なシステム作りが出来れば理想だと思います。

最後に誌上ショッピングで購入した商品に関しては、その売上金額の10%を各団にバックペイしますので充分活用していただきたいと思います。

需品の売上がスカウト活動の運営資金になるということを、充分認識・理解していただき需品関係が円滑にいきます様。御協力お願いしたいと思います。需品委員会がボーイスカウト活動の発展の一助になる様皆様の意見を反映させ今後ともがんばっていきたいと考えております。

需品委員長　神山　勝

コミッショナー活動

県連創立40周年を迎えるにあたり、ここ十年来の動きや組織の一部改正などによる変化等について、コミッショナーの視点から活動状況を述べ本運動の今後に期待いたします。

そのまえにコミッショナーはボーイスカウト活動のなかでどのような立場になっているのか、組織的なことも記しご理解を深めて頂きたいと思います。

1. ボーイスカウトの二面性

この運動の主役は青少年たちであり、小学校１年から大学生年代までの一貫した長期活動は他には見られないことです。この少年たちに彼らが好む活動を提供し、進歩させながら人格の向上を図るのが本運動のねらいですが、そのためスカウトに直接関わる指導者と、運営を分担する指導者が必要です

つまり、隊長や副長その他隊活動に参加し少年と行動を共にする教育面担当の人達と、団委員(長)のグループは少年に充実したプログラムを提供できるよう、財政や人的、物的資源の協力をするなど運営面のすべての責任を担っており、このように教育と運営の仕事がはっきりと二分されております。

リーダーフォーラム（青少年会館）

コミッショナーは主として隊長を支援し、隊活動を活発にすべく指導や助言をいたします。

2. 県連盟内の各コミッショナー

コミッショナーには県(副)コミッショナーと、地区(副)コミッショナーがおります。

県コミッショナー
副コミッショナー
- 太田地区副コミッショナー
- 桐生地区副コミッショナー
- 前橋地区副コミッショナー
- 高崎地区副コミッショナー

○県コミッショナーは県連盟のスカウト運動の代表としてスカウト活動の基準を維持し、その純正な発展を図ります。

○地区コミッショナーは地区内のスカウト活動の基準維持と純正な発展を図りますが、県連盟には太田、桐生、前橋、高崎の4地区があり、それぞれの地区(副)コミッショナーは責務遂行の努力をしております。

○従って県連盟の方針や教育に関する業務などが、県コミッショナーから地区コミッショナーを経て各団各隊の指導者に伝えられ実施されて行きます。地区コミッショナーは隊長が充実した活動を続けられるよう、各隊それぞれの活動計画の立案や実施についてお手伝い(指導助言)します。

3. 地区コミッショナーの具体的活動は

1)、ラウンドテーブルの開催

月例会に隊長が集い、プログラム研究や情報交換の場としてコミッショナーを中心に話しあう。

2)、団・隊へ訪問

基準を満たし楽しく集会が進んでいるか状況確認のため訪問し当該隊長に必要事項を助言する。

3)、制服および記章の正しい着用の指導。

4)、その他、地区内の各運営委員会と連携、協力しながら、隊指導者の質を高めスカウトが実りある活動を受けられるよう、八面六臂の活動が期待されます。

4. 県コミッショナーと地区コミッショナーの間柄

県内4地区　れぞれの環境のなか本運動の目的に添うべく活動しておりますが、県コミッショナーは地区コミッショナーに対して必要な情報を提供し、地区(副)コミッショナー会議を開き指導助言を行います。内容も人間関係のこと、信仰に関わることなど、地区内のスカウト活動がより活発になるよう話しあい支援します。

コミッショナーの組織や責務を述べましたがコミッショナーには県および地区コミッショナーがあり共にスカウト運動の充実と指導者の資質向上のため、立場は異りますが本運動の教育面を担当いたします。

次に近年改正された事柄や、その他について述べます。

Ⅰ，ビーバー部門の設置

人格形成は早い時期ほど有効の観点から昭和61年よりビーバー隊が活動を始めました。現在38ケ隊ができ、従来のカブ、ボーイ、シニア、ローバーに加えて五つの部門となりました。小学1～2年生のビーバースカウトは可愛いユニホーム姿で集い仲よしをモットーに、本運動の導入部門として更に増員される

よう念じております。

Ⅱ，おきての改正

長年親しんできた「おきて」が昭和63年度より改正されました。長年の12からなるおきては表現を変え８つの徳目とし、少年が理解し、実践し易い内容に改正しましたが、その精神は変らず全く同じです。時代の大きな流れと共に改められたことですが、要は青少年に受け入れられ実践の努力をしてもらわねばなりません。本運動の原理は「ちかい・おきて」の実践を基盤として青少年の自発活動を促すことですが、そのために大勢の大人の協力が必要です。

県コミッショナーから地区コミッショナーを通じてこの改正された「おきて」が各隊に浸透し、すべてのスカウト活動の中でスカウト一人ひとりの日常生活に関連づけて身につくよう、私達は努力しております。

Ⅲ，富士スカウトの誕生など

シニアスカウトが自立と自己の向上を目指して挑み、獲得できた富士スカウト章は彼らにとっては努力と進歩のあかしです。昭和57年に富士スカウトが誕生し、本年までに６名となりました。隊長の適切な指導とスカウト自身の熱意があって成しえる快挙です。進級の申請がなされたスカウトが出席し県連面接会を開きますが、近頃は隼スカウトやボーイの菊スカウト章取得者もその数を増し心強いかぎりです。

Ⅳ，時代に即したカブ活動の改正

現在まで昭和43年改正の進歩課目を活用してきましたが、少年の心身の発達と、進歩課目には大きな隔たりがあり、現状に合った内容に改め平成２年秋より新たな進歩課目の実施が決定しました。進歩課目の改正に伴い、集会やプログラムに変化する部分も出てくるかと思われます。

40周年の節目を迎え、コミッショナーの役務と活動状況を述べてまいりましたが、隊指導者とコミッショナーの信頼関係こそ運動の大いなる飛躍の原点と考察いたします。

コミッショナーは本運動の守り手と同時にスカウト活動の担い手であります。隊長がコミッショナーを信頼し受け入れたとき、自隊の発展につながることでしょう。

創始者の原理は不変ですが、時の流れに添った対応もまた必要でしょう。

県連100年の計を考えたとき、私達は自己の責務を果しながら、今後更に地域に愛され地域社会に密着した活動を展開して行こうではありませんか。

県コミッショナー　周東正治

団委員長特修所群馬第１期県立東毛少年自然の家
昭和57年３月20日～22日

トレーニングチームについて

1. 指導者の訓練とトレーニングチーム

スカウティングにおいて、青少年を訓練するときの基準が正しく守られるか否かは指導者の資質にかかっていることは、いつの時代でも、どこの国でも変わりはない。

日本連盟は、指導者養成の基準が高く保たれ、指導者の訓練業務が円滑に効果的に行われるようにするため、訓練実施機関を常置し指導者養成の実務を担当させている。これが日本連盟トレーニングチームである。

（以下日連トレーニングチームと略す）

日連トレーニングチームは、リーダートレーナー、副リーダートレーナーとして委嘱された人たちの集団であり、訓練機関の開設・運営・訓練・指導の実施を担当するとともに指導者訓練に関する研究・資料の作成を分担する。

当県連も、上記の趣旨のもとに設置され、県連理事会の決定に基づき、訓練方針、訓練計画を実施する機関であり、当県連では特別委員会の一つに数えられている。

このチームは県連の機関であって日連トレーニングチームの出先機関ではない。お互いに連絡協調し、援助し合うことはあるが、上下組織ではなく、独立している。

また、指導者の養成訓練は県コミの担当責務の中の重大な部分を占めている。県コミが訓練のすべてを自分でやるわけではない。日連、県連の方針、計画、規定に従って訓練が活発に行われている。コミッショナーとしての奉仕業務と、トレーナーとしての奉仕業務は区分されている。

2. 群馬県連盟トレーニングチーム

(1) チームの名称

昭和48年にこのチームに関する規定が制定されたときは、指導者研修要員チームと称され、昭和51年には、指導者訓練チームとなり、昭和58年から現在のトレーニングチームとなった。

(2) 構成員とその任務

県連トレーニングチーム員になるには、ウッドバッジ実修所を終了し、2ビーズを受けていることが条件となっている。

そして講習会や研、特修所(訓練コース)やその他の指導者訓練(非定型訓練)に奉仕し、訓練の実施、研究や資料等の作成にあたる。

また、このためには他の訓練関係指導者等から個別支援を受け、参考書籍やいろいろな研修会を通じて自己研修を行うことが必要とされている。

(3) 副リーダートレーナー(ＡＬＴ)、リーダートレーナー(ＬＴ)について

県連チーム員として、指導者の訓練についての経験をつみ、県連盟の推薦をえて、日本連盟が開設するＡＬＴコースに入り、終了後、ＡＬＴとなり、3ビーズのウッドバッジを着用する。

その後も指導者訓練等へ奉仕し、経験を積み、県連盟の推薦をえて、ＬＴコースに入り、終了後、ＴＬになり、4ビーズのウッドバッジを着用する。

ＡＬＴ、ＬＴは日連チーム員であると同時に県連チーム員である。

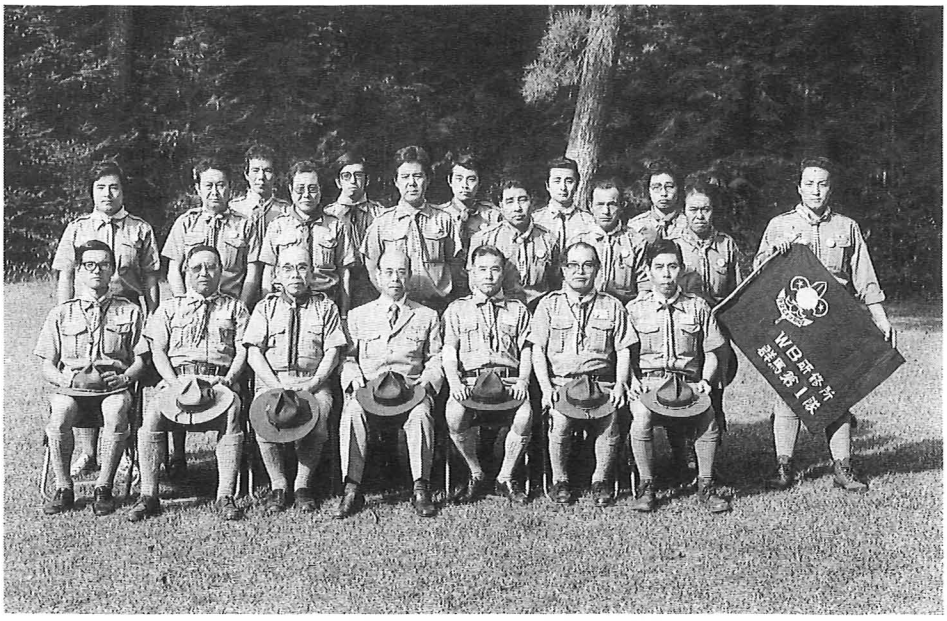
3. トレーニングチームの改訂について

日本連盟中央審議会に指導者養成委員会から提出し、受理された。「指導者訓練体系およびトレーニングチームの改訂について」の答申書記載の基本方針、改訂に関する基本事項、改編の基本方針等に基づいて改計作業が進められている。

この結果として、チームの編成、指導者訓練担当役務者の設置、チームの管理などがあげられており、これにともない県連チーム規定の見直しの必要性が生じて来ている。

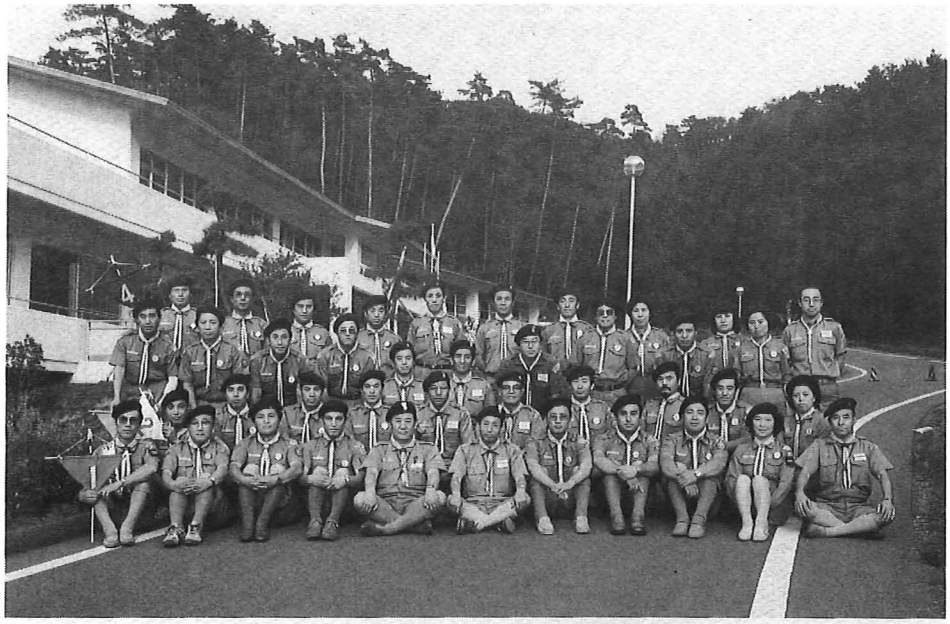
トレーニングチーム　高橋和男

ウッドバッジ研修所カブスカウト課程群馬第１期
於妙義少年自然の家　Ｓ47.10.7～10.10



ウッドバッジ研修所ボーイスカウト課程群馬第５期
於 那須野営場　　Ｓ52.11.6

ウッドバッジ研修所カブスカウト課程 群馬第３期

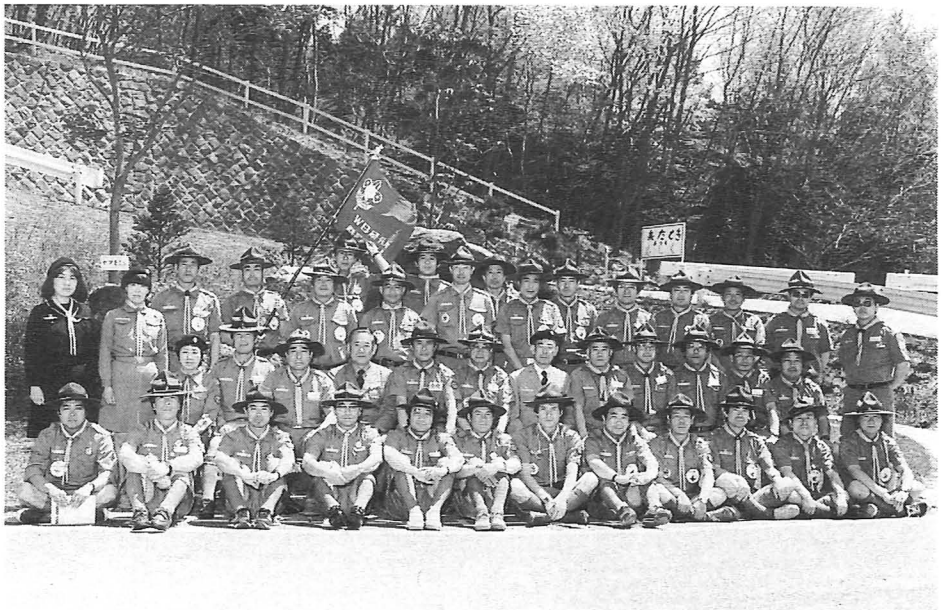


ウッドバッジ研修所　カブスカウト課程群馬第９期
S55.10.9～10.12　県立東毛少年自然の家

ウッドバッジ研修所カブスカウト課程 群馬第11期
於 東毛少年自然の家　　S57.9.23～26

WB研修所 BS課程 群馬才9期 於 県立おにし青少年野外活動センターS57.10.8

ウッドバッジ研修所カブスカウト課程 群馬第13期
於 東毛少年自然の家　　S59.9.21



ＷＢ研修所ＢＳ課程群馬10期　於 県立おにし青少年野外活動センター　S59.5.3～6

地区のあゆみ
各団プロフィール

太田地区のあゆみ

「日本ボーイスカウト群馬県連盟太田地区協議会」なんと長ったらしい名称だろう。我々は通称で太田地区と云っている。ではこの組織は何を目的としているかもう一度考えてみたいと思う。日連教育規定によると地区組織は県連が地域の実状に応じ地区を設けるとしその目的は

⑴各団の独立と主導性を妨げることなしに、その地域のこの運動を保護し、隆盛ならしめること。

⑵各団相互の間及び地区内の同じ目的を有する他の団体と調和的協働を保つこと。

⑶県連盟の方針及びプログラムを地区内に効果的に実施せしめ、かつ地区の状況及び希望を県連盟に伝達反映すること。

としている。その運営は地区協議会長を中心に県連の地区代表理事でもある地区委員長、教育面担当である地区コミッショナー及び地区事務長等が協働し地区内各団の活動を支援する。良くわかりにくい文章である。しかしながら良く考えてみると我々が何にかきまりを作ろうとして色々検討し、文章を作成してゆくと結果としては硬いあいまいなことになってしまうことはよく経験することである。又わかりやすく細部にわたって規定してゆくと後で、みうごきできなくなってしまうこともうなずいてくれる諸氏も多いことと思う。少くとも、B－Pの提唱したスカウト運動を隊組織の班を中心としたスカウト訓育は、それをささえてゆく団組織の充実が最も大切である。但しながら団単独での活動は、スカウト達を広い視野でのスカウト活動は望めない。近隣の団との交流。指導者、スカウト達の交流は当然自然発生的に生じてくるはずであるそれこそが地区活動そのものであろう。地域の中の同じ目的をもった団のその役務を同じくするもの同志の集まり又は全体の集まり、交流の中から将来より良き社会人としてのスカウト達が育っていくと思う。団委員長会議部門別の指導者の集まり、そしてスカウト達の活動を陰で援助するそれぞれの立場での研修会、意見交換等々地区活動の目的とする所である。団委員長会議、隊長円卓会議、各種委員会会議等が円滑に実施されるとするならば、地域の各団は立派なスカウト達が育っていくはずである。その目的には地区内の団は多くても、少なくてもむずかしく10団前後の組織が適当であると思う。とは云うものの現状は……

県内で地区が組織されたのは昭和26年、当地区は第一地区と称し太田・新田・邑楽で組織され、地区委員長高木良三氏、地区コミ北條富司氏。以来昭和48年に番号地区が改正され、はれて太田地区となり、前橋、桐生、伊勢崎、北毛、高崎、碓氷鏑、と7地区制で運営された。その後地区組織が団数の減少等により運営できない地区が生じ昭和54年県連規約の改正に伴い、現行の4地区制となった。

当時の所属団数は太田9、桐生20、前橋16高崎16であった。さて我が太田地区であるが地区としての活動はこの年4地区制になって以後といっても良いかと思う。当時は館林と太田が中心で大泉、尾島が加わり、次いて邑楽町の発団と広範な地域に加えて4つの市町村、種々の会議、行事がまゝにならない状態でした。館林から尾島まで車で40～50分。週日の集まりは良い出席率は期待できない。その為地区での円卓会議は日曜の17時よりとしている。但し一部にはせっかくの休日に5時からでかけるのはとの声もあるが、おおかたの同意を得て地区の中間である太田、大泉を会場として実施している。又行事が大変である。B－P祭は各小地区囲りもちで行っているが行政の協力を得るものには太田地区か館林地区、大泉地区、尾島地区等に変身することもしばしばである。地区内の問題は色々あるが現在、橋本 力地区協議会長・稲垣 稔地区委員長・小沼国幹地区コミ・田部井保夫事務長のコンビでがんばっています。我が太田地区はユニークな指導者が多くて将来楽しみです。

太田第１団

団登録番号　６１０

初期登録　昭和４７年４月２３日

Learning by doing

実行により学ぶ

僕達の団は太田市の東南、竜舞地区で活動している少数精鋭主義の団です。

団委員会

団委員長　湯浅守昭

カブスカウト隊

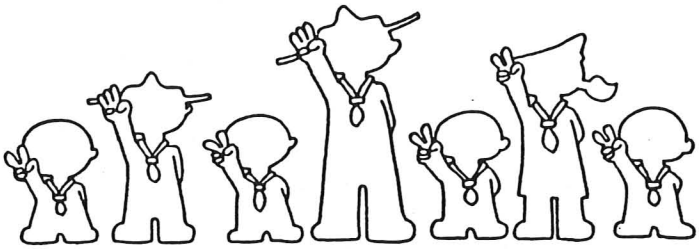
隊　　長　茂木達男

副　　長　高野威芳

ボーイスカウト隊

隊　　長　江部清隆

副　　長　小沢真一



ボーイスカウト 太田第2団

団登録番号
5 6 2 5
初期登録
昭和58年3月10日
所在地
太田市本町15番11号

昭和58年に太田第5団より分封して7年目になりました太田第2団です。
当団ではスカウト数も順調に増え、スカウト・リーダーが一丸となって
楽しいスカウティングに情熱を燃やしています。

団委員会

団委員長	橋本　力
副団委員長	金井英文
〃	松本　博
団委員	矢島正弘
〃	渡辺和子
〃	後藤才治
〃	山田弥生
〃	倉岡勝彦

ビーバースカウト

隊長	鵜飼博史
副長	渡部治子
補助員	清水泰子
〃	清水陽子
〃	田部井宮子
〃	大沢しげ子
〃	高山重夫

スカウト **14名**

カブスカウト

隊長	金井せつ子	デンマザー	小林加代子
副長	阿部　舜	〃	菊地和子
〃	土屋博子	〃	鈴木久江
〃	小林良夫	〃	倉岡憲子
デンダット	船橋　清	〃	小沼奈々子
〃	星野三夫	〃	鵜飼百合
〃	大沢迪幸	〃	中川淑子
〃	山浦征支郎		

スカウト **26名**

ボーイスカウト

隊長	青山幸弘
副長	鈴木裕三
インストラクター	清水利則

スカウト **19名**

太田第3団

所在地・・・太田市羽附551
小谷野富副団委員長方

カブ隊

登録番号　２９２６
初期登録　昭和４９年４月
隊長　奈良橋俊宏
（星の王子様もちょっとふけました）
副長　高橋　道彦
武田　克彦
岡田　英子
ＤＭ　三留まり子
佐久間幸子
大川　峰子
大竹　久恵
ＤＤ　佐久間　明
高山　弘之
スカウト　３２名

GOOD

ふれんど

NICE

３　団

ボーイ隊

登録番号　５７６６
初期登録　昭和４８年４月
隊長　堤　順一
（可愛い双子ちゃんのパパ）
副長　小暮　昌弘
石川　彰宏
田部井保夫
副長補　竹沢　浩哲
スカウト　３５名

ビーバー隊

初期登録　昭和６２年４月
隊長　小谷野仁志
（次期 星の王子様はだ〜れ）
副長　大畠 清
補助員　秋葉憲子
小内貞子
川口勝代
スカウト　１１名

団委員

登録番号　４０４３
初期登録　昭和４８年４月
団委員長　石川昌男　・副団委員長　小谷野富
団委員　小暮悦子・竹沢哲・天笠マサ
須藤和子・岡田二郎・原田充隆
田村正子・成塚光子

太田第4団

発　団　　昭和33年1月26日

団組織　B.V……3名　B.S……28名　リーダー……24名
C.S1隊 15名　S.S……9名　団委員……12名
C.S2隊 14名　R.S……2名　合　計……107名

団のモット一

おちついて よく考え

なにごとも

いっしょうけんめい頑張る

団委員長　小内安藏

太田第五団

登 録 日　昭和33年4月1日
登録番号　　173
団委員長　横　山　仁　一
所 在 地　太田市東本町46—29 稲垣方

当団は、太田市制40周年と同じく団登録40周年を迎えました。健全なる青少年の成長を願って40年。長い歴史と伝統を持ち、加えてスカウト精神を十分に生かした幅広いプログラム作成を心掛けています。ビーバー隊からローバー班まで、隊活動、団活動を通して将来立派な社会人として成長するよう努力しております。

広げよう友情、守ろう、ちかいとおきて

第16回ボーイスカウト写真コンテスト(成人の部)最優秀賞　対比地副団委員長撮影

ビーバースカウト隊	カブスカウト隊	ボーイスカウト隊	シニアスカウト隊	ローバースカウト班
初期登録日	初期登録日	初期登録日	初期登録日	初期登録日
S62・4・1	S34・4・23	S37・4・17	S51・4・1	S62・4・1
隊登録番号	隊登録番号	隊登録番号	隊登録番号	隊登録番号
569	304	3418	1928	1421
隊　長	隊　長	隊　長	隊　長	隊　長
大和田美紀子	渋沢喜代春	横山義仁	金井隆秀	小沼国幹

御訪団おまちしております。仲良しの輪を広げましょう。

ボーイスウト

太OH田TA 第DAI 6ROKU 団DAN

所在地…太田市強戸１４１８

＝発団５年＝

当団は昭和２７年より始まりますが、第１期黄金期の後１８年のブランクを持ち再び発団をした変わった経歴を持ちます。しかし、その気骨は脈々と現在まで受け継がれています。我が地域には野営場があり、そこを本拠地に「ちかいとおきて」を実行し、恵まれた自然環境の中で活動しています。

「それ！ジャンケンポン」

団委員会

登録番号　７６２６
初期登録　昭和５９年１１月２３日
団委員長　佐口通治・副団委員長　木村悦之
団 委 員　深沢長平　・関根俊雄・田島右治・岡部勝也・原島勝利

ボーイ隊

登録番号 5726
初期登録 昭和59年9月1123日
隊長 深沢直久
副長 森 康夫・田口正紀

カブ隊

登録番号 5353
初期登録 昭和63年5月24日
隊長 笹野広美
副長 戸辺和利・木村早苗

ビーバー隊

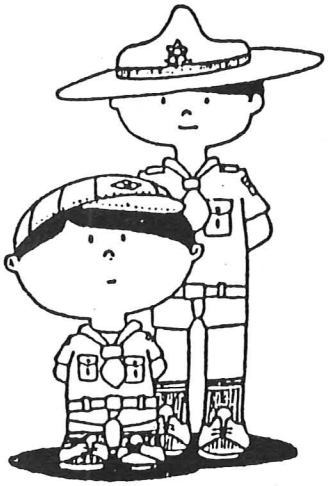
登録番号 1114
初期登録 昭和63年5月24日
隊長 笹野広美
副長 石塚久美子

シニア班

ボーイスカウト太田第7団発団10周年記念

'88 おかげさまで十周年

君もボーイ——スカウト



年長組も大集合！！！

きみをまってるよ
小学1年生から
はいれるんだよ

サバイバルキャンプで
自分に挑戦しよう！！！
式根島・神津島でトライし
今度は三宅島・八丈島へトライトライ

このような活動をしています！

動物　サバイバルキャンプ　飼育　絵画　園芸　修理
のりもの　マジック
大ダコあげ．ギネスに挑戦　古代人の生活を体験　工作
水と石と土　社交　巨大迷路
こん虫　雲と天候
野鳥観察　写真　料理　劇
伊豆七島めぐり
水泳　機械　スキーに挑戦
彫刻　アジア大会
樹木　屋外活動　交通機関　ラジオ・テレビ
模型
世界大会　天文　音楽
スポーツ　サマーキャンプ
島　安全

太田第8団

館林第1団

団	登録番号　1541	ＣＳ隊	登録番号　2510
	初期登録　S.35.7.5		初期登録　S.47.7.8
ＢＳ隊	登録番号　3040	ＳＳ隊	登録番号　2452
	初期登録　S.35.7.5		初期登録　S.55.4.1

スカウトは、みんなりっぱな自分の国の国民、また世界の公民になるための、準備をしてゆかねばならない。まずそれには、少年の時から、すべての少年を友だちとして見ることからはじめるのが必要だ。金持ちだろうと貧乏だろうと、都会の少年だろうと、田舎の少年だろうと、みんな肩を組んで、国のためにひとつにならなければならない。仲間割れをしていたら、国の害になるのだ。いろいろな

スカウトのモット―

そ　な　え　よ　つ　ね　に

古川正山小暮雅丈田代文夫竹内康裕谷津博之
山本晶松本工釜島博行船橋忍
小暮雅之小林一雅小黒寺保木村智光神田泰
伸寺田大器助国章小沢陽平堀口和彦神田知
亮寺崎達也木村尚徳美濃口実鶴佐竹豊野中
一生今成一行遠藤伸彦川村信幸須永康博柿
沼雅之大栗俊輔北角直哉貝瀬直幸成田豊和
高本俊輔斉藤真治小川和亮鈴木泉見
神田晋一鈴木岳見栗原康人早川中小保方
博之堀口賢二郎岩堀司一団天笠隆太郎宮
田政信沖田俊道山口進小松裕保丸山
能仙松村勝之東雅士小荷田久徳小林孝寛
宮田洋孝平沢裕介安岡義人村山智彦鈴木
雅人小倉聡文多田建志木村知誠東展
之前田暁宏金子智和井田裕己松本浩司
上田裕隆小笠隆史植木伸和坂部大吾山本
明弘原雄亮戸鄧直哉三田雅之根岸考尚中村
貴彦兼松健弘小林剛上山本高弘鈴木寛孝
曽根秀美谷津雄貴嶋津有彦弥栄弥山口利夫
弥栄結城豊弥栄弥栄弥栄弥栄二団弥栄大西
勇一蜂屋裕柿沼範之飯塚知彰月岡聡湯
本裕一郎井野口善久二団今成寛荒井学須永
義久月岡剛亀山勤蛭田恵一弥栄弥栄弥栄弥栄

団委員長古川正山

君たち班長は、班員一人ひとりを掌握してりっぱな人間にすることができるのだから、私は、君たちが自分一人の力で、班員を進んで訓練してほしいと思う。一人か二人の優れた少年がいても、あとがみんなだめでは何にもならない。どの少年をも公平に立派な者にするように努力しなければいけない。君たちのすることは、班のスカウトがみんなまねをするから、君たちが手本を示すことが何よりも

おかげさまで
発団２９年
ヨロシク

館林第1団

館林第2団

団

登録番号　4213
初期登録　S.49.4.1

思って、いつもその
、今すぐ死ぬわけで
の日は遠くないと思
ようならとわかれの

ＣＳ隊

登録番号　2928
初期登録　S.49.4.1

これは、君たちへの
私の最後の言葉なの
だから、よくかみし
めて読んでくれたま
え。

ＢＳ隊

登録番号　6439
初期登録　S.52.4.1

私は非常に幸福な人
生を送った。君たち
みんなも、

スカウト諸君

「ピーター・パン」の劇を見たことのある人死ぬ時には、たぶん最後の演説をするひまは演説をしていたことを覚えているだろう。私なら、海賊の頭目がないにちがいないともそれと同じようにはないけれども、そうので、君たちにさ言葉を贈りたい。

同じように幸せな生涯を送ってもらいたい。神様は私たちが幸福に暮らし、人生を楽しむようにと、このすばらしい世界に、生まれさせてくださったのだと、私は信じている。金持ちになっても、社会的に成功しても、わがままができても、それによって幸福にはなれない。幸福に近づく第一歩は、少年の時に体を丈夫に

スカウトのモット―

そなえよつねに

古川正山小暮雅丈田代文夫竹内康裕谷津博之
山本晶[illegible]船橋忍
小暮雅之小林一雅小[illegible]寺保木村智光神田泰
伸寺田大器助国章小[illegible]陽平堀口和彦神田知
亮寺崎達也木村尚徳[illegible]濃口実鶴佐竹豊野中
一生今成一行遠藤伸[illegible]川村信幸須永康博柿
沼雅之大栗俊輔北角[illegible]哉貝瀬直幸成田豊和
高本俊輔斉[illegible]川和亮鈴木泉見
神田晋一鈴[illegible]岳見栗原康[illegible]早川中小保方
博之堀口賢[illegible]郎岩堀司一[illegible]天笠隆太郎宮
田政信沖田[illegible]進小松裕保丸山
能仙松村勝[illegible]東雅士小荷[illegible]久徳小林孝寛
宮田洋孝平[illegible]裕介安岡義[illegible]村山智彦鈴木
雅人小倉聡[illegible]志木村知誠東展
之前田暁宏金子[illegible]田裕己松本浩司
上田裕隆小[illegible]隆史植木伸和[illegible]部大吾山本
明弘原雄亮戸[illegible]哉三田雅之根岸考尚中村
貴彦兼松健弘小林[illegible]山本高弘鈴木寛孝
曽根秀美谷津雄貴嶋津有[illegible]弥栄弥山口利夫
弥栄結城豊[illegible]栄弥栄弥栄弥栄弥[illegible]団弥栄大西
勇一蜂屋裕柿沼[illegible]塚知彰月岡聡湯
本裕一郎井野口善[illegible]今成寛荒井学須永
義久月岡剛亀山勤蛭田恵一弥栄弥栄弥栄弥栄

団委員長天笠隆太郎

おかげさまで
発団１５年
ヨロシク

館林第2団

館林第3団

団	登録番号　5765	ＣＳ隊	登録番号　5188
	初期登録　S.59.10.27		初期登録　S.59.10.27

よいスカウトになるのには、次のことを知っておかねばならない。

キャンプはスカウトの生活のなかでも楽しいものだ。神の造られた大自然の中で丘や川に囲まれて生活すること――つまり、自分の小さなカンバスの家で、自分で炊事をし探検をして自然にとけこんで生活する――それは町のれんがと、ばい煙の中ではとうてい得られない健康と幸せをもたらしてくれる。ハイキングもまた、毎日新しいところを探検しながら遠く野外へ出かけて行くすばらしい冒険だ。ハイキングは、雨にも風にも暑さにも寒さにも負けない強い体と心をつくる。

そうなれば、どんな天候の苦労にも打ち勝てる自信ができ、どんな天候でも平気で笑って迎えることができる。しかし、もちろんキャンプとハイキングを楽しむには、その正しいやり方を知っていなければならない。テントのたて方や小屋の作り方、火の起こし方、料理の仕方、丸太を結び合わせて橋やいかだを作る方法、知らない土地で夜でも昼でも道をみつける方法、その他

スカウトのモット―

そなえよつねに

古川正山小暮雅丈田代文夫竹内康裕谷津博之
山本晶松本工釜鳴伸仁船橋忍
小暮雅之小林一雅小野寺保木村智光神田泰
伸寺田大器助国章小沢陽平堀口和彦神田知
亮寺崎達也木村尚徳濃口実鶴佐竹豊野中
一生今成一行遠藤伸川村信幸須永康博柿
沼雅之大栗俊輔北角直哉貝瀬直幸成田豊和
高本俊輔斉藤真浩小川和亮鈴木泉見
神田晋一鈴木岳見栗原康人早川中小保方
博之堀口賢郎岩堀司一田天笠隆太郎宮
田政信沖田徒道山口進小松裕保丸山
能仙松村勝之東雅士小荷田久徳小林孝寛
宮田洋孝平沢裕介安岡義人村山智彦鈴木
雅人小倉聡文多田建志木村知誠東展
之前田暁宏金子鷲利井田裕己松本浩司
上田裕隆小隆史植木伸和坂部大吾山本
明弘原雄亮戸鄰直哉三田雅之根岸考尚中村
貴彦兼松健弘小林剛上山本高弘鈴木寛孝
曽根秀美谷津雄貴嶋津有弥栄弥山口利夫
弥栄結城豊弥栄弥栄弥栄弥栄弥団弥栄大西
勇一蜂屋裕柿沼篤之飯塚知彰月岡聡湯
本裕一郎井野口善久団今成寛荒井学須永
義久月岡剛亀山勤蛭田恵一弥栄弥栄弥栄弥栄

団委員長大西勇一

おかげさまで
発団　５年
ヨロシク

館林第3団

大泉第3団

団登録NO：第4663
初期登録　：昭和51・12・1
所　在　地：邑楽郡大泉町吉田2942

我が団のモットー!!
・明るく、活き活き、フレッシュ ⇒
・仲間・友情づくり ⇒ 活動
・スカウト＝父母の向上 ⇒

大きな人、小さな人、
ネアカの中にも厳しさ求める
熱きハートで運営を図る
団委員会

ワイガヤ!! 軍団
オヤジ軍団
いざ出陣にはピタリと決る
CSリーダー

チャレンジ精神旺盛な
好漢とシッタ! 激励が
飛び交う若き指導者軍団?
BSリーダー

やんちゃと
ズッコケ野郎の
CS隊

男臭さと幼ない心が
同居する、ニキビ
花一杯の
BS隊

（メンバー紹介）

［ 団役員＆指導者 ］

（団委員）
＊ 杉山安正
＊ 新井章信
＊ 石井方汎
＊ 山田　宏
相沢　彰
斎藤光男

（BS隊）
＊ 上原康夫
＊ 青木　汪
＊ 中里紀彦
＊ 畔田敏治

（CS隊）
＊ 大塚　守
＊ 木下保博
＊ 橋本郁夫
高倉宏充
高野和夫
中里弘子
小林まつ江
田島礼子
福田博美

［ 登録状況（平成1年度）］

区分	指導者	スカウト	計
団委員会	6名	――	6名
BS　隊	4名	18名	22名
CS　隊	7名	10名	17名
合　計	17名	28名	45名

SCOUTING 大泉第4団 IZUMI

当団も、CS10年，BS8年になり、多くの指導者のもとで、BVスカウトの発団をも迎えることが出来ました。

次から次と少年が、未来に向かって挑戦してきます。

私達は、スカウト活動を通じ、将来立派な社会人として、成長してくれる事を、願い、努力しています。

（団訪をおまちしております。）

ボーイスカウト
初期登録日
55.4.1
登録番号
6961

カブスカウト
初期登録日
53.10.5
登録番号
4136

ビーバースカウト
初期登録日
61.4.1
登録番号
62

育成会長　…前原　義二
団委員長　…平田　　茂
副団委員長…高山　　孝
団　委　員…前原　義二
　　岩瀬理喜男
　　森　　康
　　二瓶　初枝

ボーイスカウト
隊長…川西　康裕
副長…持原　浩行

ビーバースカウト
隊長…堀本千枝子
副長…小笠原和彦

カブスカウト
隊長…坂本平治郎
副長…鈴木　正明
　　対比地二三
ＤＭ…須藤ハマ子
　　青田紀美子
　　矢野　千博
　　白石　幸江
ＤＤ…服部　卓夫
　　森　　康
　　五十嵐光司

大泉第５団

団登録番号　５０４６
初期登録　昭和５４年４月１日
邑楽郡大泉町下小泉２４５９

発団以来、１０周年を迎えました。　父兄，関係者をお迎えして３月２６日に質素な式典を行いました。
記念すべき年に、ローバ隊の発足ができ、ビーバ隊からローバ隊まで５隊が揃った団に成長ができました。内容はまだまだで、先輩の団に追い着けるよう、発団した先輩たちの熱意を覚えて、頑張っています。

＜団委員会＞
団委員長　諏訪　勝太郎　　団委員　渡辺　福治　　宇多川　真吾
副団委員長　久保田　一　　田部井　進　　小林　博子
団委員　山中　良子　　小此木　良明　　春田　孝雄
＜ビーバ隊＞　（登録番号　５７０　昭和６２年４月１日）
隊長　関　千恵子　副長　久保田　明美　副長補　植松　利恵子
＜カブ隊＞　（登録番号　４１９０　昭和５４年４月１日）
隊長　上西　正久　副長　小池　啓子　副長　長尾　啓司
副長補　槻岡　美智子　ＤＤ　渡辺　英明　ＤＤ　植松　正和
ＤＤ　小林　一夫　ＤＭ　新井　洋子　ＤＭ　山崎　千代子
ＤＭ　秋津　秀子
＜ボーイ隊＞　（登録番号　７３４７　昭和５７年４月２１日）
隊長　神長　泰弘　副長　梶原　充吾　副長　浜　道久
＜シニア隊＞　（登録番号　３３３０　昭和６２年４月１日）
隊長　高桑　幸望　副長　宮崎　悦一
＜ローバ隊＞　（登録番号　平成　元年４月１日）
隊長　高桑　幸望

徳川氏発祥の里

尾島第１団

初期登録　昭和５３年４月１日
所 在 地　新田郡尾島町押切１４９８～１

当団は、発団以来１０年を経過し、当時のスカウトの中にはお父さんになる人も出てきました。我が団は発団以来、自然を教場とするスカウト運動の基本を忠実に守り、自然の中から色々な事を体験により学び、活動を展開してきました。

尾島１団のプログラムに、悪天候はありません。その時点の天候を最大限に活用し、子供達に自然の偉大さ・神秘さ・尊さを体験する事により、世に求められる人間形成を行なう。

我が団のモットー

男らしい男の子を
辛抱強く努力とがまんが出来る男の子を
平和な社会が求める、有用な男の子を

（登った山）
谷川岳
赤城黒檜
赤城鍋割
袈裟丸山
庚申山
日光白根
大峰山
我妻耶山
十二ケ岳
掃部ケ岳
鼻曲山
三国山
平標山
子持山
鳴神山
那須岳
その他

カブ隊	ボーイ隊	シニア班
隊長　茂木完勇	隊長　河田友和	隊長　荒井鞆保
副長　中村武久	副長　関口進	
副長　田村利之		
副長　大竹進市	副長　根岸義廣	

B・S邑楽町第１団

OURA

団

登録番号　５４０２
初団登録日　昭和５６年５月９日
所在地　邑楽郡邑楽町中野７０２

団委員長	大野　智男方
副団委員長	原　義裕
団委員	大野　智男
〃	赤坂　高
〃	三ツ井稔司
〃	内田　あや子
〃	大浜　小夜子
〃	沢中　勝茂

当団は、皆様の多大なご支援により、来年５月に１０周年を迎えます。
私達は、スカウト活動を通じ、正しい生活態度を身につけ、心身ともに健全な、思いやりのある少年を目指し、各隊とも毎月３回の集会を行っています。

ビーバー隊

登録番号　９６７
初隊登録日　昭和６３年４月１日
隊長　新井　和子
副長　内田　雅行
☆スカウト　１０名

カブ隊

登録番号　４６８８
初隊登録日　昭和５６年５月９日
隊長　小幡　勝彦
副長　本橋　菊雄
〃　柳　任
☆スカウト　１８名

ボーイ隊

登録番号　７５４１
初隊登録日　昭和５９年４月１日
隊長　村山　勝栄
〃　伊藤　辰夫
〃　広越　俊昭
〃　伊藤　幸平☆スカウト　１６名

シニア班

班申請日　昭和６３年４月１日
☆スカウト　３名

明和第１団カブ隊

団登録番号　５９１０　　カブ隊登録番号　５３６６

初期登録　平成１年４月１日　　初期登録　平成１年４月１日

当団は、発団してまだ日が浅く、まだめだった活動をしていません。このスカウト達がちかいとおきてを実行して　社会に奉仕の出来る大人に育てたいと思います。

団委員長	石村和男	隊長	結城　豊
副団委員長	落合明祐	副長	関口章夫
団委員	中西　武	D、D	柴崎一夫
	青山　清		
	江森精治		

桐生地区のあゆみ

桐生地区協議会は、桐生市20ケ団を中心として、その周辺大間々町、藪塚本町、新里村伊勢崎市に各１ケ団の計24ケ団で形成しております。ビーバー隊12ケ隊、カブスカウト隊20ケ隊、ボーイスカウト隊19ケ隊、シニアースカウト隊２ケ隊・１ケ班、ローバースカウト隊２ケ隊、合せて55ケ隊・１ケ班、を擁し登録人数も、県下４地区の中でも最大の1600名を越える大地区として種々の活動を行っています。

なぜこの様に桐生地区が発展したのか？それには２つの理由があるのではないかと思います。

その一つは、全国的にもめずらしい同じ育成会内の団が地区内24ケ団のうち18ケ団をしめていることです。この育成会の名称を桐生若桐生と云います。そして若桐会からは地区協議会の活動資金の大半が援助され地区としての活動が非常にやり易い状況を作っております。えてして金を出すと口を出すのが通例でありますが、桐生の場合は全くそれが無く、金は出すが口は出さないが守られているのが大きな特徴であって、これが地区の活性化を側面から助けており、育成会内の指導者（トップクラス）の交流、移動等もスムースに行き団の活性にも大いにプラスになり、地区内の新陳代謝を容易にできることが、各団・地区のコレステロールを取りのぞき常に若々しく活動できる源となっているのだと思われます。

いま一つは、桐生地区ではスカウト募集に学校区での割り振りはしておりません。桐生地区内であればどこからでもスカウトを集めることができる様になっております。モタモタしていれば隣の子でも他の団に入ってしまうこともある戦国地区です。そのために常に各団が積極的に口コミでの募集をしたことが成功だったようです。今対象年代の人員は減少しております。又親の意識の変化等の問題もあります。他団には負けるなとさらにさらに積極的な対応が必要かと思います。

さて、桐生地区では、県連に先立ちまして去る昭和63年に桐生地区結成40周年記念行事を行ないました。地区内の総力をあげて取り組み“飛躍しよう”仲間と共に、をモットーに“和”の心を大切にしてすべて大成功裏に終了いたしました。８月13日～16日には、赤城南面、宮城村、青年農場跡地において、桐生地区結成40周年記念、アカギキャンポリー（第５回　桐生地区野営大会）が開催され、地区内スカウト、指導者1200名が参加し、和気あいあいの中で参加者それぞれが良き想い出を作り、10月23日には記念式典を、産業文化会館大ホールにおいて、桐生市関係、周辺各市町村、各ライオンズクラブ、ガールスカウト、その他お世話になった関係機関の方々のご臨席を賜わり、産文大ホールが満席になる1500名のスカウト、指導者が参加し盛大に行なわれ、その後、桐の間においてレセプションが開催されました。

終りに、桐生地区では各種の委員会が活発に活動しており、委員長を中心に各団より選出の委員の方々が真剣に取り組んでおります。

組織拡張委員会21名、指導者養成委員会21名、進歩委員会20名、野営行事委員会23名、健康安全委員会20名、財政委員会18名、奉仕委員会19名、資材管理委員会14名、広報委員会７名、宗教委員会６名、以上のように169名にもおよぶ多数の方々が各種の委員としてその力を発揮している桐生地区は、さらに発展することでしょう。

桐生第1団

所在地　桐生市東1丁目11－53

	（初期登録）	（登録番号）
団	昭和44年4月1日	3280
カブ隊	昭和44年4月1日	1678
ボーイ隊	昭和45年4月7日	5114
ビーバー隊	昭和63年4月1日	965

発団より延1,784名の登録者にささえられ　満20歳をむかえました。菱の緑の丘陵・黒川の清流、自然を教場として育った多くのスカウトは、社会の第一線で活躍しています。私達は彼達の伝統を守り、自然を育て、自然を守り、人との和をつくることをモットーとして活動しています。

〔団委員会〕

団委員長	後藤和俊
副団委員長	落合政夫
育成会長	神林　宏
団会計	神山京子
団委員	上岡義夫
〃	黒沢清市
〃	金子武男
〃	村岡由朗
〃	吉田高子
〃	長尾順子
〃	川崎幸江

〔ボーイ隊〕

隊長	小堀　順
副長	下山鬨雄
〃	清水宗作
〃	河内正美

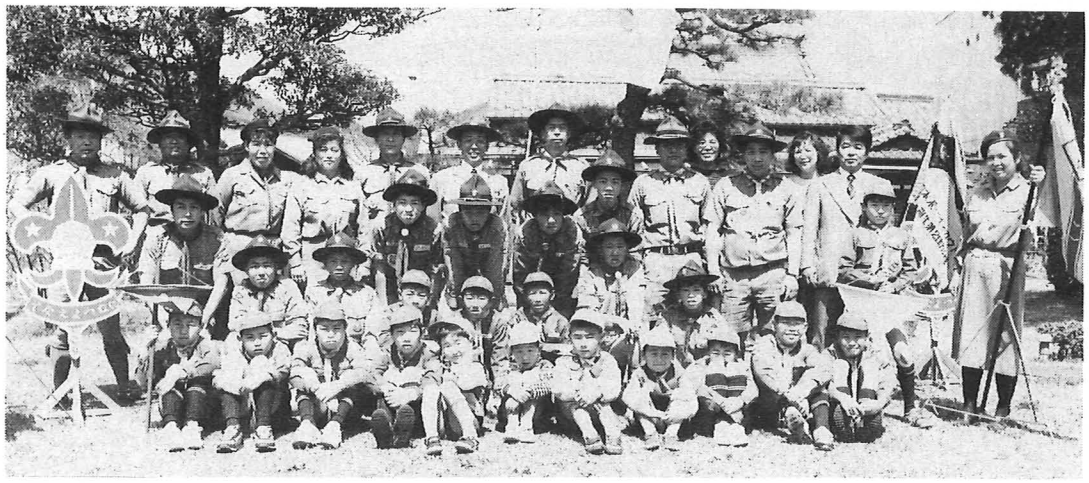
〔カブ隊〕

隊長	藤田好一
副長	上村芳夫
デンマザー	関根房枝
〃	新井和子
〃	中静記代子
〃	小林厚子
〃	初谷　環

〔ビーバー隊〕

隊長	木村孝子
副長	毛塚　均
副長補	細谷富江
〃	田村美穂

桐生第2団 発団16周年



ビーバー隊

初期登録　昭63.5.23　隊長　柿沼義治

登録番号　1113　副長　橋本久子

カブ隊

初期登録　昭49.4.1　隊長　小林規男　デンマザー　長谷川静江

登録番号　743　デンダット　田島章次　女屋富久江

「みんな仲よく元気」をモットーに

ボーイ隊

初期登録　昭25.6.9　隊長　正和温生

登録番号　822　副長　石川裕樹　上村一郎

「誠実」「努力」「協調」をモットーに

団

初期登録　昭33.4.1　団委員長　白石　栄

登録番号　172　副団委員長　菅原義政

団委員　久保田満（育成会長）

岡部晋久　白石二三男　高草木四朗

新井佳代

桐生第3団

（発団20周年）

団登録番号 608
初期登録昭和３３年３月２７日
団委員長　折原　正雄
副団委員長　高城　明
団委員　11名

ビーバー隊
隊長 市川　操
副長 松沢　秀一
副長 菅原　淑江
スカウト　１０名

カブ隊
隊長　三ッ村　一夫
副長　金井　純吉
副長　松島　幸子
指導者　５名
スカウト　２６名

ボーイ隊
隊長　喜多　好一
副長　桑原　繁
副長　石崎　裕幸
上班　折原　康史
スカウト　２３名

桐生第4団

団登録番号　29　初期登録　S.33年4月1日

所在地　桐生市広沢町1丁目2899-5

当団では「ちかいとおきて」を守り、「日々の善行」を心がけ自分を磨くことによって、社会に貢献できる人間の育成をめざしています。こうした活動は、35年に及び延べの登録者数は3000人を越える輝かしい伝統となって今日に至っています。

育成会長・梅沢康男　　団委員長・高橋英雄
副団委員長・杉山友幸　　副団委員長・河内忠一郎
団委員・長谷川二郎・吉田初枝・大橋紐子
〃　尾上美香子・五十嵐レゲ子

ボーイ隊(S.29.7.29発隊)

隊長　桑原正夫
副長　小松書美男
〃　橋本猛史
〃　四辻忠雄

スカウト　桑原栄治
中野善隆
大橋悟
杉山哲也
橋本宏明
今井秀樹
今井大輔
四辻守
松野康博
相沢直樹
五十嵐大介
深谷哲之
落合伸一郎
内田智志

カブ隊(S.32.4.1発隊)

隊長　今井賢一
副長　伏島秀夫
D.M　小林京子
〃　山村英子
〃　外山紀代美
D.D　高木隆造
〃　高橋良夫

スカウト　中里誠
平川友一
小林克彦
高橋将史
大沢努
伏島辰也
外山隆嗣
伊藤亜矢
前原孝弘
桐沢茂樹
山村幸祐

佐藤敏久
阿部慶之
石井智之
黒崎雅道
田中学
下山大介

ビーバー隊(S62.4.1発隊)

隊長　大沢治朗
副長　四辻光江
〃　桐沢真理子

スカウト　相沢知樹
外山和樹
高木紀恵
桐沢直樹

KIRYU 5

所在地 桐生市平井町４－１５
団登録 ３４８６
初期登録 昭和４５年４月２日

BS KIRYU 5 20YEARS

桐生第５団は、昭和４５年４月２日にボーイ隊・カブ隊で発団し、今年２０周年を迎えます。また、ビーバー隊も昭和６１年に、桐生地区で最初に発隊しています。

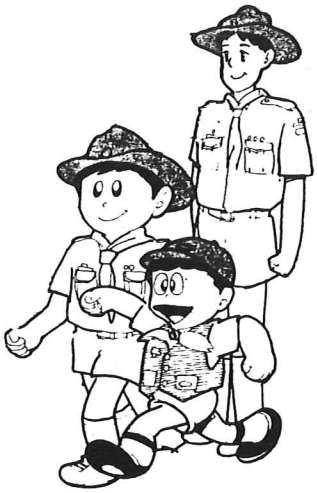
ボーイ隊は、自団のキャンプ場をもち、野営を中心に、日常生活に必要な技術・知識を修得させ、地域社会への奉仕を積極的に行なうことで「ちかいとおきて」を実践しています。今後も、初心を忘れることなく「真のスカウティング」を追求していきます。

団委員

育成会長 北川紘一郎
団委員長 杉戸恵司
副団委員長 岸和田豊
副団委員長 加藤弘一
（団委員 ５名）

ボーイ隊

隊長 山岡仁
副長 茂木和夫
副長 山本一彦
副長 関矢浩行
（スカウト ２２名）



ビーバー隊

隊長 西内憲司
副長 金丸敏江
副長 栗原昌子
（スカウト １３名）

カブ隊

隊長 小山敏夫
副長 栗原幸弘
副長 小林敦子
ＤＭ 岡田陽子
ＤＭ 野村恵美子
ＤＭ 大澤輝子
（スカウト ２２名）

桐生第６団

発団	カブ隊発団	ボーイ隊発団
昭和３３年4月３０日	昭和４６年4月１日	昭和２９年１０月７日
登録Ｎｏ　６４４	登録Ｎｏ　２１３９	登録Ｎｏ　２２３５

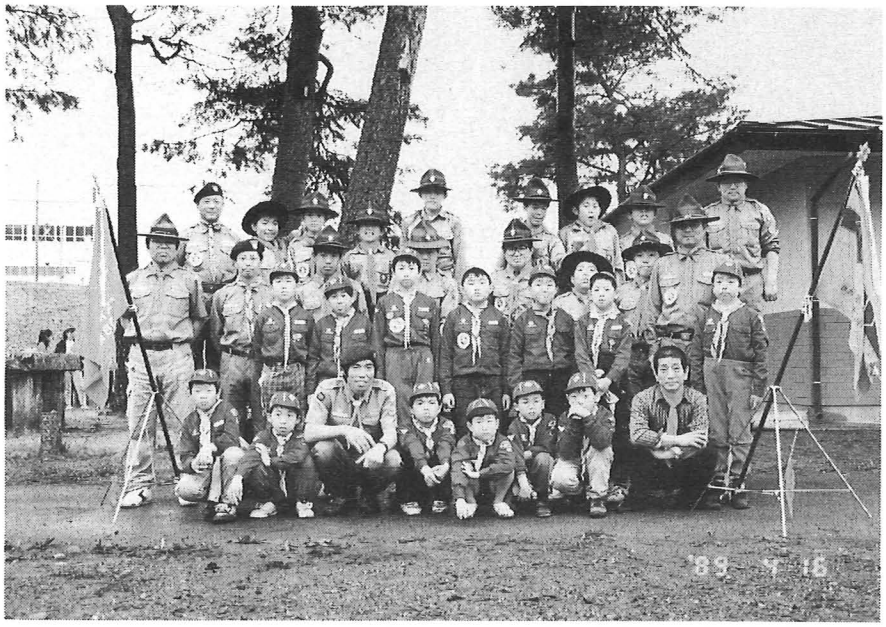
団委員長	沢井信太郎	隊長	柳田昌信	隊長	中山栄一
育成会長	小林茂夫	副長	五味田博	副長	相川　明
団委員	中島　清			〃	城田征四
〃	深津ハルノ			〃	嶋村浩一郎
〃	下田英子				

当団は「明るく」「元気に」「伸び伸び」をモットーに、自然に恵まれた川内一丁目地内で訓育を主に行っております。
カブ隊は年二回の一泊舎営と夏一回の二泊（海、山）舎営等も行われ、クリスマス会、正月の餅つき大会などなどと一年を通して盛り沢山な行事を計画。
ボーイ隊は月一回のキャンプを原則として活発な活動と自発的な訓練を実施し、地域社会に対応出来る人間づくりを目指す。

ボーイ・スカウト
桐生第8団

所在地　桐生市東1―13―27　桐生カトリック協会
団登録番号3676　　初期登録　昭和46年5月12日

ボーイスカウトの精神をもとに、キリスト教的社会観
道徳観を養い、円満な社会人となるべく
子弟を訓育することを目的とする。



団委員長	彦部雪夫	カブ隊長	加藤紘之
副団委員長	斉藤隆次	〃副長	荒井秀夫
ボーイ隊長	岩崎信一	〃〃	関口安三
	富井博		髙畠豊
			樋口文明

第KIRYU-団

NO.

当団は"男の子は男の子らしく……"をモットーとし、
ボーイ隊は自団吉田山野営場，カブ隊は南小学校々庭，
ビーバー隊は吾妻公園を拠点として、のびのびと活動しています。

〔団〕　登録NO.2198　初期登録　S:38.6.25.
団委員長 小林満寛　育成会長 江原永治

〔ボーイ隊〕登録NO.3726　初期登録・S:38.6.25.
隊長 大塚裕　スカウト 24名

〔カブ隊〕登録NO.2140　初期登録 S:46.4.1.
隊長 新木日月夫　スカウト 24名

〔ビーバー隊〕登録NO.1212　初期登録 S:63.9.27.
隊長 横塚明久　スカウト 11名

KIRYU 第10団 ROVER隊

団初期登録
昭和38年12月14日
NO. 2328
RS隊登録
昭和43年4月1日
NO. 287

当団は、全国でもめずらしい職域の団として、昭和38年に(株)三ッ葉電機内に於いて発足しました。
以来地道な活動ながら、真のスカウティングをめざし、更に職域スカウティングの道を切り開くべく、頑張っております。

育成会長　日野貞夫
団委員長　上山　明
副団委員長　安斉貞夫
団委員　青木誠治
〃　森　朗
〃　南　昌宏
〃　星野勇二
〃　新藤信夫（元 伊七峠 4団SM）
〃　原野慶市
〃　斉藤米造（元 伊七峠 4団ASM）
〃　弓納持孝太郎
〃　宇田紀一（元 桐生 6団SM）
〃　池島泰二

副長　津布久辰夫
篠山春夫
星　庄一
大沢桂一
近藤良一
山柴邦裕
佐藤昭二
小林金作
亀井真二
横尾次男
青木明徳

隊長　上田健昭（元1団SM）
副長　松井栄三（9団SM）
松井　孝（9団ASM）
梅沢信三（11団SM）
羽広政雄（12団SM）
則本干明（9団SM）
斉藤実（12団SM）
阿部幸雄
茨路英治（4団SM）
高草木滋（11団SM）
藤生俊二（4団SM）
大塚誠司（現21団SM）
鈴木博
川端達也（元11団ASM）

桐生第11団

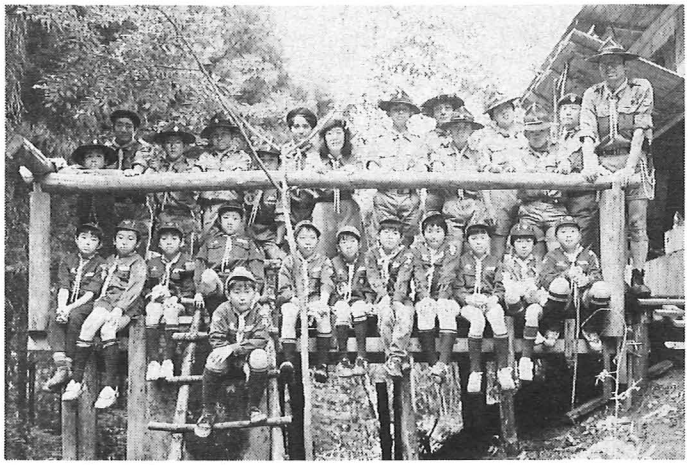
心とからだ きたえよう

加盟登録番号		初期登録日
団	2978—	42.6.7.
ボーイ隊	4619—	42.6.7.
カブ隊	1289—	42.6.7.
ビーバー隊	566—	62.4.1.

我が団ボーイ隊では、昭和63年に自然と水に恵まれた、自団の野営場をもち、より良い野営活動の場として実施しています。

カブ隊は、北小学校の校庭を中心に「いつも元気」をモットーに活動しています。

ビーバ隊は、発隊して3年ですが、「みんななかよし」をモットーに元気いっぱい活動しています。



〔育成会〕
会長　田村信行

〔団委員会〕
委員長　尾上義夫
副　〃　吉田　章
副　〃　田島幹弘
委員　田村信行
〃　山下秀樹
〃　藤井房江
〃　国松綾子
〃　坂庭京子

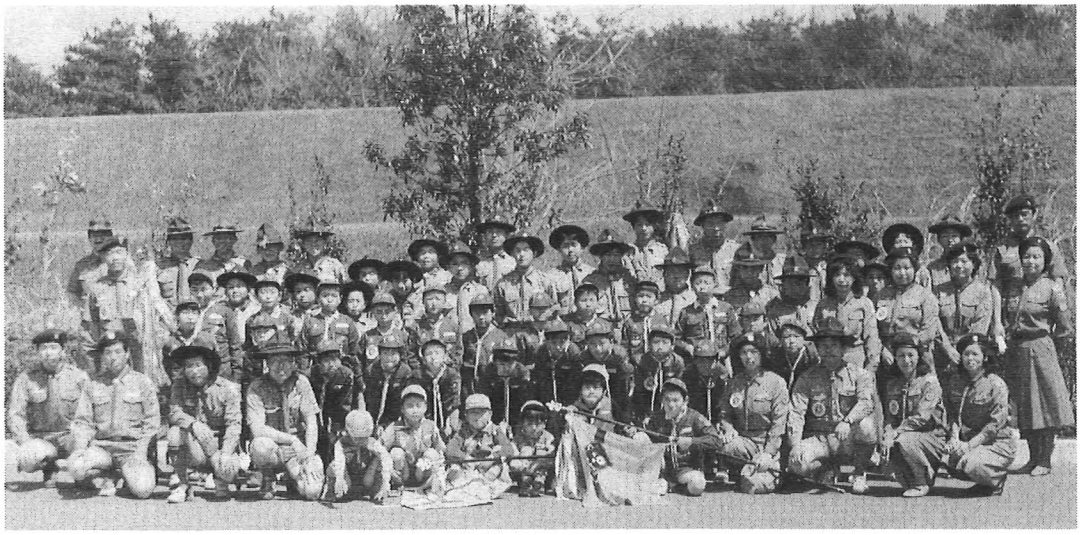
BS隊
隊長　西倉　式
副長　松島二三雄
副長　早乙女徹

CS隊
隊長　笠原　正康
副長　下山　武男
副長　小塙　芳江
DM　小林　茂子
DM　福島　純子
DM　安蔵　澄夫
DD　高沢　雅彦
DD　池上

BV隊
隊長　和田葉子
副長　小暮孝夫

所　在　地	桐生市梅田町１－４９９
団登録番号	２９７９
初期登録日	昭和４２年６月７日

カブ隊は通常訓育に加え全員で鼓隊を編成。
桐生祭を始め各イベントで活躍。
ボーイ隊は発想そして実践をモットーに自然の一員としての認識をもって自立心をたくましく養っている。
興味津津のビーバー隊は楽しさ一杯です。
また、２２年の歴史の中に、
田沼　寿、　田村　論
２名の富士スカウトを輩出。現有５５名のスカウトも彼等を目標としてスカウト魂を燃やしている。



団

団委員長	金子　章
育成会長	三上　浩佳
団　委員	金子　京子
	飯田　令子
	井川　良己
	江口　一八
	福田　絹代
	川岸　昭弘
	中村　東史
	髙草木　しづ江
	井上　まり江

ボーイ隊

隊長	五十木　忠男
副長	山口　博幸
〃	関口　保
	スカウト２６名

ビーバー隊

隊長	岩崎　淳一
副長	関　えみ子
	スカウト　４名

カブ隊

隊長	岩野　博
副長	大沢　茂
〃	稲垣　友常
〃	松井　悦枝
〃	笠原　富子
	スカウト２５名

Be Prepared.

Daily Good Turn.

桐生13団 シニア隊

KIRYU BOY 桐 SCOUTS 県連40周年

○桐生１３団

・昭和４８年４月１日　　発　団

・昭和５９年４月１日

11団，12団，14団，15団，16団，17団，18団，

21団，薮塚１団，伊勢崎12団により組織構成する．

○育　成　会

会長　飛田清雄

○団　委　員　会

委員長　斎藤久雄

副　〃　星野仁郎

委　員　松崎栄一

〃　島田保彦

〃　萩原修音

〃　上村泰持

〃　小林光子

〃　歌代公江

〃　田村良太郎

○ＳＳ隊長　荻原康夫

ＳＳ副長　島田明彦

ボーイスカウト

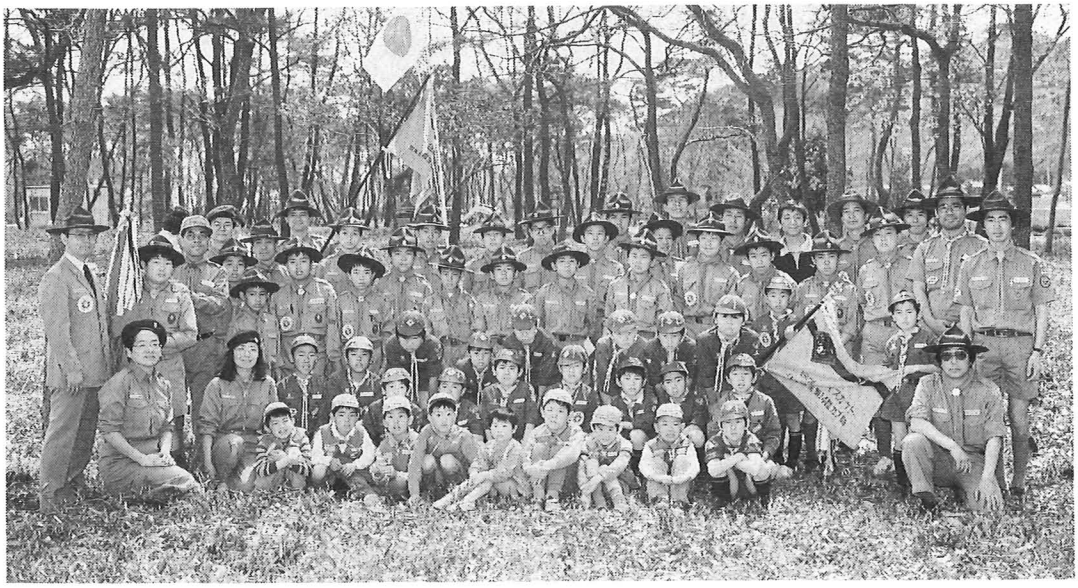
KIRYU 14

団紹介	団登録NO．４２１４	初期登録　４９．４．１
ＢＳ隊	登　録NO．６３１２	初期登録　５１．４．１
ＣＳ隊	登　録NO．２５９６	初期登録　４９．４．１
ＢＶ隊	登　録NO．５６７	初期登録　６２．４．１

育成会長　七沢博明　　団委員長　松井　隆
　　他、団委員、１２名
ＢＶ隊長　金谷欣三　　他、副長２名
　　スカウト、８名
ＣＳ隊長　矢島　貴
　　他、リーダー４名
　　スカウト、２３名
ＢＳ隊長　　田村忠之
　　他、副長、４名
　　スカウト、２７名

平成　元年度
組織です。

当団の活動理念は『和』です
当団は「ちかいとおきて」、「やくそくとさだめ」、「ビーバーのやくそくときまり」
の実践をスカウティングの柱としています



きりゅう第15団

団初期登録　昭和５１年４月１日
登録番号　　４５４７

育成会	育成会長	大沢正俊
団委員会	団委員長	横須賀邦一
	副　〃	牧　守
	〃	佐藤貞己
	団委員	須藤芳弘
	〃	石原　功
	〃	藤生幸子
	〃	西場美恵子
	〃	小林　操

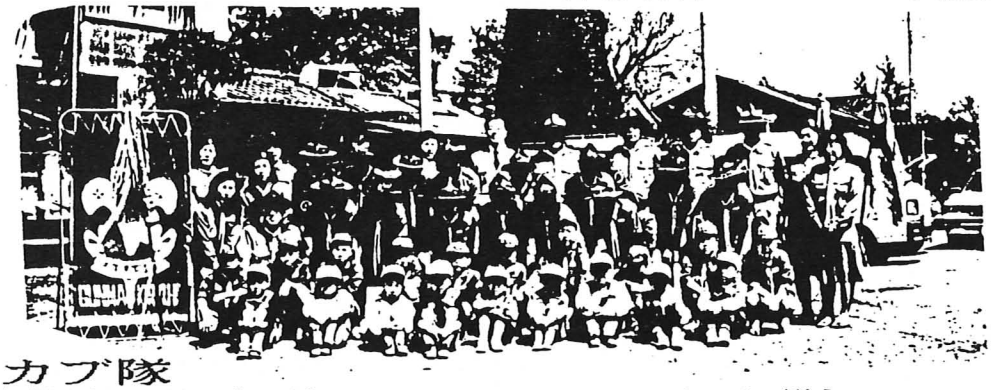
私たちの団は、発団から１５年を迎えようとしています。私たちは、常に出会いを大切にし、思いやりの心で集会をしています。
ボーイ隊は「ちかいとおきて」を実践し、
カブ隊は「やくそくとさだめ」を実行し、
ビーバー隊は「みんなとなかよくあそぶ」をモットーに元気に活動しています。
スカウト活動を通して人間として社会の一員として明るく平和で住み良い社会作りに役立つように頑張っています。

ボーイ隊

初期登録　昭和51年４月１日
登録番号　６３１１

隊長	鈴木國男
副長	田村晴義
〃	中山　保
〃	時崎要治
〃	茂木　寛

上班	斎藤光弘	タカ班長	金子多一
キジ班長	江原崇人	次長	桑原清人
次長	沼賀俊秀	班員	小林義暢
班員	茂木　隆	〃	鈴木孝明
〃	時崎哲平	〃	三ツ井清訓
〃	久保田祐之	〃	大沢　勉
〃	中山竜也	〃	時崎祐典
〃	毒島邦男	〃	石原大祐
〃	田村友邦	〃	江原正友輝



カブ隊

初期登録　昭和51年４月１日
登録番号　３４３３

隊長	菊池　清
副長	江原啓子
組長	三ツ井宏行
次長	大川陽平
組員	粟田和也
〃	村上元徳
〃	山口哲郎
〃	星野友伸
〃	高木祐一
〃	三ツ井崇雅
〃	菊池孝宏
〃	小林暁弘

ひろげよう輝く15団の輪

BOY SCOUT KIRYU·15

ビーバー隊

初期登録　昭和62年４月１日
登録番号　５６８

隊長	毒島征子
副長	久保田光恵
スカウト	大川忠秀
〃	久保田圭
〃	松島圭介
〃	藤生達也
〃	福田昌弘
〃	久保田有
〃	伊藤玲児
〃	武藤正泰

ボーイスカウト桐生第１５団アマチュア無線クラブ　ＪＫ１ＹＤＥ

ＢＳ　桐生第１６団

初期登録　昭和５１年　４月　８日　　登録番号　第４５５１号

育成会長

井　上　藤　男

団委員長

津久井　　滋

桐生市　相生町　1-375-6　　52 -1532

団委員

小　平　四　郎
岩　野　和　正
小　林　芙美子
藤　田　由　利
今　泉　富　江
鈴　木　アサ子

登録番号　第３４３５号

ＣＭ
中　村　和　男

ＤＭ
岩　崎　エリ子
荻　原　美智子
今　泉　信　子

ＣＳ

登録番号　第６６４９号

ＳＭ
細　野　一　郎

ＡＳＭ
星　野　芳　雄

ＪＡＳＭ
小　林　剛　久

ＢＳ

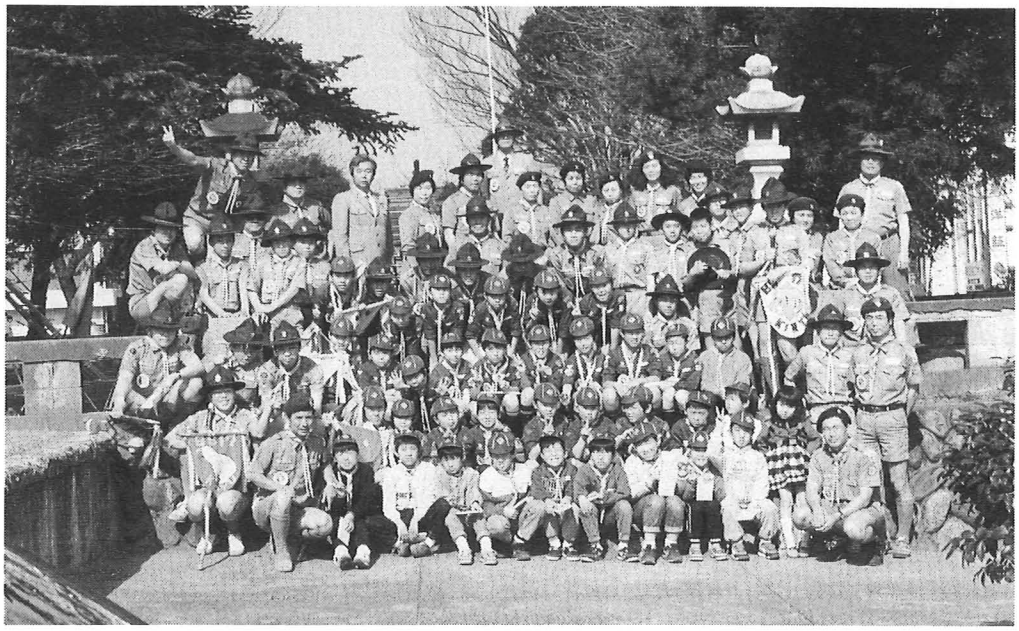
昭和５１年４月に桐生第１１団の分封団としてＣＳ隊のみの発団、昭和５２年４月に、ボーイクラスに４名の上進を見たが少人数の為、第１１団ＢＳ隊へ預けスカウトとしての訓育をなした、翌昭和５３年４月７名の上進を得て正式にＢＳ隊が発隊し現在に至る。

桐生第17団

⚜所在地　桐生市広沢町1丁目2952-10
⚜発　　団------４９１１（S.53.3.26）
⚜カ ブ 隊------３９７１（S.53.4.9）
⚜ボーイ隊------６９８７（S.55.4.13）
⚜ビーバー隊---　６５９（S.62.4.1）
※発団は桐生第15団より分封の栄を受ける。

隊のモットー　〝ちかいの実践〟〝感謝と躍進〟

諸先輩の努力で発団より満10年を経て順調に推移し、リーダーの研修所入所者は31名（34ヶ所修了）を数える。カブ隊、ボーイ隊共に自隊の訓育場、野営場を保持する。隊内広報紙「ワンセブンタイムス」年３回発行。富士章スカウトも排出し、スカウト海外派遣３名に及ぶ。昭和63年度、日本連盟より「善行綬」受章する。



育成会長	江原　毅	団委員長	阿部和市	他団委員	
副育成会長	武井　毅	副団委員長	小林軍次	１７名	
		〃	松村　清		

カブ隊

隊長	阿部真児
副長	入口富夫
〃	上條　登
〃	渋沢岩生
〃	松本清子
隊員	２９名

ボーイ隊

隊長	八木　健
副長	前原忠一
〃	松田　茂
〃	細野　剛
〃	金子正夫
隊員	４３名

ビーバー隊

隊長	丸山　昇
副長	小池淳子
隊員	１１名

ボーイスカウト

桐生第１８団

団　登録番号　４９１２　　所在地　桐生市川内町１－３６１
　　初期登録　昭和５３年４月１日

昭和５３年４月１日に桐生第４団より分封発団し、カブスカウト隊が発隊しました。５５年４月ボーイスカウト隊が発隊し、６１年４月ビーバー隊が発隊現在は３ケ隊がそれぞれのプログラムにより楽しい訓育が行われております。
１８団に於いては、団家族で合同行事がいくつかあります。
カブ農園で季節のものを作り全員で植え付けから収穫まで行い楽しく味覚を味わっております。

また、毎年秋には「１８団親子運動会」を開催し親子の「キズナ」を深め、団家族で仲良く楽しい秋の一日をすごします。
自然に親しみをもち、皆仲良く強い「男の子らしい男の子」が育つよう全指導者が努力し訓育をしております。

団委員会　育成会長　田辺　賢二　　団委員長　藤生　昌利
　　団 委 員　井口　賢司　　吉田　祐一郎　星　千代子　佐藤　陽子
　　須藤千恵子　　高橋　光　代　山本　啓子　森田　恒夫

ビーバー隊	カブ隊	ボーイ隊
隊長　斎藤　精一	隊長　関谷　茂兵衛	隊長　森下　佳之
副長　金子千枝子	副長　小野沢　常男	副長　熊谷　達成

桐生19団 シニア隊

KIRYU BOY SCOUTS 祝 県連40周年

○桐生１９団

昭和５２年５月６日

桐生第13団より分封．発団となる．

昭和５９年４月１日

１団，２団，３団，４団，５団，６団，８団，９団

より組織構成する．

○育　成　会

会長　新井　庫太郎

○団　委　員　会

委員長　大竹　修二

副　〃　町田　幸男

委　員　長野　雄二

〃　岡崎　紀夫

〃　吉田　節子

〃　内山　幸夫

〃　土澤　秀行

〃　長　　京子

○ＳＳ隊長　五島　実

ＳＳ副長　星野　健

〃　久保田　誠

〃　下山　晃正

ボーイスカウト桐生第２０団

ROVER　SCOUT 隊

加盟登録 団　５２４８　　初期登録　昭和 55 年 4 月 26 日
　　隊　　９２５　　昭和 55 年 4 月 26 日

我がローバー隊は、登録スカウト数23 名を持つ県下最大のローバー隊です。我々は、スカウトとして、またスタッフとして、県連や地区の行事に大いに貢献しております。我々は、モットーとして、RELATION. OVERCOME. VENTURE. ENJOY. ROVER. を合い言葉に日夜スカウテングに励んでおります。

人間的にも大きく、男らしくなるために……

R.　Relation（関　係）

人間は様々な関係の中で生きている。私達ローバースカウトもその例にもれず、たくさんの人々と様々な形で関係している。特に友情と信頼という関係に力を置いてスカウテングに励んでいる。

O.　Overcome（乗り越える）

あらゆる困難を乗り越えよう。スカウテングのみならず、私達の生活には数々の困難があるが、その困難を乗り越え、克服していくこともスカウテングの一っであると考える。

V.　Venture（冒　険）

どんなことに対しても恐れずに挑戦する。自分自身に対して冒険して行くことは大切である。

E.　Enjoy（楽しむ）

どんなに、つらく、苦しいことがあっても、楽しむ時が無くてはいけない。スカウテングは本来楽しいものである。

R.　Rover（ローバースカウト）

私達は、これらのことを全て理解し、実践することがローバースカウトであると孝え目標としている。

群馬県連盟40周年

桐生 第21団

祝

昭和60年に、発団した桐生地区では最も新しい団です。
『やる気』『根気』『勇気』をモットーに、ボーイ活動の根を広ろげている最中の若い団です。

加盟登録番号		初期登録日
団	5779	昭和60年4月1日
カブ隊	5200	昭和60年4月1日
ボーイ隊	7784	昭和62年4月1日

団委員長　米山重男　　副団委員長　大沢克祥
育成会長　鎌田興治
団委員　大沢貞雄　中野勝雄　金谷晶夫
南典子　金子友子　松田百合子

ボーイ隊

隊長　大塚　誠治
副長
桜井典夫　清水英男　武藤英夫

中3
清水　貴志
武藤　大輔
星野　朝文
松田　麻琴

中2
大沢　明広
金谷　聡介
金子　正二
小茂田　達意
桜井　洋介
中野　稔

中1　岡崎　健
星野　光永
宮崎　智和

小6
石崎　剛
上田　和弘

金谷俊治　笹島俊洋　桜井竜太
中野　準　松田　務　米山　章

カブ隊

隊長
石崎　久夫

副長
宮崎かよ子
上田　照子

1組
DM　峯崎　恵子
DD　根岸　照雄
籾山　伸弘
岩崎　紀幸
長沢　稔
米山　宏
上田　靖明

2組
DM　長沢ゆみ子
DD　岩崎　昇市
根岸　範明
大沢　邦裕
峯崎　崇嘉
岩崎　友隆
川島　儀久

大間々第1団

所在地　大間々町桐原437

当団は、昭和40年7月5日の発団から25年目になり、今年からカブ隊が発足されました。毎年8月には、スカウトの総合的な判断力を養うため野営訓練を行っています。12月には、昭和44年以来20年間、渡良瀬養護園での餅つきを行っています。

	初期登録日	登録No.
団	S40. 7. 5	2642
ボーイ隊	S40. 7. 5	4229
カブ隊	H1. 4. 1	

団　委　員　会

団委員長	石田　義彦	団委員	金子　正敏
副団委員長	小野　廣司	〃	高本　晃
団委員	中沢　秀夫	〃	井出　英男
〃	小倉　勝		
〃	中村　桂一		
〃	藤生　誠一		
〃	奥沢　秀年		
〃	小野里　章		

ボーイ隊

隊長	福島　貞則
副長	阿久津博之
〃	石原　亨夫
〃	矢内　勝巳

カブ隊

隊長	藍原　弘之
副長	朝賀　博
DM	笹沢　功子
〃	佐藤その子

新里1団

団登録 5661
初期登録 S.58.5.8

カブスカウト隊は、忠霊塔広場と就業センターを中心にして、思いやりの心をもつ子供を目指して、快活に活動しています。

団委員長 石関和夫
隊長 沢田保

D.D 天童 猛
D.M 岩田正枝
池田雅史
高草木雅人
萩原秀一
山上雅仁
穴原唯史
沢田敦

D.M 萩原美恵子
斉藤晃俊
安松知勇
井上敦志
岩田直樹
猪熊大介
天田高人

藪塚第1団

	加盟登録番号	初期登録
団	5653	S.58.4.1
カブ隊	5034	S.58.4.1
ボーイ隊	7542	S.59.4.1

当団は、発団してから７年を迎えました。ボーイ隊は、町内の寺と山林を開墾したキャンプ地等での野営を中心に、“日々の善行”“仲間”を生活目標に活動しています。カブ隊は、月３回の集会を中央公民館、山野、寺等の集会場所で、子供たちの年齢にふさわしい内容でスカウト達の“自発心”をモットーに活動しています。

スカウト達が自分の健康を築き、自分自身や他の人々に役立つ知識や技能を学び、平和を願う人間になろうと努力する手助けになりたいと、リーダー一同頑張っています。

団委員長	高橋新一	ボーイ隊		カブ隊	
育成会長	加藤文顕	隊長	井上久義	隊長	三ツ木隆博
副団委員長	黒沢　昇	副長	大隅勝巳	副長	小林信行
他団委員７名			金森一男		斉田正清

伊勢崎第１２団

発団6周年

私達はスカウト活動を通じ、人間としての思いやの心を育み明るく住みよい社会造りのお役に立てるように努力しています。

	初期登録日	登録番号
カブ隊	S 58.4.1	5032
ボーイ隊	S 62.4.1	7785

団委員長 古沢 英男
副団委員長 大谷 栄子
団委員 山田 弘
福留 孝一
古沢 幸子
大和ひろ子
岡田 直江

ボーイ隊
隊長 後閑茂一郎
副長 山之内 明
小林 宏一
上岡 敏明
新木 源助
宮田 忠次

カブ隊
隊長 板垣 勝正
副長 橋本 賢二
諏訪 忠雄
進藤 清一

DM
星野 幸江
菅野久美子
福留美知子
大和 典子
国定 節子
中村 春美
重田伊代子
常見 久江
島田小夜子
茂木 悦子

ボーイ隊

クマ班
宮崎 博之
山之内洋明
越塚 隆行
重田 昌英
国定 洋輔
新木 聡

ハヤブサ班
後閑 康希
小林 康平
福留 一心
板垣 将士
宮田 典洋
大和 正規

トナカイ班
大谷 亮介
折原 大紀
上岡 敏美
茂木佐登史
橋本 泰佑
常見 聡
平田 大介

ウサギ班
後閑 洋希
岡田 充史
栗原 利紀
桜場 崇
進藤 誠
古沢 亮

カブ隊

1組
星野 雄介
小林 紘
新井理起也
島田 幸介
橋本 直彦
三井 信哉

2組
諏訪 充寿
菅野 哲治
中村 興人
田端 真人
横堀 秀和

3組
重田 英昭
福留 洋明
山崎 陽平
多賀谷 賢

4組
大和 正樹
茂木 信仁
桜井 洋明
川口 慶介
小林 祐

前橋地区のあゆみ

1. 沿革

昭和24年に結成された県連盟は、県内を6地区にわけ運営され、当時の前橋市は第3地区に所属していた。

その後、地区の数は変更なかったが、それを構成する市町村の移動が行なわれ、伊勢崎市・伊香保町などが、前橋市と共に第3地区を構成していた。

昭和42年の春から進められていた、前橋市に所在する団の連絡協議機関の設置がまとまり、同年9月2日創立となった。これが現在の前橋地区の基盤であり、第3地区の中心をなしていた。

昭和48年、県連盟の方針により、数字名の呼称をやめ、固有名称を採用することになったので、中央地区と称し、更に現在の名称となり、昭和58年から北毛地区の渋川市・水上町と共に地区を構成している。

2. 地区の構成

平成元年に40年綬を受けた前橋第1団BS隊を筆頭に、水上1団・前橋5団など、歴史のある団をはじめ、昭和40年、50年の前半に創立した団が多く、最多時期には、前橋市内だけで11ケ団を数えたが、現在では7ケ団が登録、活動中である。諸先輩のご努力の結果、由緒ある地区として認められ発展してきたが、近年休、廃団や、加盟員数の停滞をきたしておりまことに残念といわざるをえない。

しかし、最近にいたり、団の復活や、新設の動きが活発化してきたので、明るい展望がもてることとなったのは喜ばしい限りである。

3. 活動状況

平成元年度の事業計画で特筆すべきことの1つは、11月に開催する50㎞のオーバーナイトハイクである。

これは、SS自身がコースを選定し、下見をかねて歩いた上で企画運営するもので一般の方の参加募集を新聞紙やチラシで呼びかけたりして意欲的に実施していることである。毎回30から50名程の一般人の参加があり、回を重ねるごとに反省点の改善が行なわれ、スカウティングのPRの一助となっていることである。

もう1つは、団委員長会議である。団の運営、活動の中心である団委員会の動向は大きく団の存続、隊の活動に影響する。その責任者である団委員長が一堂に会し、情報を交換すると共に、地区の施策、活動にも関ることは、自団の発展にとどまらず、地区および県連盟にも反映するものであるとの観点から、地区の会則に位置づけと、目的を明確にして開催されていることである。

教育と運営の二面性をもつことの運動のあり方は、ラウンドテーブルと共に、団委員長会議の存在は大きな役割をはたしている。

おかげさまで 発団 40周年

ボーイスカウト 前橋第1団

昭和２４年８月３日ボーイ隊が発隊し本年４０周年となります。
発隊以来多くの人々の暖かい協力があってこそ長い歴史ができたものと思います。
これからも前橋第一団が永遠に続くように努力していきます。

団	初期登録日 昭和３３年４月５日		登録番号第４６７号
	団委員長 郡司 博	育成会長	植杉藤得
	副団委員長 高橋亜夫 雄井 弘		
	団 委 員 堀口 眞 植杉藤得 磯部幸子 磯部直正 関 幸子		
ビーバー隊	初期登録日 昭和６１年４月１日		登録番号第２７号
	隊長 石関美千代	副長 反町勝美	
カ ブ 隊	初期登録日 昭和３３年４月５日		登録番号第２０５号
	隊長 小森章夫	副長 塚越直之	
ボーイ 隊	初期登録日 昭和２４年８月３日		登録番号第３０２号
	隊長 松山雄次	副長 雄井健文	
シニアー隊	初期登録日 昭和４７年３月２０日		登録番号第１４０１号
	隊長 平野隆志		

事務局所在地 前橋市六供町218 磯部直正方 ☎0272 21-6513

SINCE 1975.4.1 №4349

Maebashi 3 squadron

Health, Happiness, Helpfulness

IM POSSIBLE

BEAVER 1986.4.1 №28

BVL KENKO MORITA ABVL KAZUKO SATOH

GM SUSUMU SHIGEHARA
AGM TADAO HOSHINO
AGM TSUTOMU OHSHIMA

MIKIO ONAYA
TOMOE NAKAYAMA
KAORU ONAYA

TOSHIO TAKEUCHI
MASUKO MOTOHAWA

BOY 1976.4.1 №6313

SM ICHIRO EBARA
ASM HIDEHITO MACHIDA
ASM NORIAKI TAKEUCHI

SENIOR 1987.4.1 №2451

SSL TOSHIYUKI MORITA
ASL YOSHIHISA HAYASHI

CUB 1975.4.1 №3123

G.M HIDEO ISHIKURA
AGM KUMIKO HORIGUCHI
ACM YASUE NAKAYAMA
DM S. MOGI
DM T. KOIKE

DD Y. KANNO
DD K. ITABASHI
DD S. SEKIGUCHI

日本ボーイスカウト群馬県連盟

前橋第5団

連絡先
〒371
群馬県前橋市下細井町607-4
☎0272-33-9507
小野里清治

団　登録番号　2170
初期登録　昭和38年5月13日

育成会長　小野里和四郎
団委員長　遠藤健一
副団委員長　小野里和四郎
副団委員長　小野里清治
団委員　南波正夫
団委員　前田彰
団委員　近藤日出夫
団委員　河野口雄三

昭和38年5月5日
市内行進で始まり
インディアン踊りで
祝った発団式
記念章

ビーバー隊　登録番号　61　昭和61年4月1日

隊長　小野里るり子
副長　林英子
副長　茶木喜美代

カブ隊　登録番号　738　昭和38年12月14日

隊長　中村澄江
副長　丸山聖人
副長　岡野みつ子
DM　主代美幸
DM　高野辺佳子
DM　籾山多恵子

ボーイ隊　登録番号3696　昭和38年5月13日

隊長　中村哲美
副長　長江仁
副長　三輪斉

シニア隊　登録番号2999　昭和59年4月1日

隊長　久保雅弘
副長　砂田修

ボーイスカウト
前橋第７団

前橋市千代田町２－２－５
柳田計理事務所内
団登録番号　３３７３
初期登録　昭和４４年８月１１日

発団してから２１年目を迎えました。前橋公園や敷島公園を活動拠点とし市の北端にある橋山にはスカウトハウスがあります。ビーバースカウト隊からシニアースカウト隊まであり、スカウト出身のリーダーも増えています。
各隊のプログラムを推し進めながら、相互の交流を図り、団家族の意識を高めています。

［ボーイスカウト前橋みやま育成会］　会　長　高橋和男

［ボーイスカウト前橋第７団］　団委員長　近藤良男
副団委員長　今井健介

＜ビーバースカウト隊＞　隊登録番号　228　初期登録　昭和62年 4月 1日
隊　長　杉村裕一
＜カブスカウト隊＞　隊登録番号　1797　初期登録　昭和44年 8月11日
隊　長　小松俊一
＜ボーイスカウト隊＞　隊登録番号　5030　初期登録　昭和44年 8月11日
隊　長　大友健也
＜シニアースカウト隊＞　隊登録番号　3000　初期登録　昭和59年 4月 1日
隊　長　狩野富夫

前橋第11団

団登録番号　４６６５

初期登録　昭和５１年１２月１５日　　所在地　前橋市新前橋４－４

（宗）世界救世教　群馬県本部

電話　０２７２－５１－１６６１

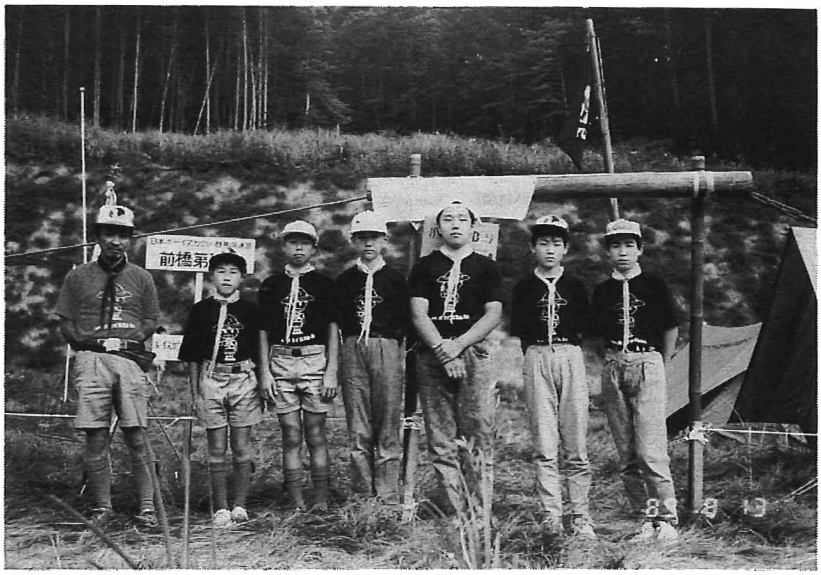
当団は、世界救世教　群馬県本部第１隊として活動し、救世教の教義とボーイスカウトのちかい、おきてにのっとり世界にはばたける立派なスカウトになるように一丸となって努力しております。

活動の拠点は、団本部に広い広場を持ち雨天にも本部の講堂にて活動ができます。

リーダーの研修については、連盟の研修所のほかに救世教独自の研修会をもち全国の団のスカウト達及びリーダーの交流を深めている。

当団は現在は、信者の子弟中心であるが将来はオープンにしてスカウトの増員をはかりたい。

育成会長	田口　敬三	ボーイスカウト隊			シニヤースカウト班
団委員長	板垣　守夫	登録番号６４５７			指導者　北内　昭夫
副団委員長	久保　達彦	初期登録　昭和５２年４月１日			カブスカウト隊
団委員	松下　泰治	隊　長	北内　昭夫		初期登録　昭和５１年１２月１５日
団委員	田中　三郎	副　長	桂川　明		平成元年度
		副　長	松下　浩之		休隊



前橋第12団

所在地　前橋市駒形町593-4
団登録番号　5540
初期登録　昭和57年4月21日

当団は前橋の東南端にある駒形町、山王町を中心に活動しています。

隊集会は駒形神社を主会場に、近くを流れる広瀬川河原で月3～4回行ない、元気な思いやりの心をもつ子供を目指して活動しています。

1989年1月1日　駒形神社　初もうで

団委員長　馬場威
副団委員長　星野仁男
団委員　神保貴美江
新井美代子
星野玲子

ビーバー隊　隊長　北川孝子
副長　正木麻美
カブ隊　隊長　三浦俊夫
副長　柳沢友里子
ボー隊　隊長　関口茂
副長　正木昭宏

前橋第１３団

	初期登録日	登録番号
カブ隊	昭和57.5	4904
ボーイ隊	平成 1.3	

団委員会

団委員長	原　藤吉郎			
育成会長 副団委員長	田中　尚道			
団　委　員	印藤　和彦	渡辺雄次郎	安部　行	
	小堀　光雄	鈴木　春代		
会　　計	佐藤　守			

カブ隊

隊　　長	小堀　恵子		
副　　長	柳田　真一		
D　　M	田中　公美	森　みつ江	石井　光江
	小幡　悦子	渡辺　安子	金井　久子
	小保方千津美	羽鳥　晃子	佐々木はつね

ボーイ隊

隊　　長	岡田　孝一
副　　長	倉賀野友彦

ボーイスカウト

水　上　第　1　団

所在地　利根郡水上町湯原４４１
中央公民館内

登録番号　４７０

初期登録　昭和２６年１１月４日

当団は発足してから３８年を迎えました
＜自然を大切に＞をモットーに谷川岳周辺の清掃や、奥利根の野営等恵まれた環境をフルに活用し活動しております。
スカウト活動を通じて思いやりの心をそだて明るく住みよい社会づくりに役立つ人間形成に努めています。。

団委員長　井上邦夫

副団委員長　角田行雄
袋井州治

団委員　鈴木貞衛
高橋征一
石井国太郎
中島敏夫
宮本龍弥

ボーイ隊
隊長　阿部　正
副隊長　木村一夫
狩野敏一

カブ隊
隊長　小野忠行
副隊長　江崎俊孝
須藤　真

ボーイスカウト

SHIBUKAWA 第2団

当団は昭和45年4月に初期登録をし、渋川市を中心に広域圏を対象とした、団構成となっています。

集会はおもに市内にある真光寺(天台宗別格大寺)の境台で行っており、基礎訓練の実践を目的として、時に応じ、移動野営(3泊4日程度)を実施しております。

第1回目
弥彦～柏崎間日本海沿岸
第2回目
三宅島
第3回目(1989)
大洗～鉾田間太平洋沿岸
第4回目(1987)
八丈島
第5回目(1988)
佐渡ヶ島　両津市東海岸沿

団役員等

団委員長	川島 尚	渋川市長塚町1772	0279 22-2421
副団委員長	福島正次	〃 下之町2439	22-0926
〃	杉木浩親	〃 折原3675	23-4191
	(ボーイ隊、シニア隊管掌)		
団委員	津久井 実	北群馬郡子持村吹屋14-25	23-3536
	(カブ隊 管掌)		

上記の他連絡場所として
前橋市山王町一丁目34-23　冨岡 実 (0272)66-5987

高崎地区のあゆみ

高崎地区は昭和24年10月ボーイスカウト高崎第１隊加盟登録を承認され、以来今日に致るまで高崎市を中心に発展し、現在高崎市、群馬町、箕郷町、玉村町、吉井町、富岡市と２市４町にまたがり高崎地区が編成されており、歴代の地区協議会長、地区委員長、地区各役員、各団委員長並びに指導者の方々の協力に依り、現在18ケ団、加盟登録人員（L.S合計1140名）に発展しております。

年月の過ぎるのは　いもので、高崎地区も県連盟と共に歩み、地区発展も素晴らしく、各年間行事ＢＰ祭等では、高崎経済大学の校庭、高崎問屋団地の展示会場等、地域の協力の基に開催が出来、毎年４月には桜花シーズンに観音山周辺の清掃奉仕に汗を流し、午後はフェリーランドの無料入場を受け、スカウト達が入場を楽しみにしております。

６月には高崎市の緑化運動の一環としての植樹祭に参加し、奉仕作業にスカウト達が、将来自分達の植えた木の成長を楽しみにしております。

地区キャンプ開催には観音山裏の市の教育キャンプ場の利用、恩賀キャンプ場とＢＳキャンプも盛大に実施して居ります。

観音山周辺の利用は、今迄特に多くスカウトに利用されて居り、又群馬の森を利用しての高崎地区ビーバー祭り、カブラリー等、地区のスカウトが活動しています。特に第９回日本ジャンボリーで実施出来なかった、劇団「入道雲」の「ＢＰ物語」の公演は、高崎地区の吉井良弘地区コミの努力が実のり、ガールスカウトの協賛を得て、交渉から実施に至るまで、地区を上げての行事として群馬音楽センターで公演、2200名の多数の参加を得て大成功を納めました。

高崎地区のボーイスカウト展は、スズラン及び高崎高島屋の協力を得て開催し、地域にスカウト運動のピーアール。昨年は高崎市青年商工会議所主催の青空バザールを10月に実施、ミニＳＬを走らせたり、売店を開き売上金の一部を福祉に寄贈。毎年高崎ふるさとまつりには、高崎地区のボーイスカウトもパレード及び奉仕に参加して居り、特に平成元年８月には大々的にスカウト運動のピーアールも兼ねて県連フラッグ・隊旗集団・鼓笛隊・スカウト集団のパレードに地区を上げ参加しました。

高崎地区として本年度は

研修	指導者講習会	11月・２月
	月例研修会（二水会）	毎月第二水曜日
	カブプロ地区合同研究集会	11月・２月
	デンリーダー研修会	随時
会議	団委員長会議	隔月
	地区委員会	年間４回
	地区年次総会	４月
行事	パトロールリーダートレーニング	
	ビーバー祭	10月

本年もすでに年間行事の前半が終りましたが、スカウト運動には終りがなく、今後も青少年育成の為に地区を上げて、スカウトの「ちかい」と「おきて」を基本に、この運動の進展を計って行きたいと思います。

たかさき第6・7団

第6団 登録No.5219

ビーバースカウト隊
昭和61年4月 No.154

カブスカウト隊
昭和48年4月 No.2598

ボーイスカウト隊
昭和57年4月 No.7269

第7団 登録No.470

ビーバースカウト隊
昭和61年4月 No.155

カブスカウト隊
昭和34年7月 No.328

ボーイスカウト隊
昭和27年3月 No.1767

シニアースカウト隊
昭和37年4月 No.329

ローバースカウト隊
昭和40年1月 No.207

第6団

団委員長 平 由雄
山田悦也
団委員 近藤次雄
内田勝己
周藤辰雄

第7団

団委員長 金井佐伝
中嶋正義
団委員 村山勝彦
萩原孝行
横山房太郎

高崎若百合育成会

会長 田子忠雄

鈴木芳枝 島田知子 清水桂子 斉藤 要

ビーバースカウト隊

隊長 小野川かほる
副長 細井弘子

隊長 竹本賢三
副長 塚越晴美

カブスカウト隊

隊長 小林健一
副長 相田早人
DM 落合弘子
長谷川高子
中林みち子
横山三津子
DD 大森利見
及川久士

隊長 大泉寛之
副長 落合 進
DM 松原恵子
伊藤和子
立井貴子
周藤和子
DD 山田 豊

ボーイスカウト隊

隊長 神宮健寿
副長 池田尋計

隊長 加島正明
副長 日永正樹

シニアースカウト隊

隊長 新井雅夫
副長 小森孝雄

ローバースカウト隊

隊長 中嶋正義

高崎第６＆７団入団上進式（於 問屋町公園）

高崎第6・7団

高崎若百合育成会小史

- 昭和26年９月、東小学校々庭にて隊を結成、育成会が発足をした。翌27年３月７日日連加盟登録が承認されました。
- 昭和28年４月３日、高崎第10隊を分封するが、その後止むなく休隊となる。
- 昭和48年４月、カブ隊の増員に伴い第２隊を結成登録をする。
- 昭和55年４月、カブ第２隊を独立し、高崎第６団を結成分封する。
- 海外派遣には、県連第１号の吉田信之君が昭和32年８月４日より１ケ月間アメリカＢＳ第３地区野営大会に参加、各地を訪問し日米親善の役を果しました。その後、８名のスカウトが世界ジャンボリー等、海外へ交歓スカウトとして代表を送り出しました。
- 横浜第３団とは20数年来、交流をつづけております。毎年春秋に分宿交歓、月の輪終了ハイクは、毎年３月合流して箱根の金時山へ登山して金時娘と握手。また川越第２・３団とも合同キャンプ等を通じて交流を深めております。
- 我が団も間もなく結成40年を迎えます。その間には沢山の先輩諸兄姉の奉仕の積み重ねがあったればこそと感謝し、永遠につづく遥かなこの道をみんなで力を合わせて、つき進もうではありませんか。

ボーイスカウト

高崎第8団

BS　第5222号
CS　第1746号
BVS 第 876号

高崎第8団は発団20周年を迎える事ができました。
スカウト関係者、地域社会の皆様の指導の基に子供達が、明るくのびのびと成長する様、日々の活動をしています。

20th ANNIVERSARY

8

団委員長	元島三明	BS隊長	内藤　清	BVS隊長	渡辺　修
副団委員長	松本　満	副長	武井良平	副長	内藤恵美子
団委員	茂原幸夫			〃	松本順子
〃	須藤　忍	CS隊長	中田　豊	〃	寺林久子
〃	市川正人	副長	清水賢次		
		〃	高瀬千代子		

TAKA 9 SAKI

ボーイスカウト高崎第九団

カブスカウト初期登録	昭和４８年１２月　５日（登録第２８４１号） 高崎第８団カブスカウト第２隊として登録 カブ隊長　武田勝彦
団　登　録	昭和４９年　４月　１日（登録第４２１２号） 育成会長　森田照雄　団委員長　根岸　充
ボーイスカウト初期登録	昭和５１年　４月　１日（登録第６３１０号） ボーイ隊長　岡田伊佐雄
シニアスカウト	昭和５４年　４月　１日　シニアスカウト班登録

現在、ボーイスカウト隊、シニアスカウト班にて高崎市の東北部、市立北部小学校及び長野小学校区を中心に活動してます。
育成会長　武田勝彦　団委員長　小根澤敏雄

我団の自慢　下小塙町内の道祖神の行事をボーイスカウトで実施している。

ボーイスカウト

TAKASAKI　10団

団　登録番号　第４４６５号　　活動本部　高崎市立六郷小学校
初期登録　昭和50年10月 1日

「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするように　そしてむくいを求めぬよう」この言葉を胸に秘めて我が１０団は歩んできました。
発団して１５年を迎え、カブ隊、ボーイ隊、シニア隊とそろい、野外活動を主とし、道なき道を進んでいます。
我が団の自慢は、兄弟でのスカウト、夫婦でのリーダーと言うことで文字どおり家族全員でスカウト活動を行っています。
その為、団結力、統率力に於ては他の団に一歩も引けを取られません
これからもスカウト活動を通じて、思いやりの心をもち明るく住みよい社会造りの役に立てる人を養って行きます。

団委員長　金子　甲八　　育成会々長　室岡　信行

カブ隊　登録番号　第３３１９号　初期登録　昭和50年10月 1日
隊　長　松本　光治

ボーイ隊　登録番号　第６３０９号　初期登録　昭和51年 4月 1日
隊　長　小見　宏

シニア隊　登録番号　第３３３１号　初期登録　昭和63年 4月 1日
隊　長　青木　憲一

ボーイスカウト 高崎 第十二団

創立28年を迎え

和気あいあいの活動展開

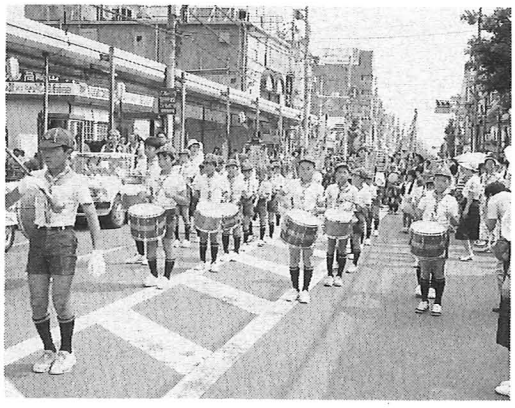
私達のボーイスカウト高崎第十二団は、昭和三十七年四月十八日に初期登録がなされ今年度二十八年目を迎えました。高崎地区においても歴史のある古い団です。

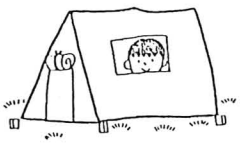
年間の行事も数多くあり、育成会もそのお手伝いが忙しい様ですが、団の行事を運営するためには育成会の強力なバックアップが必要であり、当団はまさに全員一致の協力により和気あいあいの活動が展開されています。

特に、カブ隊にあっては高崎祭りのパレード先導の鼓笛隊として、ボーイ隊は各種行事の先導等として奉仕を実行しており、学校では学べない社会教育の実践に努めております。

また、日常の集会や訓練において、先輩と後輩の連携を強くすると同時に、礼儀の正しさを身につけ、野営技術の向上に務めることを目標に、積極的に山野の自然と親しめる行事を数多く企画し、「そなえよつねに」・「いつもげんき」を日常実行できるスカウトを育成していきたいと指導者一同念願しております。

平成元. 4.1 現在	
ビーバー隊	3名
カブ隊	22名
ボーイ隊	24名





◎ビーバー隊　優しい隊長と三人のかわいいビーバー達。いつもカブのお兄さん達とゲームを楽しんでいます。早くカブになりたいなア！

◎カブ隊　四つの組に分れてゲームやソングを楽しんでいます。高崎祭りのパレードを先導する鼓笛隊の早朝練習が間もなくはじまるんですよ！

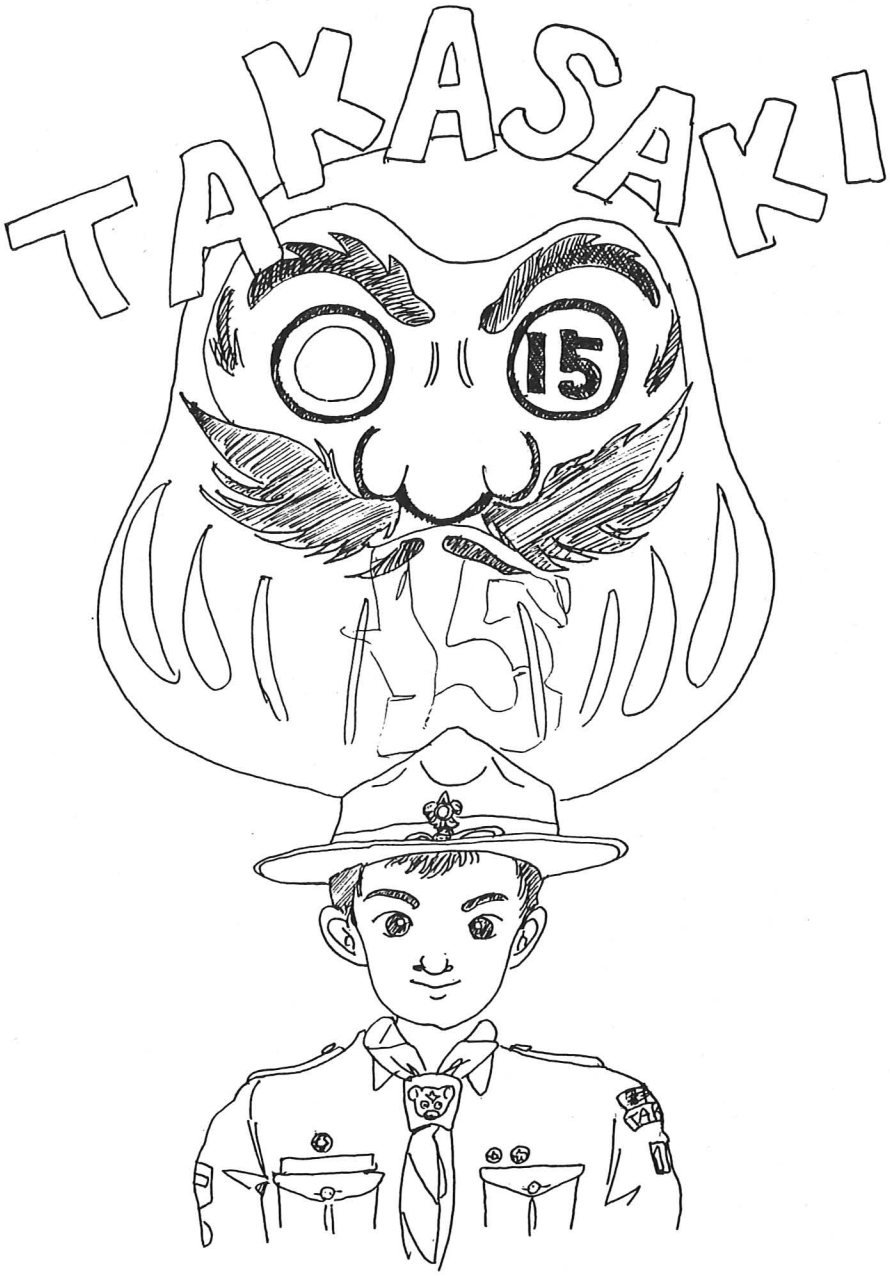
◎ボーイ隊　技能章・特修章を多数取得し、菊章にチャレンジすることと、野営技術の向上のため三月から十月まで毎月一度のキャンプを実施しています。

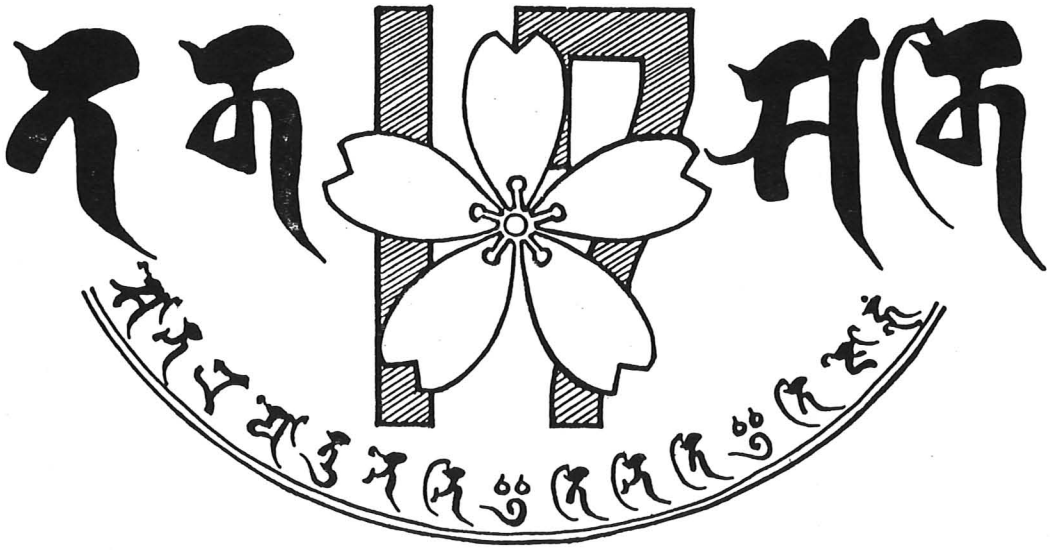
年間の主要行事

4月	入隊・上進式
	育成会総会
	観音山清掃協力
5月	団合同ハイキング
	ボーイ隊キャンプ開始
	（10月まで毎月）
6月	鼓笛練習開始
7月	海水浴
8月	高崎祭りパレード参加
	カブ隊舎営訓練
9月	ボーイ隊夜間ハイキング
	カブ隊ハイキング
10月	サイクリング
11月	ハイキング
12月	つどいの会　記章交付式
1月	タコ揚げ大会
	とん汁を食べるつどい
2月	スキー合同訓練
3月	月の輪キャンプ

高崎第12団は
佐野小学校で
集会をしています。
第1日曜日を除く
9：00～11：00
おでかけください。
連絡先　23－8613
石田忠次

僕達の団は昭和49年に生まれました そして
だるまの町豊岡にあります。小林山 碓氷川 烏川
などが近くにあり集会・活動は若宮八幡様で
行っています八幡地区 豊岡地区のみんなで仲よく
スカウト活動をしています





カブ隊 団歌

あふれる若さ　17団の町は
みんな　友達
ホウッ　ゆかいな　なかま
アッハハハ　こんにちは
手をつないで　よっといで
アッハハハ　こんにちは
手をつないでよっといで

登録番号　初期登録

団	第2579号	昭和40.4.1
ビーバー隊	第435号	昭和61.7.16
カブ隊	第936号	昭和40.4.1
ボーイ隊	第4142号	昭和40.4.1
シニアー隊	第3010号	昭和59.4.1

高崎ボ17団 本部
高崎市 下滝町19 番地
慈眼寺内
TEL. 52－8365

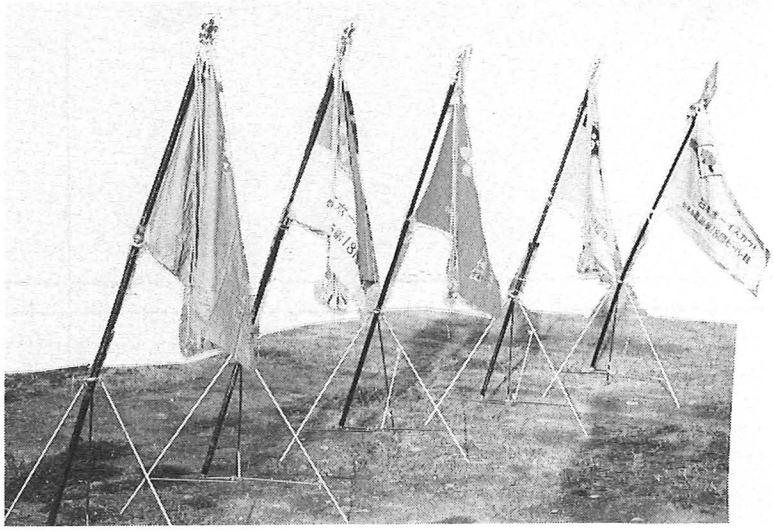
集会場所
慈眼寺境内広場

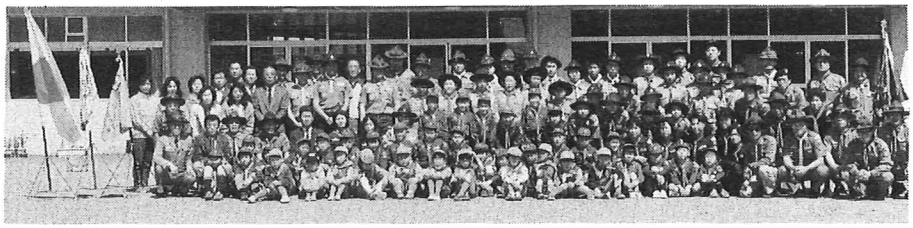
平成元年度	
高崎17団加盟員数	
団委員会	5名
ビーバー隊	10名
カブ隊	30名
ボーイ隊	16名
シニアー隊	20名
ローバー班	12名
合計	93名

高崎第18団

所在地　高崎市高関町138
団登録番号　2724号
登録年月日　昭和40年10月25日

PLus uLtra（探求心）





平成元年度 上進、入隊式

ビーバースカウト隊	12名	ローバースカウト隊	23名
カブスカウト隊	30名	指導者	28名
ボーイスカウト隊	26名	団委員	19名
シニアースカウト隊	8名		

高崎第１９団〔ローバースカウト〕

TAKASAKI CITY UNIVERSITY OF ECONOMICS ROVER SCOUT CLUB

〔高崎経済大学 ローバースカウト部〕

高崎19団は、都会ではめずらしくはないが、地方都市では数少ない、大学の学生によるキャンパススカウトです。そのため部員も全国各地から集っており、大学に入ってからスカウト活動を始めたのが多いのが特色です。

大学が休みになると帰郷してしまったり、団活動は他の団と多少異なります。

地区の活動にも仲々参加できなかったり、奉仕活動の分野でもっと地域の活動をしたいと考えております。

最近女子学生の参加が多く　クラブ内に花が咲いたようですが　団委員として登録し　団の仕事と私達の活動を共にやっております。

✡✡ 団　構　成 ✡✡

団委員長	楠　精一郎
副団委員長	佐藤春重・岩田正男
団委員	７　名
隊　長	須永国生
副　長	村田　巌・富田憲一
ローバースカウト	２８名

高崎第２０団

所在地　高崎市岩押町９－１３
初期登録　昭和４４年６月１２日
育成会長　真下　公利　団委員長　仁藤　貴士

立正佼成会（仏教）の スカウト宗教章獲得まで頑張ろう

立正佼成会開祖庭野会長の「次代を荷負う勇気と英知を持った青少年の育成こそ、もっとも急務なことです。」という御指導のもと、昭和４４年結成しました。

現在、ビーバー、ボーイ、シニアー、ローバーと各隊登録し、活動しております。私達も発団２０周年を迎え、一層の飛躍をしたいと思っています。

ビーバー隊	隊長	神宮啓至
	隊員	神宮一浩
	〃	原田圭一郎
ボーイ隊	隊長	堀口修央
	副長	塚本佳秀
	隊員	新井秀之
	〃	川鍋泰規
	〃	塚越勇太
	〃	片平高史
	〃	坂口修一
	〃	湯浅祐司
	〃	武井一浩
	〃	田口博之
	〃	渡辺修康
シニアー隊	隊長	八木健之
	副長	永田厚
	隊員	深沢幹雄
	〃	長岡敦
	〃	丸橋仁
	〃	吉沢伸明
	〃	平賀章哲
	〃	新野太郎
	〃	長木文紀

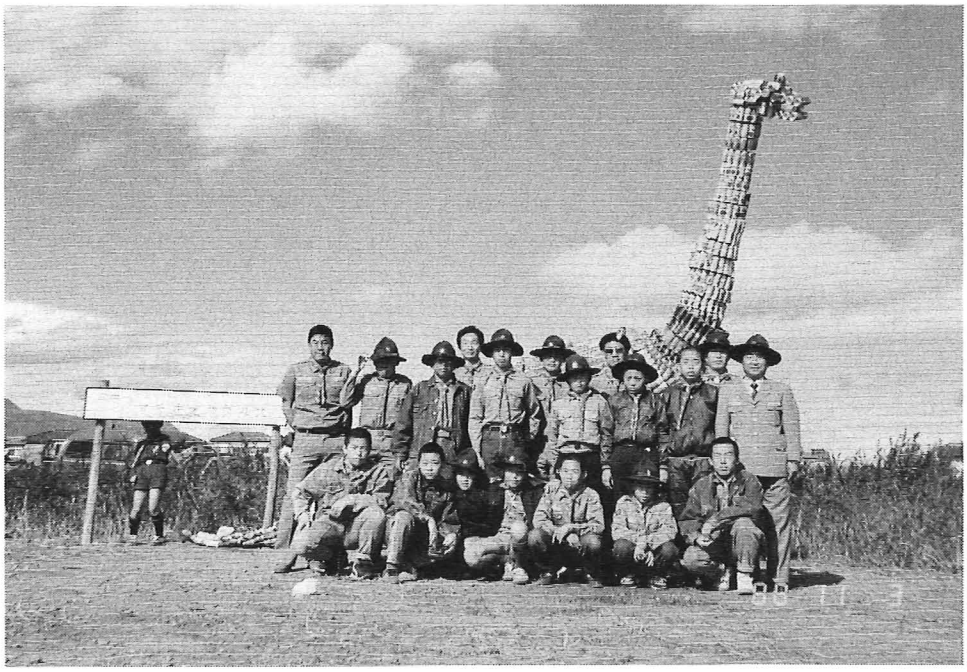
カブ隊	隊長	仁藤欽子
	副長	桜井利光
	〃	田口勝英
	ＤＤ	塚越弘巳
	ＤＭ	武井理江
	隊員	塚越章裕
	〃	武井一憲
	〃	椛澤貴行
	〃	坂口真也
	〃	倉林成光
	〃	桜井一欽
	〃	島方康雄
	〃	島方啓介
	〃	高橋直孝
	〃	原田竜之助
	〃	武井利之
	〃	山田真司
ローバー隊	隊員	仁藤浩一
		高木宏昌

高崎第２１団

所在地　高崎市井野町 324-26
団登録年月日　昭和５３年５月１５日

私達の高崎第２１団は昨年、一里塚とも称せられた十周年を記念することが出来ました。この十年の年月の間には指導者の方々をはじめ、皆様方の多大なる御苦労により漸くスカウト活動も充実してき、団・育成会・隊の各組織が機能し確立して、登録においても地区内で上位を占める位置になってきました。

十周年ではスカウトをはじめ一丸になって巨大空き缶ザウルスを製作、ＴＶ・新聞等で全国的にボーイスカウトの奉仕活動から創作の夢ということで広くＰＲさせて戴きました。又その記念行事の寄付金等で今年度スカウトハウスの新築が実現され、益々の団飛躍に志しております。



隊名	加盟年月日	スカウト	リーダー	総員
SS隊	S.63.4.1	9	1	10名
BS隊	S.53.5.15	20	5	25名
CS隊	S.53.5.15	19	6	25名
BVS隊	S.60.4.1 試行隊 S.61.4.1	14	3	17名

団委員　15名　　育成会理事　15名

高崎第22団

ボーイ隊は「ちかいとおきて」を実行し、野営訓練を。
カブ隊は「やくそくとさだめ」を守り、野外活動を。
ビーバー隊は「なかよく、げんき」に遊ぶ、戸外活動を。
スカウトが、訓練を通して、
人間として正しく生きることを学びとってゆく、
それが、私たちの願いです。

高崎第22団　初期登録　昭和55年4月1日　登録番号　第５２２０号
団委員長　城田　富志夫
団 委 員　遠藤　潤　飯塚　敏一　和田　徹
佐藤　精一　佐藤　修　茂木　美佐江

カブスカウト隊
初期登録　昭和55年4月1日　登録番号　第４４２８号
隊　長　神宮　武久
副　長　工藤　弘子　飯塚　洋子　畠　史子

ボーイスカウト隊
初期登録　昭和59年4月1日　登録番号　第７４１６号
隊　長　工藤　郁二
副　長　米田　政徳　深沢　光男

ビーバースカウト隊
初期登録　昭和61年4月15日　登録番号　第　２００号
隊　長　米田　七生

初期登録	
団	S49.8.4
	No.4252
ビーバー隊	S62.4.1
	No. 682
カブ隊	S49.8.4
	No.2992
ボーイ隊	S50.4.1
	No.6093
シニアー班	S53.4.1

梅香る古城の里

みきと第1団

思いやりの輪を広げよう！

ビーバー隊

山木健太　青木勇気
野中大士　萩原良太

カブ隊

嶋田剛志　小沢篤史
小沢伸吾　小山達也
佐野康裕　山木勇一
永井秀一　笠原裕也
嶋田龍彦　南波孝宏
太田健一郎　荒舘　智

ボーイ隊

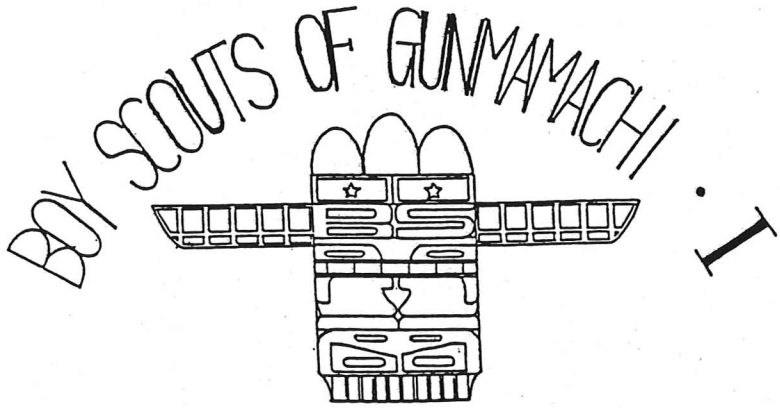
小沢直樹　松井健介
上口達也　松岡　寛
小沢新太郎　榊原　仁
中山寛之　宮沢　諭
林　行広　中嶋勇志
西　勝司　宮沢智之
宮沢信明　高橋伸頭

シニアー班

橋本義治　星　新吾
石井泰行　田畑厚司

わが団は、昭和５２年4月１日、箕郷町第一団より、分封独立し、今年で１３年目に入りました。この間、数多くのボーイスカウトたちが、誕生し、そして人間として一番大切な、他の人々に尽くす、奉仕の心に、裏打ちされた心の豊かさを持ったスカウトに成長し、実社会へと、巣立っていきました。

現在、残念ながら隊員数の、少ない時期に入っておりますが、むしろこれをチャンスとしスカウト活動の『原点にもどろう』をモットーとし、精神面、技能面を充実させることを第一の目標とし、日夜努力しております。



群馬町第一団 ・リーダー ・ 団委員紹介

シニア隊		ボーイ隊		カブ隊	
隊長	谷口 喜久雄	隊長	徳武 健二	隊 長	松下 克夫
副長	狩野 好 彦	副長補	有沢 太一	デンマザー	静 佐智子
隊員	１４名	隊員	１３名	隊 員	７名
団委員長	田渕 契之助	団委員	静 廣行	中林 栄次	有沢 祐子
副団委員長	小黒 隆 史		青木 五夫	新谷 さか江	毛利 久子

ボーイスカウト

吉井第1団

団登録番号　5541
初期登録　昭和57年4月18日
所　在　地：吉井町長根1378-8
斉藤団委員長宅

群馬のスカウトの皆さん、こんにちは！
私達吉井第１団のスカウトは『いつも元気』を合言葉に世界中の仲間と共に楽しく、そして奉仕の精神を学びつつ愛され、尊敬されるスカウトを目指し絶えず成長していきたいと思います。
機会が有りましたら群馬の西毛地区　自然がいっぱいの吉井町へ、是非一度出掛けて下さい。

団委員長　斉藤　長太郎

ボーイ隊
隊長　寺尾　保
初期登録　S59.4.1
登録番号　7631

カブ隊
隊長　橋爪　武士
副長　山崎　京子
初期登録　S57.4.18
登録番号　4902

ビーバー隊
隊長　柳沢　道子
副長　寺尾　悦子
初期登録　S61.4.1
登録番号　30

玉村町第１団

玉村町第１団は昭和57年の発団以来、８年目という若い団です。現在３ケ隊と１班があり、ビーバー隊は月２～３回、カブ隊、ボーイ隊は月３回と活発に活動しています。

団の行事もオーバーナイトハイク、バザー、キャンプ、クリスマス、スキーと多彩です。また、町のキャンプ場の清掃奉仕や、ふるさとまつりのオープニングパレードへの参加、町内一周名所めぐりウォークラリーなど、地域に根ざした活動にも力を入れています。

わが団のすばらしさは、リーダーの熱心さと、父兄の協力にあります。県内一の人口急増地ということもあり、スカウト数も順調に増えていますが今後とも魅力あるスカウト活動を目指し、玉村町にボーイスカウト運動を定着させたいと願っています。

富岡第1団

◇ 所在地　富岡市富岡 439-3
◇ ☎　0274-62-4113
◇ 団登録　2843
◇ 発　団　s,41,7,5

登録番号

カブ隊
(7735)
隊長
橘　勢太

ボーイ隊
(4561)
隊長
佐藤　一好

団　委　員　会

団委員長　折茂　牧雄
副団委員長　横山　保

育　成　会

☆ 会　長　井上　千司
副会長　横山　保

＝年　　表＝

西暦	日本元号	日　本　の　う　ご　き
1922年	大正11年	少年団日本連盟設立(静岡市)初代総裁 後藤新平氏。
1923年	大正13年	ボーイスカウト国際事務局登録 連盟歌「花は薫るよ」採用。
1925年	大正15年	「ちかい」「おきて」制定。
1935年	昭和10年	財団法人(大日本少年団連盟)認可。
1941年	昭和16年	政府の方針により大日本少年団を改組みし、健志会となる。
1946年	昭和21年	ボーイスカウト運動再建承認(総指令部民間情報教育局)。
1947年	昭和22年	ボーイスカウト日本連盟設置。
西暦	日本元号	群馬県連盟のうごき
1948年	昭和23年	ボーイスカウト隊結成準備のため、指導者公認講習会開設、一ノ宮公民館に48名参加、同年リーダースクラブ結成。
1949年	昭和24年	●県連盟結成準備委員会を前橋商工クラブで開催。 ●各隊代表者会議を開催し、規約審議。 ●11月6日、前橋公園にて日本ボーイスカウト群馬県連盟結成。日本連盟より三島理事長臨席。11ヶ隊 隊員286名。 ●第1回ボーイスカウト大会参加、皇居前広場。 ●合同野営大会開催 岩鼻 隊員145名参加。
1950年	昭和25年	●全群馬ボーイスカウト大会開催 沼田公園 32隊 822名参加。 ●国際復帰祝賀第2回全国大会 新宿御苑 608名参加。 ●県連結成一周年記念式 高崎公園。
1951年	昭和26年	●第3回全群馬ボーイスカウト大会開催 伊勢崎市華蔵寺公園。650名参加 ●第3回野営訓練大会参加、220名、山形県蔵王 ●県連結成二周年記念式 太田市東山球場。
1952年	昭和27年	●高崎こども博協力ジャンボリー 観音山 500名参加。 ●第4回全群馬野営大会開催 榛名湖畔。 ●県連結成三周年記念式 県連総会開催 高崎市南小学校。
1953年	昭和28年	●第5回全群馬BS招待野営大会 三笠宮殿下来臨 北野知事出席、嬬恋村新鹿沢 東京、埼玉、茨城、山梨連盟参加。本県 800名 県外 400名計1,200名参加。 ●県連結成四周年記念大会 桐生市新川グランド 745名参加。
1954年	昭和29年	●第6回全群馬野営大会開催 赤城山大沼湖畔。 ●県連結成五周年記念大会開催 前橋市南小学校 860名参加。
1955年	昭和30年	●第7回全群馬野営大会開催 桐生市相生神平　296名参加。 ●県連結成六周年記念大会開催 渋川中学校　597名参加。
1956年	昭和30年	●第8回全群馬野営大会開催 軽井沢。 ●第1回日本ジャンボリー参加 軽井沢 全国11,640名 本県400名参加。 ●県連結成七周年記念大会開催 伊勢崎市公民館 700名参加。
1957年	昭和32年	●第9回全群馬野営大会開催 銚子君ヶ浜 18隊 287名参加。

1957年	昭和32年	●アメリカ第３地区野営大会参加 高崎第７隊 吉田信之君。 ●県連結成八周年記念大会開催 藤岡小学校 600名参加。
1958年	昭和33年	●新団発団 太田１団、４団、５団、桐生２団、３団、４団、６団、前橋１団、水上１団、高崎７団、11団。 ●第10回全群馬野営大会開催 前橋市敷島公園 700名参加。 ●シニアースカウト富士野営参加 山中野営場 9名参加。 ●県連結成九周年記念大会開催 桐生市産業文化会館 700名参加。
1959年	昭和34年	●第２回日本ジャンボリー参加 滋賀県あいば野 348名参加。 ●第10回世界ジャンボリー参加 フィリッピン 12名参加。 ●第11回全群馬野営大会開催 太田市公民館 700名参加。 ●県連結成10周年記念大会開催 沼田市西小学校。 ●スカウト倍増運動で、日本連盟宣伝車派遣 県内巡回。
1960年	昭和35年	●新団発団 館林１団。 ●スカウトシンポジューム開催 伊勢崎市公民館 600名参加。 ●年長隊富士野営大会参加 伊勢崎第６団 １名参加。 ●県連結成11周年記念大会開催 高崎市東小学校。
1961年	昭和36年	●年長隊富士野営大会開催 山中野営場 ４名参加。 ●沖縄スカウト交歓派遣 ２名参加。 ●第12回全群馬野営大会開催 利根郡丸沼湖畔 500名参加。 ●県連結成12周年記念大会 群馬会館ホール 700名参加。
1962年	昭和37年	●新団発団 高崎12団、15団。 ●第１回群馬カブラリー開催 高崎市 300名参加。 ●アジアジャンボリー(第３回日本ジャンボリー)開催。 (兼第13回全群馬野営大会) ●県連結成13周年記念大会開催 安中小学校 1,170名参加。 ●全国カブラリー参加 大宮市大宮公園 400名参加。
1963年	昭和38年	●新団発団 桐生９団、10団、前橋５団。 ●第14回全群馬野営大会開催 榛東村陸上自衛隊 600名参加。 ●県連結成14周年記念式 館林市三の丸公園 1,300名参加。
1964年	昭和39年	●関東合同野営大会参加 榛名山沼の原 1,000名参加。 ●県連結成15周年記念大会開催 前橋市。
1965年	昭和40年	●新団発団 大間々１団、高崎17団、18団。 ●年長隊富士野営大会参加 山中野営場 22名参加。 ●中国(台湾)ジャンボリー参加 １名参加。 ●第１回スカウトラリー開催 伊勢崎市華蔵寺 1,200名参加。 ●B-P祭開催 高崎市東小学校体育館。
1966年	昭和41年	●新団発団 高崎19団、富岡１団。 ●関東カブラリー開催 千葉県稲毛海岸 388名参加。 ●第４回日本ジャンボリー開催 岡山県日本原 360名参加。 ●第２回B-P祭開催 前橋市スポーツセンター 群馬県連盟歌制定 作詞

1966年	昭和41年	鈴木比呂志 作曲 植村亨先生に感謝状贈呈。
1967年	昭和42年	●新団発団 桐生11団、12団 ●第５回関東カブラリー開催 高崎観音山 6,000名参加。 ●第６回青年スカウト野営大会開催 山中野営場 ２名参加。 ●第12回世界ジャンボリー派遣(アメリカ) ５名参加。 ●韓国ジャンボリー派遣。１名参加。 ●昭和42年度富士野営大会参加 山中野営場 ６名参加。 ●第３回B-P祭開催 桐生市産業文化会館 1,200名参加。
1968年	昭和43年	●第６回エセックスジャンボリー派遣(英国) １名参加。 ●昭和43年度年長隊富士野営(１～２回)派遣 山中野営場。 ●第16回県野営大会開催 高山村大原キャンプ場。 ●第５回ニュージーランドジャンボリー派遣 ５名参加。 ●第４回群馬県B-P祭開催 高崎市第３中学校。
1969年	昭和44年	●新団発団 桐生１団、前橋７団、高崎８団、20団。 ●第８回青年合同野営大会参加 那須野営場。 ●国際キャンプスタッフ派遣 １名参加。 ●年長隊富士野営(１～２回)派遣 山中野営場。 ●第６回関東カブラリー参加 日光市。 ●県連結成20周年記念大会開催 沼田小学校。 ●オーストラリア・シニアースカウト大会派遣。 ●第５回B-P祭開催 伊勢崎市豊受小学校。
1970年	昭和45年	●新団発団 桐生５団、渋川２団。 ●第12回スコットランド国際ジャンボレット派遣。 ●フィンランドジャンボリー派遣。 ●第５回日本ジャンボリー参加 朝霧高原。 ●第４回中国(台湾)ジャンボリー派遣 １名参加。 ●第９回オーストラリアジャンボリー派遣。
1971年	昭和46年	●新団発団 桐生８団。 ●第６回B-P祭開催 前橋工業高校。 ●第13回世界ジャンボリー開催 朝霧高原。 ●第７回関東カブラリー開催 桐生市公園一帯。 ●県野営大会開催 大原キャンプ場。 ●沖縄研修隊派遣。
1972年	昭和47年	●スコットランド国際パトロール派遣。 ●第９回青年スカウト合同野営大会参加 山中野営場。 ●日本連盟結成50周年記念式典参加 明治神宮会館。
1973年	昭和48年	●新団発団 太田３団、桐生13団。 ●スエーデンナショナルキャンプ派遣 １名参加。 ●第４回国際芸術週間英国派遣 １名参加。 ●第８回アメリカナショナルジャンボリー派遣 １名参加。

1973年	昭和48年	●県キャンポリー開催 赤城山小沼湖畔 416名参加。 ●第10回オーストラリアジャンボリー派遣 2名参加。 ●フィリッピン50周年記念ジャンボリー派遣 3名参加。
1974年	昭和49年	●新団発団 館林2団、桐生14団、高崎9団、箕郷1団。 ●第6回日本ジャンボリー開催 北海道千歳原。 ●第7回ニュージーランドジャンボリー派遣。 ●第1回スカウトフォーラム開催 山中野営場。
1975年	昭和50年	●新団発団 前橋3団、4団、高崎10団。 ●第2回群馬カブラリー開催 前橋市敷島公園 2,200名参加。 ●国際キャンプスタッフ派遣 2名参加。 ●第14回世界ジャンボリー派遣 2名参加。 ●県野営大会開催 バラギキャンプ場 814名参加。 ●第4回オーストラリアスカウト大会派遣 1名参加。
1976年	昭和51年	●新団発団 大泉3団、桐生15団、16団、前橋11団、新町1団。 ●日米フレンドシップパトローリー派遣(多摩) 40名参加。 ●日米交歓派遣 アメリカ 4名参加。 ●第1回シニアースカウト野営大会 新潟県佐渡 25名参加。
1977年	昭和52年	●新団発団 群馬町1団。 ●カナダナショナルジャンボリー派遣 1名参加。 ●第9回アメリカジャンボリー派遣 1名参加。 ●第5回韓国ジャンボリー派遣 1名参加。 ●シニアースカウト大会開催 相馬ヶ原。 ●第20回県野営大会開催 相馬ヶ原。
1978年	昭和53年	●新団発団 大泉4団、尾島1団、桐生17団、18団、高崎21団。 ●第4回日米フレンドシップパトローリー(多摩) 40名参加。 ●第7回日本ジャンボリー参加 御殿場 305名参加。
1979年	昭和54年	●新団発団 太田7団、大泉5団。 ●第5回日米フレンドシップパトローリー(多摩) 40名参加。 ●スカウト週間奉仕 各地(清掃奉仕) 1,621名参加。 ●中央ヨーロッパ派遣(ロンドン) 3名参加。 ●北ヨーロッパ派遣(コペンハーゲン) 3名参加。 ●第3回群馬カブラリー開催 桐生市新川球場 1,274名参加。 テーマ「まつりと緑とぼくたちと」開会式後水道山公園へのピクニックや、スカウト宅へ分宿し、友情を深めた。 ●県連規約特別委員会設置し、規約改正を審議した。 ●スカウトフォーラム開催 桐生市青年の家 SS41名参加。 ●県連結成30周年記念祝賀会開催 前橋商工会議所。 ●第4回アジア・太平洋地域ジャンボリー派遣 シドニー 2名参加。 ●国際児童年全国縦断キャンペーン実施。県内各地。
1980年	昭和55年	●新団発団 桐生20団、高崎6団、22団、榛東1団。

1980年	昭和55年	●第３回シニアスカウトフォーラム 山中野営場 １名参加 ●第17回スコットランド国際ジャンボレット派遣 １名参加。 ●日米交歓派遣(アメリカ) ２名参加。 ●財団設立発起人合同会議開催 諏訪会館。
1981年	昭和56年	●新団発団 太田第８団、邑楽町１団。 ●第７回日米フレンドシップパトローリー(多摩) 48名参加。 ●第３回シニアースカウト大会開催 佐渡 45名参加。 テーマ「TEE EXCITING SADO」荒海に浮かぶ佐渡に挑戦した。 ●群馬県連盟創立30周年記念 第21回県野営大会開催 相馬ヶ原 テーマ「いどめ原野に 若さと友情」1,150名参加。 ●第10回アメリカジャンボリー派遣 １名参加。 ●群馬県青少年会館へ、分担金700万円を寄贈する。
1982年	昭和57年	●新団発団 吉井１団、玉村町１団、前橋12団。 ●シニアースカウト・トレーニング 那須野営場 42名参加。 ●日本連盟創立60周年の年、世界75周年記念スカウトの年。 ●第４回群馬カブラリー開催、館林市 2,293名参加。 ●第８回日本ジャンボリー参加 宮城県蔵王 360名参加。 ●パトロール・リーダー・トレーニング 東毛少年自然の家 96名参加。 ●全国キャラバン 桐生→前橋(県庁)→館林→羽生を自転車で、全国縦断キャラバンに奉仕した。 ●BS・GS合同クリスマス会を開催した。 ●群馬県連盟富士スカウト第１号誕生 田沼寿君。 ●第18回スコットランド国際パトロール・ジャンボレット派遣、日米交歓派遣 各１名参加。 ●第８回アジア太平洋地域ジャンボリー派遣 ３名参加。 ●青少年会館内敷地に、県連倉庫80万円で新設。 ●青少年会館が落成し、団体事務室に県連事務局移転した。
1983年	昭和58年	●新団発団 太田２団、前橋13団、新里１団、薮塚１団、高崎23団。 ●スカウト・ラリー開催 桐生市陸上協議場 1,046名参加。 ●パトロール・リーダー・トレーニング 東毛少年自然の家 126名参加。 ●関東ジャンボリー準備委員会発足。 ●BS・GS交歓会開催 青少年会館で野外調理で交流 111名参加。 ●日米フレンドシップパトローリー(多摩) 24名参加。 ●第15回世界ジャンボリー参加 カナダ １名参加。 ●第１回タイ・シニアースカウト大会派遣 １名参加。 ●宗教アンケート「リーダー100人に聞く」実施。 ●日本生命財団より、テント11張り寄贈受ける。 ●県連規約特別委員会が、改正案を答申した。 ●関東ジャンボリー実行委員会開催、東京他、６回開催。 ●国民体育大会 身体障害者スポーツ大会奉仕 各地

1983年	昭和58年	●スズランデパートに需品部開設。
1984年	昭和59年	●新団発団 太田６団、館林３団、伊勢崎12団。 ●シニアースカウト・トレーニング 那須野営場 24名参加。 ●第１回シニアースカウト大会参加 宮城県蔵王 55名参加。 ●パトロール・リーダー・トレーニング 東毛少年自然の家 55名参加。 ●BS・GS交歓会開催 青少年会館 68名参加。 ●日米フレンドシップパトローリー(多摩) 41名参加。 ●第19回スコットランド国際ジャンボレット派遣 １名参加。 ●第７回オーストラリアベンチャー派遣 ２名参加。 ●アジア太平洋ジャンボレラ派遣 １名参加。 ●関東ジャンボリー関係会議開催 33回開催。 ●科学万博協賛派遣 茨城県 指導者・スカウト 12名参加。 ●県連規約を改正し、規約集発刊。
1985年	昭和60年	●スカウト展開催 太田、桐生、前橋、高崎の４会場で開催。 ●新団発団 桐生21団。 ●第４回シニアースカウト・トレーニング 那須野営場 24名参加。 ●第５回カブラリー開催 高崎市観音山一帯 テーマ「カブ山西遊記」 ブルートレイン「西遊記号」運転 2,039名参加。 ●第１回関東ジャンボリー開催 相馬ヶ原 8,500名参加。 参加県連盟 茨城、栃木、埼玉、山梨、群馬県連盟。 ●パトロール・リーダー・トレーニング 東毛少年自然の家 87名参加。 ●BS.GS.IYYプロジェクト テーマ「21世紀に向かって私達に何ができるか」赤城青年の家でキャンプ。 ●日米フレンドシップパトローリー(多摩) 26名参加。 ●青年シンポジュウム参加 山中野営場 ２名参加。 ●第11回アメリカジャンボリー派遣 ２名参加。 ●オランダジュビリージャンボリー派遣 ２名参加。 ●フィンランドミイルキャンプ派遣 １名参加。 ●日連登録料が、一人当たり 300円値上げとなったが、県連盟運営費は値上げせず現状のままとした。
1986年	昭和61年	●ビーバー隊発隊 16隊 239名 ボーイ隊発隊 １隊。 ●スカウト展 ４会場で開催した。 ●第５回シニアースカウトトレーニング 那須野営場 45名参加。 ●日米フレンドシップパトローリー(多摩) 24名参加。 ●第９回日本ジャンボリー参加 宮城県蔵王 450名参加。 ●パトロール・リーダー・トレーニング 東毛少年自然の家 96名参加。 ●BS・GS交歓会 青少年会館 69名参加。 ●富士スカウト２名誕生 吉田信久 星野裕之両君。 ●第20回スコットランド国際パトロールジャンボレット派遣 ２名、日米スカウト交歓派遣 ２名、香港ジュビリージャンボリー派遣 １名、第11回

1986年	昭和61年	ニュージーランドジャンボリー派遣　1名、第10回オーストラリアローバームート派遣　2名、第1回ネパールジャンボリー派遣　2名。
1987年	昭和62年	●ビーバー隊発隊 14ヶ隊 ボーイ隊発隊 3ヶ隊 シニアー隊発隊 1ヶ隊、ローバー隊発隊 1ヶ隊。 ●スカウト展が、日本連盟補助金70万円交付うけ、4地区で盛大に開催された。 ●第4回シニアースカウト大会開催 石川県能登島一帯。 テーマ「THE EXITING NOTO」個人プロジェクトと、サバイバルキャンプを実施し、指導者 31名 スカウト 115名参加。 ●パトロール・リーダー・トレーニング 金山青年の家 69名参加。 ●BS・GS交歓キャンプ 赤城青年の家 72名参加。 ●県連フォーラム開催 青少年会館「世界の中の日本シニアースカウトの役割」地区代表スカウト 20名参加。 ●富士スカウト2名誕生 田村諭、松本英久両君。 ●日米スカウト交歓派遣 1名参加。 ●英国国際ジャンボレット派遣 1名、オーストラリア派遣 2名参加、世界ジャンボリー派遣(オーストラリア) 7名参加。 ●健康安全手帳完成 健康安全委員会主管で500部作成配布。
1988年	昭和63年	●群馬県連盟創立40周年記念行事委員会設置。 ●全国会議で、組織拡大増加目標達成表彰受賞。 ●シニアースカウト・トレーニング 那須野営場 43名参加。 ●第23回野営大会特別準備委員会設置。 ●第6回群馬カブラリー・第1回ビーバーラリー開催 前橋市。 テーマ「きみもセイント」88隊 2,300名参加。 ●群馬県ボーイスカウト振興財団認可(7月14日)。 ●財団理事会 15名 評議員 19名で組織を確立。 ●財団賛助会員募集開始、通常会員、特別会員、法人会員。 ●第2回シニアースカウト大会参加 朝霧高原他 97名参加。 ●パトロール・リーダー・トレーニング 金山青年の家 84名参加。 ●日米スカウト交歓派遣 1名参加。 ●トレーニング・チーム研修会 埼玉、群馬県連盟。 ●リーダーフォーラム開催 青少年会館 62名参加。 ●第15回オーストラリアジャンボリー派遣 1名参加。
1989年	平成元年	●新団発団 明和1団。 ●上毛新聞に一面広告をスポンサー63枠協賛得て掲載した。 ●第12回台湾省ジャンボリー派遣 3名。アメリカジャンボリー派遣 2名。イギリスディカバリー89派遣 1名。 ●少年の船指導者派遣 4名。 ●第23回野営大会開催 尾瀬戸倉スキー場 2,600名参加。テーマ「いどめ尾瀬 年輪40」スカウトの祭典として、各種イベントを展開した。

日本ボーイスカウト群馬県連盟規約

昭和33年４月20日制　　定
昭和40年５月５日一部改正
昭和48年５月27日一部改正
昭和50年６月15日一部改正
昭和51年８月22日一部改正
昭和55年６月15日一部改正
昭和58年11月25日一部改正

第１章　総　　則

（目　　的）

第１条　この規約は、財団法人ボーイスカウト日本連盟（以下「日本連盟」という。）教育規定第201条の規定に基づき設置された日本ボーイスカウト群馬県連盟（以下「県連盟」という。）の運営等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（事　務　所）

第２条　県連盟の事務所は、前橋市荒牧町２番地の12、財団法人群馬県青少年会館内に置く。

（構　　成）

第３条　県連盟は、県内のすべての加盟団によって構成される。

（地　　区）

第４条　県連盟は、地理的条件、加盟団の状況、運動の発展状況及び地域の実状等を考慮して、県連盟理事会（以下「理事会」という。）が定める地域ごとに地区を設ける。

第２章　役　　員

（役員及び定数）

第５条　県連盟の役員は、次のとおりとする。

連盟長	１名
副連盟長	若干名
理事長	１名
副理事長	若干名
理事	
①　地区代表理事	地区の数
②　学識経験者理事	若干名
県コミッショナー	１名

県副コミッショナー	若干名
名誉会議議員	若干名
監　　事	2　名

(連　盟　長)

第6条　連盟長は、理事会の発議により県連盟総会(以下「総会」という。)において推たいする。

2．連盟長は、県連盟及び県内のスカウト運動を代表し、かつ、統理する。

3．連盟長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(副連盟長)

第7条　副連盟長は、必要に応じて、前条と同じ手続き及び任期をもって、置くことができる。

2．副連盟長は、連盟長を補佐し、連盟長に事故あるとき又は欠員のとき、これを代理する。

(理　事　長)

第8条　理事長は、理事の互選により就任する。

2．理事長は、理事会の議長となり、県連盟を代表するとともに、その業務を総理する。

(副理事長)

第9条　副理事長は、必要に応じて、理事の互選により就任する。

2．副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は欠員のとき、これを代理する。

(地区代表理事)

第10条　地区代表理事は、当該地区の地区委員長が総会の確認を得て就任する。

2．地区代表理事の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(学識経験者理事)

第11条　学識経験者理事は、連盟長、理事長及び県コミッショナーが合議のうえ、地区代表理事に諮問した後、総会の承認を得て、連盟長が委嘱する。

2．学識経験者理事の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(県コミッショナー)

第12条　県コミッショナーは、理事会の議を経て、連盟長が推薦し、さらに日本連盟中央審議会の議を経て、総長が委嘱する。

2．県コミッショナーの任期は、2年とし、1月1日更新するものとする。ただし、再任を妨げない。

3．県コミッショナーの資格と任務については、日本連盟教育規定(以下「教育規定」という。)の定めるところによる。

(県副コミッショナー)

第13条　県副コミッショナーは、必要に応じて、県コミッショナーの推薦により、理事会の議を経て、連盟長が委嘱する。

2．県副コミッショナーの任期及び資格については、県コミッショナーに準ずる。
3．県副コミッショナーは、県コミッショナーを補佐し、また特に与えられた任務を履行する。

(名誉会議議員)
第14条　名誉会議議員は、総会においてその半数を選出し、残り半数の選出は、連盟長及び県コミッショナーが合議のうえ、地区代表理事に諮問した後、総会の承認を得て、連盟長が委嘱する。
2．名誉会議議員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(監　　事)
第15条　監事は、総会において選任する。
2．監事の任期は、2年とし、再任を妨げないが、他の役員を兼ねることはできない。
3．監事は、県連盟の資金及び経理を監査する。

(役員選考委員会)
第16条　監事及び総会選出の名誉会議議員は、各地区ごとに選出された1名ずつの選考委員と、連盟長が指名した若干名(地区の数を超えない。)の選考委員をもって選考委員会を開き、候補者の推薦を行い、総会においてこれを選出する。

(役員の補充)
第17条　地区代表理事に欠員を生じたときは、後任の当該地区委員長につき理事会の議を経て、理事としての就任を確定する。
2．コミッショナーを除く前項以外の役員にあっては、次回総会までこれを補充しない。
3．補充による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の任期)
第18条　役員の任期は、コミッショナーを除き、当該任期の最終年度の総会終了の時までとする。
2．役員が退任するときには、後任者が就任するまでの間、なお、その職務を行うものとする。

(名 誉 役 員)
第19条　県連盟は、理事会の決議により、顧問、相談役及び参与等の名誉役員を置くことができる。
2．名誉役員の任期は、3年とし、再任を妨げない。
3．名誉役員に関する規定は、理事会が別に定める。

第3章　総　　会

(開催と招集)
第20条　県連盟は、毎年1回、年次総会を開催する。
2．前項の年次総会のほか、必要に応じて理事会、又は総会議員の3分の1以上の要求により、

臨時総会を開催することができる。

3．総会は、連盟長が招集し、招集の通知は、開催日の1週間以前に総会議員が受領できるように送付しなければならない。

（構　　成）

第21条　総会は、次の各号に掲げる議員をもって構成する。

(1)　加盟員で加盟団を代表する者

(2)　第5条に規定する県連盟役員

2．議長は、連盟長又はその指名を受けた者、若しくは議員のうちから総会において選出された者がこれにあたる。

（成立と議決）

第22条　総会の定足数は、議員の過半数（委任状を含む。）とし、その議決は、出席者の多数決による。可否同数のときは、議長がこれを決する。ただし、本規約の改正は、出席者の3分の2以上の同意を得たうえ、日本連盟の承認を受けて、はじめて効力を生ずる。

2．教育規定の改正にともない、本規約を改正しようとするときに、総会を開くことができない場合は、理事会の承認を得て改正し、総会に報告、承認を得なければならない。

（委 任 投 票）

第23条　総会議員は、委任状によってあらかじめ示された議案につき、他の出席議員に議決を委任することができる。ただし、委任によって役員選出に関する議決に加わることはできない。

（承認事項及び審議）

第24条　次の事項は、年次総会の承認を受けるものとする。

(1)　事業計画及びその報告

(2)　予算及び決算

(3)　その他重要事項

2．総会は、提出議案につき、これを審議決定する。

第4章　理　事　会

（責　　務）

第25条　理事会は、県連盟の目的達成のため、重要事項を協議決定し、県連盟の維持、業務の執行及び運営の責に任ずる。

（構　　成）

第26条　理事会の構成は、次のとおりとする。

(1)　理事長（議長）

(2)　副理事長

(3) 理　　事

(4) 事務局長(幹事役として出席し、議決の数に加わらない。)

2．連盟長、副連盟長、県コミッショナー、県副コミッショナー、監事及び理事でない各種委員会の委員長は、随時理事会に出席し、発言することができる。ただし、議決の数に加わらない。

(招　　集)

第27条　理事会は、理事長が随時招集し、開催する。

(成立と議決)

第28条　理事会の定足数は、構成員の過半数(委任状を含む。)とし、議決は、出席者の多数決による。可否同数のときは、議長がこれを決する。ただし、総会に提出する本規約の改正に関する事項は、出席者の3分の2以上の同意を要する。

(常任理事会)

第29条　理事会の委任した事項を審議するため、常任理事会を設けることができる。

2、常任理事会は、理事長及び副理事長並びに理事会で互選された常任理事により構成する。

第5章　名誉会議

(責　　務)

第30条　名誉会議は、理事会の委任により、表彰、感謝等の名誉及び名誉にもとる事項を審議決定する。

(構　　成)

第31条　名誉会議の構成は、次のとおりとする。

(1) 県コミッショナー(議長)

(2) 名誉会議議員

(3) 事務局長(幹事役として出席し、議決の数に加わらない。)

2．県副コミッショナーは、必要に応じて、名誉会議に出席し発言することができる。ただし、議決の数に加わらない。

(招集及び報告等)

第32条　名誉会議は、必要の都度、県コミッショナーが招集する。

2．名誉会議の定足数は、構成員の過半数とし、議決は、出席者の多数決による。

3．名誉会議での議決事項は、理事会に報告しなければならない。

4．表彰に関する規定は、理事会が別に定める。

第６章　各種委員会

（設　　置）

第33条　理事会は、その下部機構として各種の運営委員会を設け、又は必要に応じて、特別委員会を設けることができる。

（運営委員会）

第34条　運営委員会は、「組織・拡張」、「指導者養成」、「進歩」、「野営・行事」、「健康・安全」及び「財政」の６委員会とし、理事会の委任した事項を処理するため、これを常設する。

２．各運営委員会の業務分掌は、理事会が別に定める。

（特別委員会）

第35条　特別委員会は、特定部門につき、理事会から委任された事項を処理するため、必要の都度設ける。

（招　　集）

第36条　委員会は、随時これを開催するものとし、その都度、委員長が招集し、議長となる。

（議決の効力）

第37条　委員会の議決は、特に決定の権限を理事会から委任された場合を除き、すべて理事会の議を経て、その効力を生ずる。

（委　員　長）

第38条　運営委員会及び特別委員会の委員長は、理事会の議を経て、理事長が委嘱する。

（委　　員）

第39条　運営委員会の委員は、各地区から１名ずつ選出された者及び必要に応じて、理事会の承認を得た者について、理事長が委嘱する。

２．特別委員会の委員は、当該委員長と事務局長との合議のうえ、理事会の承認を得て、理事長が委嘱する。

（任　　期）

第40条　運営委員会の委員長及び委員の任期は、１年とし、再任を妨げない。

２．特別委員会の委員長及び委員の任期は、その都度、理事会でこれを定める。

３．補充又は増員による委員長及び委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

第７章　事　務　局

（設　　置）

第41条　県連盟の業務執行機関として、事務局を設ける。

２．事務局の業務執行は、すべて理事会の議定のもとで行われる。

3．事務局には、事務局長のほか、必要に応じて業務処理のため、その他の職員を置くことができる。

（任　　免）
第42条　事務局職員は、理事長が任免する。ただし、事務局長の任免については、理事会の承認を得なければならない。

（事務局長の任務）
第43条　事務局長の任務は、次のとおりとする。
(1)　日本連盟及び県連盟のすべての規約及び方針を遵守し、県連盟の事務を執行する。
(2)　理事会、名誉会議及び各種委員会の幹事役となる。
(3)　事務局の長として、事務局の運営、管理の責に任ずるとともに事務局職員の指導監督を行う。

（給　　与）
第44条　事務局長及びその他事務局職員の給与については、理事会が別に定める。

第８章　経　　理

（資金の管理）
第45条　県連盟の資金及び経理は、理事会の指示に従い維持され、かつ、整理されなければならない。
2．前項の資金及び経理に関する規定は、理事会が別に定める。

（資金の充足）
第46条　県連盟を維持するための資金は、各加盟団及び登録者個人の分担金、賛助金、その他寄付金及び事業収入等をもって、これに充てる。ただし、分担金の金額及び徴収方法は、総会の議を経て決定する。

（会 計 年 度）
第47条　県連盟の会計年度は、毎年４月１日から翌年３月31日までとする。

第９章　補　　則

（トレーニングチーム）
第48条　県連盟に、トレーニングチームを設ける。
2．トレーニングチームに関する規定は、理事会が別に定める。

(教育規定の準用)

第49条　この規約に定めるもののほか、県連盟の運営に関し必要な事項は、教育規定及び同規定に基づく諸規則等を準用する。

(この規約の施行に関し必要な事項)

第50条　この規約の施行に関し、必要な事項は、理事会が別に定める。

附　　則

第１条　地区組織に関しては、日本連盟規約による。

第２条　本連盟に名誉賛助会員をおき、県連盟の維持助成をはかる。

第３条　本規約は、昭和33年４月20日より施行する。

附　　則

本規約は、昭和40年５月５日より施行する。

附　　則

本規約は、昭和48年５月27日より施行する。

附　　則

本規約は、昭和50年６月15日より施行する。

附　　則

本規約は、昭和51年８月22日より施行する。

附　　則

本規約は、昭和55年６月15日より施行する。

附　　則

この規約は、昭和58年11月25日から施行する。

財団法人 群馬県ボーイスカウト振興財団
寄 附 行 為

第 1 章　総　　則

（名　　称）
第１条　この法人は、財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団（以下「財団」）と言う。

（事　務　所）
第２条　この法人の事務所は、前橋市荒牧町２番地の12群馬県青少年会館内に置く。

第 2 章　目的及び事業

（目　　的）
第３条　この法人は、群馬県内におけるボーイスカウト運動を助成し、青少年の品性の陶冶及び国際友愛精神の増進を図り、その健全育成に資することを目的とする。

（事　　業）
第４条　本財団は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
1　群馬県におけるボーイスカウト運動の援助育成。
2　群馬県におけるボーイスカウト運動の普及。
3　指導者養成の協力援助。
4　国内並びに国際ボーイスカウト行事への協力。
5　その他目的達成のため必要な事業。

第 3 章　資産及び会計

（資産の構成）
第５条　本財団の資産は、次に掲げるものをもって構成する。
1　設立当初の財産目録に記載された財産。
2　資産から生ずる収入。
3　事業に伴う収入。
4　寄附金品。
5　その他の収入。

（資産の種別）
第６条　本財団の資産は、基本財産及び運用財産の二種とする。

2．基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産。

(2) 基本財産とすることを指定して寄附された財産。

(3) 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産。

3．運用財産は、基本財産以外の財産とする。

(財産の管理)

第７条　財団の財産は、理事長が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決を経て、定期預金とする等安全確実な方法により、理事長が保管する。

(基本財産処分の制限)

第８条　基本財産は、これを処分し、担保に供することができない。ただし、本財団の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において、理事現在数の３分の２以上の議決を経、かつ、群馬県教育委員会(以下「教育委員会」と言う。)の承認を受けて、その一部に限り処分又は担保に供することができる。

(経費の支弁)

第９条　本財団の経費は、運用財産をもって支弁する。

(事業計画及び収支予算)

第10条　本財団の事業計画及び収支予算は、毎事業年度開始前に理事長が作成し、理事会の議決を経て、教育委員会に提出しなければならない。

2．事業計画及び収支予算を変更する場合も同様とする。

(事業報告及び収支決算)

第11条　本財団の事業報告及び収支決算は、毎事業年度終了後二ヶ月以内に理事長が収支計算書、正味財産増減報告書、貸借対照表及び財産目録を作成して監事の意見を付し、理事会の議決を経て、教育委員会に報告しなければならない。

(長期借入金)

第12条　本財団が借入金をしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事会において理事現在数の３分の２以上の議決を経、かつ、教育委員会の承認を受けなければならない。

(新たな義務の負担及び権利の放棄)

第13条　第８条ただし書き及び前条の規定に該当する場合、並びに収支予算で定めるものを除くほか、本財団が新たな義務の負担又は権利の放棄を行おうとするときは、理事会の議決を経、かつ、教育委員会の承認を受けなければならない。

(会 計 年 度)

第14条　本財団の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第４章　役員及び職員

（役　　員）

第15条　この財団に、次の役員をおく。

1　理　事　９名以上15名以内（うち、理事長１名、副理事長３名以内、及び常務理事１名）。

2　監　事　３名以内

（役員の選任等）

第16条　役員の選任等については次のとおりとする。理事及び監事は、評議員会において選任する。

２．理事は互選により、理事長、副理事長及び常務理事を選任する。

３．理事及び監事は、相互に兼務することはできない。

（職　　務）

第17条　理事長は、本財団の業務を総理し、本財団を代表する。

２．副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき、又は、欠けたときは、あらかじめ理事長が指名した順序でその職務を代行する。

３．常務理事は、理事会の議決に基づき本財団の日常の業務に従事する。

４．理事は、理事会を組織し、財団の業務を議決し、執行する。

５．監事は、次の職務を行う。

(1)　法人の財産の状況を監査する。

(2)　理事の業務執行の状況を監査する。

(3)　財産の状況又は業務の執行について、不整の事実を発見したときは、これを理事会、評議員会に報告する。

(4)　前号の報告をするため必要があるときは、理事会又は評議員会を招集する。

（任　　期）

第18条　役員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

２．補欠又は増員による役員の任期は、前項の規定にかかわらず前任者又は現任者の残任期間とする。

３．役員は、辞任又は任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

（解　　任）

第19条　役員が次の各号の一に該当するときは、理事会の議決により、解任することができる。

1　心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められたとき。

2　職務上の義務違反その他役員たる地位にふさわしくない行為があると認められたとき。

（報　　酬）
第20条　役員は無給とする。

（評　議　員）
第21条　この法人は、評議員18人以上30人以内をおく。評議員は、理事会で選出し、理事長がこれを任命する。第18条、第19条、第20条の規定は、評議員に準用する。この場合、同条中「役員」とあるのは「評議員」と読み替えるものとする。

（評議員の職務）
第22条　評議員は、評議員会を組織し、この寄附行為に定める事項のほか理事会の諮問に応じ、理事長に対し、必要と認める事項について助言する。

（職　　員）
第23条　本財団の事務を処理するため、必要な職員をおくことができる。
２．職員は、有給とし、理事長が任免する。

第５章　会　　議

（構　　成）
第24条　理事会は、理事をもって構成する。

（機　　能）
第25条　理事会は、この寄附行為に規定するもののほか、本財団の業務に関する重要な事項を議決し、執行する。

（理事会の招集等）
第26条　理事会は、毎年３回理事長が招集する。ただし、理事長が必要と認めた場合、又は理事現在数の３分の１以上から会議の目的である事項を示して招集の請求があったときは、臨時に理事会を招集しなければならない。
２．理事会を開催するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を示した文書をもって、10日以前に通知しなければならない。

（理事会の議長）
第27条　理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

（理事会の定足数）
第28条　理事会は、理事現在数の３分の２以上の出席がなければ、開会することができない。

（議　　決）
第29条　理事会の議事は、この寄附行為に別に定めるものを除き、出席理事の過半数をもって決

し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面表決等)

第30条　やむを得ない理由のため、理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の理事を代理人として表決を委任することができる。この場合、前２条の規定の適用については出席したものとみなす。

(評 議 員 会)

第31条　次に掲げる事項については、あらかじめ評議員会の意見をきかなければならない。

1　事業計画及び収支予算に関する事項。

2　事業報告及び収支決算に関する事項。

3　不動産の買入れ、基本財産の処分又は担保の提供に関する事項。

4　その他この法人の業務に関する重要事項で理事会が必要と認めた事項。

(議　事　録)

第32条　会議の議事については、次の各号に掲げる事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1)　開催の日時及び場所。

(2)　構成員の現在数。

(3)　会議に出席した構成員の氏名（書面表決者及び表決委任者の場合にあっては、その旨を付記すること)。

(4)　審議事項及び議決事項。

(5)　議事の経過の概要、及びその結果。

(6)　議事録署名人の選任に関する事項。

２．議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２名以上が押印しなければならない。

第６章　賛 助 会 員

(賛 助 会 員)

第33条　財団の目的に賛同する個人又は法人は、賛助会員となることができる。

２．賛助会員は、財団の事業遂行を援助するため、理事長が別に定める賛助会費を納付しなければならない。

(加　入　届)

第34条　賛助会員になろうとする者は、賛助会費を添えて、加入届を提出するものとする。

(資 格 喪 失)

第35条　賛助会員は、次の各号のいずれかに該当したときは、その資格を喪失する。

1　脱退。
2　死亡、失踪宣言又は法人の解散。

第７章　寄附行為の変更及び解散

(寄附行為の変更)
第36条　この寄附行為は、理事会において理事現在数の４分の３以上の議決を得、かつ、教育委員会の認可を受けなければ変更することができない。

(解　　散)
第37条　本財団は、民法第68条第１項第２号から４号までの規定によるほか、理事会において理事現在数の４分の３以上の議決を得、かつ、教育委員会の許可を受けなければ、解散することはできない。

(残余財産の処分)
第38条　本財団の解散に伴う残余財産は、理事会において理事現在数の４分の３以上の議決を経、かつ、教育委員会の許可を受けて、本財団の目的に類似の公益事業を行う団体に寄附するものとする。

第８章　補　　則

(書類及び帳簿の備付等)
第39条　本財団の事務所には、次の書類及び帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令の規定により、これに代る書類及び帳簿を備えたときは、この限りでない。
(1)　寄附行為。
(2)　役員及びその他の職員の名簿並びに履歴書。
(3)　業務日誌。
(4)　寄附行為に規定する機関の議事に関する書類。
(5)　収入支出に関する帳簿及び証拠書類。
(6)　資産台帳及び負債台帳。
(7)　官公庁往復書簡。
(8)　その他必要な書類及び帳簿。
２．前項第１号、第２号、第４号及び第６号の書類及び帳簿は永年、第５号の書類及び帳簿は10年以上、第３号及び第７号の書類及び帳簿は３年以上保存しなければならない。

(委　　任)
第40条　この寄附行為の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て、理事会が別に定める。

（附　　則）

1　本財団の設立当初の事業年度は、第14条の規定にかかわらず、設立の許可があった日から翌年３月31日までとする。

2　設立時の役員の任期は、第18条の規定にかかわらず、第11条に定める当該年度の報告書提出時までとする。

3　賛助会員の種別は、下記の通りとする。

通常賛助会員は、年額 3,000円１口以上

特別賛助会員は、年額10,000円１口以上

法人賛助会員は、年額10,000円１口以上を納入する者。

4　法人成立の年月日　　昭和63年７月14日

群馬県ボーイスカウト振興財団設立のあゆみ

昭和38年頃、財団設立の要望がたかまり、有志並びに当時の県連盟役員の努力で、募金が開始された。

昭和43年度末で、維持財団資金として、665,289円となり、昭和44年度末で、維持財団資金は、762,889円に達した。

昭和46年度県連盟総会の決議で、各団の新規登録者より基金募集することが決まり、年度末集計で維持財団資金は、1,611,439円となった。

昭和47年度総会資料では、財団振替金として県連盟一般会計より434,250円を支出して、財団設立趣意書を起案した。

昭和47年度末維持財団資金は、3,025,657円となり、48年度末維持財団資金は、3,278,104円。昭和55年度末で、7,278,982円と順調な伸びを示したが、同年理事会で当初3,000,000円の目標では、財団としての認可ができないことが判明したので、募金目標を10,000,000円に更新した。

以後、募金も停滞し、各団よりの新規登録者の基金募集も中止となり、財団設立は見送られてきた。

然しながら、ボーイスカウト群馬県連盟の運営には財団の果実をもって運営費の一部に充当しないと、スカウト運動の発展の為には是非必要であるとの見地から、昭和62年９月17日、群馬県教育委員会へ財団設立の陳情をして、昭和63年１月18日財団設立準備委員会を群馬県青少年会館で開催した。

資産も長期にわたったので、利息を加えて13,262,730円となり、同年１月21日提出書類について、教育委員会と打合せ、同年４月14日財団設立申請書を群馬県教育委員会へ提出した。

その後、当局で検討がなされ、昭和63年７月14日財団設立が認可された。前橋地方法務局へ７月19日登記を完了し悲願の財団が誕生した次第である。

基本財産も現在16,830,000円となり、本年度は、2,000,000円の目標で賛助会員の納金を予定し順調に推移しております。

資　料　編

日本連盟表彰

きじ章　昭和54年　福田赳夫　　昭和63年　中曽根康弘

たか章

昭和35年	星野　宏	昭和50年	小井戸哲夫	昭和57年	渋木　羨夫
〃 40年	神田　坤六	〃 52年	高橋　邦一	〃 58年	根岸　努
〃 41年	勝　実道	〃 52年	(故)吉川　亀吉	〃 60年	小内　安蔵
〃 42年	三沢　祐長	〃 53年	(故)榎原　政治	〃 61年	金井　佐伝
〃 45年	福田　實	〃 54年	小野里 和四郎	平成元年	竹田　賢一
〃 46年	村沢　信夫	〃 56年	佐山弥一郎		
〃 49年	桜井　玉壽	〃 56年	(故)後藤　龍堂		

かっこう章(含む はと、やたがらす章)

昭和30年	星野　宏	昭和46年	高頭　和之	昭和55年	岩田　正男
〃 32年	小井戸哲夫	〃 46年	斉藤　清治	〃 56年	中里昭五郎
〃 32年	後藤　龍堂	〃 47年	佐藤　春重	〃 56年	上村　英夫
〃 34年	三沢　祐長	〃 47年	(故)徳永十四郎	〃 57年	河野口雄三
〃 34年	村沢　信夫	〃 48年	渋木　羨夫	〃 57年	高橋　和男
〃 35年	栗原　博	〃 48年	(故)鈴木　武雄	〃 58年	周東　正治
〃 35年	桜井　玉壽	〃 48年	(故)古川　清司	〃 59年	郡司　博
〃 35年	勝　實道	〃 49年	根岸　努	〃 59年	(故)武井　宏修
〃 36年	小野塚静二	〃 49年	布施　賢一	〃 60年	荒木　精一
〃 36年	北条　富司	〃 51年	青山　寿延	〃 61年	坪野　茂
〃 37年	福田　實	〃 52年	小内　安蔵	〃 61年	中嶋　正義
〃 37年	高橋　邦一	〃 52年	坂本　栄治	〃 61年	(故)鳥屋　昇
〃 38年	榎原　政治	〃 53年	柳田　栄一	〃 62年	金井　英文
〃 38年	野口喜一郎	〃 54年	竹田　賢一	〃 62年	星野　忠夫
〃 38年	吉川　亀吉	〃 54年	新藤　信夫	〃 62年	小林　季二
〃 40年	金井　佐伝	〃 54年	平方　敏郎	〃 62年	(故)戸所文太郎
〃 45年	小野里 和四郎	〃 55年	井出　存祐	〃 63年	森山　照夫
〃 45年	佐山弥一郎	〃 55年	堂前　久雄	平成元年	須永　弁次

日本連盟感謝章

昭和47年	福田　幸子	昭和48年	小山　利雄	昭和50年	渋木八重子
〃 47年	上村　光枝	〃 48年	福田　才治	〃 62年	石島　惇司
〃 47年	坂本　泰江	〃 49年	柳田　栄一		
〃 48年	笹川　堯	〃 50年	小野里 和四郎		

日本連盟特別感謝章　昭和47年　小野里千枝子

日本連盟人命救助章

昭和34年　桐生第6団	岡部　洋	昭和44年　高崎第17団	天田　久雄
〃　〃	金子　浩二	〃　〃	小林　一彦
〃　〃	井出　薫	〃　〃	須藤　康弘
〃 37年　伊勢崎第4団	原　泉	〃 50年　高崎第11団	青柳　正昭

日本連盟感謝状　昭和50年　日野貞夫　　昭和51年　神田坤六
日本連盟公共奉仕綬　昭和38年　太田第4団 BS隊　太田第5団 BS隊
日本連盟善行章　昭和37年　桐生第2団　加藤俊治

群馬県連盟表彰

県連盟特別有功章

昭和52年	阿部　正恵	昭和53年	三沢　文一	昭和55年	森田　由雄
〃 53年	阿左美　昭	〃 55年	金井　英文	〃 55年	石田　忠次
〃 62年	柴田　義孝				

県連盟有功章

昭和30年	桜井　玉寿	昭和36年	富永　清司	昭和46年	坂本　栄治	昭和51年	荒木　精一
	廣田　秀夫		野辺沼 梯一郎	昭和47年	木村　喜良		今井　和夫
	金井　佐伝		榎原　政治		平方　敏郎		郡司　博
	細川　重信		池川伊佐美		大沢　金一		中嶋　正義
	半田　博		橋本　垣		江原　伝次		石田　忠次
	松井　耕一	昭和37年	森田　由雄	昭和48年	三沢　文一	昭和52年	奈良橋俊宏
	小野　寿		横塚　佳弘		八木　一明		新貝　正勝
	千明　八郎		野口喜一郎		宇田　紀一		向田　恒三
	沢田　寛		下山　常治		堂前　久雄		兵藤　常二
	松村　節夫		中島　泰		岩田　正男		田代　至宏
	福田　實	昭和38年	佐山弥一郎		中里昭五郎		吉田　悦雄
昭和32年	中村　唯雄		小内　安蔵		阿部　正恵		松井　栄三
	古川　清司		森　高三		河野口雄三		則本　千明
	黒岩　武一		徳永十四郎		高橋　芳平		藤井　竜人
	片野悦五郎		小林　徳衛	昭和50年	平田　史郎		栗原　優介
	土屋　喜蔵		斉藤　清治		安斎　貞夫		三浦　雄二
	吉川　亀吉	昭和39年	松原　喬雄		周東　正治		霞　恵二
昭和33年	星野　宏		小野里 和四郎		茂木　達男		江原　太郎
	小野塚静二	昭和41年	佐藤　春重		椎名千寿夫		山田　実
	北条　富司		野上庄三郎		牛久保益男		安藤　肇
	村沢　信夫		新藤　信夫		柳田　栄一	昭和53年	中村　盛夫
	栗原　博		金井　英文		青木　次男		宮田　政信
	勝　實道		中　作治		上村　英夫		上山　明
	後藤　龍堂	昭和42年	根岸　努		高橋　亜夫		篠田　久
	野村　稲治		立川　弁祐		星野　忠夫		島田　保彦
	大井　太郎		久保田秀夫		阿左美　昭		小林　季二
	春山　武	昭和43年	渋木　羨夫		天田　設郎		藤生　昌利
	高橋　宏		布施　賢一		高橋　和男		森山　照夫
	小井戸哲夫		中山　利男		岡田　彰		平野　嘉宏
昭和34年	松本　庄八	昭和44年	青山　寿延	昭和51年	坪野　茂		石島　彰
	高頭　和之	昭和45年	薄井　昇		池島　泰二		五十嵐健男
昭和35年	下城　敏良		井出　存祐		星野　文助		三田伊知郎
	新井　勝二		斉藤　澄江		目黒　卯吉		金子　一男
	横内甲子吉	昭和46年	竹田　賢一		須永　弁次		柴田　義孝

昭和53年	山川　巌	昭和56年	岡本　徳三	昭和58年	井上　藤男	昭和59年	宮口　正幸
	徳田　久彦		河上　熙		海川　政司		小倉　勝
	堀口万亀蔵		西牧　博		小林　恵子		中沢　秀夫
	長戸　正養		阿部　光作		沢井信太郎		丸茂　畠子
昭和54年	青木　治郎		猪瀬　祐造		須藤　信男		工藤　弘子
	大竹　修二		小倉　照也		高橋　新一	昭和60年	江部　清隆
	今井　武夫		福田　英雄		富沢　茂		小沢　真一
	鈴木　克彦		横沢　健雄		彦部　雪夫		石川　昌男
	江田　孝夫		石島　惇司		深町　益一		横山　仁一
	小幡　隆勇		飯塚　康		森田　恒夫		津久井義雄
	白石　栄		森田　照和		梅沢　信三		安住　芳雄
	長野　雄二		竹田　勝彦		松井　孝		河内宝一郎
	金子　宗吉		根岸　充		羽広　政雄		新井不二男
	小野里清治		長井　収		木村　光敏		田村　亨
	工藤　郁二		田上　美男		磯部　直正		太田　清一
	尾崎　佐一		吉井　良弘		重原　進		早川　仁
	山田　晃司		新井三知夫		平　由雄		萩原　菊子
	曽根　哲夫		南波　柳治		吉田　秀雄	昭和61年	杉山　安正
	堀口　彰吾		谷口喜久雄		神保　晃二		三田　幸男
	佐藤容一郎	昭和57年	湯浅　守昭		金子　甲八		関口　昭男
	遠藤　文夫		松崎　栄一		碓井　弘		後藤　初子
昭和55年	橋本　力		津久井　滋		中嶋　豊		橋本　隆
	小谷野公博		山上　喜一		森田　賢一		小林　聡子
	鶴貝　忠七		内田　斌	昭和59年	小沼　国幹		覚上ゆき江
	斉藤　久雄		田島　敏明		内田　忠幸		相川　明
	伊佐山昭明		井上　定夫		榊原　健一		岡田　俊男
	菊池　三男		吉田　節子		森田　健子		小林　満寛
	町田　幸男		提橋　勲		神林　宏		高草木　滋
	田所　武男		金井　吉雄		北川　貞彦		藤生　俊二
	塩谷　寔		南波　正夫		水上　康男		尾上　義夫
	森　一郎		杉村　清一		石崎　芳夫		小林　光子
	岩下　芳久		鎌塚　俊司		藤江　聡吉		佐藤　貞巳
	小沢　忠		原田　登		内山　教子		江原　毅
	鳥屋　昇		秋山　憲嗣		上田　健昭		田村　康幸
	茂原　幸夫		伊能　義雄		淡路　英治		新井庫太郎
	佐藤　一好		渡辺　信雄		斉藤　実		藍原　弘之
	茂木洋太郎		松本　光雄		田村　信行		石田　義彦
昭和56年	小谷野　富		飯沼　正		荻原　辰男		高橋　健次
	小暮　悦子		宮野　昌之		田村良太郎		竹内　利男
	渡辺　和子	昭和58年	田部井保夫		上村　泰持		大島　努
	小暮　雅丈		渡辺　要		飛田　清雄		今井　健介
	前原　武男		岩瀬理喜男		星野　仁郎		近藤　良男

昭和61年	松原正二郎	昭和62年	五嵩　實	昭和63年	大沢　貞雄	平成元年	新井　章信
昭和62年	新井　春雄		諏訪　勝美		倉林　繁三		菅原　義政
	対比地英雄		須藤　芳弘		稲垣　稔		折原　正雄
	後藤　和俊		牧　守		古川　正山		西倉　武
	小堀　順		久保　雅弘		城田　征四		歌代　公代
	横須賀邦一	昭和63年	松本　博		小林　軍次		松井　隆
	長谷川二郎		桧垣　聡		島田　晃		阿部　和市
	上岡　義夫		深川　淳	平成元年	阿部　舜		石倉　英夫
	橘　勢太		高橋　英雄		青山　幸弘		原　藤吉郎
	野口　昌美		高畑　登		金井せつ子		村山　勝彦
	渋沢喜代春		丹羽　一雄		天笠　マサ		

県連盟感謝章

昭和23年	藤井　勲	昭和23年	スタッポ・	昭和46年	佐野　金作	昭和48年	阿部　千代
から27年	小井戸哲夫	から27年	ウィッチ		桜井京太郎	昭和49年	田上　美男
	上沼　泰一		星野　宏		石内　巌		フランシス・
	武内　正隆		角田儀平治	昭和47年	吉田康一郎		フローリー
	河野　孝		桜井　正		戸所文太郎		富沢　宏
	田島　英		後藤　龍堂		須藤　斉	昭和50年	佐々木元吉
	栗原　博		小野塚静二		富沢米太郎		滝野瀬義彦
	吉川　亀吉		桜井　玉寿		河野口須子		桜井　米子
	正田　豊作		北野　重雄		柳田　せい	昭和51年	岡田伊勢松
	萩野今朝造		中島　泰		横内甲子吉		信沢　雄一
	栗原国太郎		松原　潤		渋木八重子		鈴木　正三
	半沢徳次郎		武永　四郎		尾上　良二		小井戸うた
	北川　好雄		原沢　益巳		斉藤　辰二		町田　一三
	野口喜一郎		宮下　守胤		信沢　克巳	昭和52年	福島　秋夫
	伊能　芳雄		小倉　国吉		小山　利雄		石井　昌吾
	鈴木　武雄		福島文太郎		福田　才治		荒木　精一
	ジェームス・		上田　由一		関口　守雄		富沢　誉富
	オウストルド		三沢　祐長		小倉　一郎		米川　昇作
	北条　時彦		高橋　邦一		増山作次郎		下田文太郎
	村沢　信夫		福田　實		金子　匡男		鳥屋　昇
	服　實道		久保田 富一郎		川口　盛三	昭和54年	小林　昌人
	須藤　範二		岡田徳次郎		笹川　堯		根岸　充
	持丸理喜男		植松　勝次		森　喜作	昭和55年	木暮　雄二
	大島　宗作		牧野　房男		松本　文助		梅沢弥五郎
	工藤　友吉		森田　喜蔵		増田　禎三		島田　兼之
	山田喜一郎	昭和43年	吉田　一郎		山田　末男	昭和57年	栗林　豊春
	野村　勇		丸岡　興舜		日野　貞夫		桜井　康雄
	横内甲子吉	昭和45年	北爪　幸作		岸　直枝		上原　旺
	下山　常治		小野里 千枝子	昭和48年	塩原　清吾		横山　仁一

昭和58年	福田　英雄						
	石島　惇司						
昭和61年	橋本　　力						

県連盟善行綬

昭和52年	前橋第１団ＢＳ隊	昭和52年	前橋第６団ＢＳ隊	昭和63年	桐生第17団ＢＳ隊
	前橋第２団ＢＳ隊		前橋第７団ＢＳ隊		
	前橋第５団ＢＳ隊		富岡第１団ＢＳ隊		

県連盟善行章　　前橋第７団　　佐久間昌彦

名誉スカウト（昭和50年度以降）

昭和50年	桐生第13団	増山　　毅	昭和57年	桐生第19団	山田　耕司
	〃	斎藤　浩輔	昭和60年	桐生第13団	荻原　英二
昭和53年	桐生第13団	三田　章浩		〃	周家　一博
昭和54年	高崎第18団	湯本　宏武	平成元年	太田第７団	関　　雄一郎
	〃	高木　賢治			

富　士　章

No.	日連番号	スカウト氏名	所属団	認証月日	No.	日連番号	スカウト氏名	所属団	認証月日
1	377	田沼　　寿	桐生第13団	57．9．23	2	733	吉田　信久	桐生第19団	62．1．28
3	755	星野　裕之	〃	62．2．25	4	860	田村　　諭	桐生第13団	62．3．27
5	904	松本　英久	太田第５団	63．3．25	6	998	小堀　　剛	桐生第19団	元．2．23

歴代県連盟役員

結成時から日連規約改正時迄

結成時に奉仕された県連役員

24．11～27．10．間

理事長	藤井　勲
副理事長	星野　宏
〃	小倉国吉
理事	ロック・カルパンチェ
〃	須藤範二
〃	武内正隆
〃	立川浩三
〃	栗原　博
〃	篠田義祐
〃	高橋喜代次
〃	根岸金次郎
〃	松本宗蔵
〃	佐藤熊三
〃	三沢祐長
監事	巷野英太郎
〃	角田儀平治
事務局長	小井戸哲夫
指導主事	栗原　博
〃	北条富司
〃	須藤範二
〃	桜井　正
〃	村沢信夫
〃	八巻信生
〃	橋本　坦
主事	金築　栄
名誉顧問	群馬県知事
顧問	県会議長
〃	教育委員会委員長
〃	教育長
〃	警察隊長
〃	上毛新聞社社長

昭年27年11月９日より奉仕された県連役員

27．11～29．12．間

連盟長	北野重雄
副連盟長	河野　孝
〃	小島軍蔵
理事長	河野　孝
副理事長	角田儀平治
〃	小井戸哲夫
県コミッショナー	星野　宏
指導者養成委員長	三沢祐長
野営行事委員長	村沢信夫
進歩委員長	勝　實道
健康安全委員長	桜井行美
財政委員長	細谷浅松
組織拡張委員長	上田正隆
学識経験理事	武内正隆
〃	丸岡興舜
〃	小野塚静二
〃	田島　暎
第一地区委員長	高木良三
第二　〃	久保田茂一郎
第三　〃	藤枝泉介
第四　〃	高橋邦一
第五　〃	柳沢千太
第六　〃	鈴木武雄
監事	百瀬玉雄
〃	高橋一三
事務局長	星野　宏
県副コミッショナー	小井戸哲夫
〃	三沢祐長
名誉会議員	茜ヶ久保重光
〃	増田彦七
〃	小倉国吉
〃	栗原　博
〃	巷野英太郎

歴代群馬県連盟 先達顧問相談役

結成時　名誉顧問　群馬県知事
　　顧　　問　県会議長、教育委員会委員長
　　教育長、警察隊長、上毛新聞社社長

役職	就任	退任	氏名	備考
顧問	昭和30年	昭和32年	伊能芳雄	
〃	〃	〃	篠原秀吉	
〃	〃	〃	河野孝	
〃	昭和41年		中曽根康弘	現在
相談役	〃	昭和42年	飯塚国蔵	
〃	〃	〃	深沢好之	
〃	〃	〃	久保田茂一郎	
〃	〃	昭和46年	野口喜一郎	
〃	〃	〃	小野塚静二	
〃	〃	昭和42年	腰塚治男	
先達	〃		星野宏	現在
相談役	昭和42年		小井戸哲夫	現在
〃	〃	昭和47年	鈴木武雄	
〃	昭和43年		北条富司	現在
〃	昭和46年	昭和55年	後藤龍堂	
〃	〃	昭和51年	吉川亀吉	
〃	〃	昭和61年	高橋邦一	
参与	〃	昭和63年	工藤友吉	
相談役	〃	昭和47年	徳永十四郎	
先達	〃	昭和53年	三沢祐長	
相談役	昭和47年		勝實道	現在
〃	〃		佐山弥一郎	現在
〃	〃	昭和52年	榎原政治	
〃	昭和49年		村沢信夫	現在
顧問	昭和52年		神田坤六	現在
参与	昭和53年	昭和60年	立川弁祐	

歴代県連盟役員

職　年	30.1～32.3	32.4～33.3	33.4～35.3	35.4～36.3	36.4～37.3
連盟長	北野重雄	竹腰俊蔵	竹腰俊蔵	竹腰俊蔵	神田坤六
副連盟長	黒沢得男 久保田茂一郎	黒沢得男 久保田茂一郎	黒沢得男 久保田茂一郎	黒沢得男 久保田茂一郎 三沢祐長	黒沢得男 久保田茂一郎
理事長	星野宏	小井戸哲夫	勝實道	勝實道	勝實道
副理事長	武内正隆 高橋邦一	高橋邦一 丸岡興舜	正田豊作 丸岡興舜	小野塚静二 森田嘉蔵 丸岡興舜	小野塚静二 森田嘉蔵 丸岡興舜
事務局長	後藤龍堂	後藤龍堂	桜井玉寿	北条富司	吉川亀吉
理　事	鈴木武雄 持丸理喜男 勝實道 正田豊作 横内甲子吉	後藤龍堂 村沢信夫 三沢祐長 正田豊作 北条富司 星野宏 山口好見 鈴木武雄 岡田徳次郎 大島宗作 栗原博 荻野今朝造 中島勇三 勝實造 牧野房男 工藤友吉 横内甲子吉 栃原潤 石坂吉寿	山口好見 高橋邦一 横内甲子吉 大島宗作 武藤敏夫 鈴木武雄 森田嘉蔵 吉川亀吉 野村勇 森正雄 高橋徳江 松村節夫 牧野房男 上田由一 工藤友吉 福田實 栃原潤 須藤範二 星野徳寿 鈴木忠 阿部四郎	森正雄 徳永十四郎 小林武四郎 下塚敏良 栗原博 松村節夫 牧野房男 上田由一 工藤友吉 福田實 須藤範二 星野徳寿 佐藤英三 鶴渕正美 下山常治 高橋邦一 横内甲子吉 大島宗作 野口喜一郎 栗原国太郎 野口薫	高橋秀雄 高橋邦一 横内甲子吉 大島宗作 野口喜一郎 栗原国太郎 森正雄 徳永十四郎 小林武四郎 下城敏良 栗原博 松村節夫 牧野房男 上田由一 工藤友吉 福田實 須藤範二 星野徳寿 鶴渕正美 野口馨 下山常治 佐藤英三
監　事	小野塚静二 小川一衛	小野塚静二 山口茂	小野塚静二 榎原政治	榎原政治 佐山弥一郎	榎原政治 佐山弥一郎
県コミ	三沢祐長	村沢信夫	星野宏	星野宏	星野宏
県副コミ	村沢信夫 桜井玉寿	北条富司	小井戸哲夫 北条富司 後藤龍堂	後藤龍道 村沢信夫	後藤龍堂 村沢信夫

職　年	37.4～38.3	38.4～39.3	39.4～40.3	40.4～41.3	41.4～42.3
連盟長	神田坤六	神田坤六	神田坤六	神田坤六	神田坤六
副連盟長	田村逐 大島宗作	大島宗作 三沢祐長	田村逐 三沢祐長	田村逐 三沢祐長 飯塚国蔵	田村逐 三沢祐長
理事長	勝實道	勝實道	勝實道	鈴木武雄	鈴木武雄
副理事長	野口喜一郎 徳永十四郎	野口喜一郎 徳永十四郎	野口喜一郎 北川好雄	野口喜一郎 徳永十四郎 佐藤春重	佐藤春重 徳永十四郎 小野里和四郎
事務局長	吉川亀吉	吉川亀吉	吉川亀吉	吉川亀吉	吉川亀吉
理事	森田嘉蔵 福田實 村沢信夫 工藤友吉 佐山弥一郎 佐藤英三 榎原政治 佐藤春重 森泉賢吾 ルシ・アン 小林武四郎 浅香晃 小野里和四郎 塚越敏彦 吉田良八 小野塚静二 上田由一 栗原国太郎 久保茂 五十木朝雄 下山常治 須藤範二 星野徳寿 丸岡興舜 横内甲子吉 高橋巌 久保田茂一郎 下城敏良 栗原博 松村節夫	工藤友吉 福田實 村沢信夫 森田嘉蔵 榎原政治 佐藤英三 佐藤春重 森泉賢吾 ルシ・アン 浅香晃 小野里和四郎 塚越俊彦 吉田良八 小野塚静二 上田由一 栗原国太郎 久保茂 下山常治 須藤茂 星野徳寿 久保田茂一郎 下城敏良 栗原博 松村節夫	徳永十四郎 森田嘉蔵 工藤友吉 佐藤春重 森泉賢吾 須藤茂 栗原博 塚越俊彦 鈴木武雄 福田實 松村節夫 小野里和四郎 浅香敏子 服部政美 布施賢一 深沢長平 正田宗蔵 沢田満 宮沢一典 曽我喜一郎	福田實 工藤友吉 栗原博 森泉賢吾 小野里和四郎 塚越俊彦 須藤茂 服部政美 布施賢一 深沢長平 沢田満 宮沢一典 曽我喜一郎 吉川亀吉	栗原博 福田實 吉川亀吉 榎原政治 塚越俊彦 森泉賢吾 横内甲子吉 布施賢一 服部政美 深沢長平 須藤茂 曽我喜一郎 今井和夫 柳田栄一 八田要 奥寺郁三 平出光男 仲作治 工藤友吉 原沢益巳
監事	高橋邦一 渋木羨夫	高橋邦一 渋木羨夫	小野塚静二 榎原政治	小野塚静二 榎原政治	高橋邦一 渋木羨夫
県コミ	星野宏	星野宏	星野宏	勝實道	勝實道
県副コミ	後藤龍堂 村沢信夫	村沢信夫 後藤龍道 桜井玉寿	金井佐伝 斉藤清治 村沢信夫 佐山弥一郎	桜井玉寿 金井佐伝 古川清司	桜井玉寿 金井佐伝 古川清司 高頭和之

職　年	42.4～43.3	43.4～44.3	44.4～45.3	45.4～46.3	46.4～47.3
連盟長	神田坤六	神田坤六	神田坤六	神田坤六	神田坤六
副連盟長	田村　逐 三沢祐長	三沢祐長 佐藤春重	三沢祐長 佐藤春重	佐藤春重 勝　實道	佐藤春重 勝　實道
理事長	勝　實道	勝　實道	勝　實道	福田　實	福田　實
副理事長	福田　實 佐藤春重 徳永十四郎	福田　實 小野里和四郎 佐山弥一郎	福田　實 小野里和四郎	渋木羨夫 根岸　努	渋木羨夫 根岸　努
事務局長	小野里和四郎	小野里和四郎	小野里和四郎	小野里和四郎	小野里和四郎
理　事	今井和男 岩田正男 奥寺郁三 小野里和四郎 工藤友吉 栗原　博 坂本栄治 佐野金作 佐山弥一郎 野口　潔 原沢益巳 布施賢一	岩田正男 奥寺郁三 小野里茂作 上村英夫 栗原　博 佐野金作 高橋正信 徳永十四郎 根岸　努 野口　潔 原沢益巳 布施賢一 古川清司 堀口万亀造 三浦幸蔵 宮沢一典 森田嘉蔵	上村英夫 栗原　博 桜井玉寿 佐野金作 渋木羨夫 高橋正信 立川弁祐 根岸　努 野口　潔 原沢益巳 平方敏郎 布施賢一 古川清司 堀口万亀蔵 三浦幸蔵 宮沢一典 茂原　博 森田嘉蔵 坂本栄治	桜井玉寿 石田忠次 岡部広八 大竹利作 青山寿延 平方敏郎 野口　潔 奥寺郁三 上村英夫 坂本栄治 小野里和四郎 柳田栄一 栗原　博 牛久保三郎 羽鳥邦三郎 岩田正男 立川弁祐 河野口雄三 小板橋典聖 原沢益巳 戸所文太郎	桜井玉寿 平方敏郎 野口　潔 奥寺郁三 上村英夫 坂本栄治 小野里和四郎 柳田栄一 栗原　博 牛久保二郎 羽鳥邦三郎 岩田正男 立川弁祐 河野口雄三 小板橋典聖 原沢益巳 戸所文太郎 江原太郎 田部井悟郎 古川清司
監　事	高橋邦一 柳田栄一	榎原清司 工藤友吉	榎原清司 工藤友吉	榎原政治 中里昭五郎	榎原政治 中里昭五郎
県コミ	桜井玉寿	桜井玉寿	佐山弥一郎	佐山弥一郎	佐山弥一郎
県副コミ	金井佐伝 渋木羨夫 立川弁祐	金井佐伝 渋木羨夫 立川弁祐	井出存祐 斉藤清治 高頭和之	井出存祐 斉藤清治 高橋和之	井出存祐 斉藤清治 高頭和之

職年	47.4～48.3	48.4～49.3	49.4～50.3	50.4～51.3	51.4～52.3
連盟長	神田坤六	神田坤六	神田坤六	神田坤六	清水一郎
副連盟長	佐藤春重 福田實	佐藤春重 福田實	佐藤春重 小野里和四郎	佐藤春重 小野里和四郎	佐藤春重 小野里和四郎 佐山弥一郎
理事長	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫
副理事長	桜井玉寿 柳田栄一 小野里和四郎	柳田栄一 小野里和四郎	柳田栄一 根岸努	根岸努 柳田栄一	根岸努 柳田栄一 小井戸哲夫
事務局長	小野里和四郎	小野里和四郎	柳田栄一	柳田栄一	柳田栄一
理事	古川清司 平方敏郎 江原太郎 河野口雄三 田部井悟郎 上山明 竹田賢一 堂前久雄 坂本栄治 岩田正男 三沢祐長 星野宏	平方敏郎 上村英夫 鳥屋昇 河野口雄三 福島正次 上山明 堂前久雄 坂本栄治 岩田正男 根岸努	森田由雄 平方敏郎 鳥屋昇 福島正次 上山明 堂前久雄 岩田正男 椎名千寿夫 郡司博 山田実 小内安蔵 竹田賢一 坪野茂 上村英夫 布施賢一 中里昭五郎 河野口雄三 田部井悟郎	森田由雄 坂本栄治 平方敏郎 椎名千寿夫 鳥屋昇 山田実 福島正次 小内安蔵 堂前久雄 竹田賢一 上山明 坪野茂 上村英夫 布施賢一 中里昭五郎 岩田正男 河野口雄三 田部井悟郎	中村盛男 堂前久雄 椎名千寿夫 星野忠夫 鳥屋昇 高橋正信 福島正次 小内安蔵 青木治郎 竹田賢一 上山明 藤井竜人 森山照夫 向田恒三 高橋亜夫 戸所文太郎 青木次男 上村英夫 布施賢一 中里昭五郎 河野口雄三 江原太郎 岩田正男
監事	中里昭五郎 青木次男	中里昭五郎 青木次男	青木次男 青木治郎	青木次男 青木治郎	郡司博 坪野茂
県コミ	根岸努	青山寿延	青山寿延	青山寿延	青山寿延
県副コミ	井出存祐 斉藤清治 高頭和之	井出存祐 高頭和之 新藤信夫	井出存祐 高頭和之 新藤信夫	新藤信夫 高橋和男	新藤信夫 高頭和之 高橋和男

職　年	52.4～53.3	53.4～54.3	54.4～55.3	55.4～56.3	56.4～57.3
連盟長	清水一郎	清水一郎	清水一郎	清水一郎	清水一郎
副連盟長	佐山弥一郎 小野里和四郎 佐藤春重	佐山弥一郎 小野里和四郎 佐藤春重	佐山弥一郎 小野里和四郎 佐藤春重	佐藤春重 小野里和四郎 佐山弥一郎	佐藤春重 小野里和四郎
理事長	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫
副理事長	小井戸哲夫 柳田栄一	小井戸哲夫 鳥屋昇	鳥屋昇 小内安蔵	柳田栄一 小内安蔵 根岸努	柳田栄一 小内安蔵 根岸努
事務局長	柳田栄一	柳田栄一	柳田栄一	青山寿延	青山寿延
理事	中村盛男 堂前久雄 椎名千寿夫 星野忠夫 鳥屋昇 高橋芳平 福島正次 小内安蔵 青木治郎 竹田賢一 上山明 藤井竜人 森山照夫 向田恒三 高橋亜夫 戸所文太郎 青木次男 上村英夫 布施賢一 中里昭五郎 江原太郎 河野口雄三 岩田正男	堂前久雄 柳田栄一 高橋芳平 福島正次 小内安蔵 青木治郎 竹田賢一 上山明 森山照夫 向田恒三 戸所文太郎 青山寿延 中里昭五郎 江原太郎 岩田正男 河野口雄三 橋本力 鳥毛一郎 坂本栄治 荒木精一 阿左見昭 武井宏修 新井三知夫 春山武	橋本力 竹田賢一 坂本栄治 高橋芳平 堂前久雄 荒木精一 上山明 青山寿延 森山照夫 向田恒三 青木治郎 柳田栄一 戸所文太郎 阿左美昭 中里昭五郎 江原太郎 岩田正男 武井宏修 新井三知夫 春山武 河野口雄三 根本昭雄	横山仁一 竹田賢一 青木次男 高橋芳平 根本昭雄 金井英文 荒木精一 新藤信夫 鶴貝忠七 堂前久雄 森山照夫 上村英夫 坂本栄治 秋山憲嗣 新井三知夫 武井宏修 井出存祐 河野口雄三 原沢益巳 戸所文太郎	横山仁一 荒木精一 星野忠夫 針ヶ谷谷忠 根本昭雄 金井英文 青山寿延 竹田賢一 新藤信夫 鶴貝忠七 堂前久雄 森山照夫 上村英夫 坂本栄治 秋山憲嗣 新井三知夫 武井宏修 鳥屋昇 井出存祐 河野口雄三
監事	郡司博 坪野茂	郡司博 坪野茂	郡司博 坪野茂	郡司博 坪野茂	郡司博 坪野茂
県コミ	根岸努	根岸努	根岸努	高橋和男	高橋和男
県副コミ	新藤信夫 高頭和之 周東正治 高橋和男 石島彰	新藤信夫 高頭和之 周東正治 高橋和男	新藤信夫 高橋和男 周東正治 井出存祐	周東正治	周東正治 中嶋正義

職　年	57.4～58.3	58.4～59.3	59.4～60.3	60.4～61.3	61.4～62.3
連盟長	清水一郎	清水一郎	清水一郎	清水一郎	清水一郎
副連盟長	小野里和四郎 戸所文太郎	小野里和四郎 戸所文太郎	小野里和四郎 戸所文太郎	小野里和四郎 戸所文太郎	渋木羨夫
理事長	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫	根岸努
副理事長	小内安蔵 根岸努	小内安蔵 根岸努	小内安蔵 根岸努 荒木精一	根岸努 小内安蔵 荒木精一	新藤信夫 金井英文
事務局長	竹田賢一	竹田賢一	竹田賢一	竹田賢一	竹田賢一
理事	横山仁一 荒木精一 坂本栄治 金井英文 古川正山 周東正治 島田保彦 新藤信夫 高橋和男 鳥屋昇 武井宏修 新井三知夫 秋山憲嗣 井出存祐	横山仁一 周東正治 坂本栄治 金井英文 古川正山 荒木精一 島田保彦 新藤信夫 高橋和男 鳥屋昇 武井宏修 新井三知夫 秋山憲嗣 井出存祐	横山仁一 周東正治 高橋和男 金井英文 古川正山 島田保彦 新藤信夫 郡司博 鳥屋昇 山川巌 新井三知夫 秋山憲嗣	横山仁一 小林季二 高橋和男 金井英文 古川正山 島田保彦 新藤信夫 郡司博 鳥屋昇 山川巌 新井三知夫 秋山憲嗣	横山仁一 森田恒夫 高橋和男 山川巌 古川正山 島田保彦 小林季二 松崎栄一 郡司博 中嶋正義 竹田勝彦 秋山憲嗣
監事	坪野茂 高橋亜夫	坪野茂 高橋亜夫	坪野茂 高橋亜夫	坪野茂 高橋亜夫	斉藤久雄 原藤吉郎
県コミ	青山寿延	青山寿延	青山寿延	周東正治	周東正治
県副コミ	田部井保夫 小林季二 小野里清治 中嶋正義	田部井保夫 小林季二 小野里清治 中嶋正義	田部井保夫 小林季二 小野里清治 中嶋正義	田部井保夫 小野里清治 中嶋正義	田部井保夫 小野里清治 重原進

職　年	62.4～63.3	63.4～元.3	元.4～2.3	2.4～3.3	3.4～4.3
連盟長	清水一郎	清水一郎	清水一郎		
副連盟長	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫		
理事長	根岸　努	根岸　努	根岸　努		
副理事長	新藤信夫 金井英文	新藤信夫 金井英文	新藤信夫 金井英文		
事務局長	竹田賢一	竹田賢一	竹田賢一		
理　事	横山仁一 稲垣　稔 古川正山 森田恒夫 島田保彦 小林季二 松崎栄一 高橋和男 郡司　博 山川　巌 中嶋正義 竹田勝彦 秋山憲嗣	稲垣　稔 石川昌男 杉山安正 森田恒夫 島田保彦 松崎栄一 松井　隆 小野里清治 高橋和男 郡司　博 山川　巌 中嶋正義 宮野昌之 神山　勝	稲垣　稔 宮田政信 杉山安正 森田恒夫 島田保彦 松崎栄一 松井　隆 高橋和男 郡司　博 山川　巌 中嶋正義 宮野昌之 神山　勝 竹内利男		
監　事	斉藤久雄 原　藤吉郎	斉藤久雄 原　藤吉郎	斉藤久雄 原　藤吉郎		
県コミ	周東正治	周東正治	周東正治		
県副コミ	田部井保夫 小野里清治 重原　進	田部井保夫 重原　進	田部井保夫 重原　進		

財団法人 群馬県ボーイスカウト振興財団

理　事　　1989～1990年度

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
理事長	福田　實	理事	桜井玉壽	理事	高橋和男
副理事長	小野里　和四郎	〃	新藤信夫	〃	金井佐伝
〃	根岸　努	〃	金井英文	監事	村沢信夫
常務理事	竹田賢一	〃	郡司　博	〃	河野口雄三
理事	小井戸哲夫	〃	橋本　力	〃	島田保彦

評議員

勝實道	立川弁祐	堂前久雄	稲垣　稔	宮田政信	杉山安正
森田恒夫	松崎栄一	松井　隆	小野里清治	高橋和男	山川　巌
中嶋正義	宮野昌之	神山　勝	周東正治	田部井保夫	斉藤久雄
原藤吉郎	平方敏郎	竹内利男			

ボーイスカウト群馬県連盟名誉役員

1989年度

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
顧問	中曽根康弘	相談役	勝實道	参与	堂前久雄
〃	神田坤六	〃	村沢信夫	〃	河野口雄三
先達	星野　宏	〃	小井戸哲夫	〃	横山仁一
相談役	佐藤春重	〃	柳田栄一	〃	古川正山
〃	桜井玉寿	参与	上山　明	〃	湯浅守昭
〃	福田　實	〃	岩田正男	〃	中里昭五郎
〃	小野里　和四郎	〃	坪野　茂		
〃	佐山弥一郎	〃	高橋亜夫		
〃	北条富司	〃	新井三知夫		
〃	小内安蔵	〃	平方敏郎		

県連トレーニングチーム

1989年度

☆高橋　和男	☆小野里清治	☆重原　進	○小林　季二	○周東　正治
○江田　孝夫	○南波　柳治	○田部井保夫	○竹内　利男	○野口　昌美
○青山　幸弘	○河田　友和	○森田　恒夫	○工藤　郁二	○南波　正夫
石倉　英夫	今井　健介	江原　一郎	目崎　諒一	稲垣　稔
手塚　和義	小沼　国幹	工藤　弘子	轟　史子	

☆印　日連リーダートレーナー　　○印　日連副リーダートレーナー

地区コミッショナー

1989年度

太田地区	☆小沼　国幹	奈良橋俊宏	河田　友和	手塚　和義	小笠原和彦
桐生地区	☆高橋　英雄	小林　規男	吉田　節子		
前橋地区	☆南波　正夫	今井　健介	江原　一郎	平野　隆志	
高崎地区	☆吉井　良弘	村山　勝彦	工藤　郁二	川山　豪彦	

☆印　地区コミッショナー　他は、地区副コミッショナー

地区協議会

1989年度

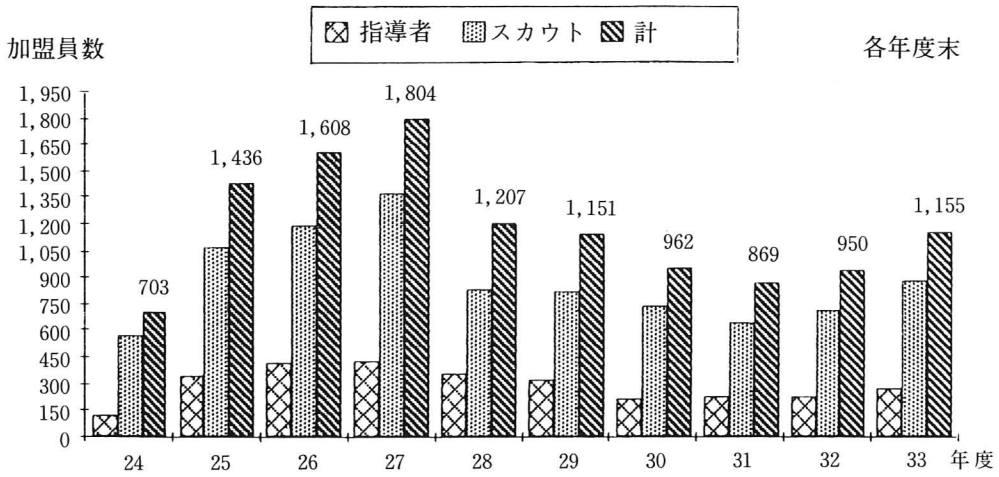
地区名	協議会長	地区委員長	コミッショナー	事務長
太田地区	橋本　力	稲垣　稔	小沼国幹	田部井保夫
桐生地区	島田保彦	森田恒夫	高橋英雄	松崎栄一
前橋地区	高橋和男	竹内利男	南波正夫	今井健介
高崎地区	金井佐伝	山川　巌	吉井良弘	宮野昌之

ボーイスカウト運動の活性化のために

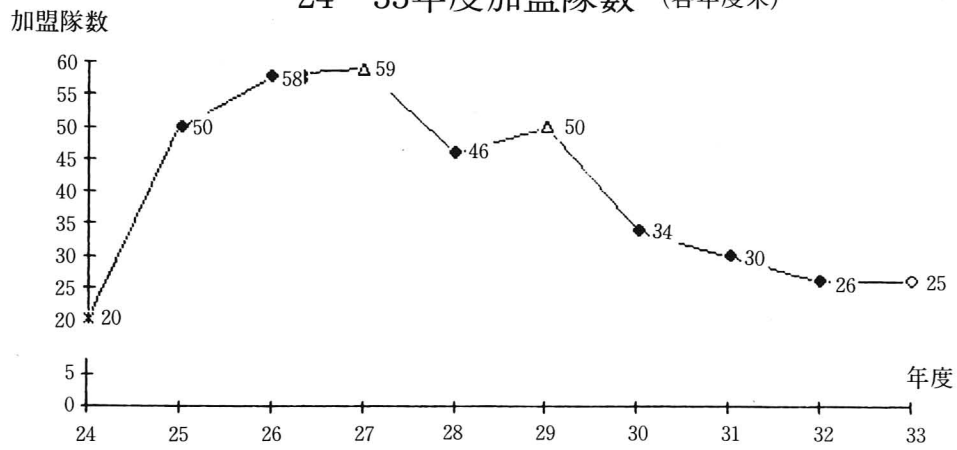
ボーイスカウト群馬県連盟

ここ数年来全国的に加盟員が減少し、このままでは平成２年度には加盟登録料引き上げもやむをえないと憂慮されている。対象年齢該当児童数の減少が主な要因ではあるが、組織を挙げてその原因究明と対策の樹立が急務となっている。創立40周年を迎えるにあたり、過去のセンサスを掲げて参考に供する。

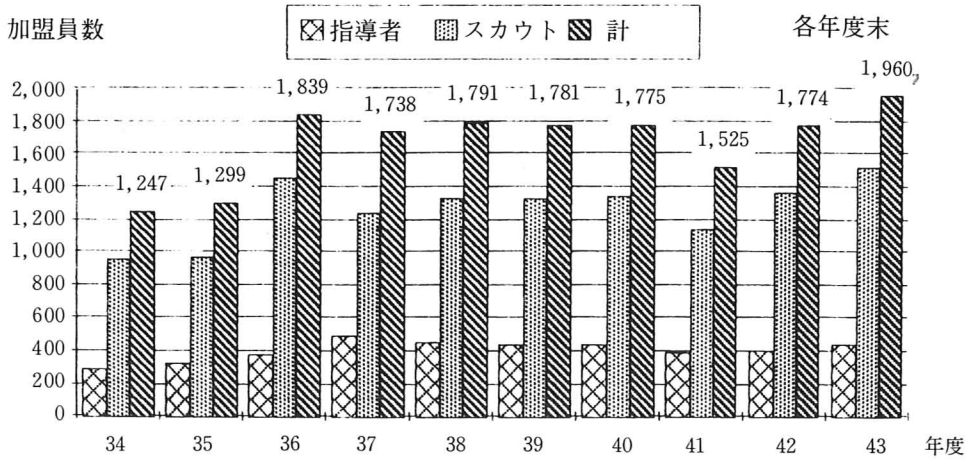
24～33年度加盟員数



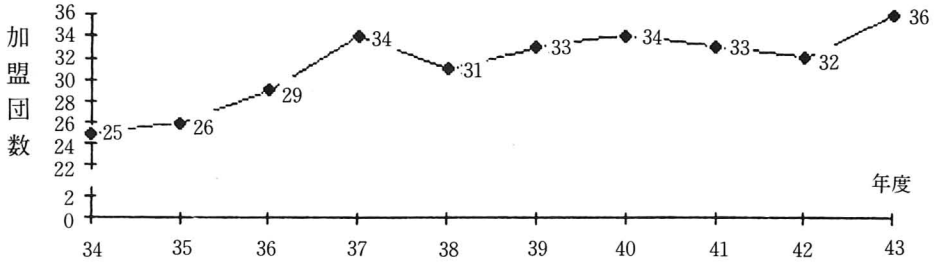
24～33年度加盟隊数（各年度末）



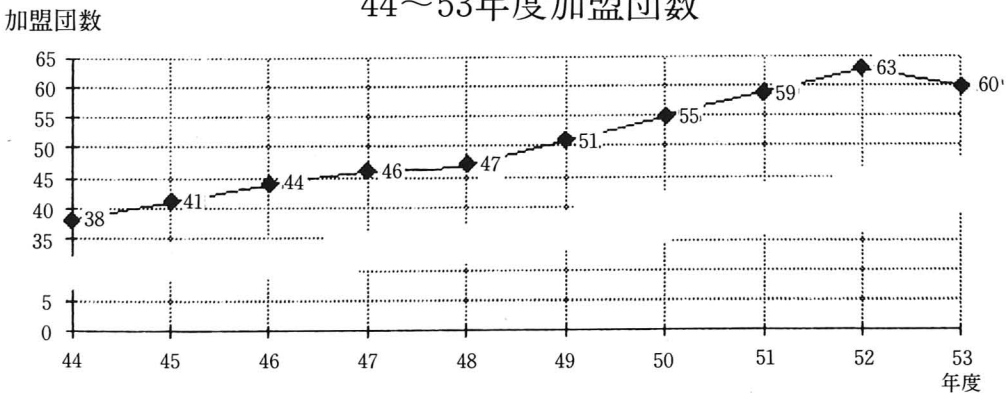
34～43年度加盟員数



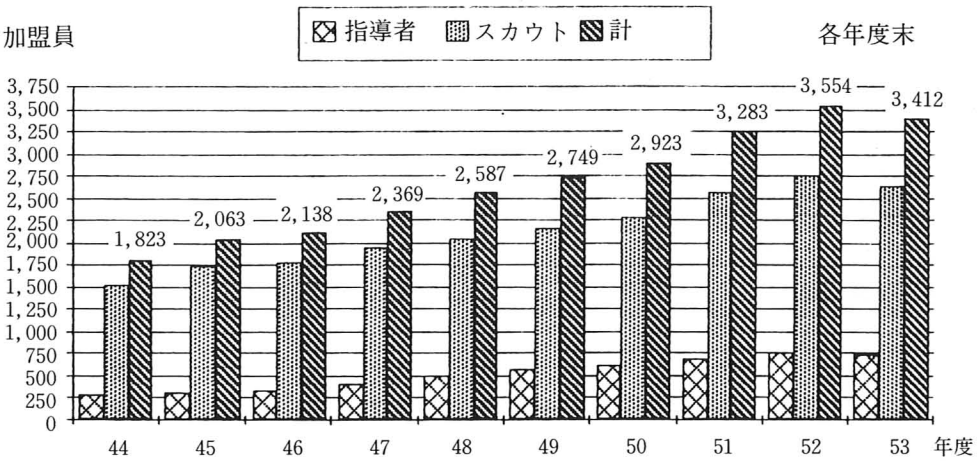
34～43年度加盟団数（各年度末）



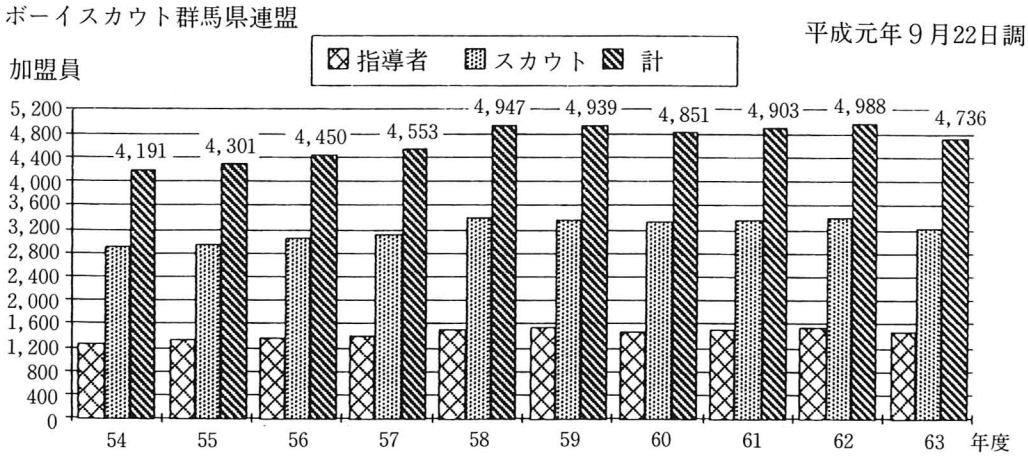
44～53年度加盟団数



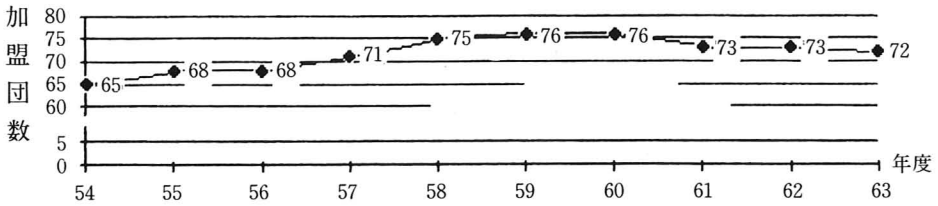
44～53年度加盟員数



最近10年間加盟員数対比



54～63年度加盟団数（各年度末）



平成元年度重点目標

ボーイスカウト群馬県連盟は創立40周年を迎え、昨年度より本年にかけて各種行事を企画し、記念事業を展開してきた。

ただ単に、年輪を重ねることのみが本運動の趣旨ではなく、次の世代を担う青少年が、厳しい社会の変化に対応し、健全な体と社会に奉仕できる能力と技能とを身につけるよう励まし、導くことが、私たちの責務である。

本連盟は、指導者の自己啓発を促し、質の高い魅力あるプログラムを提供し、スカウト人口の減少に歯止めをかけ、地域社会と密接に連携を保ちながら、40周年を契機として飛躍すべく本年度の重点目標を次のとおり定め、組織を挙げてその達成に努める。

1．　指導者の資質向上。(信頼される指導者)

魅力あるプログラムを提供するには、本年度もリーダーフォーラムをはじめ、各種非定形訓練を活発にして後継者の養成をはかり、日本連盟が検討している指導者養成体系をどのように展開したらよいか研究すると同時に、団運営のための管理者訓練にも取り組むことが必要である。

また、少年から慕われ、地域社会から信頼される指導者たるべく不断の自己啓発が必要である。

2．　加盟員の拡充。(目指せスカウト5,000名)

一昨年度は、組織拡張目標達成県連盟として、全国会議で表彰の栄に浴したが、昨年度は加盟員が減少に転じた。

スカウト運動の素晴しさを社会に広め、加盟員挙げて絶えず努力することが必要である。

本年度日本連盟が作成配布したポスター及び入団案内のリーフレットは、特にお母さん方を対象にした内容になっている。効果的に活用しよう。

3．　創立40周年記念事業の展開。

永年の悲願だった財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団が設立された。昨年度より記念行事が展開され、この８月には記念野営大会が成功裡に開催された。記念誌の発行と記念式典の準備も着々と進行している。

広報活動をより一層活性化し、すべての記念事業の成功を期するとともに、ボーイスカウト振興財団賛助会員の加入促進をはかる。

指　導　者　養　成（この10年）

① 指導者講習会修了者

年　　度（昭和）	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
合　　計	297	304	369	437	384	319	342	309	199	266

② デンマザー・デンダッド研修会修了者

年　　度（昭和）	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
合　　計			122	72	177	120	144	125	162	112

③ ウッドバッジ研修所カブスカウト課程修了者

年　　度（昭和）	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
合　　計	23	30	30	27	17	44	23	24	20	27

④ ウッドバッジ研修所ボーイ課程修了者

年　　度（昭和）	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
合　　計	18	16	15	14		25	38	32	34	19

⑤ ウッドバッジ研修所シニアー課程修了者

年　　度（昭和）	61	62	63
合　　計	13	31	10

⑥ 団委員長特修所修了者

年　　度（昭和）	56	59	61	62	63
合　　計	10	14	16	12	11

⑦ ビーバー隊長特修所修了者

年　　度（昭和）	63
合　　計	14

1989年度加盟団連絡先・団委員長

1989年度

地　名	団号	団委員長	〒	通　信　連　絡　先	電　話
太　田	1	湯浅　守昭	373	太田市本町4-17(茂木達男方)	0276—22—2959
	2	橋本　力	373	〃　本町15-11(金井英文方)	0276—22—6311
	3	石川　昌男	373	〃　別所551(小谷野富方)	0276—32—0843
	4	小内　安蔵	373	〃　大字龍舞2121-2	0276—45—2329
	5	横山　仁一	373	〃　東本町46-29(稲垣稔方)	0276—22—2024
	6	佐口　通治	373-01	〃　成塚1189-3(木村悦之方)	0276—37—0091
	7	清水　清治	373	〃　石原396-9(清水英男方)	0276—46—2409
	8	野口　実	373	〃　市場130-2(福田君江方)	0284—72—1363
館　林	1	古川　正山	374	館林市富士見町6-29(小林一雅方)	0276—74—7322
	2	天笠隆太郎	374	〃　本町1-8-34(宮田政信方)	0276—73—7859
	3	大西　勇一	374	〃　分福町847-42D63(蜂谷裕方)	0276—75—2971
大　泉	3	新井　章信	370-05	邑楽郡大泉町吉田2942	0276—62—3421
	4	平田　茂	370-05	〃　大泉町寄木戸1580-2	0276—63—5099
	5	諏訪勝太郎	370-05	〃　上小泉2459(山中良一方)	0276—62—5417
尾　島	1	荒井　鞆保	370-04	新田郡尾島町押切1498-1	0276—52—3537
邑楽町	1	原　義裕	370-06	邑楽郡邑楽町石打1086-1	0276—88—5092
明　和	1	石村　和男	370-07	明和村下江黒164(柴崎一夫方)	0276—72—0387
桐　生	1	後藤　和俊	376	桐生市東1-11-53	0277—45—2407
	2	白石　栄	376	〃　東5-2-34	0277—44—5216
	3	折原　正雄	376	〃　境野町6-1469	0277—46—2767
	4	高橋　英雄	376	〃　広沢町1-2899-5	0277—54—1691
	5	杉戸　恵司	376	〃　平井町4-15	0277—22—5672
	6	沢井信太郎	376	〃　相生町5-88-7	0277—53—6168
	8	彦部　雪夫	376	〃　相生町2-931-1団地126号	0277—53—8425
	9	小林　満寛	370-06	〃　梅田町1162-2	0277—32—2285
	10	上山　明	376	〃　広沢町1-2681(三ツ葉電機)	0277—52—0111
	11	尾上　義夫	376	〃　天神町2-8-27	0277—22—8208
	12	金子　章	376	〃　梅田町1-499	0277—32—2072
	13	斉藤　久雄	376	〃　東7-1-45	0277—43—5693
	14	松井　隆	376	〃　広沢町間の島296-10	0277—53—8882
	15	横須賀邦一	376	〃　小梅町3-29	0277—45—0798
	16	津久井　滋	376	〃　相生町1-375-6	0277—52—1532
	17	阿部　和市	376	〃　広沢町1-2952-10	0277—53—6707
	18	藤生　昌利	376	〃　川内町1-361-16	0277—65—7575
	19	大竹　修二	376	〃　本町4-85	0277—45—2395
	20	平方　敏郎	376	〃　錦町2-1-17	0277—47—3388
	21	米山　重男	376	〃　天神町3-11-1	0277—22—2949
大間々	1	石田　義彦	376-01	山田郡大間々町桐原437	0277—73—3736

地　名	団号	団委員長	〒	通　信　連　絡　先	電　話
新　里	1	石関　和夫	376-01	勢多郡新里村小林744	0277—74—8903
薮　塚	1	高橋　新一	379-23	新田郡薮塚本町大原638-20	0277—78—2823
伊勢崎	12	古沢　英男	372	伊勢崎市上植木本町2289	0270—26—4501
前　橋	1	郡司　博	371	前橋市六供町218(磯部直正方)	0272—21—6513
	3	重原　進	371	〃　荻窪町1227(町田秀仁方)	0272—69—3773
	5	遠藤　健一	371	〃　下細井町607-4(小野里清治方)	0272—33—9507
	7	近藤　良男	371	〃　千代田町2-2-5(柳田経理内)	0272—31—2146
	11	板垣　守夫	371	〃　新前橋町4-4(世界救世教)	0272—51—1661
	12	馬場　威	379-21	〃　駒形町593-4(関口　茂方)	0272—66—2603
	13	原　藤吉郎	371	〃　城東町5-10-16	0272—31—6687
水　上	1	井上　邦夫	379-16	利根郡水上町湯原441(公民館内)	0278—72—3707
渋　川	2	川島　尚	371	前橋市山王町1-34-23(冨岡　実方)	0272—66—5987
高　崎	6	平　由雄	370	高崎市椿町2(村山勝彦方)	0273—25—3001
	7	金井　佐伝	370	〃　椿町2(村山勝彦方)	0273—25—3001
	8	元島　三明	370	〃　正観寺町308-3	0273—62—5298
	9	小根沢敏雄	370	〃　上小鳥町144(三ツ星産業内)	0273—44—1321
	10	金子　甲八	370	〃　下小鳥町687(室岡信行方)	0273—62—0345
	12	石田　忠次	370	〃　竜見町10-17	0273—23—8613
	15	飯沼　正	370	〃　藤塚町410	0273—23—3712
	17	江原　太郎	370-11	〃　下滝町19(慈眼寺内)	0273—52—8365
	18	山川　巌	370	〃　高関町138	0273—22—4995
	19	楠　精一郎	370	〃　上並榎町1300　高崎経済大学	0273—43—5417
	20	仁藤　貴士	370	〃　飯塚町1413-6	0273—62—0388
	21	神山　勝	370	〃　井野町324-26	0273—62—7558
	22	城田富志夫	370	〃　八千代町3-8-15	0273—25—6085
	23	熊沢　幸雄	370	〃　石原町3682-27(小林至方)	0273—26—6627
箕　郷	1	森田　武	370-31	群馬郡箕郷町中野292(救世真教内)	0273—71—3639
群馬町	1	田渕契之助	370-35	〃　群馬町棟高722	0273—73—3054
吉　井	1	斉藤長太郎	370-21	多野郡吉井町塩102(橋爪武士方)	0273—87—3945
玉村町	1	小屋　憲一	370-11	佐波郡玉村町坂井878-07	0270—65—7439
富　岡	1	折茂　牧雄	370-23	富岡市富岡439-3	0274—62—4113

編　集　後　記

昭和62年12月の県連理事会で、40周年記念特別委員会の設置が決り、事業内容の検討が同委員会に一任されて、63年２月の特別委員会で金井英文氏が委員長に就任して記念事業の内容が決り、その中の事業に記念誌の発行がありました。そして各事業毎に小委員会を編成し、広報委員長である私が記念誌編集委員長に就任したわけであります。

以来、資料集収、丁載、印刷所の入札等編集委員会を開催し、『読みたい』『見てみたい』記念誌づくりに努め、写真の掲載をふやし、各団紹介コーナーを設ける等したので、回想文のそう入など多くの先輩各位の記事が少なくなった次第です。

執筆依頼について、県連盟創立時は私は一スカウトでしたが、高崎の金井佐伝氏、30年誌を編集された前橋の高橋和男氏、なによりもスカウター歴の永い金井英文氏が印刷も引き受け、加えて事務局長の竹田賢一氏が素案づくりにあたり私を支援下さいました。

原稿収集には編集委員の方に、再々催促をお願いしたり大変迷惑をかけお礼申し上げます。

得てして記念誌の編集は、期日の追い込みに従い、追加文の訂正や、『常用漢字』『現代かなづかい』の修正、そして校正と、夜を徹して、金井氏や竹田氏にお骨折りいただきました。

編集終えて、反省点の多々ある事もくやまれますが、１頁毎、編集子にとってはその苦労は想い出深いものがあります。

どうぞ、40年の回顧と、今後のスカウティングの糧となれば望外の喜びであります。

記念誌編集特別委員長　　稲垣　稔

編集委員

根岸　　努　新藤　信夫
金井　英文　周東　正治
島田　保彦　高橋　和男
金井　佐伝　竹田　賢一
稲垣　　稔　杉山　安正
新井　章信　井上　藤男
前田　　彰　碓井　　弘

40 年 の 足 跡

平成元年10月14日印刷

平成元年10月22日発行

発行者　ボーイスカウト群馬県連盟

理事長　根 岸 努

群馬県前橋市荒牧町2番地12

(財)群馬県青少年会館内

編　集　記念誌編集委員会

委員長　稲 垣 稔

印刷所　か な い 印 刷